

埼玉県加須市

騎西城武家屋敷跡

第42・48次調査

—中近世編—

『騎西城跡』

遺物概観（漆器・かわらけ）

2019

加須市教育委員会

埼玉県加須市

き さいじょう ぶ け や しき あと
騎西城武家屋敷跡

第42・48次調査

—中近世編—

き さいじょう あと
『騎西城跡』

遺物概観（漆器・かわらけ）

2019

加須市教育委員会



第42次 完掘 (北から)



第42次 1号溝 遺物出土

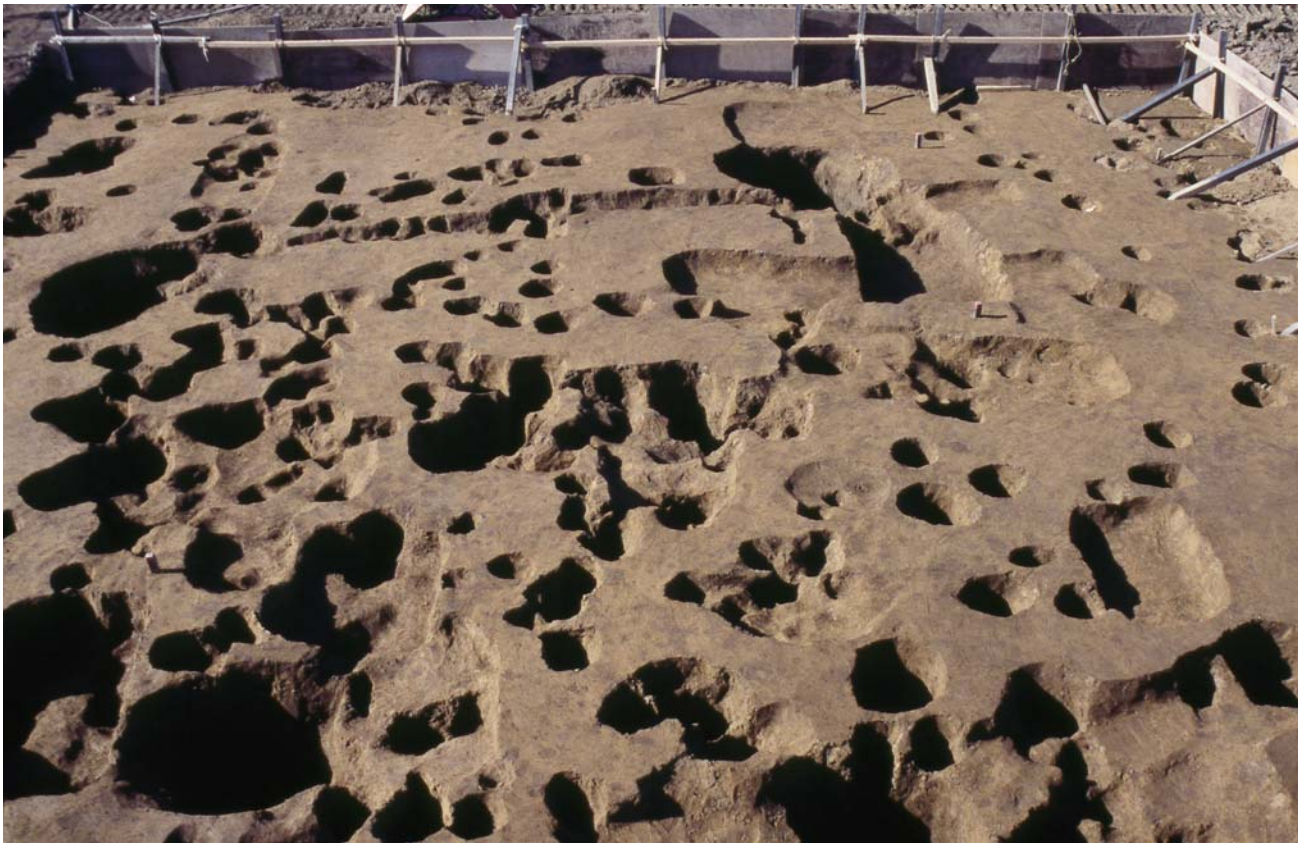


第42次 1号井戸 遺物出土



第42次 31号土壇 焼土

口絵 2



第48次 完掘 南東部 (東から)



第48次 1溝・6井? 漆碗被膜



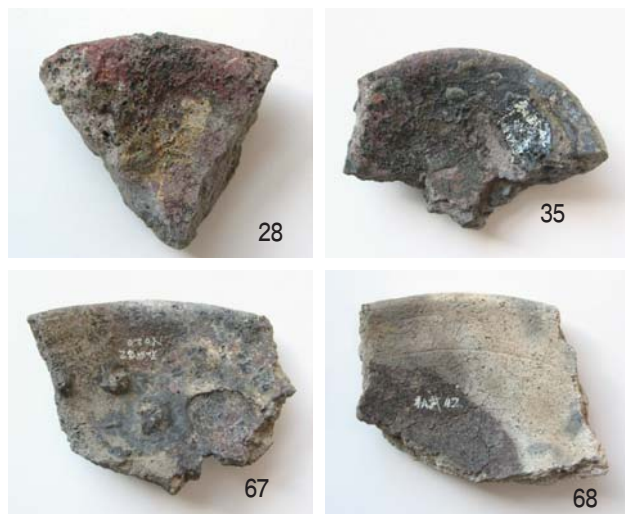
第48次 13号井戸 漆碗被膜



第48次 35号土壙 遺物出土



42次 陶磁器



42次 熔融物付着土器



48次 四耳壺



48次 墨書石

口絵 4



48次 陶磁器



蘇民将来符



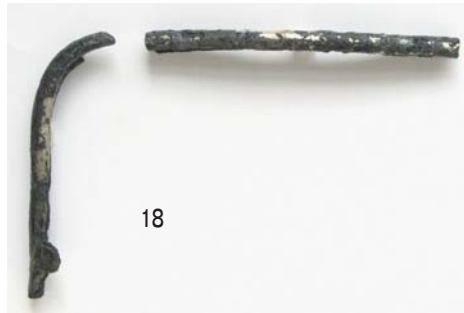
位牌一台座

木製品



柄状製品

口絵 6



拡大

銅製品



鉄製品



口絵 8



25



32



33



36



38



39



口絵 10









87



85



91



88



93



94



95



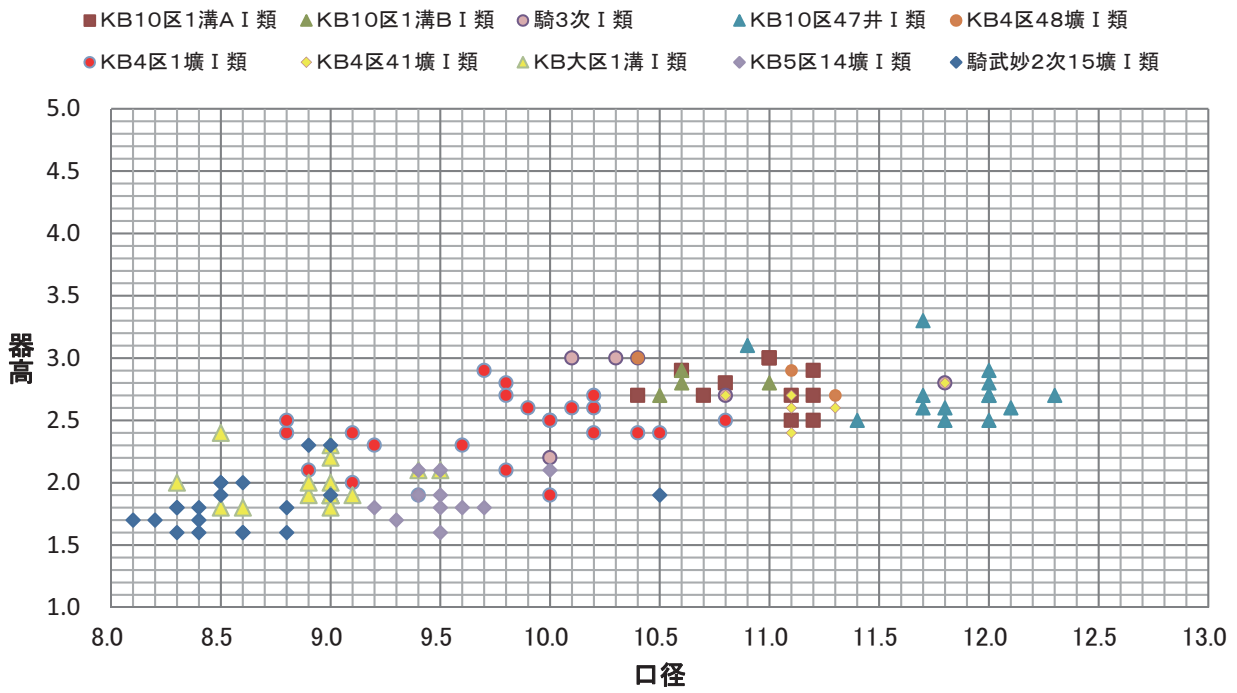
97

口絵 14

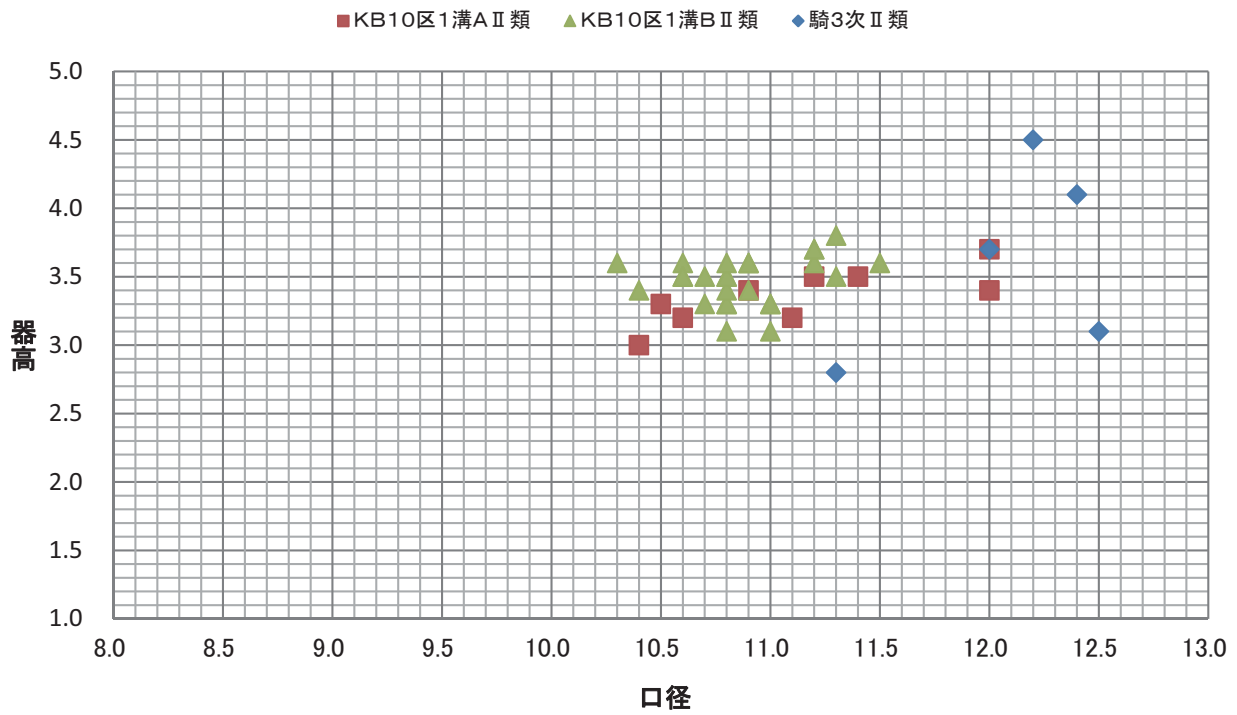




I 類法量分布図



II 類法量分布図



序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に騎西領48カ村の総鎮守といわれた久伊豆神社（玉敷神社）が鎮座する、歴史のある地域であります。地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、近年進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、平成6～7年に実施された根古屋地区に所在する騎西城武家屋敷跡第42・48次調査の記録であります。調査の結果、当時の土壌や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器・漆碗など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

また、今回遺物概観として、騎西城跡の調査成果のうち、特に大量に出土する漆器と分析の基礎となるかわらけをとりあげ、その集成、確認を試みたものであります。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たって深いご理解と多くのご協力をいただきました関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成31年3月

加須市教育委員会

教育長 渡邊 義昭

例 言

1 本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査は根古屋外川土地区画整理に先立つもので、平成6～7年に実施したものである。

3 本書の刊行に際して次のように作業に当たった。

(1) 執筆 木製品・遺物概観(漆器) 嶋村薫
ほか 嶋村英之

※基礎データ 土器類 嶋村範久(～平成23年度)
銭貨 坂本征男(～平成23年度)

板碑は『騎西町史考古資料編2』による。

(2) 写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと整理協力員が行った。

(3) 出土品の整理・図版の作成は下記の指導者のもと、整理協力員が行った。

指導者

土器類・木・金属・石製品の一部 嶋村範久

(～平成23年度)

銭貨 坂本征男(～平成23年度)

ほか 嶋村英之

※木製品は嶋村薫氏が実測・修正した。

『騎西町史考古資料編1』掲載のものは本報告を優先する。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編2』掲載のものを加工した。

4 本書の編集は嶋村英之が行った。

5 資料は加須市教育委員会が保管している。

6 整理報告に際して下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

(敬称略)

新井浩文 篠田泰輔 嶋村薫 白井哲哉

豊田勝彦 永野香 三浦一郎

調査組織

1 発掘調査組織

調査主体者 騎西町教育委員会

担当者 各調査に記載

調査協力員 同上

2 整理組織

(平成30年度) 加須市教育委員会

教育長 渡邊義昭

生涯学習部 部長 江原千裕

副部長 大原英明

生涯学習課 課長 細田周作

文化財担当 副参事 嶋村英之

主査 佐藤政治

主任 岩淵美恵

整理協力員

小川美津子 栗原加奈子 長谷川恵 松村順子

凡 例

1 本文および表について

○()の数値は残存値である

○※は不確定な推定復元値

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号堀→□堀。□井戸状遺構→□井戸・□井。

□号溝→□溝。□号土塋→□塋

○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるものは明記した

2 挿図について

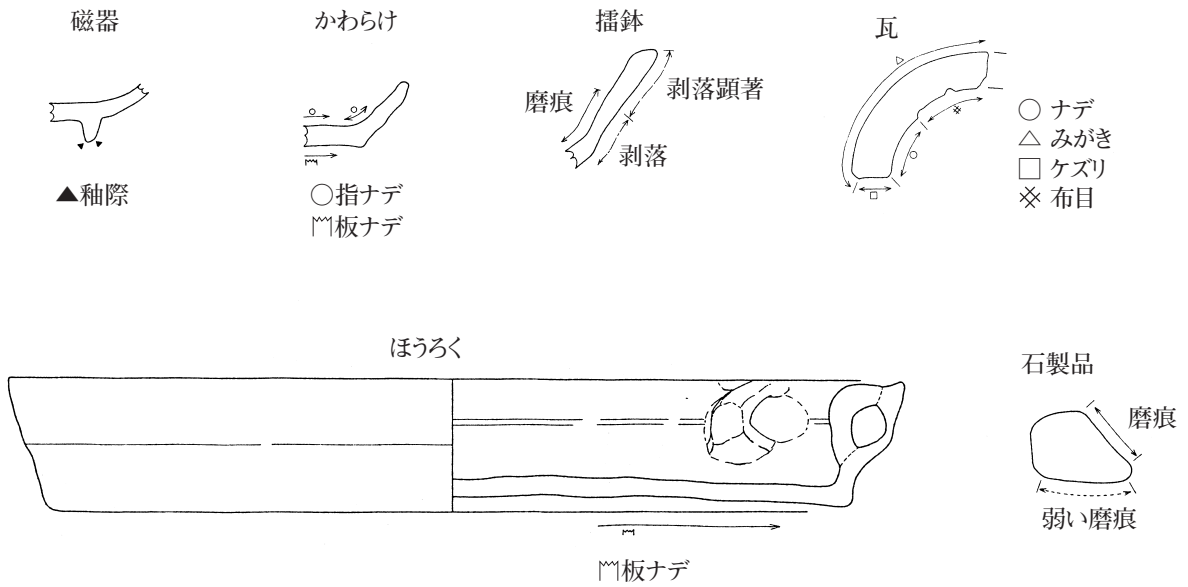
○縮尺は以下の通りである

遺構 土層堆積 1/40
 溝断面・井戸状遺構・土壇 1/60
 遺物出土 1/40・1/20
 遺物 陶磁器類・木製品 1/3
 金属製品 1/1～2 (銭貨 1/1)
 土製品・石製品 1/2～4
 石器 1/3 石造物 1/4

- 遺構断面図の基準標高は各々に記載した
- 遺物の図ナンバーは製品毎に通しとした。必要に応じて遺物のNo.に種別の略号を冠した。土器類(土)、木製品(木)、金属製品(金)、石製品(石)。
- 土層説明は土層色調/含有物の順に記載した

略称凡例

- ※テフラ=T、ローム=L、炭化物=C、焼土=S、酸化鉄=FE、黒褐色=BB、黒色=B、褐色=Br
- ※粒子=R、ブロック=B
- ※非常に多い=☆、多量=◎、少量=△、微量=▲、万遍なく=万
- ※やや明るい=やや明、やや暗い=やや暗
- ※非常に軟らかい=軟度高、軟らかい=軟質、やや軟らかい=軟度低、硬い=堅緻
- ※縮まり良し=縮良、縮まり悪し=縮悪、粘性強し=粘強、粘性有り=粘有



目次

序／例言／目次	第3節 金属製品……………60
第I章 遺跡の立地・環境	(1) 鉄製品……………60
第1節 遺跡の位置……………1	(2) 銅製品……………60
第2節 遺跡の地理的環境……………1	(3) 銭貨……………60
第3節 遺跡の歴史的環境……………2	第4節 石製品類……………65
第II章 調査に至る経過……………9	(1) 石製品……………65
第III章 調査概要と検出された遺構	(2) 石造物……………65
第1節 第42次調査……………11	第V章 まとめ……………77
第2節 第48次調査……………23	第VI章 遺物概観
第IV章 出土した遺物	第1節 漆器……………79
第1節 土器類……………38	第2節 かわらけ……………109
第2節 木製品類……………52	図版／報告書抄録
(1) 概要……………52	
(2) 自然科学分析……………58	

挿図目次

第1図 遺跡の位置（騎西地域）……………1	第18図 第48次遺構4……………34
第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡……………3	第19図 第48次遺構5……………35
第3図 周辺の微地形分類と城館跡……………3	第20図 第48次遺構6……………36
第4図 騎西城を取り巻く勢力図……………6	第21図 第48次遺構7……………37
第5図 各調査区の位置……………8	第22図 土器類1（第42次1）……………40
第6図 第42・48次周辺の調査……………10	第23図 土器類2（第42次2）……………41
第7図 第42次遺構位置図……………16	第24図 土器類3（第42次3）……………42
第8図 第42次遺構1……………17	第25図 土器類4（第48次1）……………43
第9図 第42次遺構2……………18	第26図 土器類5（第48次2）……………44
第10図 第42次遺構3……………19	第27図 土器類6（第48次3）……………45
第11図 第42次遺構4……………20	第28図 土器類7（第48次4）……………46
第12図 第42次遺構5……………21	第29図 土器類8（第48次5）……………47
第13図 第42次遺構6……………22	第30図 木製品1……………53
第14図 第48次遺構位置図……………29	第31図 木製品2……………54
第15図 第48次遺構1……………31	第32図 木製品3……………55
第16図 第48次遺構2……………32	第33図 木製品4……………56
第17図 第48次遺構3……………33	第34図 木製品5……………58

第35図	金属製品1 (鉄・銅) ……………	61	第61図	漆器13……………	97
第36図	金属製品2 (銭貨1) ……………	62	第62図	漆器14……………	98
第37図	金属製品3 (銭貨2) ……………	63	第63図	漆器分類1 ……………	99
第38図	石製品類1 (石臼1) ……………	66	第64図	漆器分類2 ……………	100
第39図	石製品類2 (石臼2) ……………	67	第65図	KB16区7号堀漆器出土状況……………	101
第40図	石製品類3 (石臼3・砥石1・他) ……	68	第66図	KB19C区6号堀漆器出土状況……………	102
第41図	石製品類4 (砥石2) ……………	69	第67図	漆器法量の比較 ……………	103
第42図	石製品類5 (磨石・他) ……………	70	第68図	漆碗塗り分け分類比較 ……………	104
第43図	石製品類6 (板碑1) ……………	71	第69図	かわらけA1 (I期) ……………	115
第44図	石製品類7 (板碑2) ……………	72	第70図	かわらけA2 (I・II期) ……………	116
第45図	石製品類8 (板碑3) ……………	73	第71図	かわらけA3 (III期) ……………	117
第46図	石製品類9 (板碑4) ……………	74	第72図	かわらけA4 (IV・V期) ……………	118
第47図	各地区の武家屋敷内の推定位置……………	78	第73図	かわらけB1 (KB10区1溝A) ……………	119
第48図	概観 漆器出土の調査区……………	84	第74図	かわらけB2 (KB10区1溝B) ……………	120
第49図	漆器1 ……………	85	第75図	かわらけB3 (騎3次・KB10区47井・ KB4区48墳) ……………	121
第50図	漆器2 ……………	86	第76図	かわらけB4 (KB4区41墳・KB4区1 墳)……………	122
第51図	漆器3 ……………	87	第77図	かわらけB5 (KB大区1溝) ……………	123
第52図	漆器4 ……………	88	第78図	かわらけB6 (KB5区14墳・騎武妙 2次15墳) ……………	124
第53図	漆器5 ……………	89	第79図	かわらけ変遷図 (I類) ……………	125
第54図	漆器6 ……………	90	第80図	かわらけ変遷図 (II類) ……………	127
第55図	漆器7 ……………	91	第81図	かわらけ法量分布図1 (I類) ……………	128
第56図	漆器8 ……………	92	第82図	かわらけ法量分布図2 (I・II類) ……	129
第57図	漆器9 ……………	93			
第58図	漆器10……………	94			
第59図	漆器11……………	95			
第60図	漆器12……………	96			

表目次

第1表	第42次遺構一覧表1 ……………	14	第12表	金属製品一覧表2 ……………	64
第2表	第42次遺構一覧表2 ……………	15	第13表	石製品一覧表1 ……………	75
第3表	第48次遺構一覧表1 ……………	26	第14表	石製品一覧表2 ……………	76
第4表	第48次遺構一覧表2 ……………	27	第15表	漆器一覧表1 ……………	105
第5表	土器類一覧表1 ……………	48	第16表	漆器一覧表2 ……………	106
第6表	土器類一覧表2 ……………	49	第17表	漆器一覧表3 ……………	107
第7表	土器類一覧表3 ……………	50	第18表	漆器一覧表4 ……………	108
第8表	土器類一覧表4 ……………	51	第19表	かわらけ法量範囲・平均表 ……………	130
第9表	木製品一覧表……………	57	第20表	かわらけ一覧表1 ……………	131
第10表	木製品樹種同定結果……………	59	第21表	かわらけ一覧表2 ……………	132
第11表	金属製品一覧表1 ……………	64	第22表	かわらけ一覧表3 ……………	133

図版目次

図版 1	遺構 1	第42次-1	図版13	出土遺物	土器類 3
図版 2	遺構 2	第42次-2	図版14	出土遺物	土器類 4
図版 3	遺構 3	第42次-3	図版15	出土遺物	土器類 5・木製品 1
図版 4	遺構 4	第42次-4	図版16	出土遺物	木製品 2
図版 5	遺構 5	第42次-5	図版17	出土遺物	木製品 3・金属製品 1
図版 6	遺構 6	第48次-1	図版18	出土遺物	金属製品 2・石製品 1
図版 7	遺構 7	第48次-2	図版19	出土遺物	石製品 2
図版 8	遺構 8	第48次-3	図版20	出土遺物	石製品 3
図版 9	遺構 9	第48次-4	図版21	出土遺物	石製品 4
図版10	遺構10	第48次-5	図版22	出土遺物	かわらけ 1
図版11	出土遺物	土器類 1	図版23	出土遺物	かわらけ 2
図版12	出土遺物	土器類 2	図版24	出土遺物	かわらけ 3



42次 表土掘削

第1章 遺跡の立地・環境

第1節 遺跡の位置 (第1図)

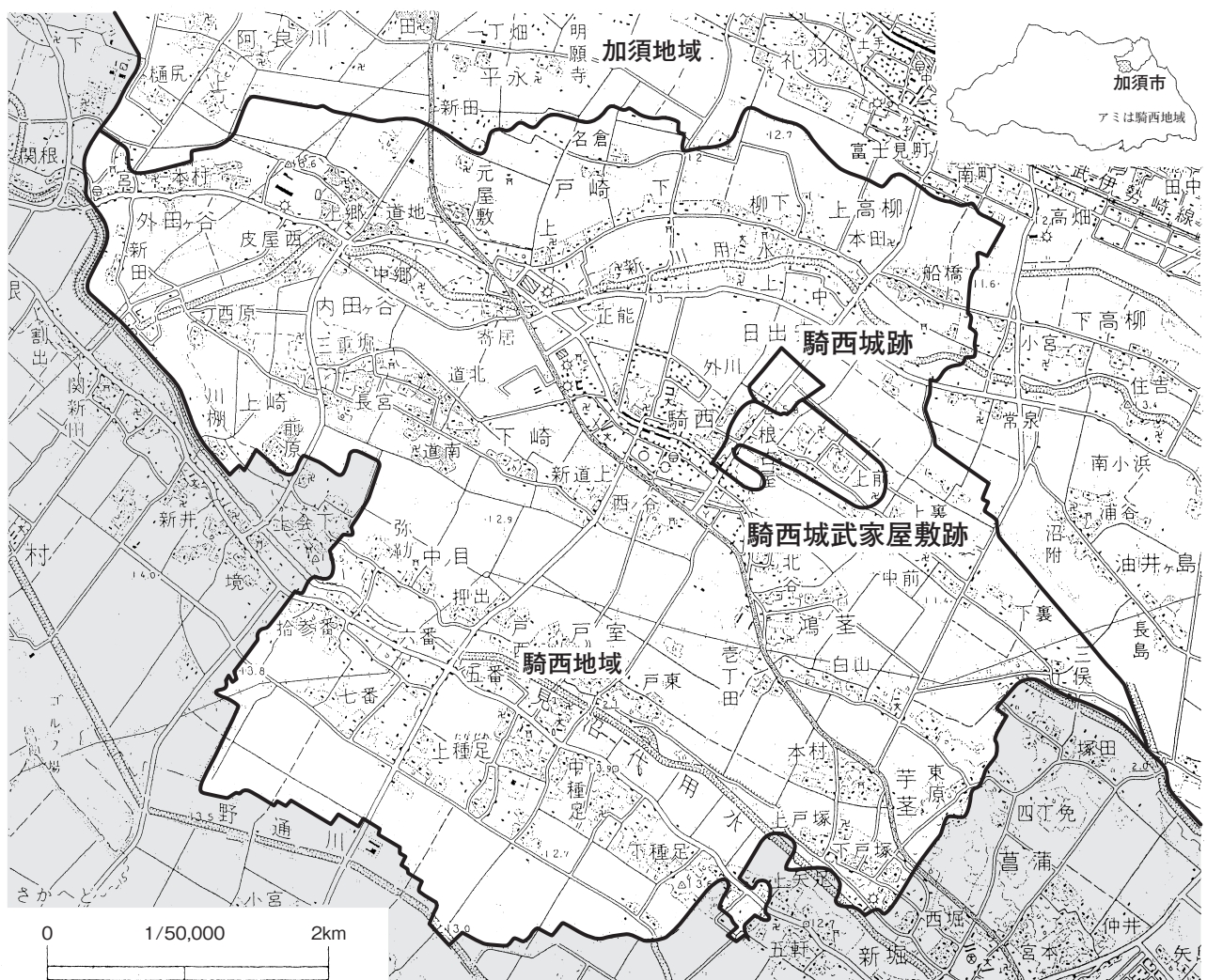
加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡はそのほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治9年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西文化・学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。

第2節 遺跡の地理的環境 (第2図)

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯



第1図 遺跡の位置 (騎西地域)

第3節 遺跡の歴史的環境(第2・3図)

※(遺跡名)は『騎西町史考古資料編1』に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

1 旧石器時代

約2万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ(前)・(中宿)遺跡で該期の遺物が出土している。(前)遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が2カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約1万5千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、(道上)遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

2 縄文時代

草創期に(中宿)遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・(前)・(道上)遺跡で撚糸文系土器、(前)遺跡では集石遺構が、(道上)遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で土器が出土しており、特に修理山・(中宿)遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・(前)・(道上)で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に(道上)・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曾利E式期その後半に(中宿)遺跡で柄鏡形住居・(道上)遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見ついている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・(前)・(中宿)・(道上)遺跡で加曾利B～後期安行式が出土している。晩期では安行3a～3d式が修理山・町並・(道上)・(前)・(中宿)遺跡で出土している。

3 弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地(※町史では上種足三番)遺跡で磨製石鏃が、(道上)遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

4 古墳時代

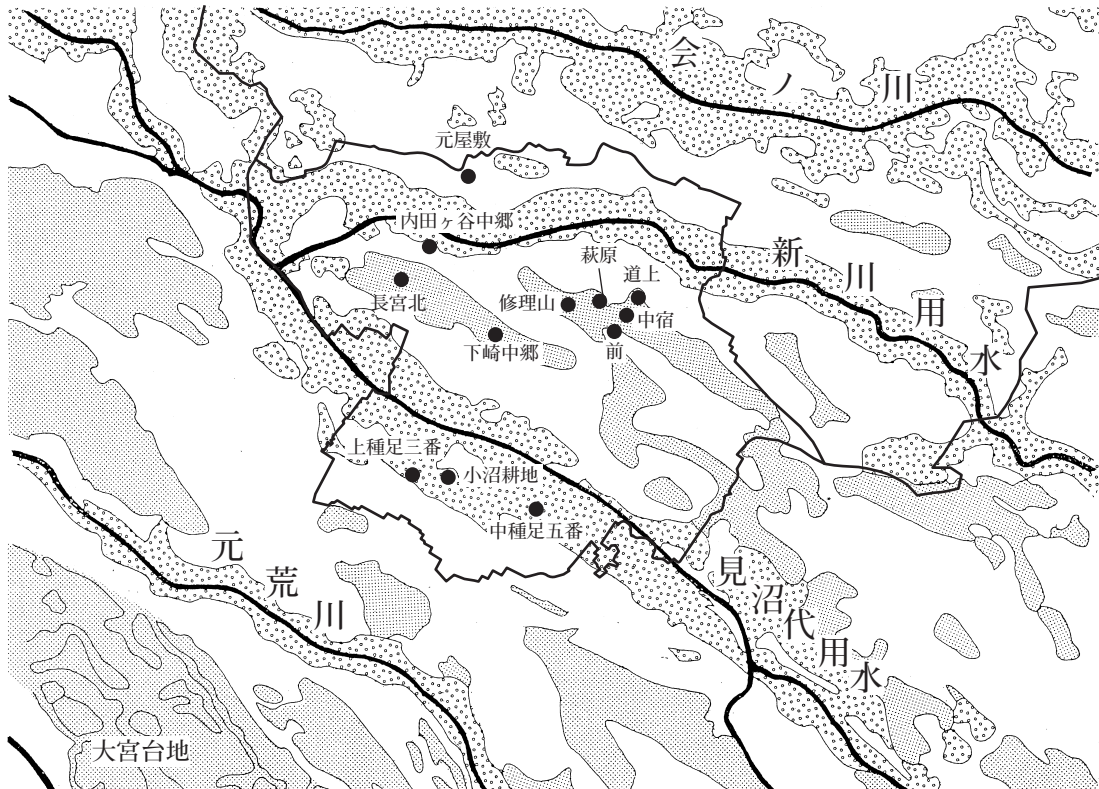
古墳跡は小沼耕地遺跡※で6～7世紀の前方後円墳1基・円墳5基が確認されている。また、(内田ヶ谷中郷)遺跡で勾玉や埴輪片、(前)遺跡の埴輪片や隣接する(中宿)遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材(市内の玉敷神社所在)等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・(中宿)遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・(道上)遺跡・(中宿)遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

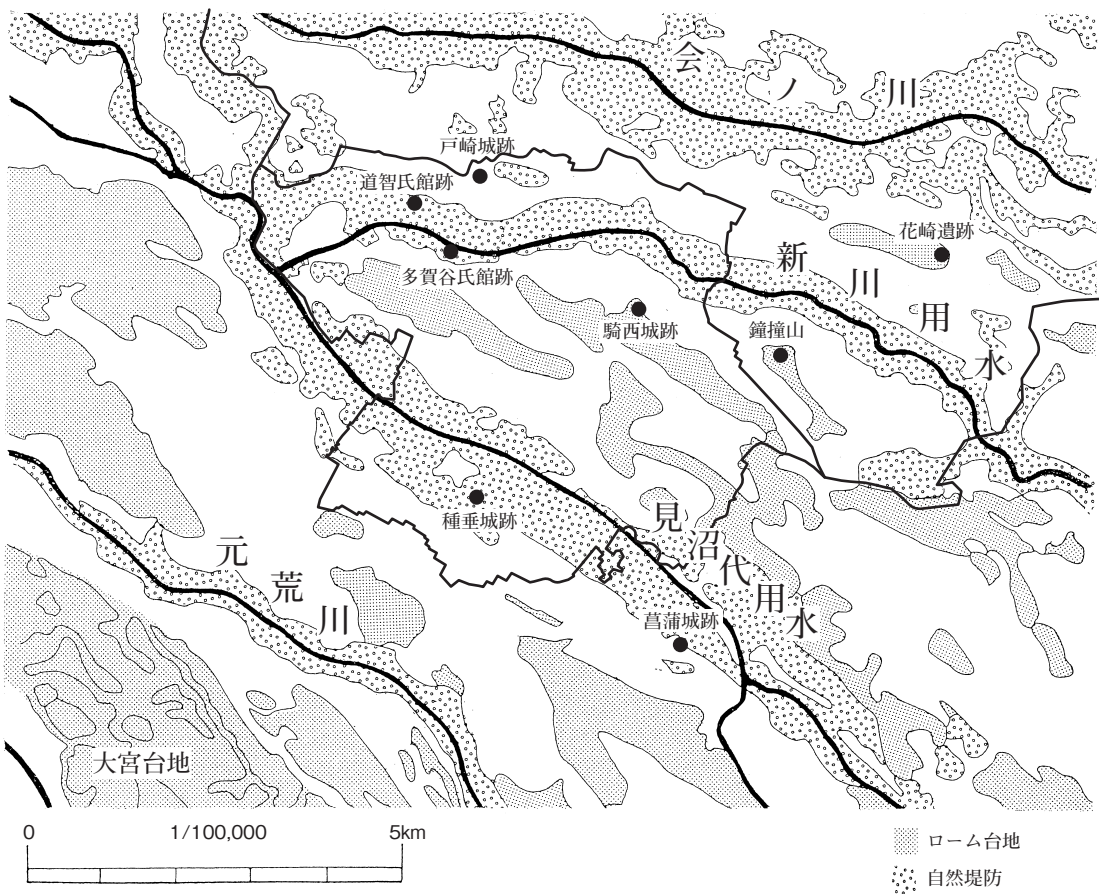
※町史の上種足三番遺跡を含む

5 奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは(道上)遺跡・小沼耕地(※町史では上種足三番遺跡)で8世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、(中宿)遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。



第2図 周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第3図 周辺の微地形分類と城館跡

6 中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は、内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長3年（1251）多賀谷弥五郎重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429-41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端（1次調査）で、溝から12～14世紀の同安・龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、館跡のほぼ中央にある大福寺の北（4次調査）で、土壇から12～13世紀の同安・龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を務め、承久3年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している。

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田頭家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したという。発掘調査では、溝・井戸・土壇・火葬跡を検出し、漆碗・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧上種足三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壇・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・箆状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では、県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果

はそれらに関わるものとも思われる。

南方の中種足五番遺跡では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

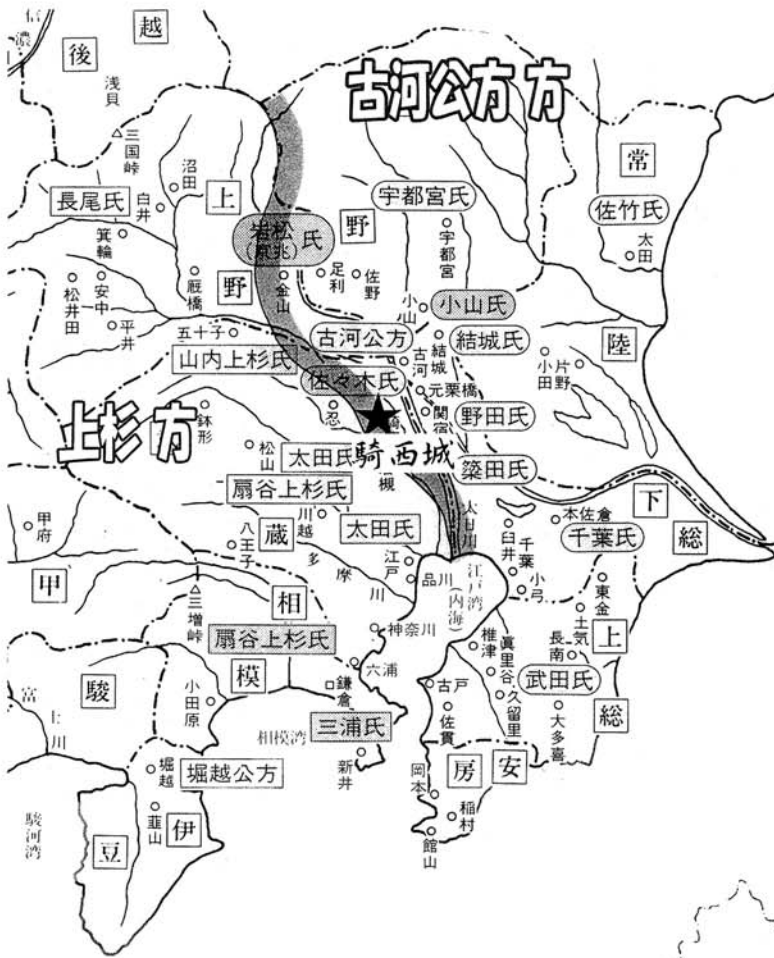
戸崎城跡は、『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永3年（1184）源頼朝の御前の射手となることある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は、文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壇1600基・井戸状遺構200基・障子堀5ヶ所・橋跡4ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活・生産の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。**武器武具**では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野杓・腰刀・薙鎌など、**生活品**では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆碗・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、**生業**では、砥石・紡錘車・鉄・溶解炉・鋳型・埴塙・金粒子付着土器など、**信仰**では護符・呪符・舟形・位牌・銅鏡・数珠など、**流通**では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・播鉢などがある。

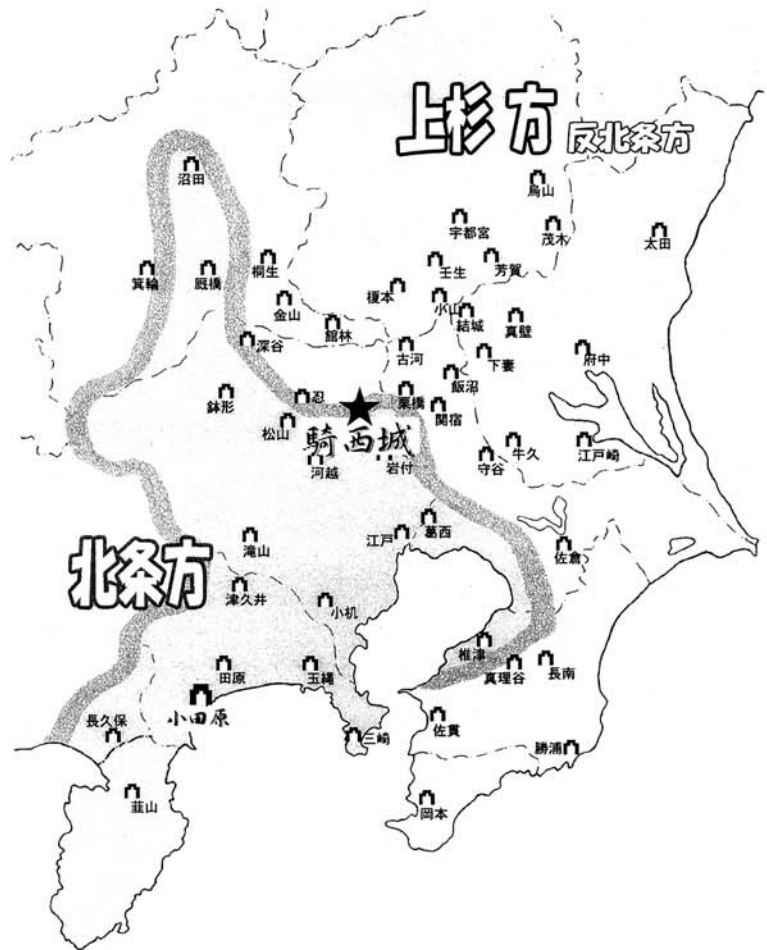
このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年 (1455)	足利成氏、崎西郡 (騎西城) に集結する上杉勢 (上杉・疋鼻和氏など) を攻略する
文正元年 (1466)	足利成氏、南多賀谷 (田ヶ谷) と北根原 (鴻巣市) で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年 (1467)	★応仁の乱
文明3年 (1471)	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市 (騎西) の佐々木氏あり
文亀2年 (1502)	騎西城主小田顕家、上会下 (鴻巣市) の雲祥寺を再興。忍城 (行田市) 主成田親泰の子助三郎 (朝興) を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文8年 (1539)	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年 (1543)	★鉄砲伝来
永禄3年 (1560)	長尾景虎 (上杉謙信) 関東の北条方諸城を攻略
永禄4年 (1561)	騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する 長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎 (謙信) に辱められ、北条方となる。助三郎も離反
永禄6年 (1563)	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城 (吉見町) を攻略。報復に上杉輝虎 (謙信)、騎西城を攻略
永禄12年 (1569)	上杉と北条の講和成立 (越相同盟)。上杉方は武蔵北部を支配
天正2年 (1574)	上杉謙信、羽生の関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城を焼き払う
天正4年 (1576)	成田泰喬 (あるいは氏長)、家臣に知行を宛がう
天正5年 (1577)	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正6年 (1578)	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年 (1590)	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西領二万石を与える
天正19年 (1591)	松平康重大英寺を開基、日出安の保寧寺に田畑1町歩を寄進する
文禄2年 (1593)	松平康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる
慶長元年 (1596)	根古屋の金剛院、日出安から移転する
慶長4年 (1599)	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長5年 (1600)	★関ヶ原の戦い
慶長7年 (1602)	この頃大久保忠常、騎西領二万石を拝領する
慶長8年 (1603)	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年 (1606)	騎西藩の家臣、領内 (正能村) を検地する
慶長16年 (1611)	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西領二万石を拝領する
慶長19年 (1614)	大久保忠隣改易となり小田原・羽生を没収、孫の騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永2年 (1625)	忠職、赦免される
寛永4年 (1627)	大久保忠職、久伊豆大明神 (玉敷神社) に社領を寄進する
寛永9年 (1632)	忠職、三万石加増され、美濃の加納へ転封し五万石を拝領する。騎西城廃され、代官所が置かれる



享徳の乱初期の関東
(1454～)



氏康 × 謙信の頃の関東
(永禄・天正年間)

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第4図 騎西城を取り巻く勢力図

騎西城周辺の歴史的経過 (年表・第4図)

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、また古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永9年（1632）廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に騎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、2度の戦火を被っている。

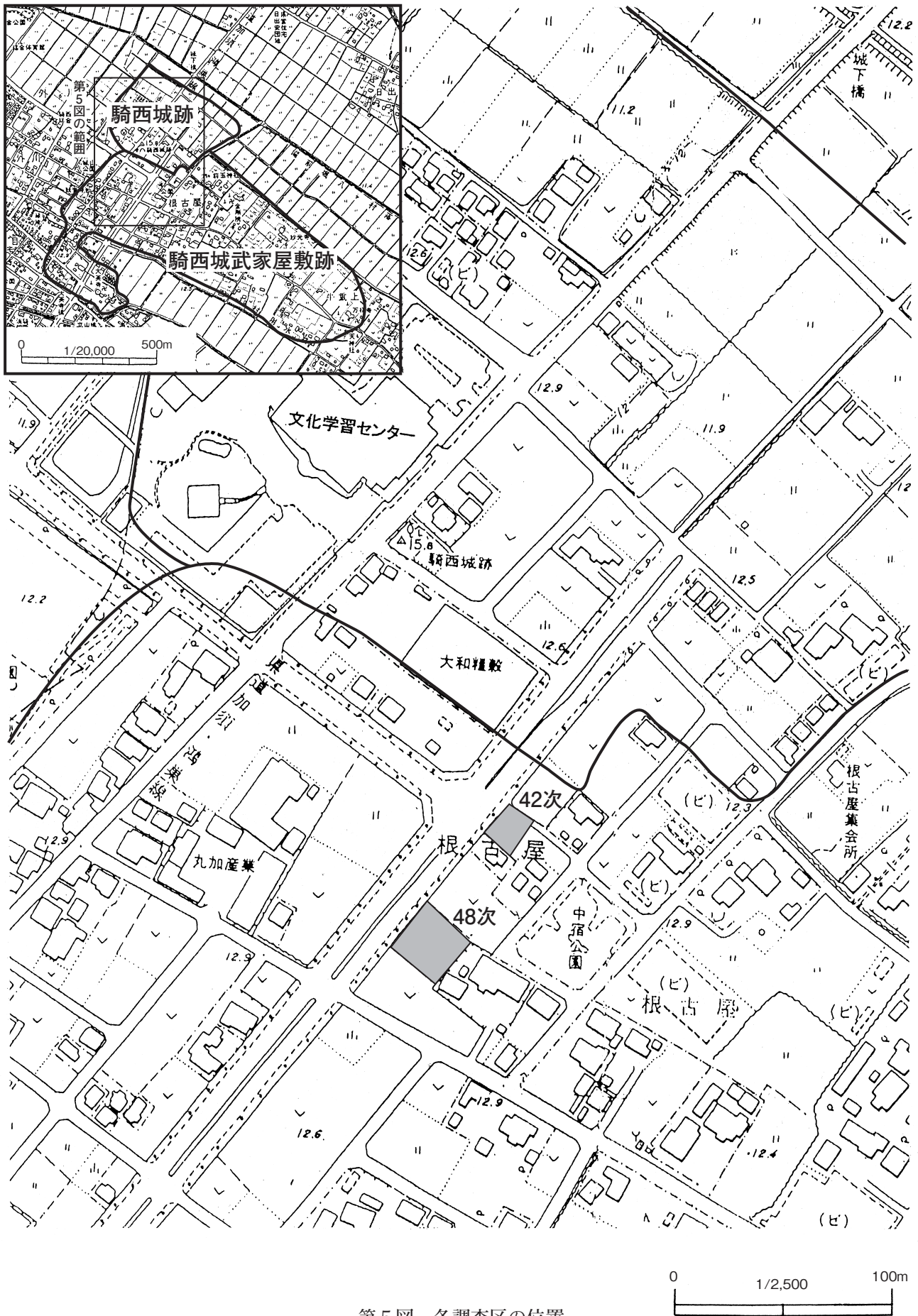
文献では、永禄6年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落させた。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から北条氏康との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活によりまた北条・上杉の合戦が再開された。天正2年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・館林・菖蒲・岩付城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・騎13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行っているものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行っているものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備えており、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。



第5図 各調査区的位置

第Ⅱ章 調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると城の南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の発掘調査では、和鏡や武具などの出土により城の存在を実証し、その内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に

期待されるものであった。

しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策であり、計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。

調査は昭和58年2月9日（騎2次）から開始し、平成7年（第48次）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の中央部で調査名では第42・48次、所在地は大字根古屋仮換地52街区21・24・25画地である。



42次 8井調査風景



第6図 第42・48次周辺の調査

第Ⅲ章 調査概要と検出された遺構

第1節 第42次調査

(1) 調査の概要

(調査地) 大字根古屋仮換地52街区24・25画地

(調査担当) 社会教育課 主任 坂本征男

(調査協力員)

梓沢ユキ子 大熊文 岡田光子 小川征子

関口のぶ 土屋トヨ 福島辰雄 福島利男

渡辺サヨ

(文化庁通知) 6委保記第5-3224号

平成6年11月10日

(調査期間) 平成6年5月20日～9月7日

(調査面積) 231.0㎡

(調査の経過)

建設予定地に19m×13.5mの調査区を設定し、重機により表土を掘り下げた。調査区中央西寄りには電柱の支柱があり調査の対象外区域とした。ローム層を遺構確認面し、溝・土壌などの調査を行った。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水系を基準としてメジャーにより実測した。

井戸の覆土については洗浄して遺物の検出に当たった。調査は気温が異常に高い日があり中止したことがある。

縄文時代の遺構・遺物の検出を期待し、ローム層を掘り下げ調査した。その際、縄文土器片・剥片が出土した。

(周辺の調査)

KB10区が西接し、南側に第32・38次、東側に第34次調査区がある。32次は東西方向の溝1条と井戸1基、38次では42次1号溝につながりそうな溝が南北に走るが、幅98cm、深さ68cm(いずれもセクション図計測値)とやや大きい。34次では井戸が東側に11基分布し、遺物等から作業空間を想定した。KB10区では南北に障子堀が巡る区域で金粒子付着土器が出土している。

(2) 遺構と遺物

【溝状遺構】

溝は総数1条で、調査区西端に南北に走行する溝が確認された。

1号溝 断面は箱葉研形で、幅65cm深さ40cmを測る。いずれも確認面上位であるが、やや北寄りで粉挽白片(石-1～4)がまとまって、また、中程で3/4以上のほうろく(土-3)が出土した。ほかに瀬戸美濃折縁深皿(土-1)・ほうろく(土-2・3)・砥石(石-21)・板碑(石-61)・小柄カ(金-9)・銭貨(金-22)・巻き貝・スラグ14.6gが出土した。

【井戸状遺構】

総数13基で、調査区全面に分布するが、やや南東部と中央西側にまとまる。いずれも素堀で、平面形は7・13号井戸は楕円形で他は円形である。規模は、8号井戸が大きく、深さは7・8・10号井戸が2mを超え深い。出土遺物は、蕪民将来符が1点ある。壁面の凹みは、井戸替えのための足掛けの可能性はある。

1号井戸 120cm×84cm(残存)深さ135cmを計る。ほぼ完形のかわけ2点(土-7・8)が中位層で一括して、覆土洗浄により銭貨(金-23～26)・桃の種子が出土した。

2号井戸 直径104cm深さ138cmを計る。かわらけ(土-9)・磨石(石-39)・覆土洗浄により銭貨(金-27)・桃の種子1点が出土した。

3号井戸 113cm×100cm深さ124cmを計る。東壁中位に窪みが1ヶ所ある。かわらけ(土-10)・ほうろく(土-11)・桃の種子11点・板碑(石-62)・火打金(金-1)・握り鋏(金-6)・銭貨(金-28・29)が出土した。

4号井戸 直径120cm深さ168cmを計る。東壁面中位に凹みがある。瀬戸美濃平碗(土-12)・かわらけ片(土-13・14)・ほうろく(土-15)・桶側板(木-1)・蕪民将来符(木-6)・加工棒(木-10)・加工材(木-11)・桃の種子7点・刀子状及び柄状鉄製品(金-13)・銭貨(金-30)が出土した。

5号井戸 底面は方形で、直径127cm深さ136cmを計りやや大型である。かわらけ(土-16)・在地播

鉢（土-17）が出土した。

6号井戸 直径95cm 深さ140cm を計る。かわらけ（土-18）が中位層で、ほかに桃の種子1点・銭貨（金-31・32）・板碑（石-63）が出土した。

7号井戸 130cm×96cm（残存）深さ210cm を計り、深い。西壁中位に窪みがある。壁面に掘削具痕有り。瀬戸美濃縁釉小皿（土-19）・かわらけ（土-20・21）・小柄カ（金-10）・竹・桃の種子1点が出土した。

8号井戸 直径146cm×131cm 深さ200cm を計り、大型で深い。壁面に凹みを有する。上層でほうろく（土-22・23）・在地播鉢（土-24）・板碑（石-64）が出土した。

9号井戸 直径105cm×72cm（残存）深さ82cm を計る。スラグが1.5g 出土。

10号井戸 直径130cm×102cm（残存）深さ200cm を計り深い。北壁面に凹みがある。砥石（石-30）・磨石（石-40）が出土した。

11号井戸 直径80cm 深さ106cm を計る。粉挽臼（石-2）・砥石（石-31）が出土した。

12号井戸 直径106cm 深さ128cm を計る。かわらけ（土-25・26）・在地播鉢（土-27）が出土した。

13号井戸 130cm×80cm 深さ62cm を計る。湧水無し。井戸カ。

【土壙】

土壙は、33基確認され、ほぼ全体に分布するが、南西部に空間がある。平面形は隅丸長方形が多く、ほとんどが浅い。20cm 程度の深いものは、1・6・9・11・13・31号土壙である。特徴的なものに、15号土壙から武器武具類が、31号土壙から焼土が出土している。

1号土壙 平面長方形で155cm×82cm 深さ22cm を計る。

2号土壙 平面隅丸長方形で463cm×75cm 深さ16cm を計る。熔融物附着土器（土-28）が出土した。

3号土壙 平面楕円形で157cm×115cm 深さ14cm を計る。

4号土壙 平面長方形で134cm（残存）×110cm 深さ8cm を計る。

5号土壙 平面隅丸長方形で215cm（残存）×52cm

深さ14cm を計る。有孔石製品（石-18）が出土した。

6号土壙 平面長方形で386cm（残存）×131cm 深さ20cm を計る。かわらけ（土-29）が出土した。

7号土壙 平面長方形で146cm×75cm 深さ9cm を計る。

8号土壙 平面隅丸長方形で267cm（残存）×74cm 深さ12cm を計る。

9号土壙 平面隅丸長方形で347cm×68cm 深さ21cm を計る。

10号土壙 平面不整形カで152cm×56cm（残存）深さ10cm を計る。かわらけ（土-30・31）が出土した。

11号土壙 平面長方形で271cm（残存）×86cm 深さ20cm を計る。肥前甕（土-32）・銅製の塊状品（金-21）が出土した。

12号土壙 平面隅丸長方形で360cm（残存）×62cm 深さ14cm を計る。

13号土壙 平面方形カで180cm×93cm（残存）深さ24cm を計る。瀬戸美濃天目茶碗（土-33）・同縁釉小皿（土-34）・熔融物附着土器（土-35）が出土した。

14号土壙 平面長方形で227cm（残存）×110cm 深さ9cm を計る。

15号土壙 平面長方形で255cm（残存）×135cm 深さ12cm を計る。南寄り中上位層でかわらけ（土-39・40）がまとまって、中程で、鉄鍬（金-14）・銅製覆輪（金-18・19）が出土した。ほかに中国染付皿（土-36）・かわらけ（土-37～42）・ほうろく（土-43）が出土している。土-42の完形のかわらけは出土位置から15号土壙を外れるか。

16号土壙 平面不整形で137cm×92cm（残存）深さ16cm を計る。

17号土壙 平面隅丸長方形で192cm×82cm 深さ12cm を計る。

18号土壙 平面不整形長方形で88cm（残存）×64cm 深さ9cm を計る。

19号土壙 平面隅丸長方形で250cm×56cm 深さ7cm を計る。

20号土壙 平面隅丸長方形で227cm（残存）×72cm 深さ15cm を計る。

21号土壙 平面長方形で291cm×125cm 深さ12cm

を計る。

22号土壇 平面隅丸長方形で220cm（残存）×70cm 深さ18cm を計る。スラグが15.5g 出土。

23号土壇 平面長方形で264cm（残存）×68cm 深さ6cm を計る。

24号土壇 平面長方形で250cm（残存）×113cm（残存）深さ22cm を計る。

25号土壇 平面長方形で80cm（残存）×91cm 深さ6cm を計る。

26号土壇 平面円形で76cm×40cm（残存）深さ10cm を計る。

27号土壇 平面長方形で377cm×124cm（残存）深さ10cm を計る。

28号土壇 平面長方形で120cm×70cm（残存）深さ11cm を計る。

29号土壇 平面長方形で180cm（残存）×52cm（残存）深さ11cm を計る。

30号土壇 平面不整長方形で180cm（残存）×34cm（残存）深さ10cm を計る。

31号土壇 1号溝と重複する。平面長方形で280cm（残存）×60cm 深さ30cm を計る。下層で焼土がまとまって検出された。確認面上位で瀬戸美濃皿（土-5）・在地播鉢（土-6）が出土している。ほかに中国染付皿（土-4）・粉挽臼（石-5）・

板碑片（未図化）・スラグ59g が出土した。

32号土壇 規模不明。かわらけ（土-44・45）が出土した。

33号土壇 平面楕円形で250cm×170cm を計る。深さ不明。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、龍泉窯系中国青磁碗（土-46）・同稜花皿（土-47）・同鉢（土-48）・中国白磁八角小坏（土-49）・同染付皿（土-50）・漳州窯系中国染付皿（土-51）・瀬戸美濃志野丸碗（土-52）・同皿（土-53~58）・同播鉢（土-59）・同香炉（土-60）・同蓋（土-61）、同茶入（土-62）・肥前筒形碗（土-63）・同白磁皿（土-64）が出土した。

在地土器では、かわらけ（土-65・66）・熔融物附着土器（土-67・68）・ほうろく（土-69・70）・播鉢（土-71）が出土した。

金属製品では、鉄製の小札（金-7）・同小柄カ（金-11・12）・鉄鍬（金-15）・銭貨（金-33~44）が出土した。

石製品では、硯（石-17）・砥石（石-22・23・32・33）・火打石（石-59・60）・板碑（石-65・66）が出土した。

スラグは131g 出土した。



42次 調査風景

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
1号溝	西	5・31壙→ ○→2・3 井	直線	箱葉研	幅☆65	☆40	暗灰褐色/含LR、 LB▲、T▲ 縮 良	瀬美折縁深皿=14c中/焙烙/粉 挽臼/砥石/板碑/小柄/巻き貝/ 銭貨/スラグ14.6g	16c～	
1号井戸	南西	なし	円形	ロート形	120×(84)	135	不明	かわらけ=16c中～末/銭貨/種子 (桃)	16c中～	
2号井戸	北西	1溝→○	円形	ほぼ直上	径104	138	暗灰褐色/含 LB・LR▲、C▲ 縮良	かわらけ=16c中～末/磨石/銭貨/ 種子(桃)	16c中～	
3号井戸	南西	1溝→○	円形	ほぼ直上	113×100	124	暗灰褐色/含LB △、LR、T▲、赤 色R▲、C▲ 縮 良	かわらけ=16c中～末/焙烙/板碑 /火打金/握り鉄/銭貨/種子(桃)	16c中～	足掛
4号井戸	南東	なし	円形	直上	径120	168	暗灰褐色/含LR ▲、LB▲ 縮良	瀬美平碗=14c末～15c初/焙烙/ かわらけ=15c中～16c前カ/柄状 鉄製品/銭貨/桶(側板)/蘇民将 来符/加工材/種子(桃)	16c～	足掛
5号井戸	南東	6壙→○	円形	ロート形	127×110	136	暗灰褐色/含LR、 LB、C▲ 縮良	播鉢/かわらけ=15c中～16c前	15c中～	
6号井戸	南東	○→7井	円形	ほぼ直上	径95	140	灰褐色/LR、LB、 FE▲ 縮悪	かわらけ=15c中～16c前/板碑/ 種子(桃)/銭貨	15c中～	
7号井戸	南東	6井→○	楕円形	ロート形	130×(96)	210	暗灰褐色/含LB、 LR、FE▲ 縮 やや悪	瀬美縁釉小皿=15c後/かわらけ =16c中～末/小柄/竹/種子(桃)	16c中～	足掛
8号井戸	南東	6壙	円形	ロート形	146×131	200	暗灰褐色/含LR、 LB、赤色R、FE ▲、T◎ 縮良	播鉢/焙烙/板碑	16c～	足掛カ
9号井戸	北西	なし	円形	ほぼ直上	105×(72)	82	暗灰褐色/含LR、 LB◎ 縮良	スラグ1.5g		
10号井戸	北西	なし	円形	ロート形	130×(102)	200	暗灰褐色/含 LRLB▲ 縮良	磨製石斧/砥石/磨石		足掛
11号井戸	南東	2壙→○/ 17壙	円形	ほぼ直上	径80	106	暗灰褐色/含LR ▲、T△、LB▲ 縮良	粉挽臼/砥石		
12号井戸	北東	○→24壙/ 15壙	円形	ほぼ直上	径106	128	暗灰褐色/含LR LB▲ 縮良	播鉢/かわらけ=15c中～16c末	15c中～	
13号井戸	北東	27・29壙	楕円形	ほぼ直上	130×80	62	暗灰褐色/含T、 LR、LB◎ 縮 良			井戸カ
1号土壙	北東	なし	長方形	ほぼ直上	155×82	22	暗灰褐色/含LR △、LB▲、T▲ 縮良			
2号土壙	南東	3壙→○→ 11井	隅丸長方形	ゆるやか	463×75	16	暗灰褐色/含LR、 LB▲ 縮良	熔融物付着土器		
3号土壙	南東	○→2壙	楕円形	ゆるやか	157×115	14	灰褐色/LR、LB ▲ 縮良			
4号土壙	南東	なし	長方形	ゆるやか	(134)×110	8	暗灰褐色/含LR △、LB▲ 縮良			
5号土壙	北西	○→1溝	隅丸長方形	ゆるやか	(215)×52	14	暗灰褐色/含LR、 LB、C▲ 縮良	有孔石製品		
6号土壙	南東	○→5/8 井、18壙	長方形	ほぼ直上	(386)×131	20	暗灰褐色/含LR △ LB▲ 縮 良	かわらけ		
7号土壙	北東	なし	長方形	ゆるやか	146×75	9	暗灰褐色/含LR、 LB▲ 縮良			
8号土壙	北東	なし	隅丸長方形	ゆるやか	(267)×74	12	暗灰褐色/含LR、 LB▲ 縮良			
9号土壙	北東	10→○/14 壙	隅丸長方形	ほぼ直上	347×68	21	暗灰褐色/含LR、 LB▲ 縮良			
10号土壙	北東	○→9壙	不整形	ほぼ直上	152×(56)	10	暗灰褐色/含LR、 LB▲ 縮良	かわらけ=16c中～末	16c中～	
11号土壙	北西	なし	長方形	ほぼ直上	(271)×86	20	暗灰褐色/含T ▲、LR△、LB▲ 縮良	肥前甕=16c末～17c初/塊状品 (銅)/銭貨	16末～	
12号土壙	北西	28・30壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(360)×62	14	不明			

第1表 第42次遺構一覧表1

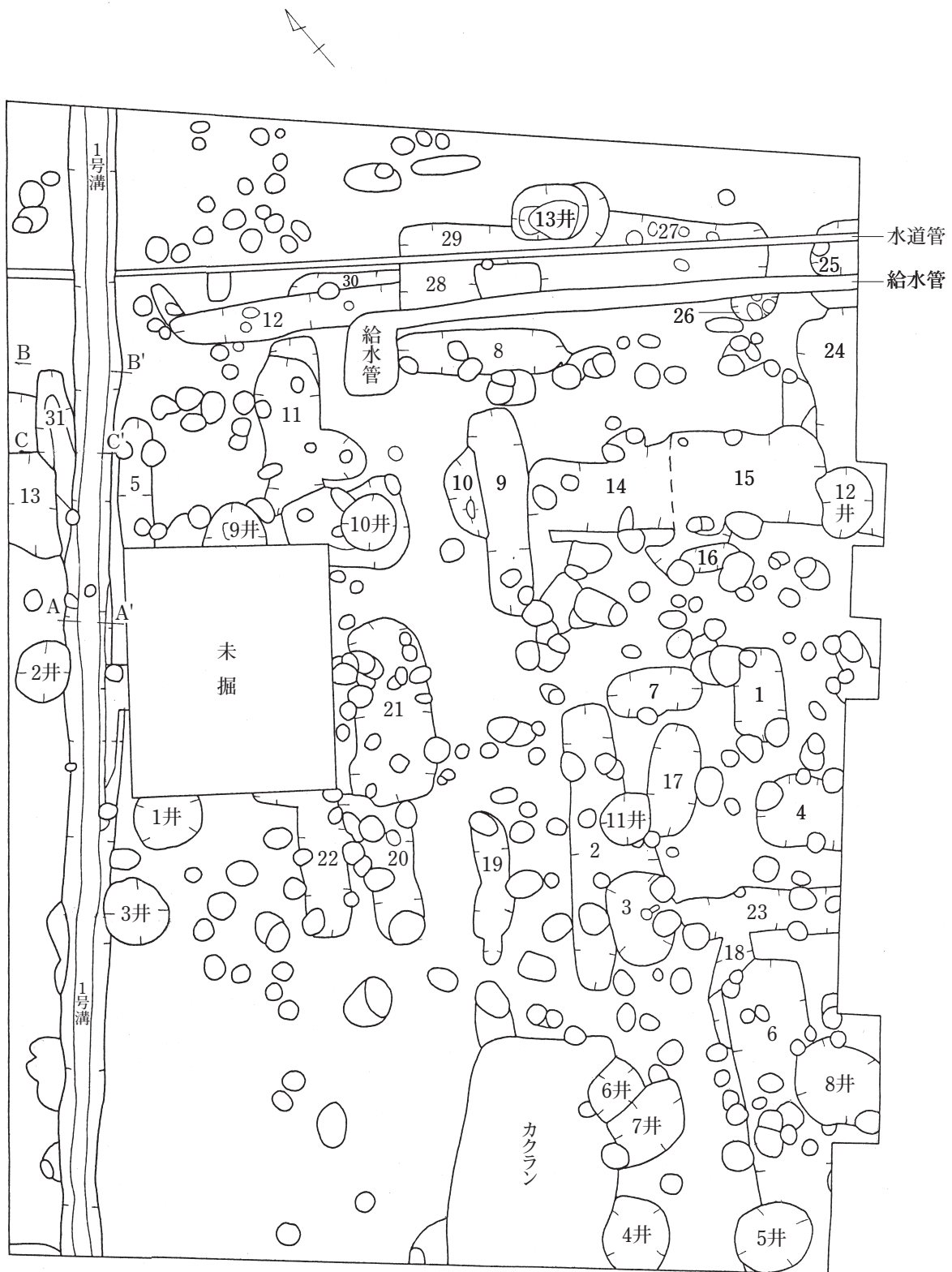
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
13号土壇	北西	31壇→○	方形カ	ほぼ直上	180×(93)	24	S	瀬美(天目=17c初・縁釉小皿=15c前・中)/焙烙/熔融物付着土器/板碑	17c初～	
14号土壇	北東	9・15壇	長方形	ゆるやか	(227)×110	9	暗灰褐色/含LR、LB、C▲ 縮良			
15号土壇	北東	12井、14・24壇	長方形	ほぼ直上	(255)×135	12	不明カ	中国染付皿=15c後/かわらけ=15c中～16c末/焙烙/鉄鏝/覆輪	16c～	かわらけ集中
16号土壇	北東	15壇	不整形	不明	137×(92)	16	不明			
17号土壇	南東	11井	隅丸長方形	ゆるやか	192×82	12	不明			
18号土壇	南東	6・23壇	不整形長方形	ゆるやか	(88)×64	9	不明			
19号土壇	南東	なし	隅丸長方形	ゆるやか	250×56	7	不明			
20号土壇	南西	○→21壇	隅丸長方形	ほぼ直上	(227)×72	15	暗灰褐色/含LR、LB▲ 縮良			
21号土壇	南西	20壇→○	長方形	ほぼ直上	291×125	12	暗褐色/含LR、LB▲ 縮良			
22号土壇	南西	P	隅丸長方形	ほぼ直上	(220)×70	18	不明	スラグ15.5g		
23号土壇	南東	3・18壇	長方形カ	ゆるやか	(264)×68	6	不明			
24号土壇	北東	12井→○、15壇	長方形カ	ほぼ直上	(250)×(113)	22	暗灰褐色/含LR、LB C▲ 縮良			
25号土壇	北東	なし	長方形	ゆるやか	(80)×91	6	不明			
26号土壇	北東	なし	円形カ	ほぼ直上	76×(40)	10	不明			
27号土壇	北東	13井、29壇	長方形	ゆるやか	377×(124)	10	不明			
28号土壇	北東	12・29・30壇	長方形	ゆるやか	120×(70)	11	不明			
29号土壇	北東	13井、28壇	長方形	ゆるやか	(180)×(52)	11	不明			
30号土壇	北西	12・28・29壇	不整形長方形	ほぼ直上	(180)×(34)	10	不明			
31号土壇	北西	13壇→○→1溝	長方形カ	ほぼ直上	(280)×60	30	暗灰褐色/含C◎、赤色R△、LB、LR▲、T▲ 縮良	中国染付皿=15c後/瀬美皿=15c末～16c中/在地播鉢/粉挽臼/板碑片/スラグ59g	15c末～	旧1溝-2
32号土壇	北東	12井、24壇	不明	不明	不明	不明	不明	かわらけ=15c中～16c前	15c中～	旧C壇(C含有壇)
33号土壇	南西	なし	楕円形	不明	250×170	不明	不明			ファイヤーピット 縄文カ 報告対象外

第2表 第42次遺構一覧表2

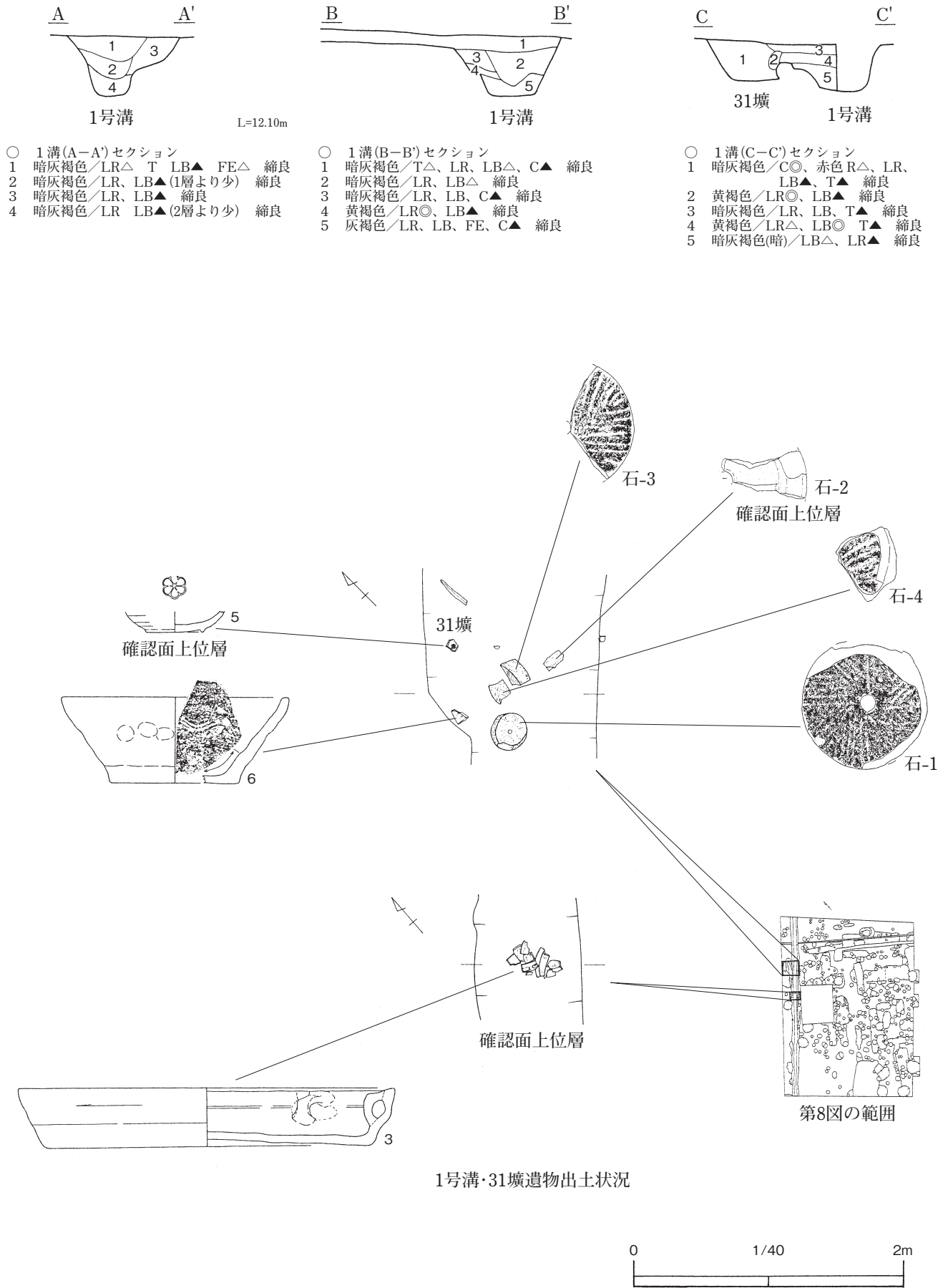


42次 遺構確認

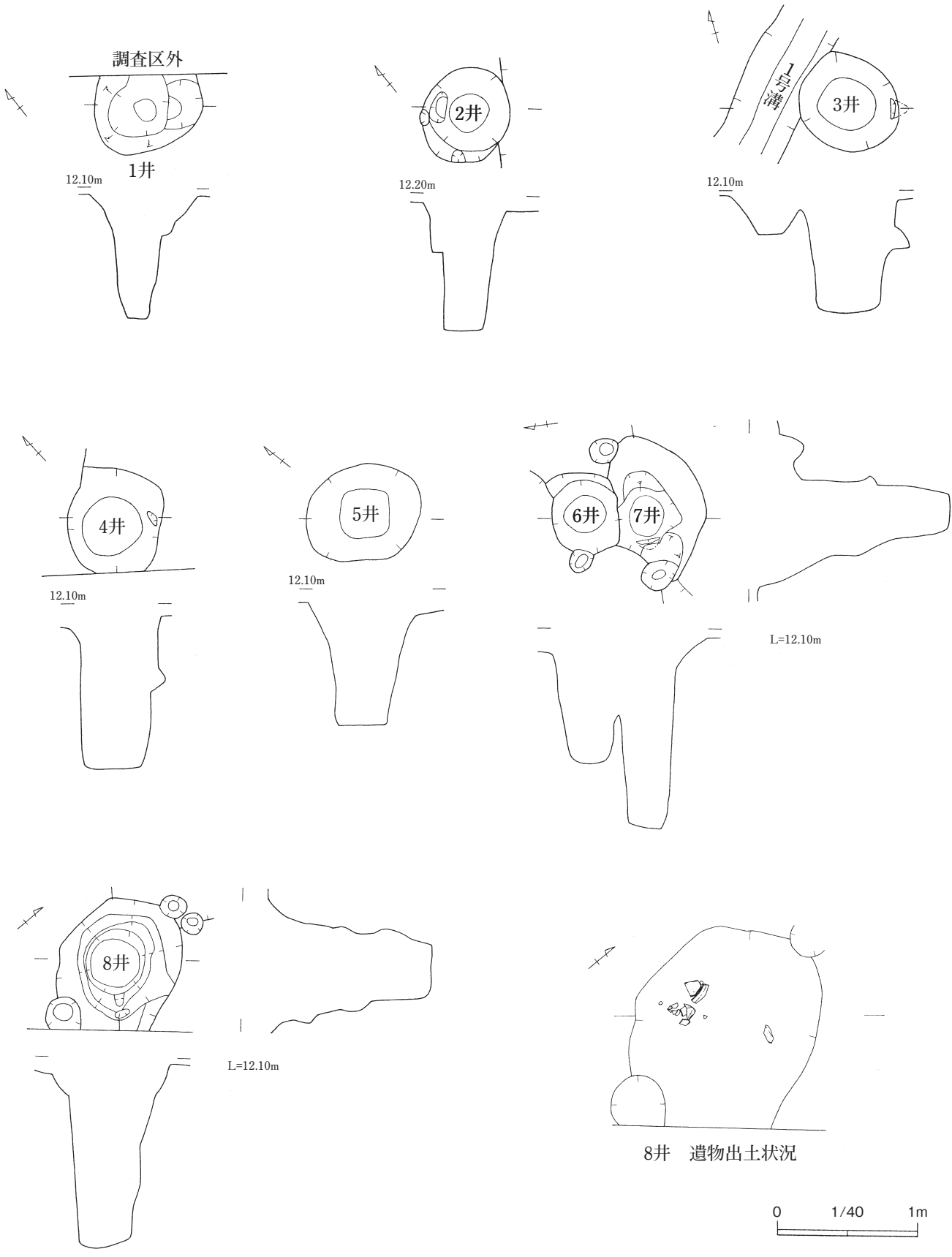


※数字のみは土坑名

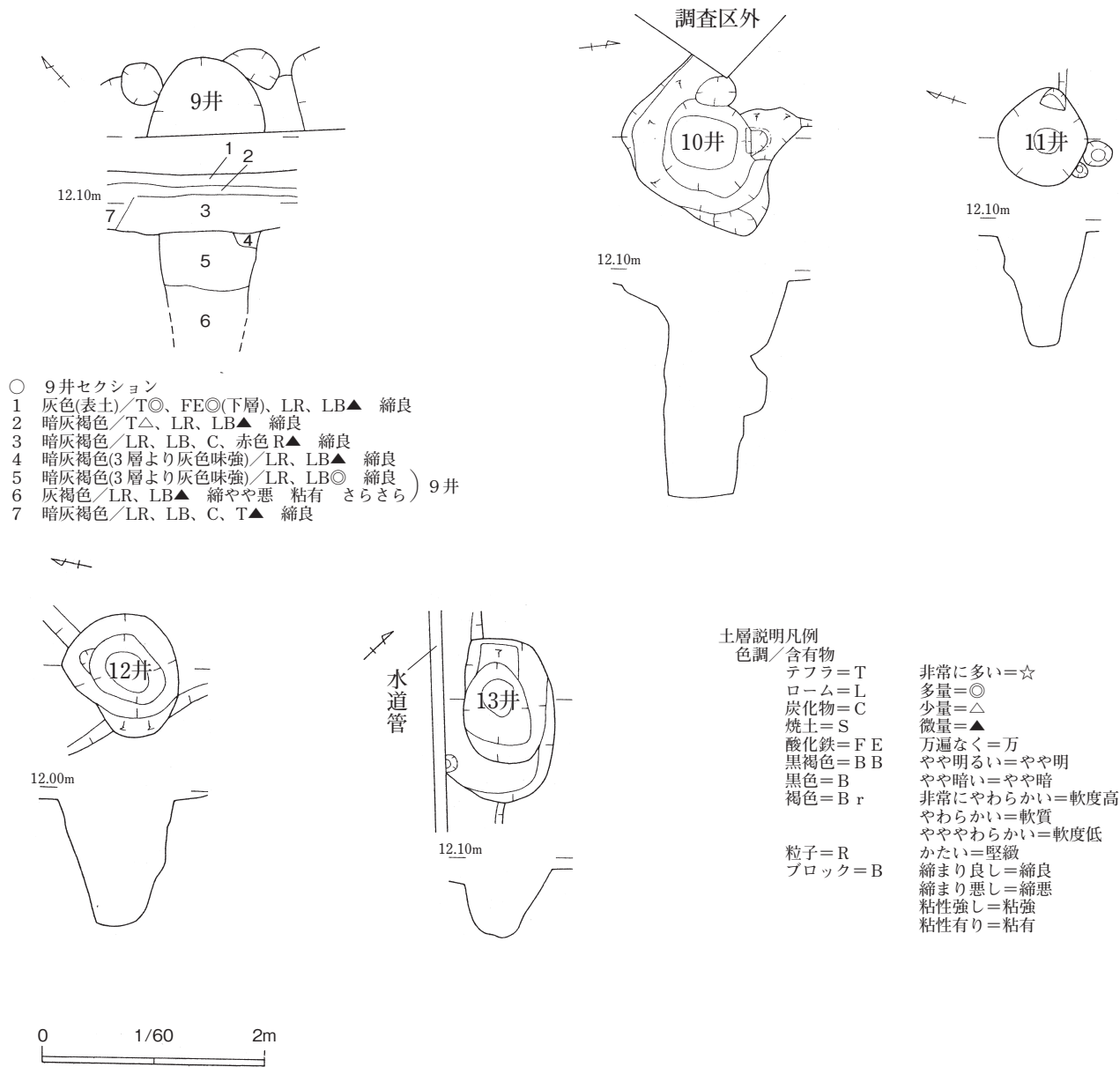
第7図 第42次遺構位置図



第8図 第42次遺構 1



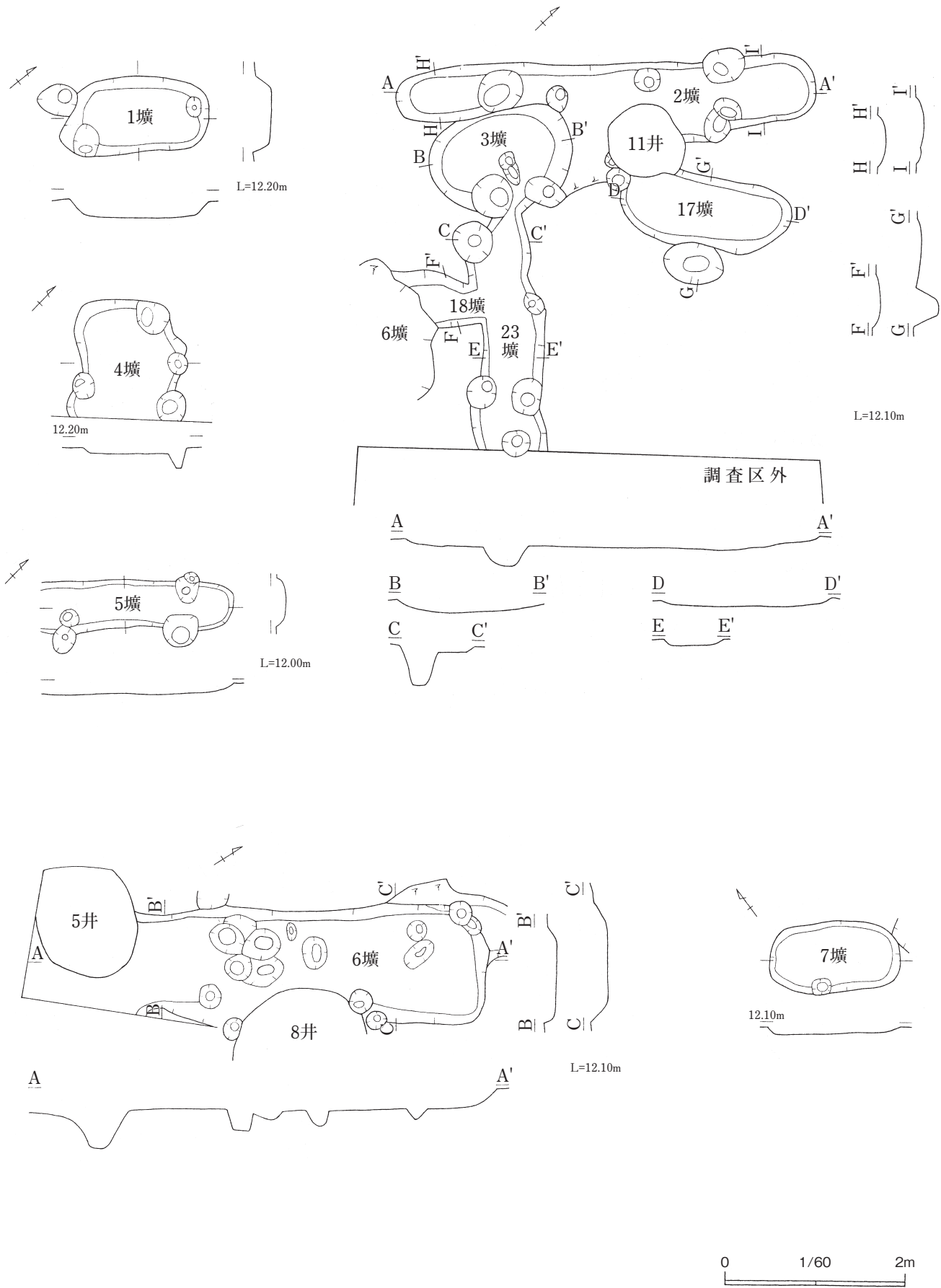
第9図 第42次遺構2



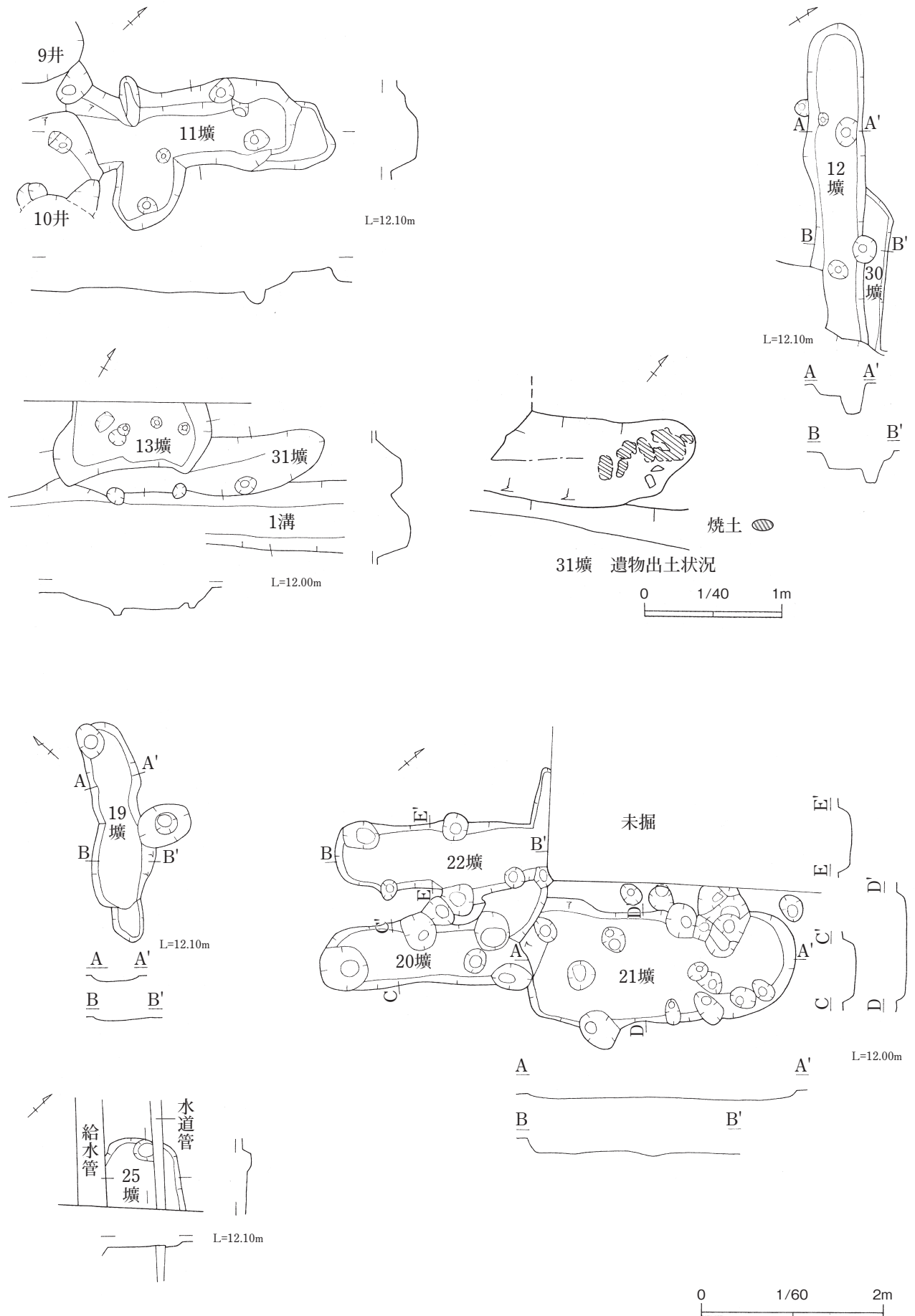
第10図 第42次遺構 3



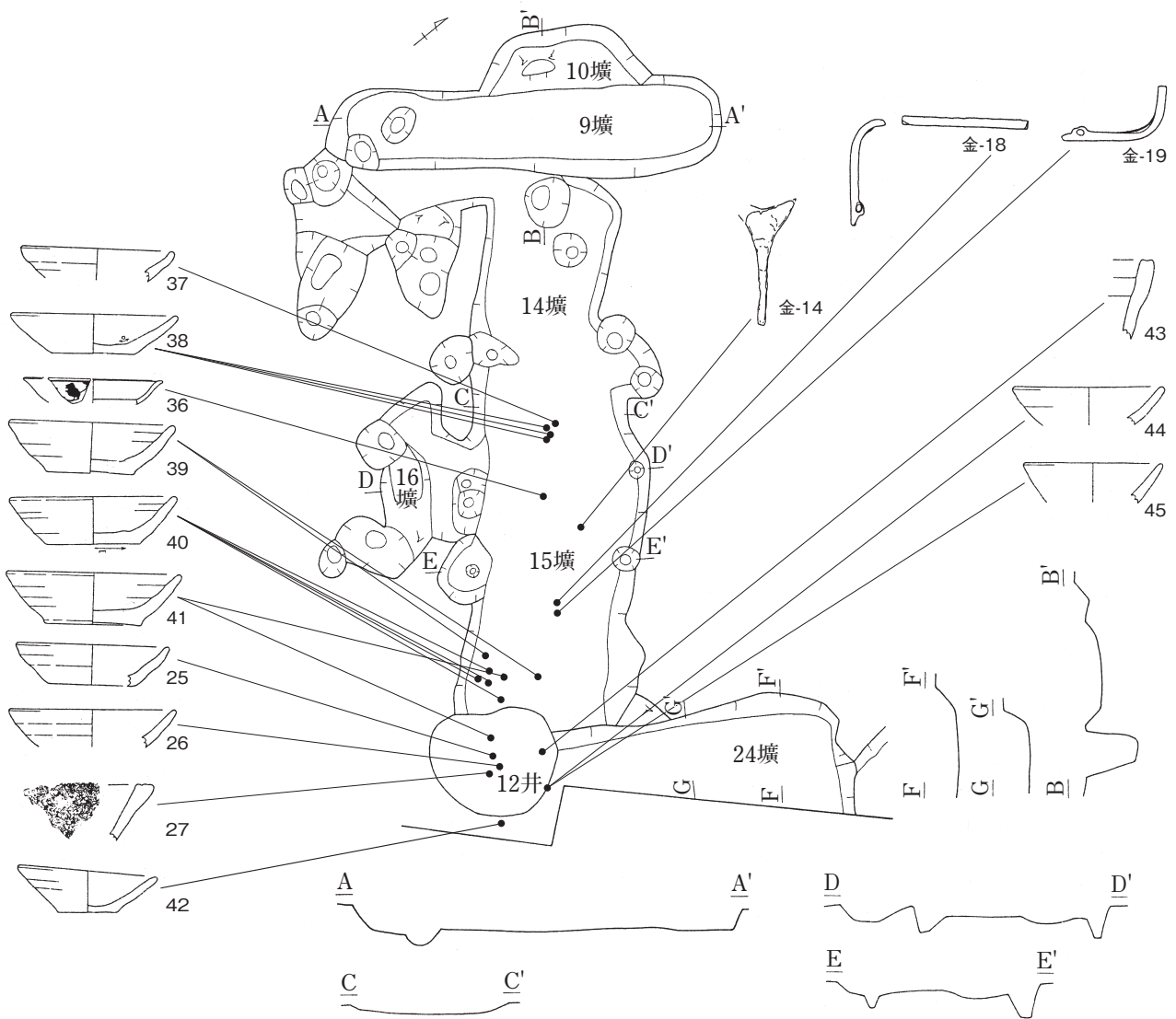
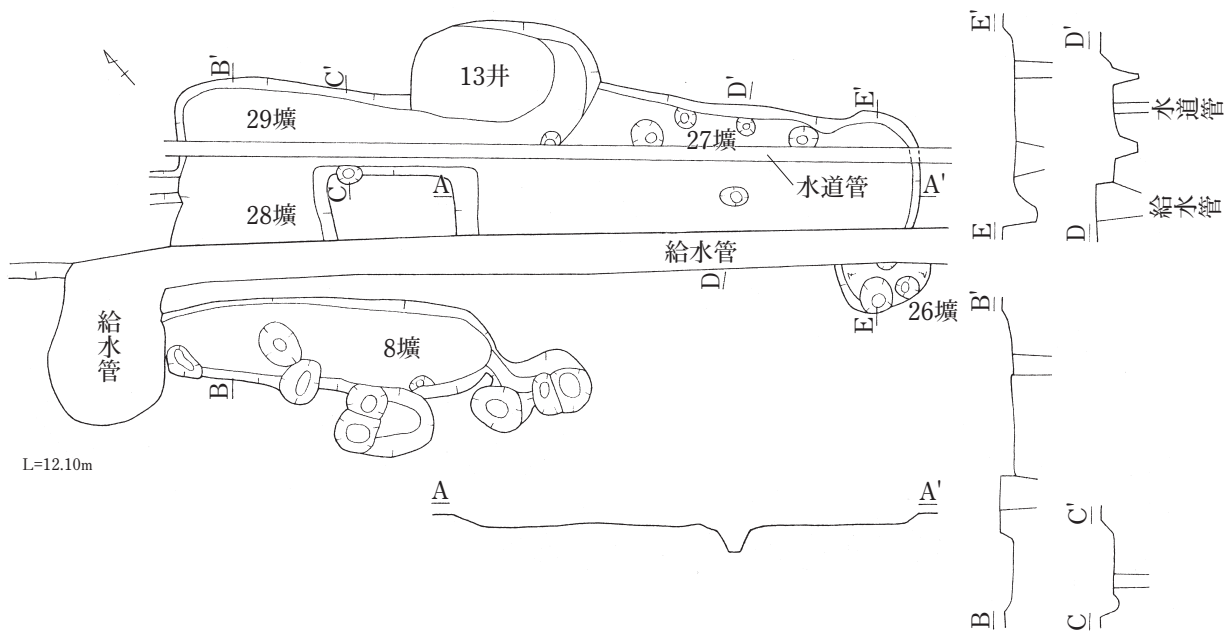
42次 井戸覆土洗浄



第11図 第42次遺構 4



第12図 第42次遺構 5



0 1/60 2m

L=12.10m

第13図 第42次遺構6

第2節 第48次調査

(1) 調査の概要

(調査地) 大字根古屋仮換地52街区21

(調査担当) 社会教育課 主任 坂本征男

(調査協力員)

梓沢ユキ子 五十嵐喜一郎 五十嵐米太郎

伊川房子 小川征子 小森谷アサ 小森谷二三子

佐藤ヨシ 土屋トヨ 福島清作 若林美知子

渡辺サヨ

(文化庁通知) 7委保記第5-2825号

平成7年10月6日

(調査期間) 平成7年5月10日～11月9日

(調査面積) 462㎡

(調査の経過)

建設予定地に22.5m×21.5mの調査区を設定し、重機により表土を掘り下げた。必要に応じて北・東・西に拡張した。ローム層を遺構確認面とし、溝・土壌などの調査を行った。

遺構の図化は、全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

井戸の覆土については、洗浄して遺物の検出に当たり14号井戸より蕪民将来符が出土した。

全体の完掘写真撮影及び図面作成は、北側半分と南側西半分を先に行った後、排土を溝を埋めるように西と北に移動した後に、残りの調査区について行った。

調査は気温が異常に高い日があり中止したことがある。

(周辺の調査)

KB10区が西接し、北側に第38・33次調査区、東側にKB16区がある。38次では42次1号溝につながりそうな溝が南北に走るが幅98cm、深さ68cm(いずれもセクション図計測値)とやや大きい。33次では長方形で、長辺200～300cmの大型の土壌が全体に分布する。特に21号土壌は深さ160cmを計りその用途が問われる。KB10・16区では、障子堀が東西方向に走行するが、48次はその障子堀の南側に位置することとなる。また、KB10区6号溝は、48次2・4号溝とつながる位置にあるが、規模・断面形態が一致しない。

(2) 遺構と遺物

【溝】調査時は6条まで命名したが重複により総数8条である。西端寄り南北方向に1・3・5号溝と、北側東西方向に2・4a・4b・4c号溝が並行重複して走行する。

1号溝 調査区西側を南端から始まり、北方向へ東にずれながら走行するが、調査区外手前で東に屈曲する。断面はしっかりした箱葉研である。幅140cm深さ136cmを計る。覆土にはロームブロックを多量に含む。

龍泉窯系中国青磁碗(土-72)・渥美甕(土-73)・常滑片口鉢(土-74・75)・肥前染付碗(土-76)・かわらけ(土-77～84)・ほうろく(土-85)・在地片口鉢(土-86)・粉挽臼(石-6)・砥石(石-24)・磨石(石-41・42)が出土した。

2号溝 幅70cm深さ24cmを計る。中国染付小坏(土-87)・瀬戸美濃香炉(土-88)・銭貨(金-45)・磨石(石-43)が出土した。

3号溝 1号溝と並行するが、湾曲して両端が1号溝と接する。幅65cm深さ40cmを計る。

4号溝 調査時は4-1・4-2・4-3号溝としたが、それぞれ4a・4b・4c号溝と振り替える。幅262cm深さ97cmを計る。龍泉窯系中国青磁碗(土-89)・かわらけ(土-96)・ほうろく(土-98)・在地土鍋(土-100)・同土釜(土-104)・石臼(石-7・8)が出土した。

4a号溝 最上層で4b・4c溝より新しい。幅172cm深さ64cmを計る。中位層にローム層の2次堆積あり。常滑三筋壺(土-90)・瀬戸美濃天目茶碗(土-92)・同灯明皿(土-93)・かわらけ(土-94～97・109)・ほうろく(土-98・99)・在地播鉢(土-102)・板碑(石-67・68)が出土した。

4b号溝 南寄り以最下層、4a溝より古く4c溝より新しい。幅160cm(残存)深さ98cmを計る。常滑甕(土-91)・かわらけ(土-107・108)・ほうろく(土-98)・在地片口鉢(土-101)・同播鉢(土-103)・同土釜(土-105)・砥石(石-34)・磨石(石-44)・板碑(石-69・70)が出土した。

4c号溝 北寄りで4a・4bより古い。幅90cm(残存)深さ68cm(残存)を計る。常滑甕(土-91)・かわらけ(土-107・108)・ほうろく(土-98)・在地片口鉢(土-101)・同播鉢(土-103)・同土

釜(土-105)・砥石(石-34)・磨石(石-44)・板碑(石-69・70)が出土した。

5号溝 南西隅に位置し、1号溝の南端で重複する。幅58cm 深さ50cm を計る。

6号溝 中央やや南に位置し、幅39cm 深さ24cm を計る。

【井戸状遺構】

総数18基で、南側に多く分布する。特に西端と東端にまとまっている。いずれも素堀である。規模は直径100cm 前後が多く、12号井戸は直径180cm を超え、深さも200cm 超える大形のものである。出土遺物は14号井戸より蕪民将来符が1点ある。5・6・10号井戸は浅く井戸カ。

1号井戸 断面は直上し底面平坦。直径115cm 深さ136cm を計る。

2号井戸 直径114cm 深さ185cm を計り深い。丸棒材・桃の種子19点出土した。

3号井戸 96cm×68cm 深さ169cm を計る。中位でかわらけ(土-108)が、常滑甕(土-106)・かわらけ(土-107・109)・火打金(金-2)が出土した。2号溝より新しい。

4号井戸 直径92cm 深さ126cm を計る。瀬戸美濃腰折皿(土-110)・ほうろく(土-111)が出土した。

5号井戸 90cm×36cm (残存) 深さ67cm を計る。砥石(石-35)・桃の種子1点、中位層で板碑(石-71)が出土した。井戸カ。

6号井戸 1号溝と重複し、溝底面よりやや深い。形態も不明瞭である。100cm (残存)×115cm 深さ143cm を計る。井戸カ。

7号井戸 断面はほぼ直上し底面平坦、直径103cm 深さ138cm を計る。

8号井戸 断面は直上し底面に段を有する。113cm 深さ99cm を計る。肥前陶器碗(土-112)・ほうろく(土-113・114)・粉挽臼(石-9)・磨石(石-45)・焼骨片が出土した。

9号井戸 底面平坦で、直径112cm 深さ194cm を計る。瀬戸美濃端反皿(土-115)・ほうろく(土-113・116)・桶側板(木-2)・柄状製品(木-7)・板材(木-12~14)・竹・桃の種子6点・銭貨(金-46)・墨書石(石-20)が出土した。墨書石の出土状態は不明。

10号井戸 直径125cm 深さ81cm を計り浅い。底面にピットカ。井戸カ。

11号井戸 平面楕円形で東西に広がる。147cm×94cm 深さ130cm を計る。瀬戸美濃皿(土-117・118)・同播鉢(土-119・120)・同徳利(土-121)・かわらけ(土-122・123)・ほうろく(土-124)・在地火鉢(土-125)・板碑(石-72・73)・銭貨(金-47)・桃の種子3点が出土した。

12号井戸 182cm×164cm 深さ203cm を計り、大型で深い。瀬戸美濃天目茶碗(土-126)・同尊式花瓶(土-127)・かわらけ(土-128・129)・ほうろく(土-111・130)・桶側板(木-3)・桃の種子3点・磨石(石-46・47)、上層で板碑(石-74・75)が出土した。

13号井戸 重複が多く形態は円形。135cm (残存)×135cm (残存) 深さ172cm を計る。中位でロームブロックの2次堆積。中国四耳壺(土-131)・瀬戸美濃天目茶碗(土-132)・肥前陶器皿(土-133・134)・漆碗皮膜・丸棒材(木-8)・U字状鉄製品(金-16)・石臼(石-11~13)・石製円盤(石-19)・砥石(石-36・37)・磨石(石-48)・上層で石臼(石-10)・板碑片(石-76)がまとまって出土した。

14号井戸 断面はほぼ直上し底面平坦。直径84cm 深さ209cm を計り深い。在地播鉢(土-135)・同土鍋(土-136)・位牌(木-4)・蕪民将来符(木-5)・加工材(木-9)・丸棒材・銭貨(金-48)・粉挽臼(石-14)・板碑(石-77~79)が出土した。蕪民将来符は覆土洗浄により出土。

15号井戸 断面はロート形底面平坦。直径108cm 深さ136cm を計る。桃の種子1点出土。

16号井戸 直径84cm 深さ134cm を計る。砥石(石-25)・桃の種子1点が出土した。

17号井戸 断面はほぼ直上し底面平坦。直径116cm 深さ110cm を計る。ほうろく(土-137)・在地火鉢(土-138)・茶臼(石-15)・磨石(石-49)・板碑(石-80)が出土した。

18号井戸 大部分が調査区外である。76cm (残存)×50cm (残存) 深さ55cm (残存) を計る。ほうろく(土-137)が出土した。

【土壙】

45まで命名したが、欠番により総数43基である。中央やや南寄りにまとまって分布する。平面形は、攪乱、ピットなどの重複により不整形のものが多く、長方形が基本である。

3号土壙 平面長方形で194cm（残存）×100cm 深さ60cmを計り深い。

5号土壙 平面長方形で165cm（残存）×103cm 深さ12cmを計る。2号溝により分断される。

12号土壙 平面長方形で165cm（残存）×120cm（残存）深さ10cmを計る。

13号土壙 平面長方形で294cm（残存）×140cm 深さ15cmを計る。

14号土壙 平面長方形で180cm（残存）×75cm 深さ22cmを計る。瀬戸美濃縁釉小皿（土-139）が出土した。

15号土壙 平面長方形で180cm×118cm 深さ33cmを計りやや深い。砥石（石-26）が出土した。

16号土壙 平面長方形で540cm×132cm 深さ14cmを計り大型である。志戸呂小坏（土-140）が出土した。

17号土壙 平面長方形で228cm×75cm 深さ7cmを計る。

18号土壙 平面長方形で155cm×94cm 深さ30cmを計りやや深い。

19号土壙 平面長方形で248cm×93cm 深さ19cmを計る。スラグが47.6g 出土。

20号土壙 平面長方形で251cm×86cm 深さ22cmを計る。砥石（石-27）が出土した。

21号土壙 平面不整長方形で267cm×210cm 深さ20cmを計る。

22号土壙 平面長方形で184cm×65cm（残存）深さ12cmを計る。

23号土壙 平面長方形で256cm×118cm 深さ24cmを計る。

24号土壙 平面長方形で170cm（残存）×140cm（残存）深さ4cmを計る。

25号土壙 平面楕円形で140cm×70cm（残存）深さ122cmを計る。常滑甕（土-141）が出土した。

26号土壙 平面長方形で148cm（残存）×68cm 深さ5cmを計る。

27号土壙 平面長方形で160cm×88cm 深さ9cmを計る。

30号土壙 平面長方形で116cm×76cm 深さ25cmを計る。

31号土壙 平面長方形で606cm（残存）×70cm 深さ16cmを計る。かわらけ（土-142～144）が出土した。

32号土壙 平面隅丸長方形で170cm（残存）×86cm 深さ20cmを計る。小柄（金-8）が出土した。

33号土壙 平面不整形で50cm（残存）×65cm（残存）深さ16cmを計る。

34号土壙 平面長方形で185cm×122cm 深さ38cmを計り深い。

35号土壙 平面長方形で90cm（残存）×66cm 深さ17cmを計る。北端と南端に骨片、北端で銭貨（金-49～54）が出土した。墓壙。

36号土壙 平面長方形で150cm×95cm 深さ12cmを計る。銭貨（金-55～60）が出土した。

37号土壙 平面長方形で115cm×86cm（残存）深さ3cmを計る。

38号土壙 平面隅丸長方形で168cm（残存）×96cm 深さ25cmを計る。

39号土壙 平面隅丸長方形で158cm（残存）×134cm 深さ13cmを計る。

42号土壙 平面長方形で116cm×103cm 深さ37cmを計り深い。

43号土壙 平面長方形で119cm×80cm 深さ21cmを計る。

44号土壙 平面長方形で590cm×55cm 深さ14cmを計る。銭貨（金-61）が出土した。

45号土壙 平面長方形で140cm×88cm（残存）深さ10cmを計る。かわらけ（土-145）が出土した。

【遺構外出土遺物】

陶磁器では、龍泉窯系中国青磁碗（土-146・147）・常滑甕（土-148・149）・瀬戸美濃天目茶碗（土-150）・同皿（土-151～157）・志戸呂香炉（土-158）・備前德利（土-159）・同建水（土-160）・肥前染付蓋（土-161）・かわらけ（土-162～165）・在地播鉢（土-166）・同片口鉢（土-167）が出土した。

金属製品では、鉄製の釘（金-3・4）・鋸（金-5）、銅製の煙管（金-17）・目貫カ（金-20）、銭貨（金-62～73）が出土した。

石製品では、碁石（石-16）・砥石（石-28・29・38）・磨石（石-50～57）・敲石（石-58）が出土した。スラグが129.9g 出土。

() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化鉄/B=ブロック、R=粒子)

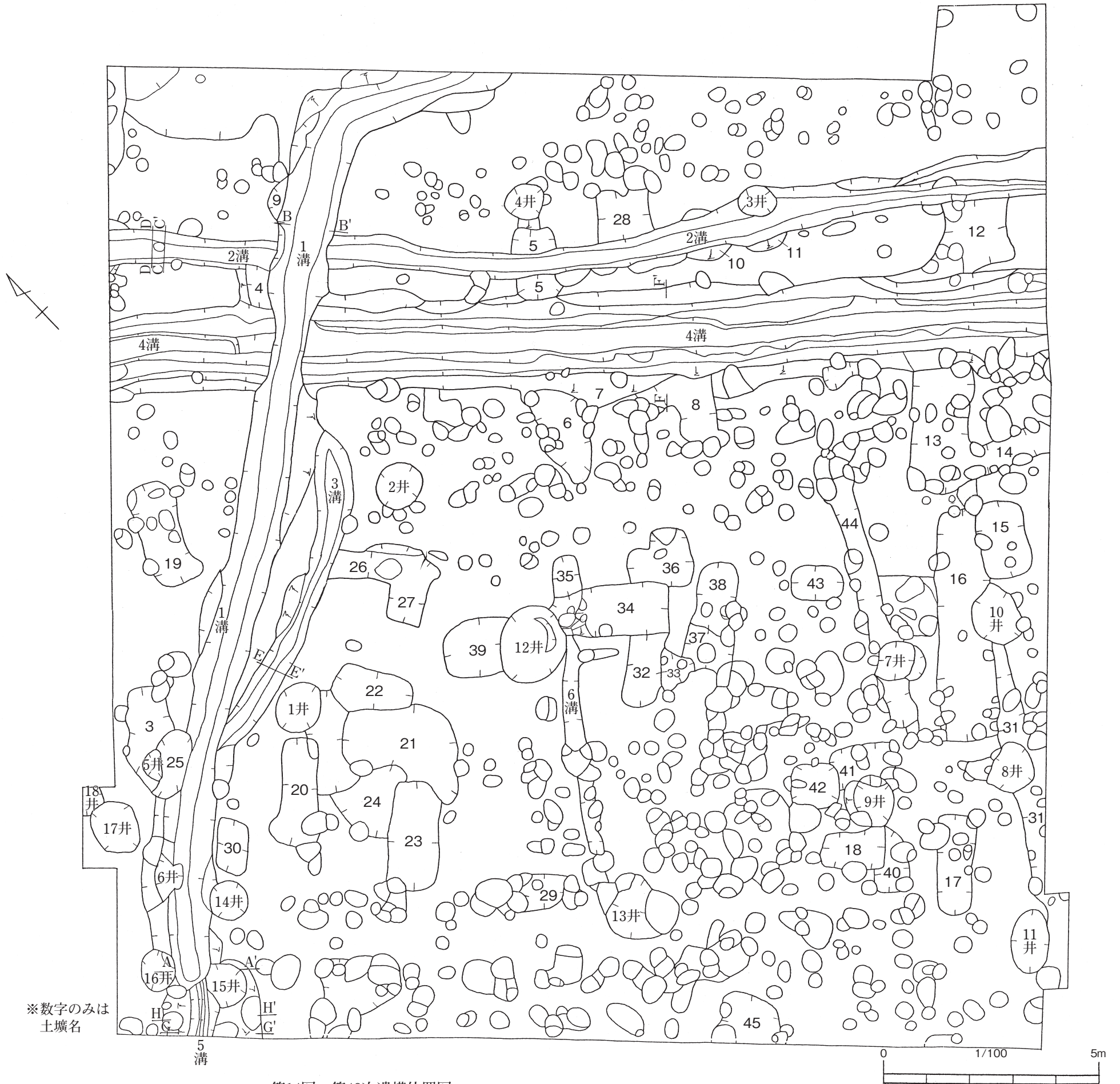
遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
1号溝	西	30壙→○→2・4溝、6・17井/3・5溝、14~16井、25・49壙	屈曲する	箱葉研	幅140	136	暗灰褐色/含T△、LR△、C▲、LB▲ 縮良	龍泉青磁碗=13c~14c/瀝美甕/常滑(甕又は片口鉢)=~16c・片口鉢=1250~1275/肥前染付碗=19c中/在地片口鉢=13c中/かわらけ=16c中~末/焙烙/粉挽臼/砥石/磨石	~19中	
2号溝	北	1溝・5壙→○→3井・11壙/4・10~12・28壙	直線	ほぼ直上	幅70	24	暗灰褐色/含T▲、LR、C▲、LB▲ 縮良	中国小杯=16c末~17c/瀝美香炉/磨石/銭貨	16c末~	
3号溝	西	○→1溝/26壙	弧状	葉研	幅65	40	暗灰褐色/含LR◎、LB▲ 縮良			
4号溝	北	1溝・12壙→○→5壙	直線	箱葉研	幅☆262	☆97	L層2次堆積	龍泉青磁碗=13c~14c/かわらけ/在地(土鍋・土釜)/粉挽臼/茶臼/焙烙	16c~	
4a号溝	北	1・4b・4c溝→○	直線	ほぼ直上	幅☆172	☆64	暗灰褐色/含T、C▲、LR△、LB▲ 縮良	常滑三筋壺=12c/瀝美(天目=15c後・灯明皿=18c)/かわらけ=15c中~16c前/焙烙/板碑	18c~	
4b号溝	北	1・4c溝→○→4a溝/7・8壙	直線	箱葉研	幅☆(160)	☆98	暗灰褐色/含T▲、LR、LB、縮良	常滑甕=1250~1275/かわらけ=15c中~16c前/焙烙/在地(片口鉢・播鉢・土釜)/砥石/磨石/板碑	16c~	
4c号溝	北	1溝→○→4a・4b溝/4・5壙	直線	箱葉研	幅☆(90)	☆(68)	暗灰褐色/含LR、LB、T、C▲ 縮良	常滑甕=1250~1275/かわらけ=15c中~16c前/焙烙/在地(片口鉢・播鉢・土釜)/砥石/磨石/板碑	16c~	ローム2次堆積
5号溝	南西	15井→○/1溝	直線	箱葉研	幅58	50	暗灰褐色/含T、LR、LB、C▲ 縮良			
6号溝	南	○→12井	直線	ほぼ直上	幅39	24	暗灰褐色/含LR◎、T、LB▲ 縮良			
1号井戸	南西	なし	円形	直上	径115	☆136	暗灰褐色/含LR、LB◎ 縮良			
2号井戸	北西	なし	円形	直上	径114	☆185	暗褐色/含T▲、LR△、LB◎ 縮良	丸棒材/種子(桃)		
3号井戸	北東	2溝→○	楕円形	ロート形	96×68	169	暗灰褐色/含T、LR、LB、C▲ 縮良	常滑甕=~16c/かわらけ=15c中~16c前/火打金	15c中~	
4号井戸	北西	なし	円形	直上	径92	126	暗灰褐色/含LB◎、LR▲ 縮良	瀝美腰折皿=15c後/焙烙	15c後~	
5号井戸	南西	3・25壙	円形カ	ほぼ直上	90×(36)	67	不明	砥石/板碑/種子(桃)		井戸カ
6号井戸	南北	1溝→○	円形カ	ほぼ直上	(100)	143	不明			井戸カ
7号井戸	南東	44壙→○	円形	ほぼ直上	径103	☆138	暗灰褐色/含LR、LB、C▲ 縮良			
8号井戸	南東	31壙→○	円形	直上	径113	☆99	暗灰褐色/含LR△、LB▲ 縮良	肥前陶器碗=17c前/焙烙/粉挽臼/磨石/焼骨片	17c前~	
9号井戸	南東	18・40・41壙	円形	ロート形	径112	194	暗灰褐色/含LR、LB、C▲ 縮良	瀝美端反皿=15c末~16c前/焙烙/墨書石/銭貨/柄状製品/板材/竹/種子(桃)	16c~	
10号井戸	南東	○→16/31壙	円形	ほぼ直上	径125	81	暗灰褐色/含LR、LB▲ 縮良	炭化物		井戸カ
11号井戸	南東	なし	楕円形	ロート形	147×94	130	不明	瀝美(丸皿=16c中・ヒダ皿=16c後・播鉢=16c中~17c初・徳利=16c後~17c初)/かわらけ=16c中~末/焙烙/在地火鉢/板碑/銭貨/種子(桃)	16c後~	
12号井戸	南北	6溝・39壙→○	楕円形	ほぼ直上	182×164	203	暗灰褐色/含T◎、LR、LB△、C▲ 縮良	瀝美(天目=15c後・尊式花瓶)/焙烙/かわらけ=15c中~16c前/磨石/板碑/桶(側板)/種子(桃)	16c~	
13号井戸	南東	ピット	円形	ほぼ直上	(135)×(135)	172	暗灰褐色/含LR、LB、C、T▲ 縮良 中位にL2次堆積	中国四耳壺/瀝美天目=17c初/肥前陶器皿=16c末~17c前/粉挽臼/茶臼/石製円盤/砥石/磨石/板碑/U字状鉄製品/漆碗(被膜)/丸棒材/桶(側板)	16c末~	井戸の重複
14号井戸	南西	1溝	円形	ほぼ直上	径84	209	不明	在地(播鉢・土鍋)/粉挽臼/板碑/銭貨/蘇民将来符/位牌/加工材/丸棒材	15c~	
15号井戸	南西	○→5溝/1溝	円形	ロート形	径108	136	暗灰褐色/含LR◎、LB▲ 縮良	種子(桃)		
16号井戸	南西	1溝	円形	ほぼ直上	径84	134	不明	砥石/種子(桃)		
17号井戸	南西	1溝→○	円形	ロート形	径116	110	暗灰褐色/含LR、LB、C▲ 縮良	焙烙/在地火鉢/茶臼/磨石/板碑	16c~	
18号井戸	南西	なし	円形カ	ほぼ直上	(76)×(50)	(55)	暗灰褐色/LR、LB▲ 縮やや悪	焙烙		
1号土壙		欠番								
2号土壙		欠番								
3号土壙	南西	5井、25壙	長方形	ほぼ直上	(194)×100	60	暗灰褐色/含LR、LB 縮悪			

第3表 第48次遺構一覧表1

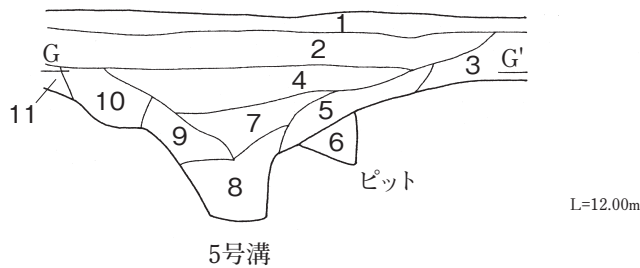
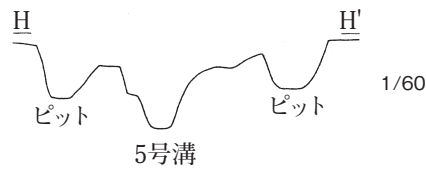
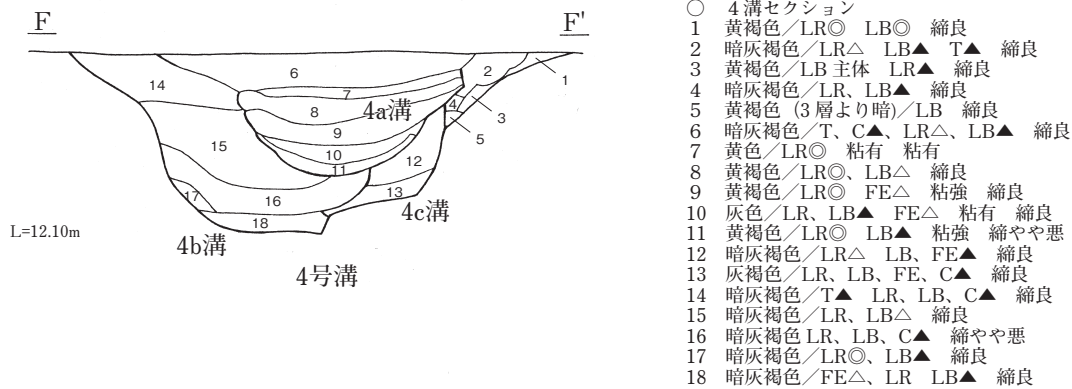
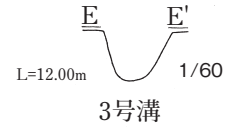
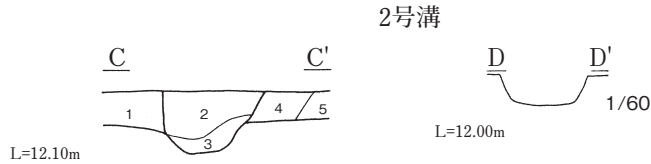
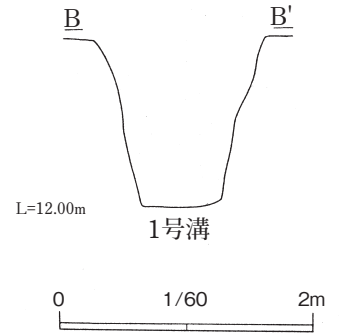
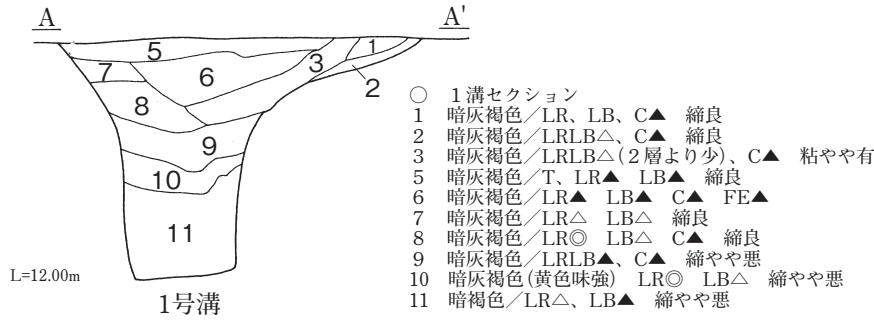
() は残存値、☆はセクション図計測値 ○は当該遺構 覆土 (T=テフラ、L=ローム、S=焼土、C=炭化物、Fe=酸化物/B=ブロック、R=粒子)

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模 (cm)	深さ (cm)	覆土	出土遺物	年代 (埋没)	備考
4号土壇	北西	1・2・4溝	長方形カ	不明	(93)×(70)	不明	不明			
5号土壇	北西	4溝→○→2溝	長方形	ほぼ直上	(165)×103	12	暗灰褐色/含T▲ LR◎ LB△ 締良			
6号土壇	北西	7壇	不整形	不明	(216)×135	21	不明			
7号土壇	北西	4溝、6・8壇	長方形カ	不明	(200)×(96)	不明	不明			
8号土壇	北東	4溝、7壇	長方形カ	不明	(147)×84	14	不明			
9号土壇	北西	1溝	円形カ	不明	104×(35)	不明	不明			
10号土壇	北東	2溝	円形カ	不明	105×(30)	不明	不明			
11号土壇	北東	2溝→○	円形カ	ゆるやか	104×(42)	☆8	暗灰褐色/含LR△ T◎ LB▲ 締良			
12号土壇	北東	○→4溝/2溝	長方形	ゆるやか	(165)×(120)	10	暗灰褐色/含LR、LB △ 締良			
13号土壇	北東	4溝、14壇	長方形	ゆるやか	(294)×140	15	不明			
14号土壇	北東	13壇	長方形	ゆるやか	(180)×75	☆22	暗灰褐色/含LR LB▲ 締良	瀬美縁袖小皿=15c中～後	15c中～	
15号土壇	北東	○→16壇	長方形	ほぼ直上	180×118	33	暗灰褐色/含LR◎ LB△ 締良	砥石		
16号土壇	南東	15壇→○→10井 /31壇	長方形	ほぼ直上	540×132	14	暗灰褐色/含LR△ LB▲ 締良	志戸呂小坏=16c後～末	16c後～	
17号土壇	南東	なし	長方形	ゆるやか	228×75	7	不明			
18号土壇	南東	40壇→○/9井	長方形	ほぼ直上	155×94	30	暗灰褐色/含T▲ LR△ LB▲ 締良			
19号土壇	北西	なし	長方形	ゆるやか	248×93	19	暗灰褐色/含T△ LR LB C▲ 締良	スラグ47.6g		
20号土壇	南西	25壇→○	長方形	ほぼ直上	251×86	22	暗灰褐色/含LR LB◎ T◎ 締良	砥石		
21号土壇	南西	22・25壇→○/ 23・24	不整長方形	ほぼ直上	267×210	20	暗灰褐色/含LR◎ LB△ C▲ 締良			
22号土壇	南西	○→21壇	長方形	ほぼ直上	184×(65)	12	暗灰褐色/含T▲ BR△ LR△ LB ▲ 締良			
23号土壇	南西	21・24壇	長方形	ほぼ直上	256×118	24	不明			
24号土壇	南西	21・23壇	長方形	不明	(170)×(140)	4	不明			
25号土壇	南西	○→20・21壇/1 溝、5井、3壇	楕円形	ほぼ直上	140×(70)	122	不明	常滑甕=～16c		
26号土壇	南西	3溝、27壇	長方形	ゆるやか	(148)×68	5	不明			
27号土壇	南西	26壇	長方形	ゆるやか	160×88	9	不明			
28号土壇	北東	2溝	長方形	ゆるやか	(130)×124	7	不明			
29号土壇	南西	なし	長方形	ゆるやか	(107)×82	5	暗灰褐色/含LR、LB ▲、T▲ C▲ 締良			
30号土壇	南西	○→1溝	長方形	ゆるやか	116×76	25	暗灰褐色/含C◎ LR、LB▲ 締良			
31号土壇	南東	8・10井、16壇	長方形	ほぼ直上	(606)×70	16	不明	かわらけ=17c前	17c前～	
32号土壇	南東	33壇→○/34壇	隅丸長方形	ほぼ直上	(170)×86	20	暗灰褐色/含LR、LB △、T▲ 締良	かわらけ/小柄		
33号土壇	南東	○→32壇	不整形	ほぼ直上	(50)×(65)	16	暗灰褐色/含LR LB▲ S 締良			
34号土壇	南東	○→36壇/32壇	長方形	ほぼ直上	185×122	38	暗灰褐色/含LB◎ LR△ 締良			
35号土壇	南西	なし	長方形	ほぼ直上	(90)×66	17	不明	銭貨/骨		墓壇
36号土壇	南東	34壇→○	長方形	ゆるやか	150×95	12	暗灰褐色/含T、LR、 LB▲ 締良	銭貨		
37号土壇	南東	○→38壇	長方形	ゆるやか	115×(86)	3	暗灰褐色/含LR◎ LB▲ 締良			
38号土壇	南東	37壇→○	隅丸長方形	ゆるやか	(168)×96	25	暗灰褐色/含LR、LB ▲ 締良			
39号土壇	南西	○→12井	隅丸長方形	ゆるやか	(158)×134	13	暗灰褐色/含LR、LB ◎ T▲ 締良			
40号土壇	南東	○→18壇	長方形	ゆるやか	(160)×79	6	暗灰褐色/含LR◎ LB▲ 締良			
41号土壇	南東	9井、42壇	不整長方形	不明	152×102	8	不明			
42号土壇	南東	41壇	長方形	ほぼ直上	116×103	37	不明			
43号土壇	南東	なし	長方形	ほぼ直上	119×80	21	不明			
44号土壇	南東	○→7井	長方形	ほぼ直上	590×55	14	暗灰褐色/含T△ LR LB▲ 締良	銭貨		溝カ
45号土壇	南東	なし	長方形カ	ゆるやか	140×(88)	10	不明	かわらけ		

第4表 第48次遺構一覧表2

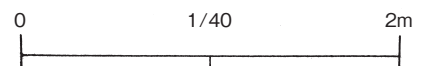


第14図 第48次遺構位置図

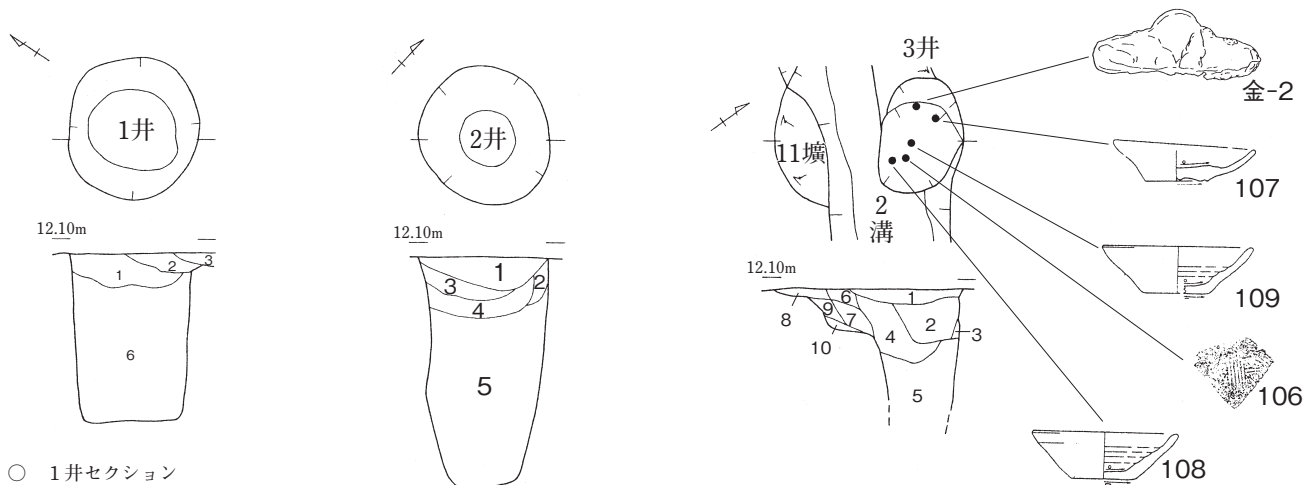


土層説明凡例

色調/含有物	
テフラ=T	非常に多い=☆
ローム=L	多量=◎
炭化物=C	少量=△
焼土=S	微量=▲
酸化鉄=FE	万遍なく=万
黒褐色=BB	やや明るい=やや明
黒色=B	やや暗い=やや暗
褐色=Br	非常にやわらかい=軟度高
	やわらかい=軟質
	やややわらかい=軟度低
粒子=R	かたい=堅緻
ブロック=B	縮まりよし=縮良
	縮まり悪し=縮悪
	粘性強し=粘強
	粘性有り=粘有



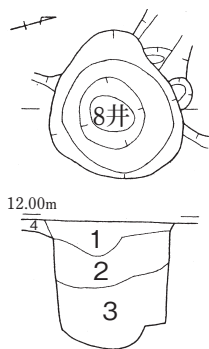
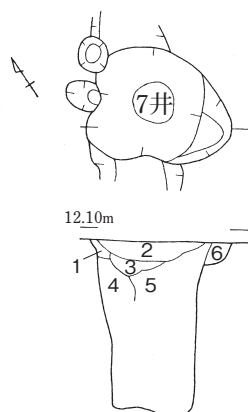
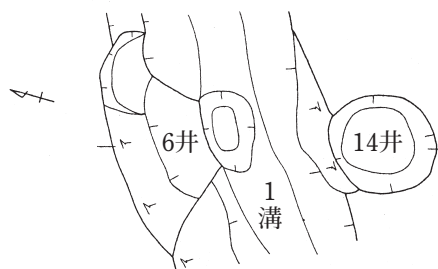
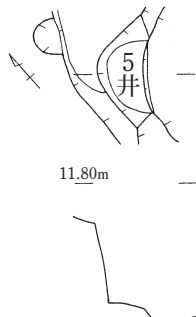
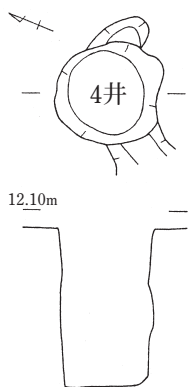
第15図 第48次遺構 1



- 1井セクション
 1 暗灰褐色/LR LB○ 縮良
 2 暗灰褐色/T▲ LR△ LB▲ 縮良
 3 暗灰褐色/T▲ LR▲ LB▲ 縮良
 6 暗褐色/LR○ LB○ 縮やや悪

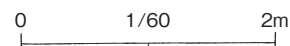
- 2井セクション
 1 暗褐色/T▲ LR△ LB▲ 縮良
 2 暗褐色/LR△ LB▲ 縮やや悪
 3 暗褐色/LR○ LB○ 縮やや悪
 4 暗褐色/LR▲ LB▲ 縮やや悪
 5 暗褐色/LR△ LB▲ 縮やや悪

- 3井セクション
 1 暗灰褐色/T○, LR LB C▲ 縮良
 2 暗灰褐色/LR○ LB△ C▲ 縮良
 3 黄褐色/LR○ 縮悪
 4 暗灰褐色/LR LB C▲ 縮良
 5 暗灰褐色(上層より暗)/LR LB C▲ 縮やや悪
 6 暗灰褐色(1・4層より暗)/LR▲ LB▲ C▲ T▲ 縮良
 7 暗灰褐色(上層と同系色)/LR△ LB▲ 縮良
 8 暗灰褐色/LR△ LB▲ T○ 縮良
 9 暗灰褐色/LR△ LB▲ 縮良
 10 暗灰褐色/LR○ LB▲ 縮良

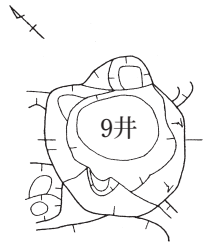


- 7井セクション
 1 暗灰褐色/LR○ LB▲ 縮やや悪
 2 暗灰褐色(灰色味やや強)/LR, LB, C▲ 縮良
 3 暗灰褐色(上層より暗)/LR△ LB▲ 縮良
 4 暗褐色/LR, LB▲ 縮やや悪
 5 暗褐色/LR, LB○ 縮良
 6 暗灰褐色/LR, LB▲ 縮良

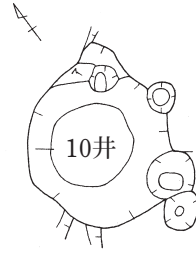
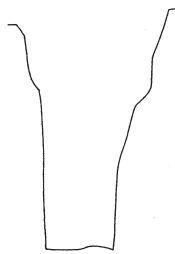
- 8井セクション
 1 暗灰褐色/LR△ LB▲ 縮良
 2 暗灰褐色(1層より灰色味強)/LR, LB▲ 縮良
 3 灰褐色/FE○ LR△ LB, C▲ 縮良
 4 暗灰褐色/LR○ T, LB▲ 縮良



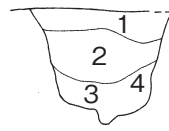
第16図 第48次遺構2



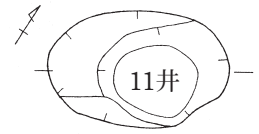
12.10m



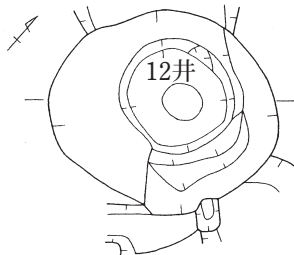
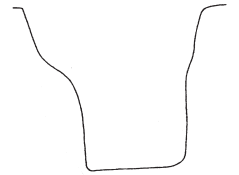
12.10m



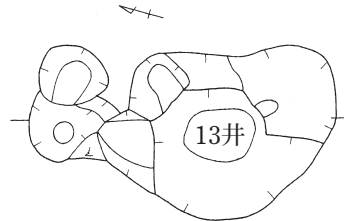
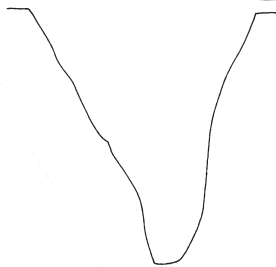
- 10井セクション
 1 暗灰褐色/LR、LB▲ 縮良
 2 灰色/FE、LR、LB▲ 縮やや悪
 3 灰褐色/LR◎ LB、FE▲ 縮やや悪(上層より悪)
 4 灰褐色/FE、LR、LB▲ 縮やや悪



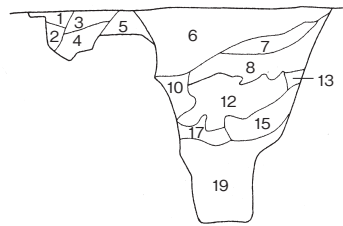
12.10m



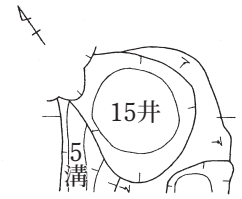
12.10m



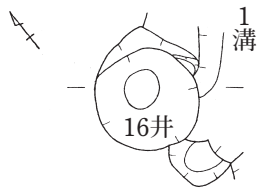
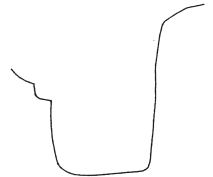
12.10m



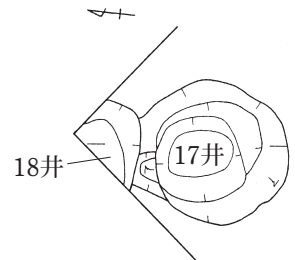
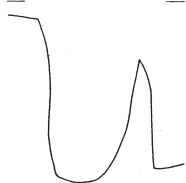
- 13井セクション
 1 暗灰褐色/T◎LR▲ 縮良
 2 暗灰褐色/LR、LB◎ 縮良
 3 暗灰褐色/T▲ LR、LB◎ C▲ 縮良
 4 暗灰褐色/LR、LB◎(上層より多) C▲ 縮良
 5 黄褐色/LR◎ LB▲ 縮良
 6 暗灰褐色/LR、LB、C、赤色R▲ T▲ 縮良
 7 暗灰褐色/灰色粘土、FE、C、LR、LB、T▲ 縮良
 8 暗灰褐色/FE△▲(上層より多) LR、LB、C▲ 縮良
 10 灰褐色/黄灰色土B LR、LB、FE▲ 縮やや悪 粘強
 12 黄灰色/FE◎ LR◎ LB▲ 縮良 粘強
 13 黄灰褐色/LB 縮良 粘強
 15 暗褐色/FE◎ LR、LB▲ 灰色土B 縮やや悪
 17 暗褐色/FE、LR、LB▲ 縮悪
 19 暗褐色(上層より明)/FE、C、LR、LB▲ 縮悪



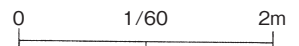
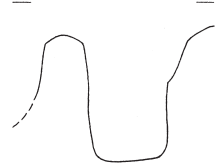
12.00m



12.00m

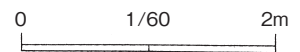
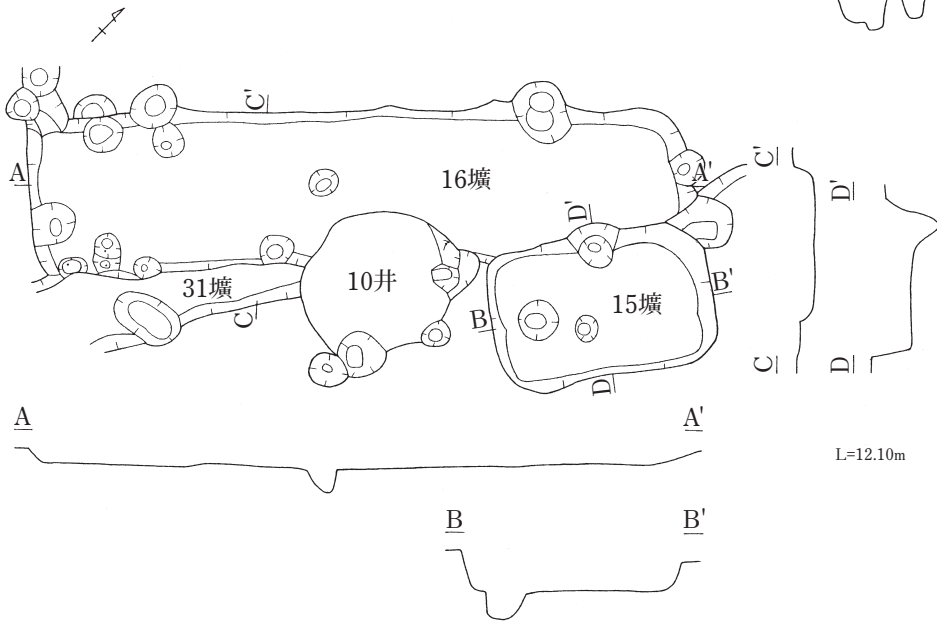
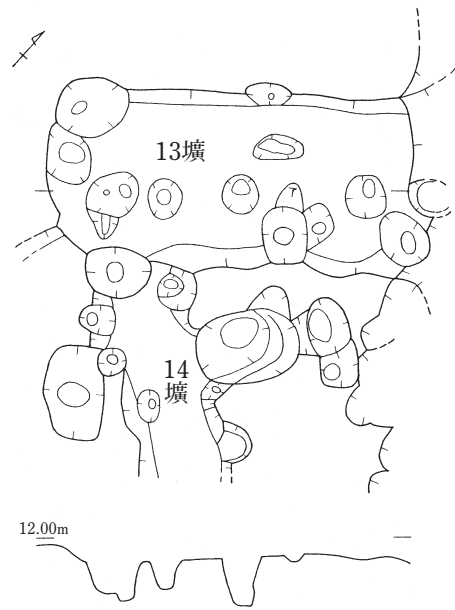
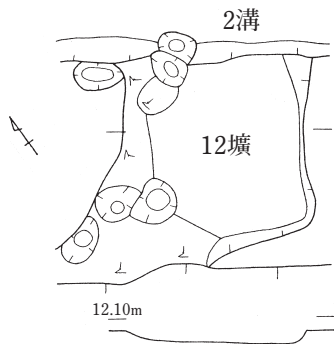
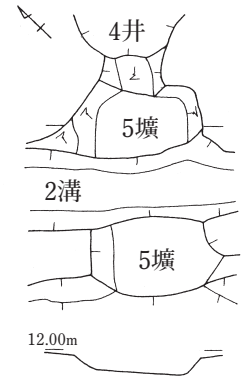
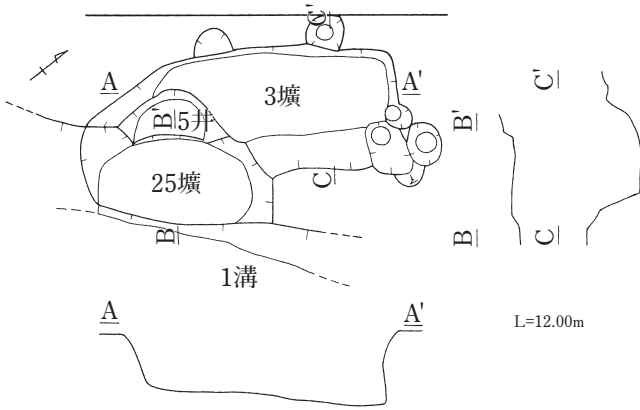


12.00m

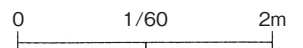
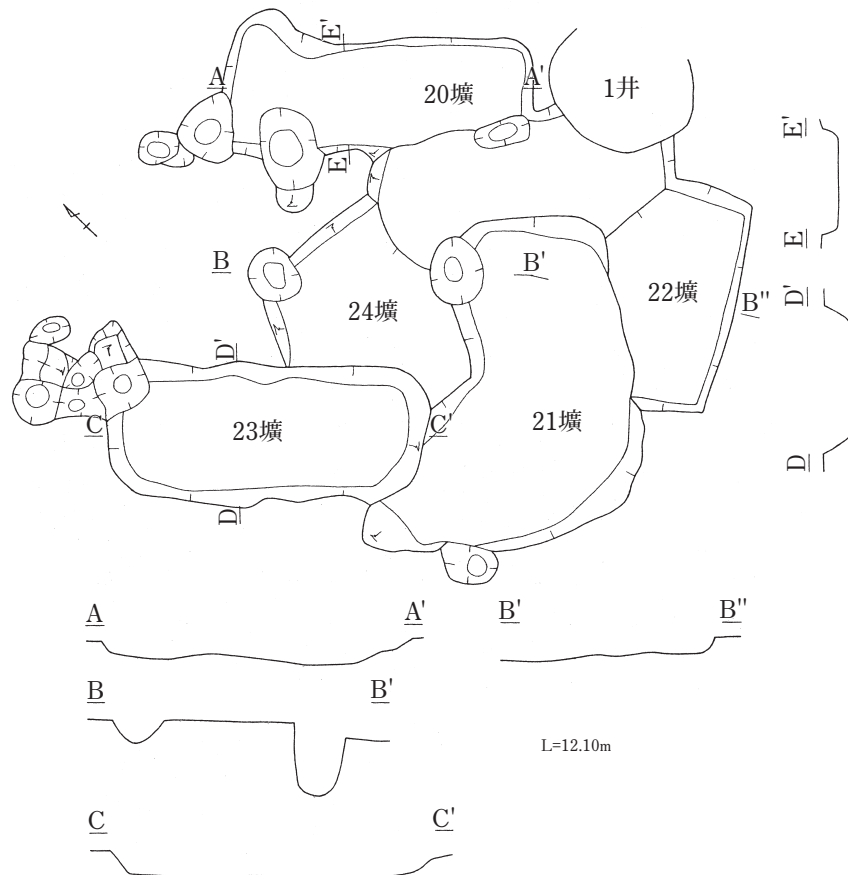
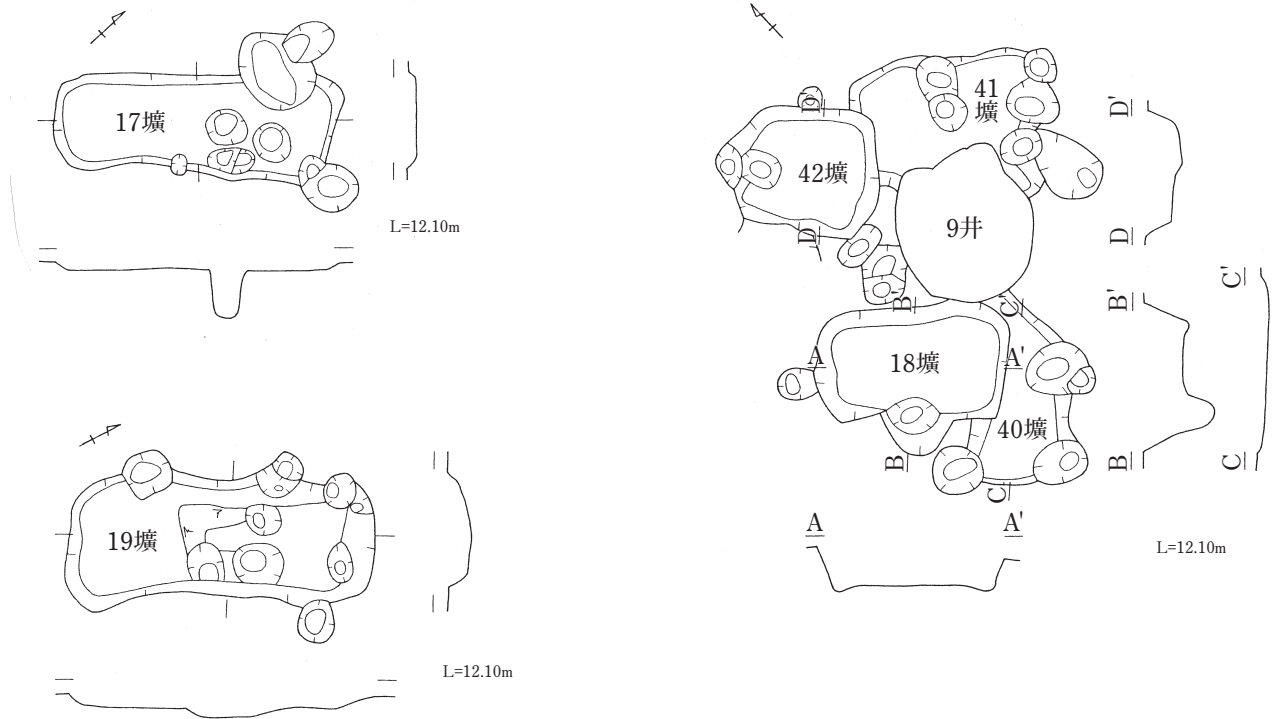


第17図 第48次遺構 3

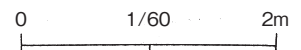
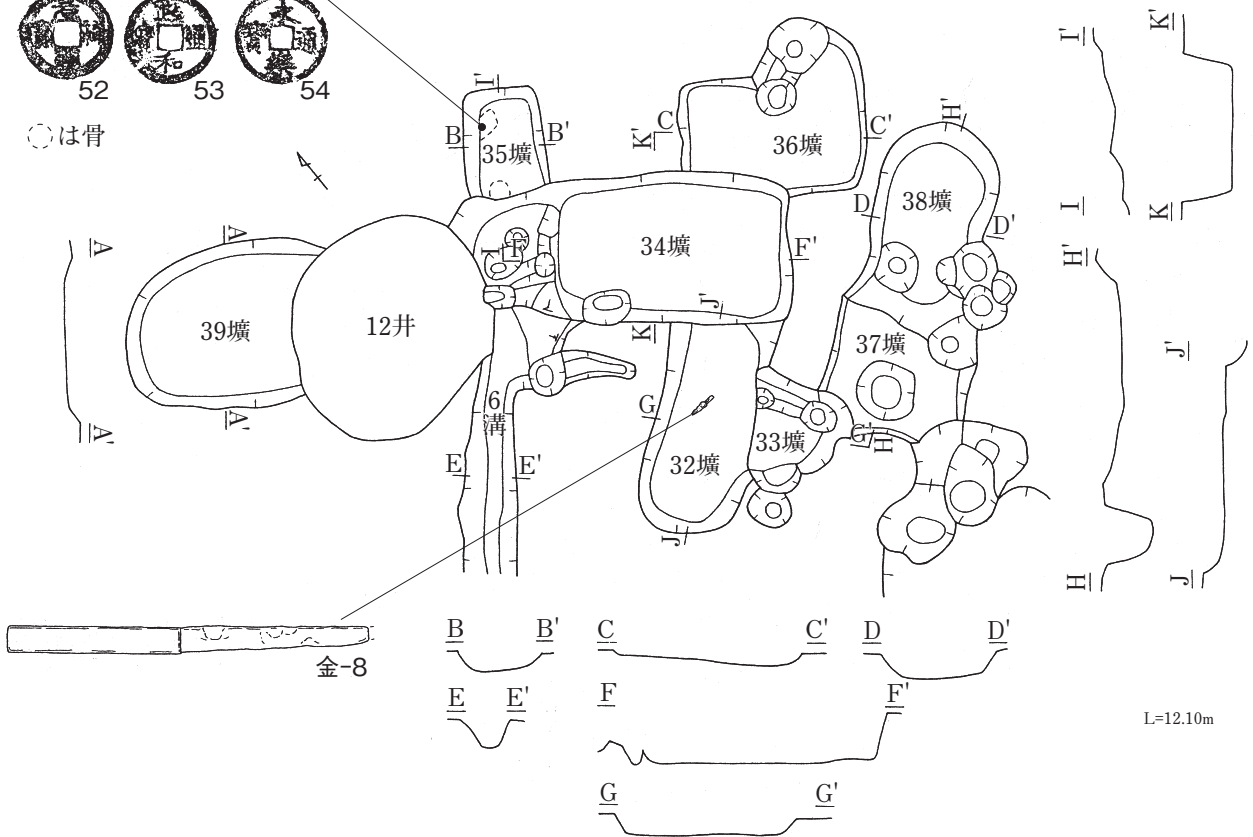
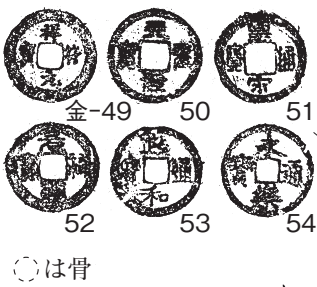
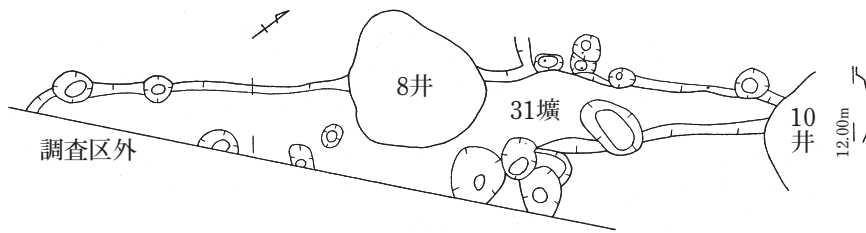
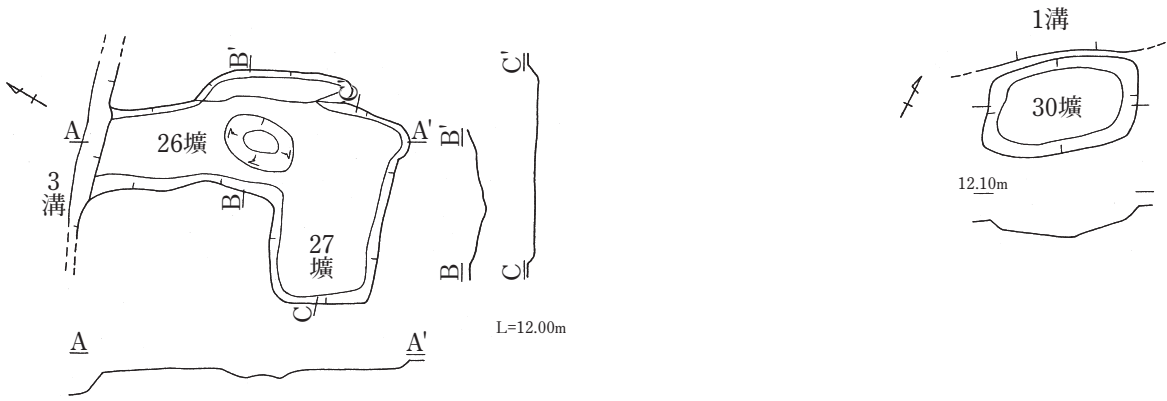
調査区外



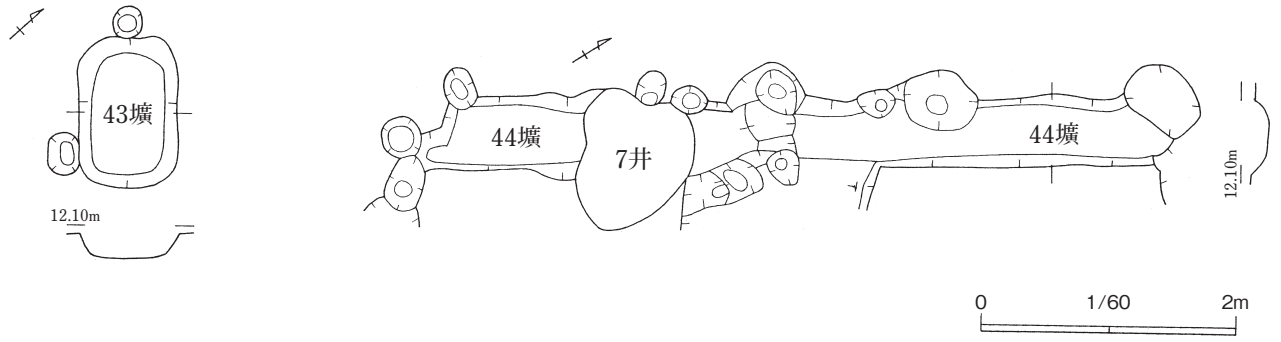
第18図 第48次遺構4



第19図 第48次遺構 5



第20図 第48次遺構6



第21図 第48次遺構 7



48次 1井掘下げ

第IV章 出土した遺物

第1節 土器類

騎西城跡で出土している土器類は大略以下の通りに分類できる。

胎質では磁器・陶器・土器、生産地では国外産である輸入品、国内産に大別できる。また、器種は多様である。

これらの要素により時代等を加味し、掲載順は、輸入品では青磁・白磁・陶器・染付・朝鮮陶磁・その他、国産品では渥美・常滑・瀬戸美濃・肥前系陶器・志戸呂・初山・備前・丹波信楽・ほか・産地不明・肥前系磁器・瀬戸美濃系磁器・在地産土器とする。その他で鞆の羽口や土製品を扱う。

以上、分類・年代等はいずれも暫定的なものでいずれ整理をしたい。さて、今回の調査で報告する土器類は主に以下の通りで細片は省略している。

【輸入陶磁】

〈青磁〉 四耳壺が48次13井(131)で出土した。

○龍泉窯系 碗が42次(46)、48次1溝(72)・4溝(89)・遺構外(146・147)で、皿が42次(47)で、鉢が42次(48)で出土した。

〈白磁〉 小坏が42次(49)で出土した。

〈染付〉 皿が42次15壙(36)・31壙(4)・遺構外(50)で、小坏が48次(87)で出土した。

○漳州窯系 皿が42次(51)で出土した。

【国産】

〈渥美〉 甕が48次1溝(73)で出土した。

〈常滑〉 片口鉢が48次1溝(75)で、甕が48次4b+4c溝(91)・3井(106)・25壙(141)・遺構外(148・149)で、三筋壺が48次4a溝(90)で、片口鉢カ甕と思われるものが48次1溝(74)で出土した。

〈瀬戸美濃〉

○古瀬戸前～中期 卸皿が48次(151)で出土した。

○古瀬戸中期 折縁深皿が42次1溝(1)で出土した。

○古瀬戸後期 平碗が42次4井(12)で、天目茶碗が48次4a溝(92)・12井(126)で、縁釉小皿が42次7井(19)・13壙(34)・48次14壙(139)・遺構外(152)で、腰折皿が48次4井(110)で、尊式花瓶が48次12井(127)で出土した。

◎大窯前半 縁釉小皿が42次(53~56)で、端反皿が48次9井(115)で、丸皿が48次11井(117)で、端反皿カ丸皿が42次31壙(5)で出土した。

◎大窯後半 天目茶碗が42次13壙(33)で、丸皿が42次(57)・48次(155)で、稜皿が42次(58)、ヒダ皿が48次11井(118)で、志野小皿が48次(153)で、播鉢42次(59)・48次11井(119・120)で、徳利が48次11井(121)で出土した。

◎大窯 茶入が42次(62)で、香炉が48次2溝カ(88)

●登窯期 天目茶碗が48次13井(132)・遺構外(150)で、志野丸碗が42次(52)で、志野小皿が48次(154)で出土した。

18cの灯明皿が48次4a溝(93)・遺構外(156・157)で出土した。

〈肥前系陶器〉 碗が48次8井(112)で、皿が48次8井(133・134)で、甕が42次11壙(32)で出土した。

〈志戸呂〉 小坏が48次16壙(140)で、香炉が48次(158)で出土した。

〈備前〉 徳利(159)・建水(160)が、48次で出土した。

〈肥前系磁器〉 筒形碗が42次(63)で、白磁皿が42次(64)で、染付蓋が48次(161)で出土した。

〈在地産土器〉

○かわらけ 42・48次の調査区から出土した。

完形のもの42次1井(8)・15壙(42)・遺構外(66)で出土した。

略完形のもの42次1井(7)・15壙(40)・遺構外(65)で出土した。

黒色物質が付着するもの

42次1井(7)の底部内面に炭化物、42次15壙(40)の内面に黒色付着物、48次4a溝(94・96)の底部内面にススが付着していた。

○熔融物付着土器 42次2 壙 (28) ・13 壙 (35) ・遺構外 (67) には、銅と熔融物が付着していた。42次 (68) は、熔融物が付着していた。

○ほうろく 破片が出土している。内耳が残るものはいずれも底面まで掛かるものではなく体部に収まるものである。42次1 溝 (3) は3/4 以上残存で出土した。

○火鉢 48次11 井 (125) ・17 井 (138) で出土した。

○播鉢 42次5 井 (17) ・8 井 (24) ・12 井 (27) ・31 壙 (6) ・遺構外 (71) ・48次4 a 溝 (102) ・48次4 b+4 c 溝 (103) ・14 井 (135) ・遺構外 (166) で出土した。

○土鍋 48次4 溝 (100) ・14 井 (136) で出土した。

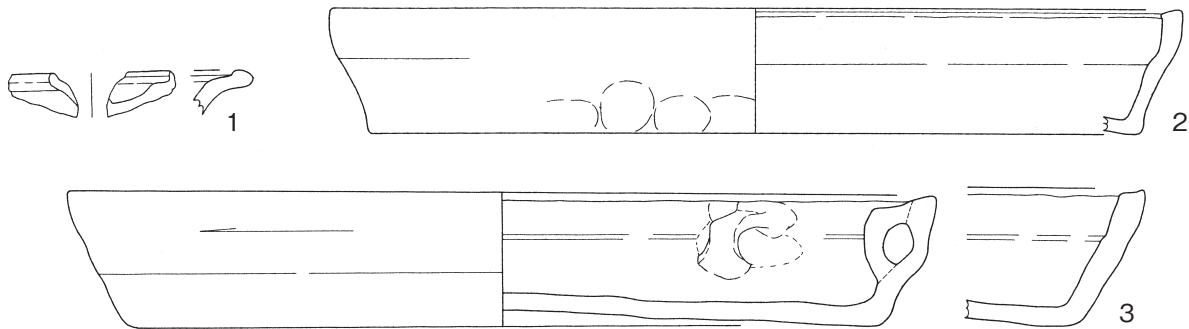
○片口鉢 48次1 溝 (86) ・4 b+4 c 溝 (101) ・遺構外 (167) で出土した。

○土釜 48次4 溝 (104) ・4 b+4 c 溝 (105) で出土した。

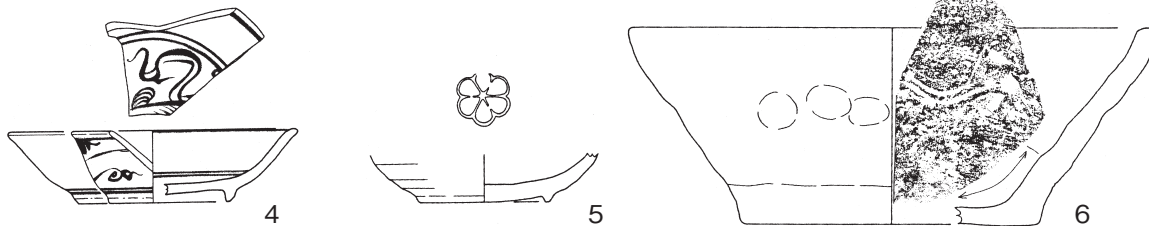


48次 実測風景

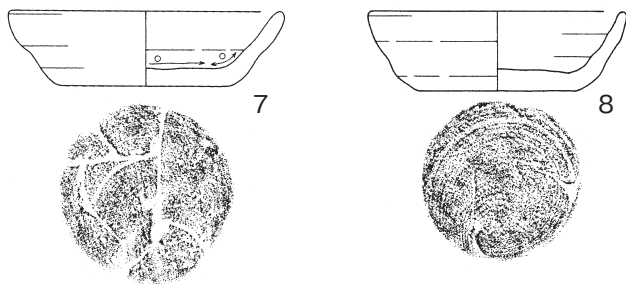
1溝



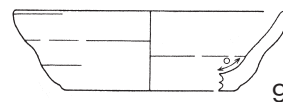
31壙



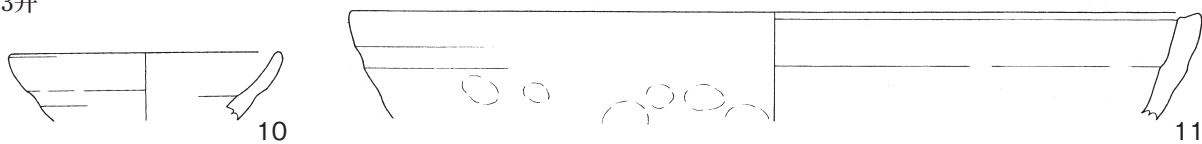
1井



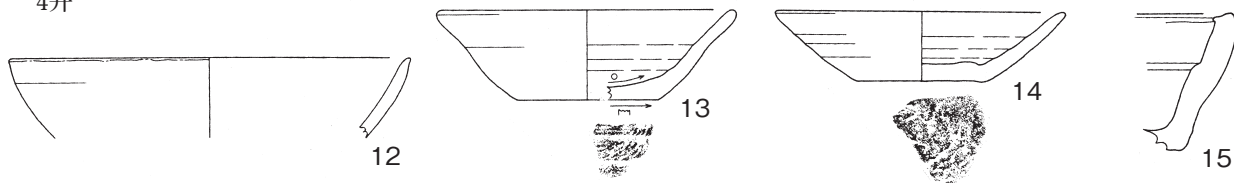
2井



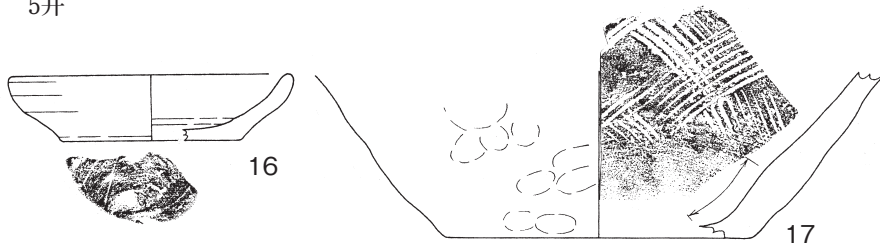
3井



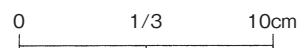
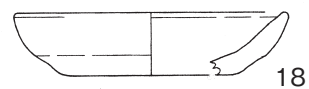
4井



5井

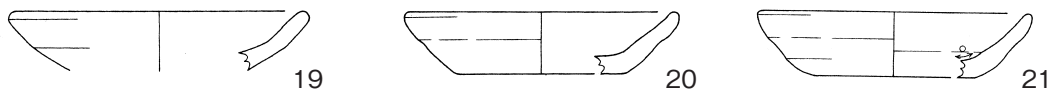


6井

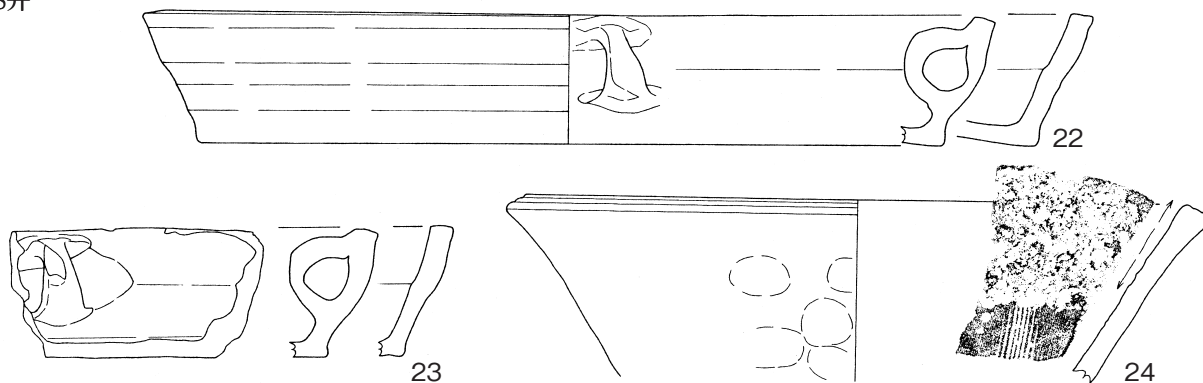


第22図 土器類1 (第42次1)

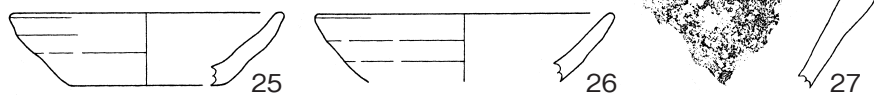
7井



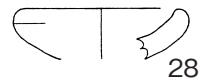
8井



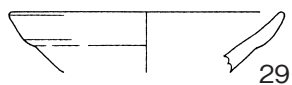
12井



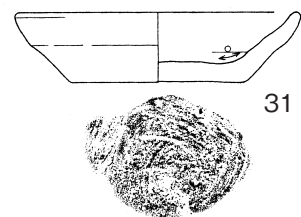
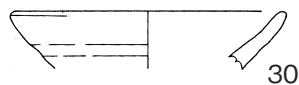
2墳



6墳



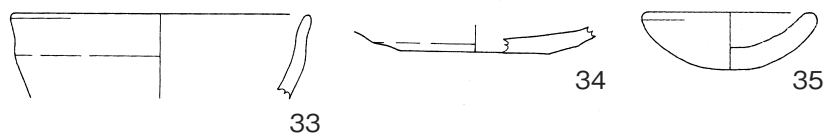
10墳



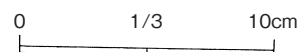
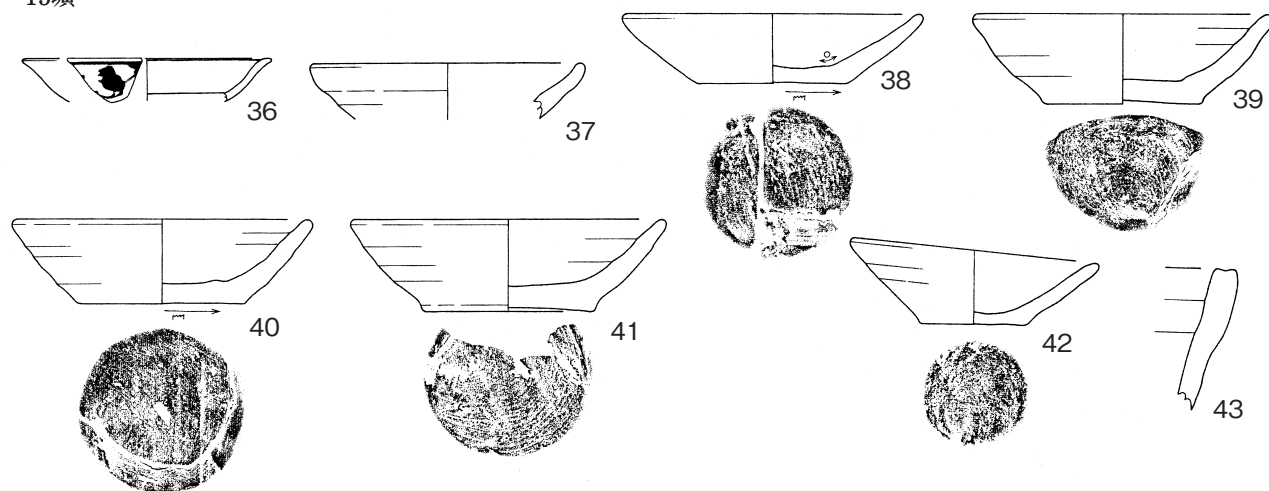
11墳



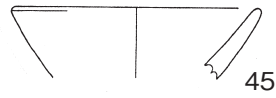
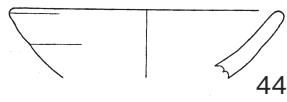
13墳



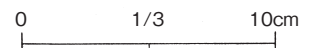
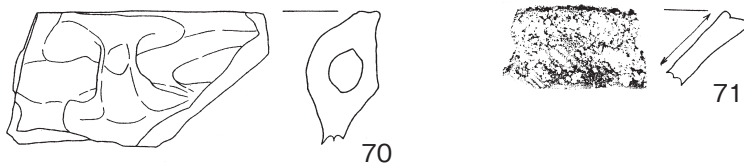
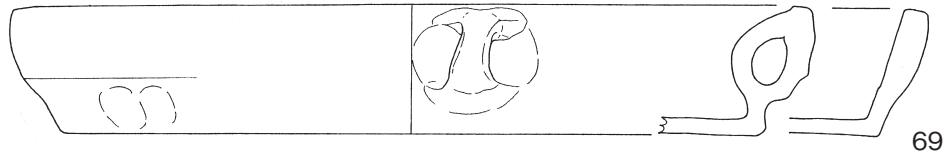
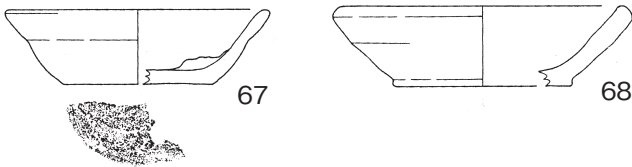
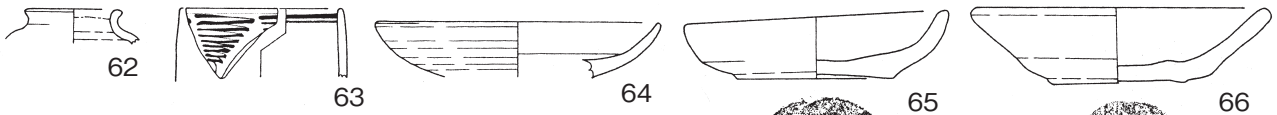
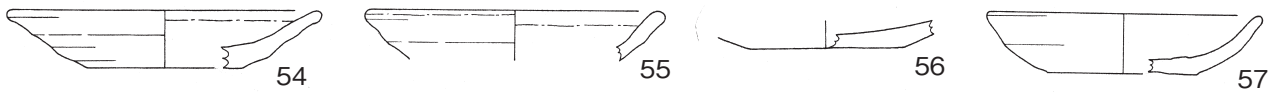
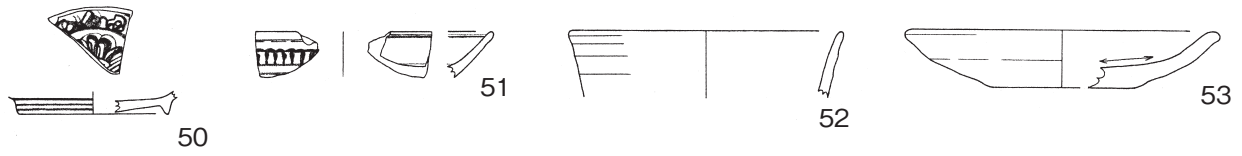
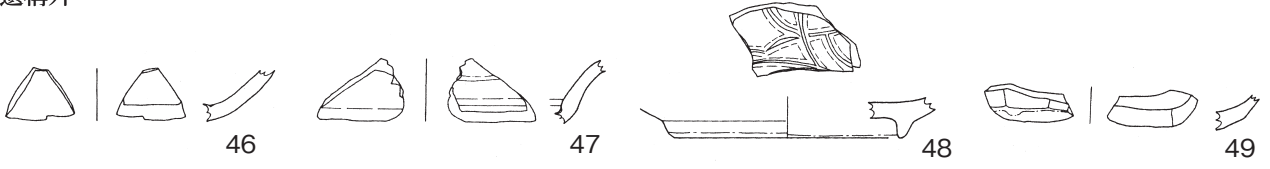
15墳



第23図 土器類2 (第42次2)

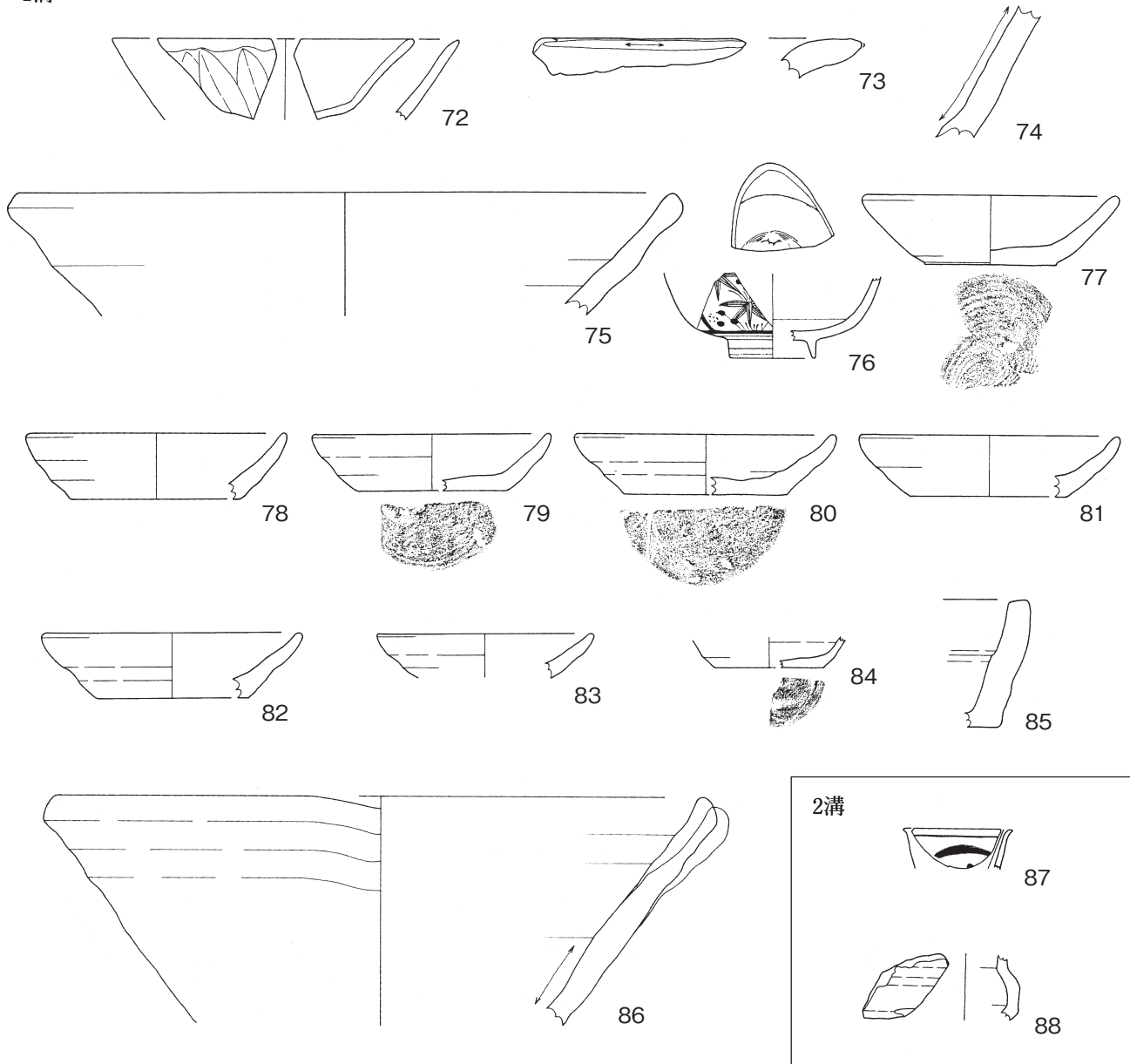


遺構外

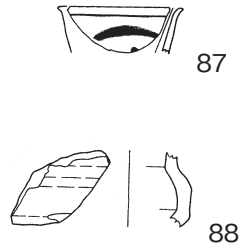


第24図 土器類3 (第42次3)

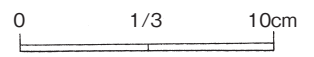
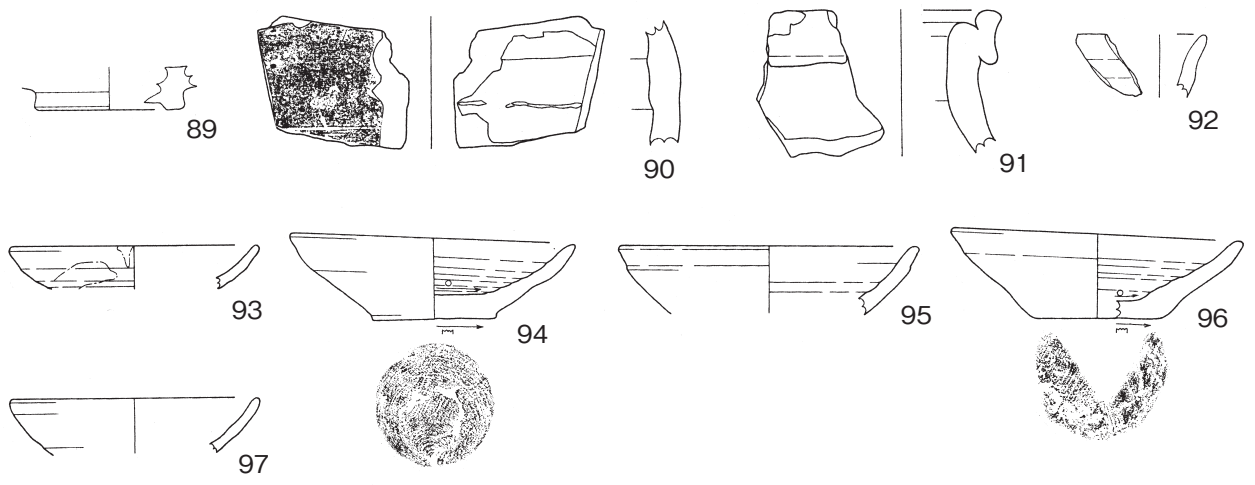
1溝



2溝

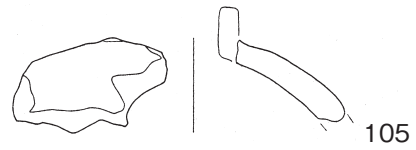
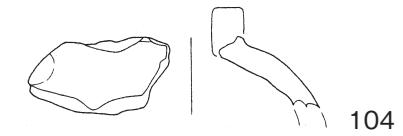
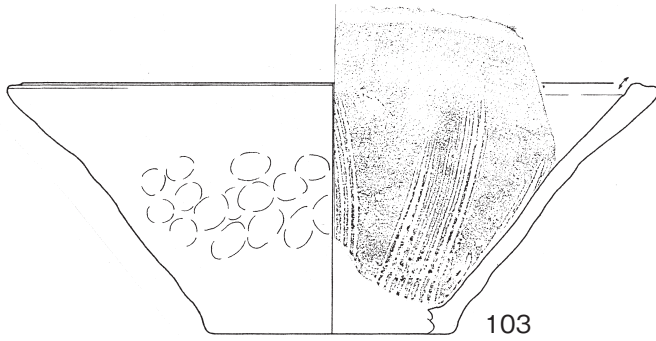
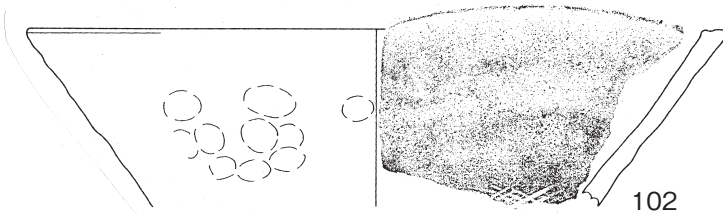
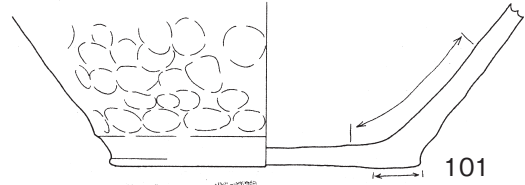
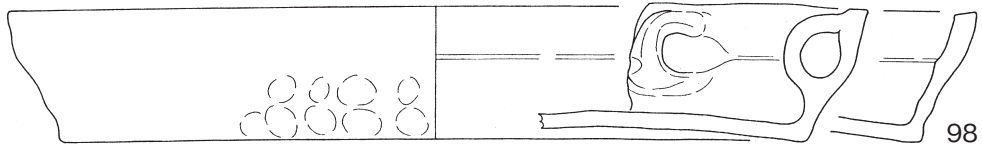


4溝(1)

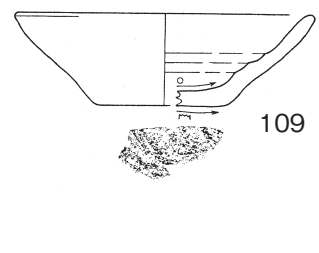
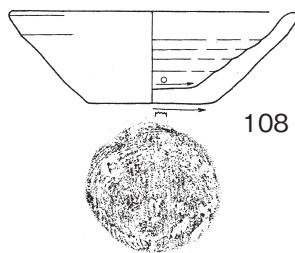
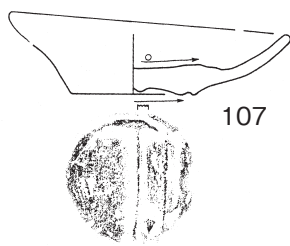
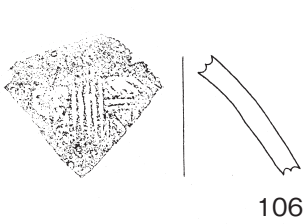


第25図 土器類4 (第48次1)

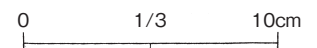
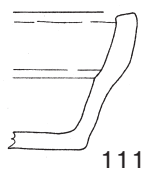
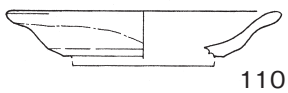
4溝(2)



3井

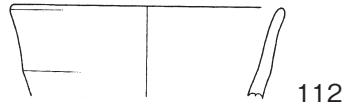


4井

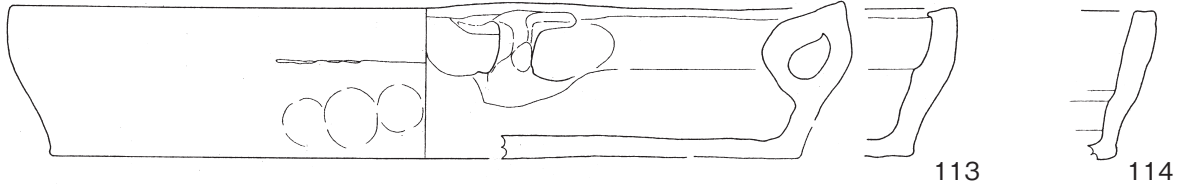


第26図 土器類5 (第48次2)

8井



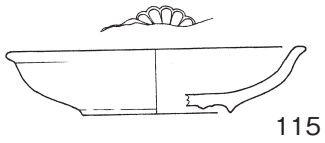
112



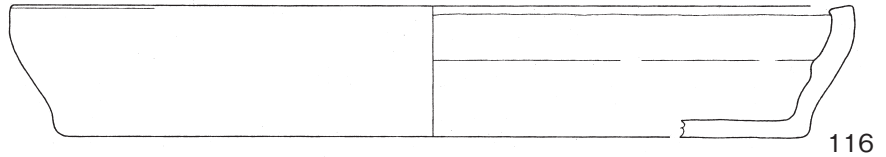
113

114

9井

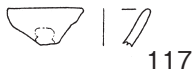


115



116

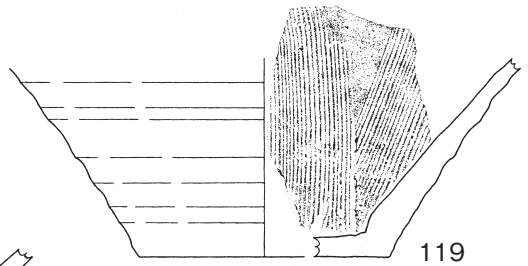
11井



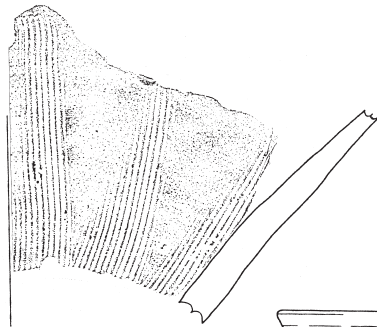
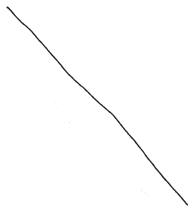
117



118



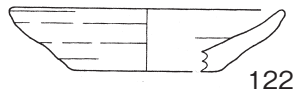
119



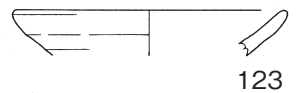
120



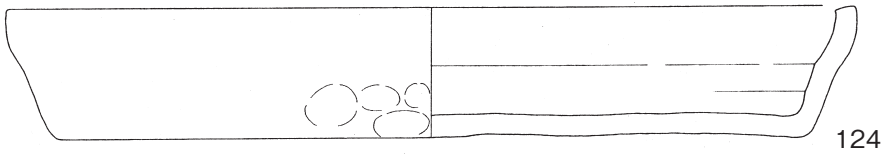
121



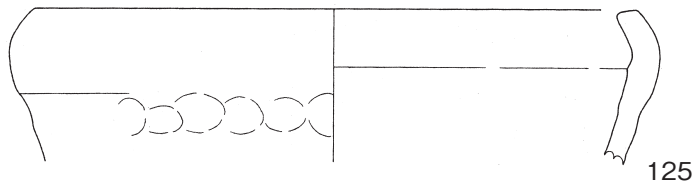
122



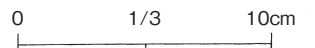
123



124

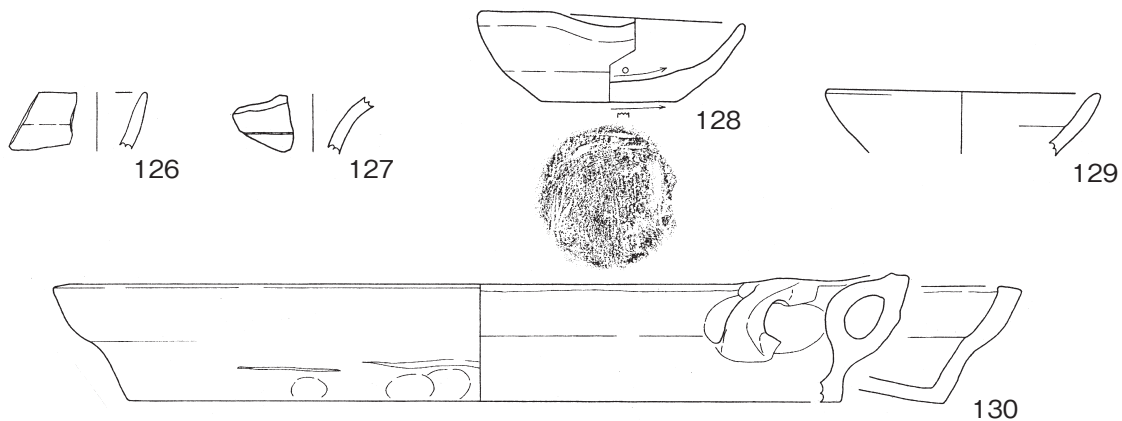


125

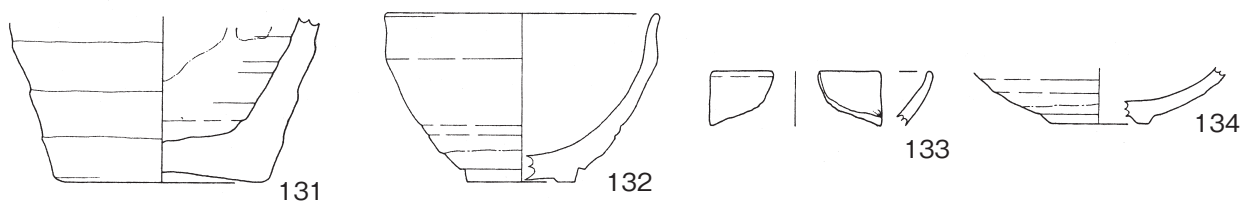


第27図 土器類6 (第48次3)

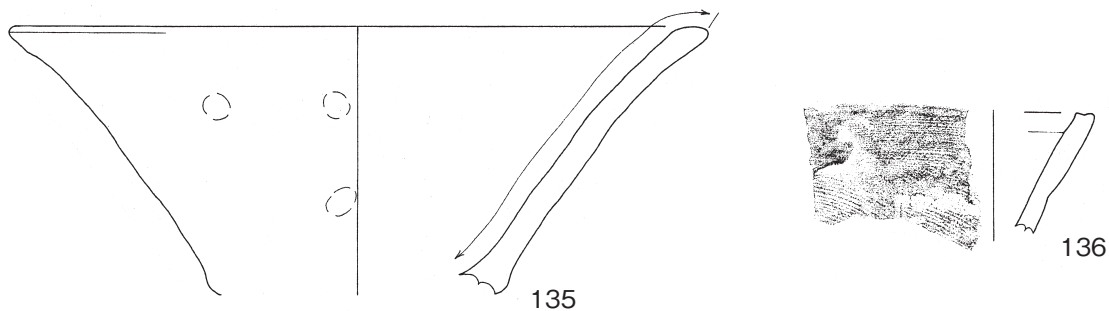
12井



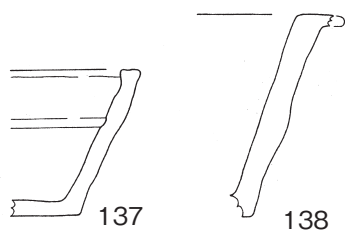
13井



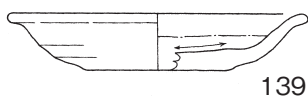
14井



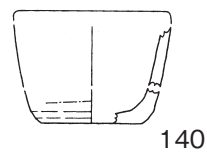
17井



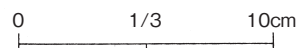
14墳



16墳

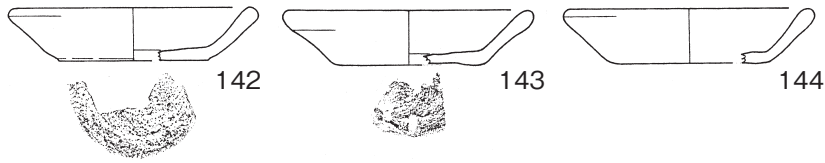


25墳

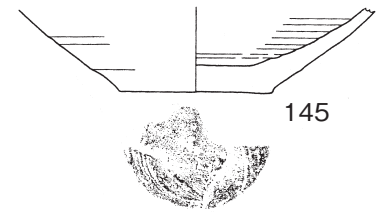


第28図 土器類7 (第48次4)

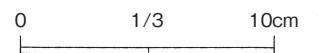
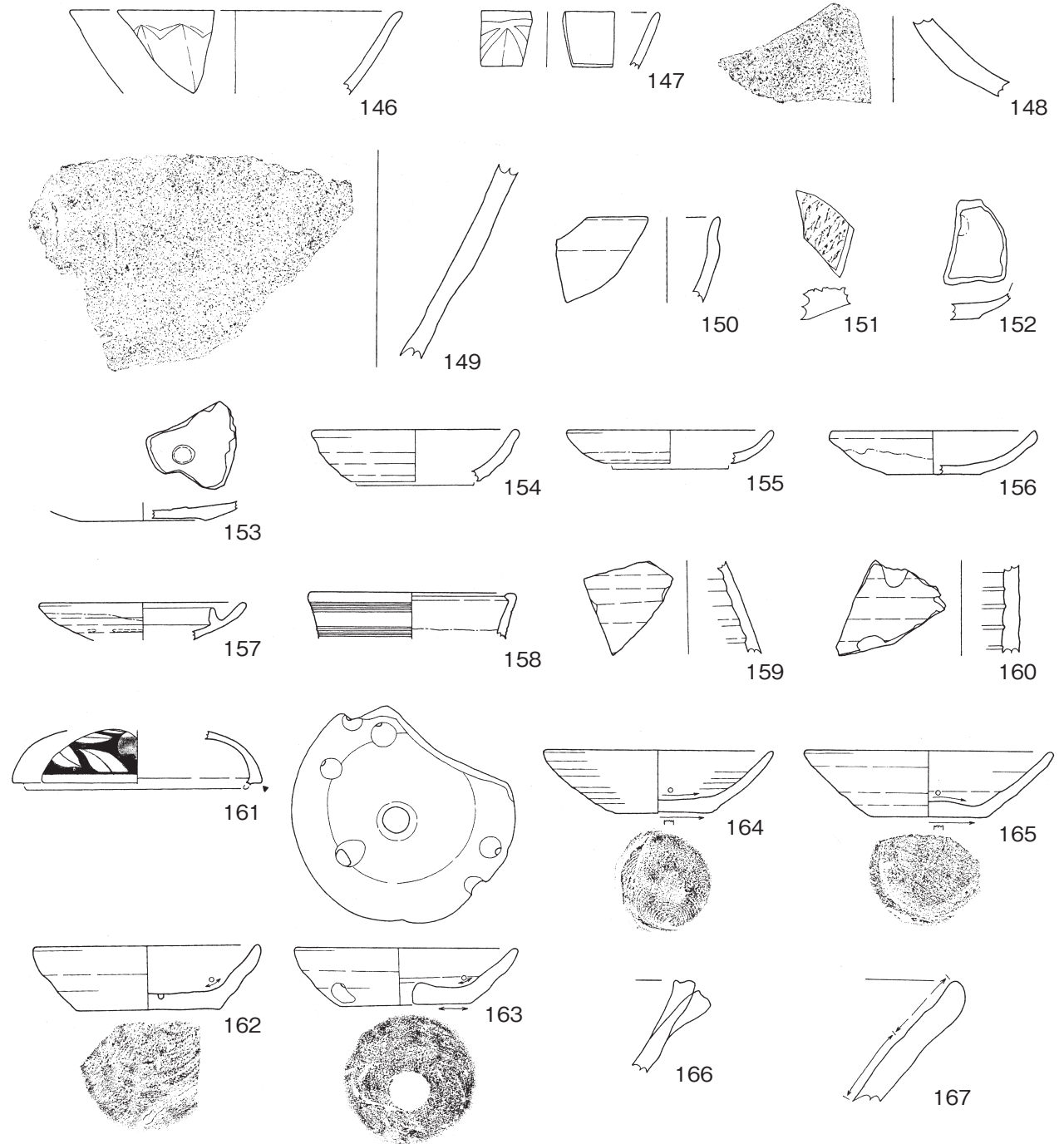
31墳



45墳



遺構外



第29図 土器類8 (第48次5)

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点(遺構名/)	口径	底径	器高	形式	年代	遺物 ID	備考	残存率
1	陶器・皿/折縁深皿	瀬戸美濃	第42次	1溝No46	—	—	—	古中皿	14c 中	皿01	内外灰釉	1/2以下
2	土器・ほうろく	在地	第42次	1溝/No24	*34.0	*31.0	5.0			H01		1/2以下
3	土器・ほうろく	在地	第42次	1溝/(No76~90・95) 確認面上位層、一括	35.0	30.2	5.6			町 H41	旧1溝の上	3/4以上
4	磁器・皿/染付皿	中国	第42次	31壙No39	*11.6	*6.0	2.9		15c 後	染01	玉取獅子・唐草文/高台周辺露胎/旧1溝2	1/2以下
5	陶器・皿/端反又は丸皿	瀬戸美濃	第42次	31壙/No106 確認面上位層	—	5.2	—	大1・2	15c 末~16c 前・16c 中	皿02	内外灰釉/印花文/被熱/旧1溝の上	1/2以下
6	土器・播鉢	在地	第42次	31壙/No104	*21.0	*12.0	7.9			鉢02	横方向の櫛目が波状/内面磨痕/旧1溝の上	1/2以下
7	土器・かわらけ	在地	第42次	1井(No4、一括)	12.0	7.0	3.0	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K01	内面体底部境ナデ/底部内面指頭ナデ・黒色炭化物付着	略完形
8	土器・かわらけ	在地	第42次	1井No4	10.4	6.5	3.2	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K20		完形
9	土器・かわらけ	在地	第42次	2井	*11.0	*7.0	3.2	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K02	内面体底部境ナデ	1/2以下
10	土器・かわらけ	在地	第42次	3井No7	*11.0	—	—	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K03		1/2以下
11	土器・ほうろく	在地	第42次	3井(No20、一括)	*34.0	—	—			H02	外面スス付着	1/2以下
12	陶器・碗/平碗	瀬戸美濃	第42次	4井	*16.0	—	—	古後Ⅱ	14c 末~15c 初	碗01	内外灰釉・口唇部鉄釉	1/2以下
13	土器・かわらけ	在地	第42次	4井No1	*12.0	*5.6	3.6			K04	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
14	土器・かわらけ	在地	第42次	4井	*11.6	*5.2	2.8	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K05		1/2以下
15	土器・ほうろく	在地	第42次	4井	—	—	5.5			H03	外面スス付着	1/2以下
16	土器・かわらけ	在地	第42次	5井No1	*11.4	*7.4	2.6	騎西城Ⅰ期	15c 中~16c 前	K06		1/2以下
17	土器・播鉢	在地	第42次	5井No3	—	*12.0	—			鉢03	櫛目8本交差/内面磨痕	1/2以下
18	土器・かわらけ	在地	第42次	6井	*11.0	*7.0	2.5	騎西城Ⅰ期	15c 中~16c 前	K07		1/2以下
19	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	7井No9	*12.0	—	—	古後Ⅳ(新)	15c 後	皿03	内外無釉	1/2以下
20	土器・かわらけ	在地	第42次	7井No6	*11.0	*6.8	2.5	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K08		1/2以下
21	土器・かわらけ	在地	第42次	7井	*11.0	*6.6	2.6	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K09	内面体底部境ナデ	1/2以下
22	土器・ほうろく	在地	第42次	8井(No3・5・11・12)	*34.0	*30.0	5.3			H04	外面スス付着	1/2以下
23	土器・ほうろく	在地	第42次	8井	—	—	5.2			H05	外面スス付着	1/2以下
24	土器・播鉢	在地	第42次	8井No8	*28.0	—	—			鉢04	櫛目11本/内面剥落	1/2以下
25	土器・かわらけ	在地	第42次	12井No3	*11.0	*6.0	2.9	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K11		1/2以下
26	土器・かわらけ	在地	第42次	12井No5	*12.0	—	—	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K12	K10に類似	1/2以下
27	土器・播鉢	在地	第42次	12井No14	—	—	—			鉢05	内面磨痕/外面スス付着	1/2以下
28	土器・熔融物付着	在地	第42次	2壙/No235	*7.0	—	—			鉢02	銅・熔融物付着	1/2以下
29	土器・かわらけ	在地	第42次	6壙No2	*11.0	—	—			K13		1/2以下
30	土器・かわらけ	在地	第42次	10壙/No143	*11.0	—	—	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K14		1/2以下
31	土器・かわらけ	在地	第42次	10壙/No144	11.4	7.0	2.8	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K15	内面体底部境ナデ	1/2以下
32	陶器・甕	肥前(唐津)	第42次	11壙/No139	—	—	—		16c 末~17c 初	袋01	内外鉄釉・口縁部上方無釉/体部内面同心円状の叩き目・体部外面平行叩き目	1/2以下
33	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第42次	13壙/No257	*12.0	—	—	大4後	17c 初	天01	内外鉄釉	1/2以下
34	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	13壙/No129	—	*6.0	—	古後Ⅲ・Ⅳ	15c 前・中	皿05	一部灰釉/底部外面回転糸切痕	1/2以下
35	土器・熔融物付着	在地	第42次	13壙/No105 確認面上位層	*7.0	—	2.3			鉢01	熔融物・銅付着/旧1溝の上	1/2以下
36	磁器・皿/染付皿	中国	第42次	15壙/No187	*10.0	—	—		15c 後	染02	唐草文・圏線	1/2以下
37	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/No181	*11.0	—	—	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K16		1/2以下
38	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/(No182・183・184)、10壙/No144、No74、一括	*12.0	6.0	2.8	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K17	内面体底部境ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
39	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/(No207・220)	*12.0	6.4	3.6	騎西城Ⅰ期	15c 中~16c 前	K18		1/2以上
40	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/(No216・218・219)	12.0	6.6	3.4	騎西城Ⅰ期	15c 中~16c 前	K19	内面黒色付着物/底部外面板ナデ	略完形
41	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/No217、12井No2、32壙	12.6	7.0	3.7	騎西城Ⅰ期	15c 中~16c 前	K10	旧 C 壙	3/4以上
42	土器・かわらけ	在地	第42次	15壙/No271	10.0	4.2	2.5 ~ 3.4	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K24		完形
43	土器・ほうろく	在地	第42次	15壙/No268	—	—	—			H06		1/2以下
44	土器・かわらけ	在地	第42次	32壙/No116	*11.0	—	—	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K21	旧 C 壙	1/2以下
45	土器・かわらけ	在地	第42次	32壙/No116	*10.0	—	—	騎西城Ⅰ期カ	15c 中~16c 前カ	K22	旧 C 壙	1/2以下
46	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系中国	第42次	P No92	—	—	—	A 類	12c 中~13c 末	青01	内外灰色帯びた淡緑色の釉	1/2以下
47	磁器・皿/青磁稜花皿	龍泉窯系中国	第42次	No11	—	—	—		15c 前~中	青02	内外暗緑色の釉/内面彫文様	1/2以下
48	磁器・鉢/青磁鉢	龍泉窯系中国	第42次	一括	—	*9.0	—		13c~15c	青03	内外暗緑色の釉・高台端部無釉/底部内面花文カ片切彫	1/2以下
49	磁器・小杯/白磁八角小杯	中国	第42次	一括	—	—	—		15c	白01	高台周辺露胎	1/2以下
50	磁器・皿/染付皿	中国	第42次	一括	—	*6.0	—	B-1群	15c 後	染03	花文/高台端部露胎	1/2以下

第5表 土器類一覽表1

*は不確定な推定復元値、量法の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点(遺構名/)	口径	底径	器高	形式	年代	遺物 ID	備考	残存率
51	磁器・皿/染付皿	漳州窯系 中国	第42次	一括	—	—	—		16c 末~17c	染04	文様・圏線	1/2以下
52	陶器・碗/志野丸碗	瀬戸美濃	第42次	一括	*11.0	—	—	登1	17c 初	碗02	内外淡灰白色の釉	1/2以下
53	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	No37、一括	*12.6	*6.0	2.3	大1	15c 末~16c 前	皿07	内外無釉/底部内面磨痕/ 底部外面回転糸切痕	1/2以下
54	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	P No256	*12.6	*6.0	2.3	大1	15c 末~16c 前	皿06	口縁部内面白色の灰釉	1/2以下
55	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	一括	*12.0	—	—	大1	15c 末~16c 前	皿08	口縁部内面灰釉	1/2以下
56	陶器・皿/縁釉小皿	瀬戸美濃	第42次	一括	—	*6.0	—	大1	15c 末~16c 前	皿04	内外無釉/底部外面回転 糸切痕/旧10井の上	1/2以下
57	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第42次	No94	*11.0	*6.0	2.4	大3	16c 後	皿09	内外鉄釉/底部内面団子ト チ痕・底部外面輪トチ痕/ 底部外面回転糸切痕	1/2以下
58	陶器・皿/稜皿	瀬戸美濃	第42次	P No168	*11.0	*6.6	2.2	大3	16c 後	皿10	内外鉄釉	1/2以下
59	陶器・搦鉢	瀬戸美濃	第42次	一括	—	—	—	大4前	16c 末	鉢01	内外鉄釉	1/2以下
60	陶器・香炉	瀬戸美濃	第42次	一括	—	*6.4	—	—	18c~19c	香01	体部外面薄い灰釉/三足	1/2以下
61	陶器・蓋	瀬戸美濃	第42次	一括	*12.0	*6.0	—	—	18c	他01	口縁部内面薄い灰釉	1/2以下
62	陶器・茶入	瀬戸美濃	第42次	一括	*3.9	—	—	大		他02	口縁部内面・外面鉄釉	1/2以下
63	磁器・碗/筒形碗	肥前	第42次	一括	*6.6	—	—	—	18c 末~19c	伊01	逆三角風の文様・圏線	1/2以下
64	磁器・皿/白磁皿	肥前	第42次	一括	*11.4	—	—	—	17c 前	伊02		1/2以下
65	土器・かわらけ	在地	第42次	P No156	10.6	6.2	2.2 ~ 2.7	騎西城 II 期	16c 中~末	K23	銭貨(金38)伴出	略完形
66	土器・かわらけ	在地	第42次	一括	12.0	5.5	2.9 ~ 3.4			K25	底部内面指頭ナデ	完形
67	土器・熔融物付着	在地	第42次	No20	*10.6	*6.0	3.0	—		鉢03	熔融物・銅付着	1/2以下
68	土器・熔融物付着	在地	第42次	一括	*12.0	*7.0	3.2	—		鉢04	熔融物付着	1/2以下
69	土器・ぼうろく	在地	第42次	No13	*32.0	*28.0	5.2	—		H07		1/2以下
70	土器・ぼうろく	在地	第42次	No30	—	—	—	—		H08		1/2以下
71	土器・搦鉢	在地	第42次	No46	—	—	—	—		鉢06	内面磨痕	1/2以下
72	磁器・碗/青磁鎊蓮弁 文碗	龍泉窯系 中国	第48次	1溝下層	*16.0	—	—	I-5類	13c~14c	青04	青緑色の釉	1/2以下
73	焼締陶器・甕	渥美	第48次	1溝 No43上層	—	—	—	3形式		町袋60		1/2以下
74	焼締陶器・片口鉢又は甕	常滑	第48次	1溝 (No32~34) 上層	—	—	—	—	~16c	鉢04	内面磨痕	1/2以下
75	焼締陶器・片口鉢	常滑	第48次	1溝 No42上層	*31.0	—	—	6a・I 類	1250~1275	町鉢191		1/2以下
76	磁器・碗/染付碗	肥前	第48次	1溝 No49	—	*4.0	—	—	19c 中	伊01	草花文/調査中に確認で きなかつたピット等の遺構 のものと考えられる。	1/2以下
77	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 (No4・6・14) 上層	*11.8	6.0	3.2	—		K01	底部内面一部黒色	1/2以下
78	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No16下層	*12.0	*8.0	3.0	騎西城 II 期	16c 中~末	K02		1/2以下
79	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No18上層、No33	*11.0	*7.0	2.6	騎西城 II 期	16c 中~末	K03		1/2以下
80	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No22下層	*12.0	*7.6	2.8	騎西城 II 期	16c 中~末	K04		1/2以下
81	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No23下層	*12.0	*7.0	2.8	騎西城 II 期	16c 中~末	K05		1/2以下
82	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No30上層	*12.0	*7.0	3.0	騎西城 II 期	16c 中~末	K06		1/2以下
83	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝 No31上層	*10.0	—	—	騎西城 II 期	16c 中~末	K07		1/2以下
84	土器・かわらけ	在地	第48次	1溝南区	—	*5.0	—	—		K08	内面体底部境ナデ/胎土 金雲母含カ	1/2以下
85	土器・ぼうろく	在地	第48次	1溝(上・下層)	—	—	5.9	—		H01		1/2以下
86	土器・片口鉢	在地	第48次	1溝下層	*30.8	—	—	—	13C 中	町鉢284	内面磨痕	1/2以下
87	磁器・小坏/染付小坏	中国	第48次	2溝 No14、一括	*5.0	—	—	—	16c 末~17c	染01	文様・圏線	1/2以下
88	陶器・香炉	瀬戸美濃	第48次	2溝カ No12	—	—	—	大		香01	内外鉛釉/胴部上方沈線	1/2以下
89	磁器・碗/青磁碗	龍泉窯系 中国	第48次	4溝 No94	—	*6.0	—	I-5類	13c~14c	青03	淡緑色の釉	1/2以下
90	焼締陶器・三筋壺	常滑	第48次	4a 溝	—	—	—	—	12c	袋05	沈線	1/2以下
91	焼締陶器・甕	常滑	第48次	4b+4c 溝	—	—	—	6a 形式	1250~1275	袋06		1/2以下
92	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第48次	4a 溝 No45	—	—	—	古後IV(新)	15c 後	天01	内外鉄釉	1/2以下
93	陶器・皿/灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	第48次	4a 溝	*10.0	—	—	—	18c	皿09	内外鉄釉・一部外面釉拭い取り	1/2以下
94	土器・かわらけ	在地	第48次	4a 溝 No72	11.4	5.0	2.9 ~ 3.6	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K09	底部内面指頭ナデ/底部外 面板ナデ/体部内面ス付着	3/4以上
95	土器・かわらけ	在地	第48次	4a 溝 (No73・一括)	*12.0	—	—	—		K10		1/2以下
96	土器・かわらけ	在地	第48次	4a 溝 (No74・77) 最下層、 4溝No92	11.6	5.4	3.1 ~ 3.6	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K11	底部内面指頭ナデ/底部外 面板ナデ/体部内面ス付着	3/4以上
97	土器・かわらけ	在地	第48次	4a 溝	*10.0	—	—	—		K15	器厚薄く焼成良好	1/2以下

第6表 土器類一覧表2

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点(遺構名/)	口径	底径	器高	形式	年代	遺物 ID	備考	残存率
98	土器・ほうろく	在地	第48次	4溝 (No41・42・88~90)、4a 溝 (No30・31・60・68・82・■6・一括)、4b+4c 溝 (No38・63・69・84)、一括	34.2	30	5.3			H02	外面スス付着/内耳左下押圧	1/2以上
99	土器・ほうろく	在地	第48次	4a 溝 No70	—	—	5.4			H03	外面スス付着/底部外面板ナデ?痕	1/2以下
100	土器・土鍋	在地	第48次	4溝 No91	—	—	—			D01	胎土小石含	1/2以下
101	土器・片口鉢	在地	第48次	4b+4c 溝 No33	—	*12.4	—			鉢05	底部外面木口状工具で整形/内面・外面底部磨痕/胎土小石含	1/2以下
102	土器・搗鉢	在地	第48次	4a 溝 No36	*28.0	—	—			鉢07	櫛目は交差/内面スス付着	1/2以下
103	土器・搗鉢	在地	第48次	4b+4c 溝 No55	*26.0	*10.0	10.0			鉢08	櫛目10本/口縁内面磨痕/外面スス付着	1/2以下
104	土器・土釜	在地	第48次	4溝 No101	—	—	—			素他01		1/2以下
105	土器・土釜	在地	第48次	4b+4c 溝	—	—	—			素他02	胎土小石含	1/2以下
106	焼締陶器・甕	常滑	第48次	3井 No7	—	—	—		~16c	袋07	外面自然釉	1/2以下
107	土器・かわらけ	在地	第48次	3井 No1、4b+4c 溝 No79	—	*5.0	2.4	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K12	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以上
108	土器・かわらけ	在地	第48次	3井 No5、4b+4c 溝 No80	11.5	5.0	3.7	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K13	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	3/4以上
109	土器・かわらけ	在地	第48次	3井 No6、4a 溝	*12.0	*5.2	3.7	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K14	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ	1/2以下
110	陶器・皿/腰折皿	瀬戸美濃	第48次	4井 No1	*11.0	—	—	古後IV(新)	15c 後	皿04	内面・口縁外面灰釉	1/2以下
111	土器・ほうろく	在地	第48次	4井、12井	—	—	5.5			H06	外面スス付着	1/2以下
112	陶器・碗/碗	肥前(唐津)	第48次	8井No11	*11.0	—	—		17c 前	碗01	内外灰釉	1/2以下
113	土器・ほうろく	在地	第48次	8井 (No4・18)、9井 No11	*33.4	*30.0	6.0			H04	外面スス付着	1/2以下
114	土器・ほうろく	在地	第48次	8井最下層	—	—	6.0			H05	外面スス付着	1/2以下
115	陶器・皿/端反皿	瀬戸美濃	第48次	9井 No9	*12.0	*6.0	2.6	大1	15c 末~16c 前	皿05	内外灰釉/菊花印花文/高台内輪トチン	1/2以下
116	土器・ほうろく	在地	第48次	9井 (No1・2)	*33.6	*30.0	5.3			H10	口縁部外面スス付着	1/2以下
117	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第48次	11井 No4	—	—	—	大2	16c 中	皿06	内外灰釉	1/2以下
118	陶器・皿/ヒダ皿	瀬戸美濃	第48次	11井 No12	—	—	—	大3	16c 後	皿07	内外鉄釉・一部灰釉流し掛け/口縁部輪花風	1/2以下
119	陶器・搗鉢	瀬戸美濃	第48次	11井 (No7・19)	—	*10.0	—	大2~4	16c 中~17c 初	鉢01	内外錆釉/櫛目23本以上	1/2以下
120	陶器・搗鉢	瀬戸美濃	第48次	11井 No20	—	—	—	大2~4	16c 中~17c 初	鉢02	内外錆釉・一部内面釉拭い取り/櫛目14本	1/2以下
121	陶器・徳利	瀬戸美濃	第48次	11井 No22	—	—	—	大3・4	16c 後~17c 初	袋02	内外鉄釉+灰釉	1/2以下
122	土器・かわらけ	在地	第48次	11井 No16	*11.0	*6.0	2.5	騎西城 II 期	16c 中~末	K16		1/2以下
123	土器・かわらけ	在地	第48次	11井 No25	*11.0	—	—			K17		1/2以下
124	土器・ほうろく	在地	第48次	11井 (No1・3・6)	*34.0	*30.0	5.2			H07		1/2以下
125	土器・火鉢	在地	第48次	11井 (No9・10・24)	*24.0	—	—			火鉢01		1/2以下
126	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第48次	12井	—	—	—	古後IV(新)	15c 後	天02	内外鉄釉	1/2以下
127	陶器・尊式花瓶	瀬戸美濃	第48次	12井	—	—	—	古後		袋01	内外鉄釉/一条の沈線	1/2以下
128	土器・かわらけ	在地	第48次	12井 (No7・一括)	10.7	5.5	3.2 ~ 3.6	騎西城 I 期	15c 中~16c 前	K18	底部内面指頭ナデ/底部外面板ナデ/口縁部に注ぎ口カ	3/4以上
129	土器・かわらけ	在地	第48次	12井	*11.0	—	—			K19		1/2以下
130	土器・ほうろく	在地	第48次	12井 (No9・一括)、一括	*34.0	*28.0	4.7			H08	体部外面工具痕/外面スス付着	1/2以下
131	磁器・四耳壺(青磁)カ	中国	第48次	13井 No9	—	8.2	—			町袋52	内外淡緑色の釉	1/2以下
132	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第48次	13井 No12	*11.0	*4.4	6.8	登1	17c 初	天03	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
133	陶器・皿	肥前(唐津)	第48次	13井 No2	—	—	—		16c 末~17c 前	皿14	内外鉄釉/鉄で文様	1/2以下
134	陶器・皿	肥前(唐津)	第48次	13井 No8	—	*4.0	—		17c 前	皿15	内外鉄釉・高台周辺露胎	1/2以下
135	土器・搗鉢	在地	第48次	14井	*28.0	—	—			鉢09	胎土砂粒含/内面磨痕	1/2以下
136	土器・土鍋	在地	第48次	14井	—	—	—			D02	外面木口状工具による痕	1/2以下
137	土器・ほうろく	在地	第48次	17井拡張、18井	—	—	5.8			H09	外面スス付着	1/2以下
138	土器・火鉢	在地	第48次	17井拡張	—	—	—			火鉢02		1/2以下
139	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	第48次	14壇	*12.0	6.0	2.3	古後IV	15c 中~後	皿02	口縁内面灰釉/底部内面磨痕/底部外面回転糸切痕	1/2以下
140	陶器・小坏	志戸呂	第48次	16壇No3 P、一括	—	*4.0	—	大3後~4前相当	16c 後~末	他01	内外鉄釉・底部外面周辺露胎	1/2以下
141	焼締陶器・甕	常滑	第48次	25壇	—	—	—		~16c	袋10	一部外面自然釉/外面焼き台の痕/旧5井ワキ土壇 No5	1/2以下
142	土器・かわらけ	在地	第48次	31壇No1 P	*10.0	*6.0	2.1	騎西城 III 期	17c 前	K21		1/2以下

第7表 土器類一覽表3

*は不確定な推定復元値、法量の単位は cm

図 No	器種	産地	調査名	出土地点(遺構名/)	口径	底径	器高	形式	年代	遺物 ID	備考	残存率
143	土器・かわらけ	在地	第48次	31壇No1 P	*10.0	*6.0	2.2	騎西城Ⅲ期	17c 前	K22		1/2以下
144	土器・かわらけ	在地	第48次	31壇No2	*10.0	*6.0	2.2	騎西城Ⅲ期	17c 前	K23		1/2以下
145	土器・かわらけ	在地	第48次	45壇、No74・75	—	*6.0	—			K20	底部外面板ナデカ/口径 が大きいカ/旧19壇No1そ の2	1/2以下
146	磁器・碗/青磁蓮弁文 碗	龍泉窯系 中国	第48次	No73	*16.0	—	—	I-5類	13c~14c	青01	オリブ色の釉	1/2以下
147	磁器・碗/青磁鎧蓮弁 文碗	龍泉窯系 中国	第48次	P No81	—	—	—	I-5類	13c~14c	青02	青緑色の釉	1/2以下
148	焼締陶器・甕	常滑	第48次	一括	—	—	—		~16c	袋08		1/2以下
149	焼締陶器・甕	常滑	第48次	No70	—	—	—		~16c	袋09		1/2以下
150	陶器・碗/天目	瀬戸美濃	第48次	一括	—	—	—	登1	17c 初	天04	内外鉄釉	1/2以下
151	陶器・皿/卸皿	瀬戸美濃	第48次	一括	—	—	—	古前~中		皿01	底部内面深い卸目	1/2以下
152	陶器・皿/緑釉小皿	瀬戸美濃	第48次	一括	—	—	—	古後Ⅳ	15c 中~後	皿03	一部内面灰釉/底部外面 回転糸切痕	1/2以下
153	陶器・皿/志野小皿	瀬戸美濃	第48次	一括	—	*6.0	—	大4後	17c 初	皿11	内外長石釉/底部内面ト ン痕	1/2以下
154	陶器・皿/志野小皿	瀬戸美濃	第48次	一括	*10.0	—	—	登1	17c 初	皿12	内外長石釉	1/2以下
155	陶器・皿/丸皿	瀬戸美濃	第48次	一括	*10.0	—	—	大4	16c 末~17 c 初	皿13	内面・口縁外面鉄釉+灰 釉/被熱/外面スス付着	1/2以下
156	陶器・皿/灯明皿(油 皿)	瀬戸美濃	第48次	一括	*10.0	*4.5	2.1		18c	皿08	内外鉄釉・高台周辺釉拭 い取り/底部内外重ね焼 き痕	1/2以下
157	陶器・皿/灯明皿(受 皿)	瀬戸美濃	第48次	P No88	*10.0	—	—		18c	皿10	内外鉄釉+灰釉、体部外 面釉拭い取り/外面重ね 焼き痕	1/2以下
158	陶器・香炉	志戸呂	第48次	一括	*10.0	—	—	大3後相当	16c 後	香02	口縁内面・外面鉄釉/外面 櫛目	1/2以下
159	焼締陶器・徳利	備前	第48次	一括	—	—	—		16c	袋03	内外無釉	1/2以下
160	焼締陶器・建水	備前	第48次	12P	—	—	—		16c	袋04	内外無釉	1/2以下
161	磁器・蓋・染付蓋	肥前	第48次	23P	最大径 *12.0	—	—		19c	伊02	葉の文様	1/2以下
162	土器・かわらけ	在地	第48次	No31	*11.0	*7.0	3.1	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K24	内面体底部境ナデ/底部 内面3mmの穴	1/2以下
163	土器・かわらけ	在地	第48次	No28	10.7	6.2	2.6 ~ 2.9	騎西城Ⅱ期	16c 中~末	K25	内面体底部境ナデ/底部・ 体部7ヶ所穴/底部外面磨 痕	3/4以上
164	土器・かわらけ	在地	第48次	No37、P No99	*11.0	4.7	3.0 ~ 3.3			K26	底部内面指頭ナデ/底部 外面板ナデ/被熱	1/2以上
165	土器・かわらけ	在地	第48次	一括	*12.0	*5.5	3.2			K27	底部内面指頭ナデ/底部 外面板ナデカ	1/2以下
166	土器・掘鉢	在地	第48次	P No94	—	—	—			鉢10		1/2以下
167	土器・片口鉢	在地	第48次	15P	—	—	—		13c 後	鉢06	口縁内面剥落以下磨痕	1/2以下

第8表 土器類一覧表4



48次 調査風景

第2節 木製品類

(1) 概要

本報告の第42次・48次調査では生活用具、信仰に関わるもの、その他、加工が施されている材などの遺物が出土している。特に42次では4号井戸、48次では14号井戸出土のものが多くを占めている。

○生活に関するもの

「貯蔵」では桶の側板6枚が出土している。1-1～1-4は42次出土で、いずれも板目取りで同一個体と考えられる。1-1の樹種はスギである。

2・3は48次出土、2は9号井戸、3は12号井戸出土である。両者とも板目取り。2については縮みが観察されることから、一度乾燥した可能性がある。

○信仰に関するもの

42次では蘇民将来符が、48次では位牌の台座と蘇民将来符が出土している。

4の位牌の台座は48次14号井戸出土で、白木で樹種はヒノキである。側面を丁寧に整形している。

5の蘇民将来符の樹種はヤナギ科又はトチノキである。完形で四角柱。四面に墨書「蘇民 将来 子孫 人也」が残る。頭部は緩い四角錐とし、頂部より径1mmの孔が縦に穿たれる。左側面と裏面の下端を面取りし、下端にケビキのような横線が巡る(※)。

6も蘇民将来符である。42次4号井戸出土で、四角柱で墨書「蘇民 将来 之子 孫也」が明瞭に残る。頭部は四角錐とし、頂部より径1mmの孔が縦に穿たれている。下部にケビキのような横線が巡る(※)。

○その他

7は48次9号井戸出土の柄状製品である。全体に面取りを施す。また、片側端部は細かい削りにより頭部を作り出している。

8は48次13号井戸出土の丸棒材である。片側端部に孔が見られるが、含水率が非常に高く、詳細は不明である。

9は48次14号井戸出土の丸棒状の加工材である。

全体に幅の狭い面取りを施し、片側端部付近に、細かい切り込みにより頭部を作り出している。

10は48次4号井戸出土の加工を施した棒状のものである。両端に穿孔があるが、貫通はしていない。また、縦に1本溝が施されている。

12～14は、48次の9号井戸出土の板材である。

12は下端部を欠損、上端部には丸く抉っているような痕がある。板目取り。縮みが見られ、一度乾燥した可能性がある。

13は片側欠損している板目取りの板材である。列孔があり、木釘の残る箇所も存在する。これも縮みが見られ、一度乾燥した可能性がある。

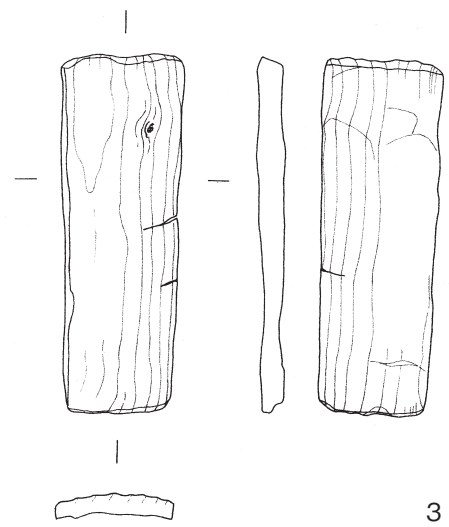
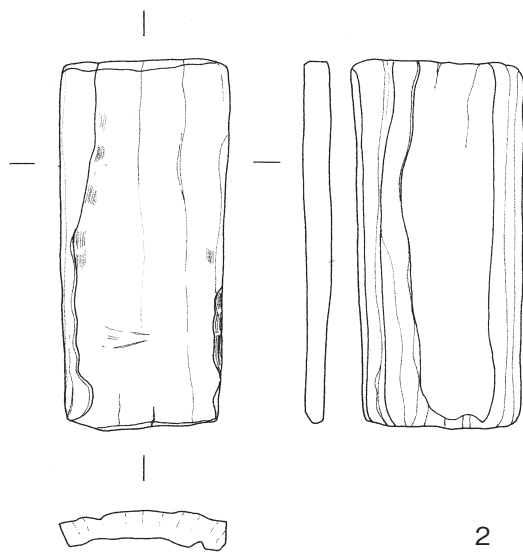
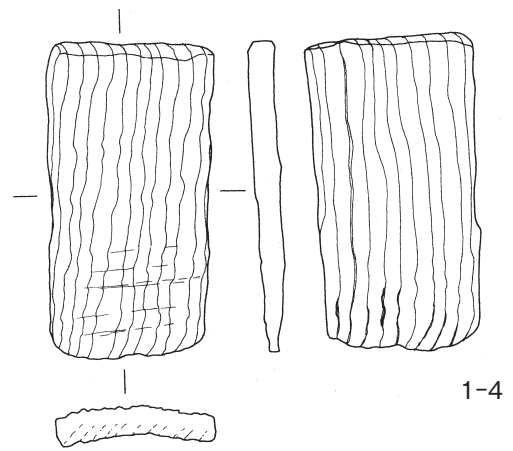
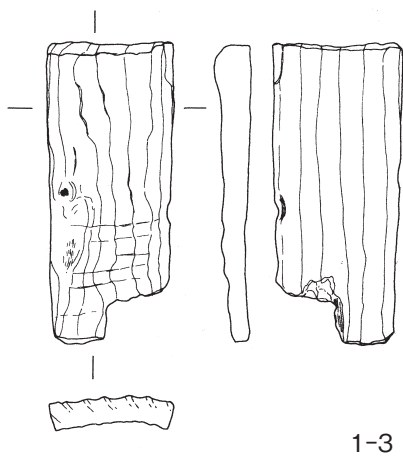
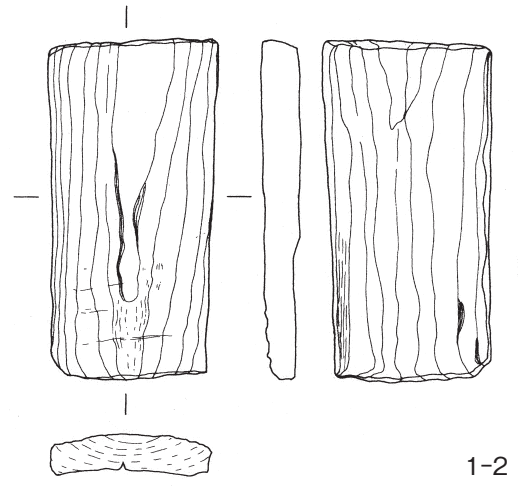
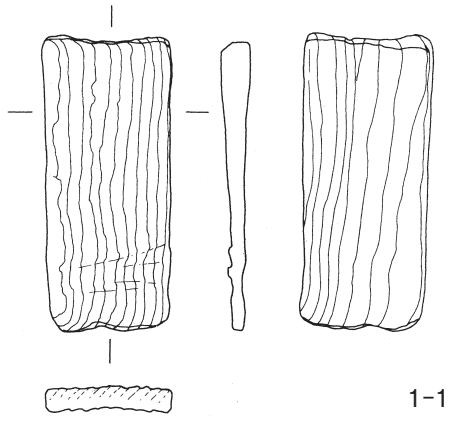
14は両端が残っている板目取りの板材。縮みが見られ、一度乾燥した可能性がある。

以上が今回図化できた木製品であるが、これらの他にも遺物の遺存状態が悪く図化できなかったものが存在している。それらの中で計測可能なものは、一覧表の後半に掲載した。詳細は以下の通りである。

42次では、割材・丸棒材が4号井戸から出土している。割材は破片化が進み崩壊しているため、接合関係が確認できたもののみ計測した。丸棒材は、特に目立った加工痕はないように思われたが、やはり含水率高く、劣化進行中のため詳細は不明である。竹が7号井戸から出土しているが、破片化が進み崩壊している。

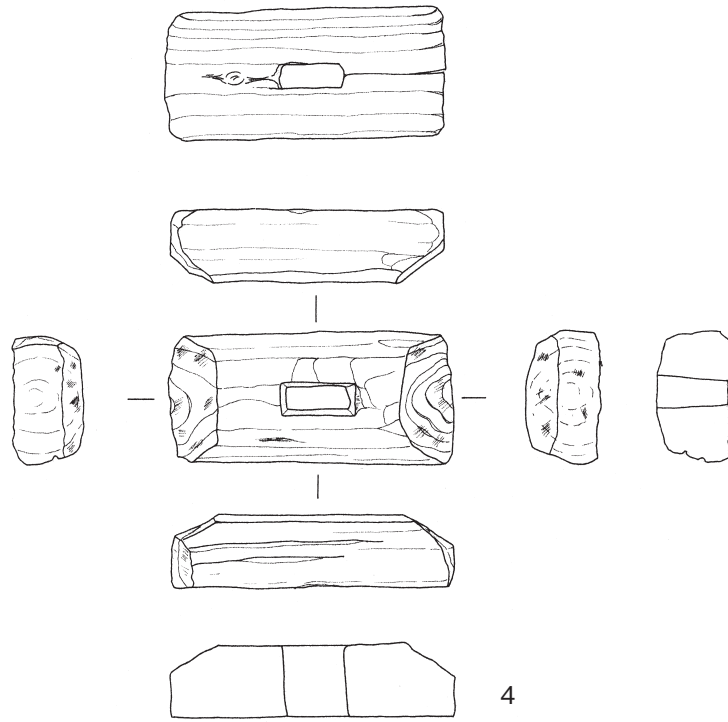
48次では、片側端部を柄状に加工したものが9号井戸から、丸棒材が2号井戸と14号井戸から出土している。他に破片化した竹が9号井戸から出土し、桃の種子が2号井戸から、不明である種子が11号井戸から見つかっている。

※2003『木簡研究 第25号』 木簡学会

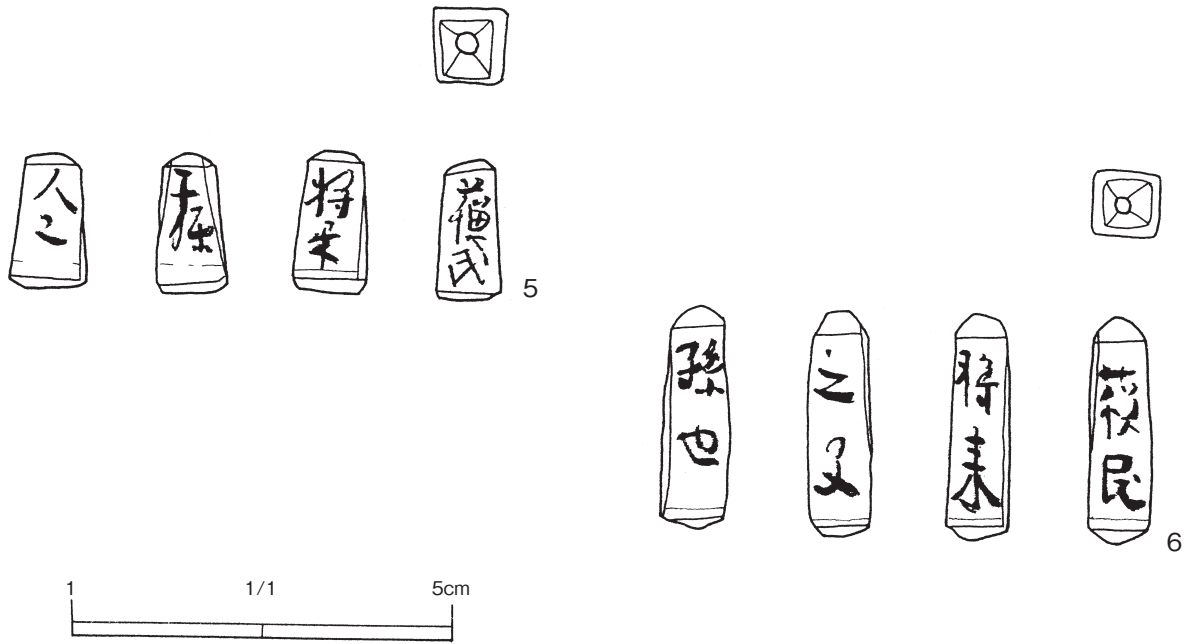


0 1/3 10cm

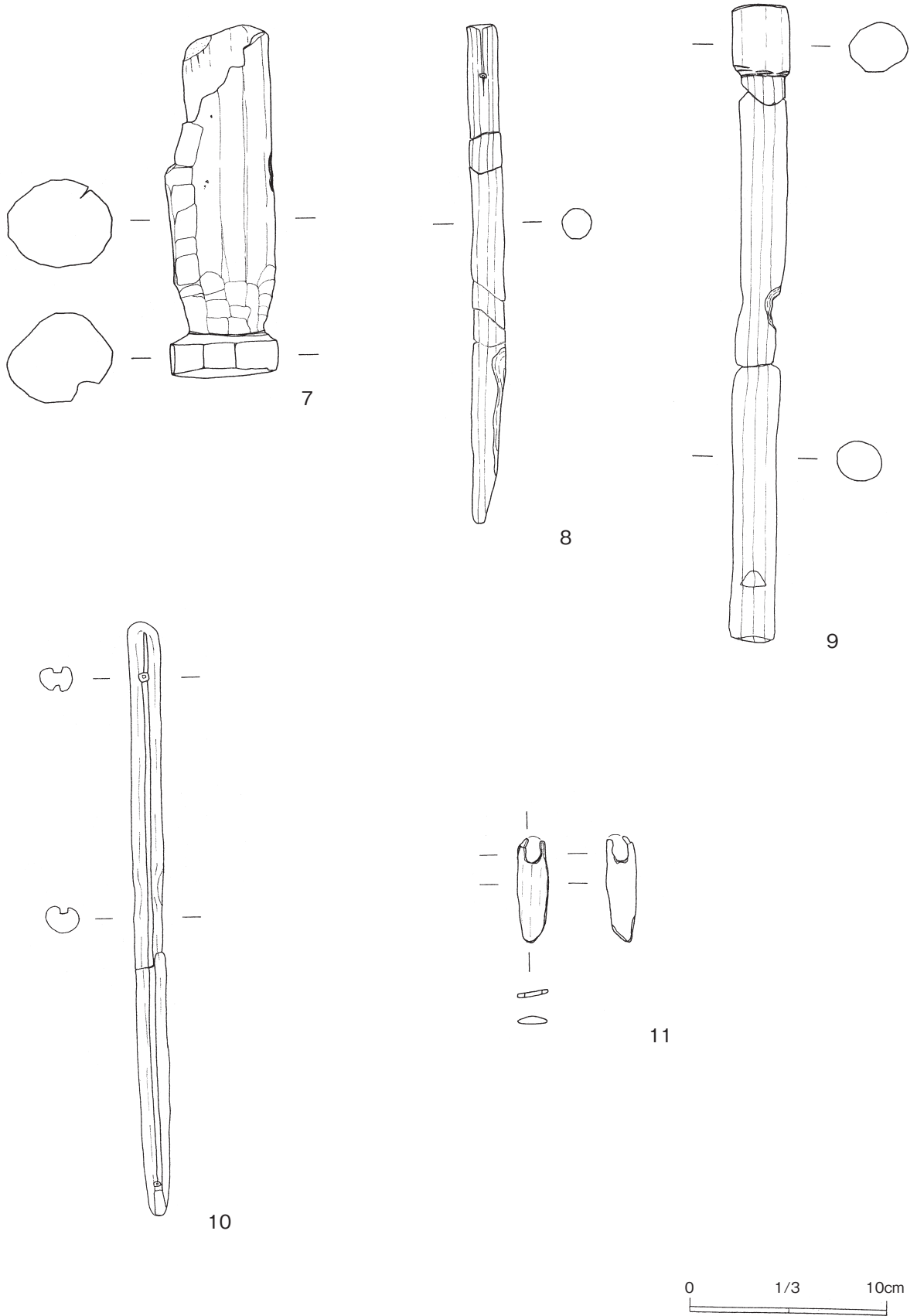
第30図 木製品 1



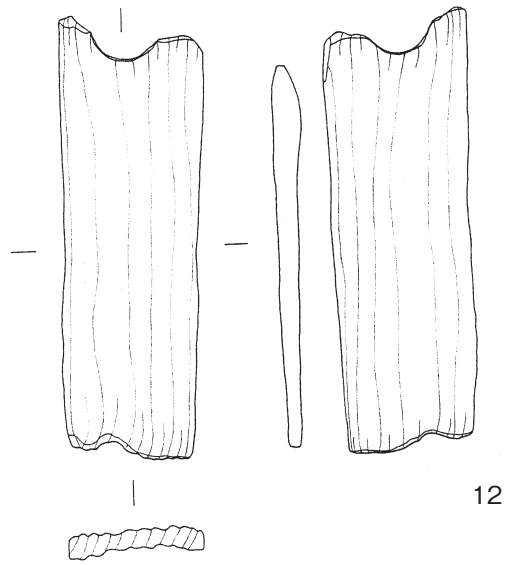
0 1/3 10cm



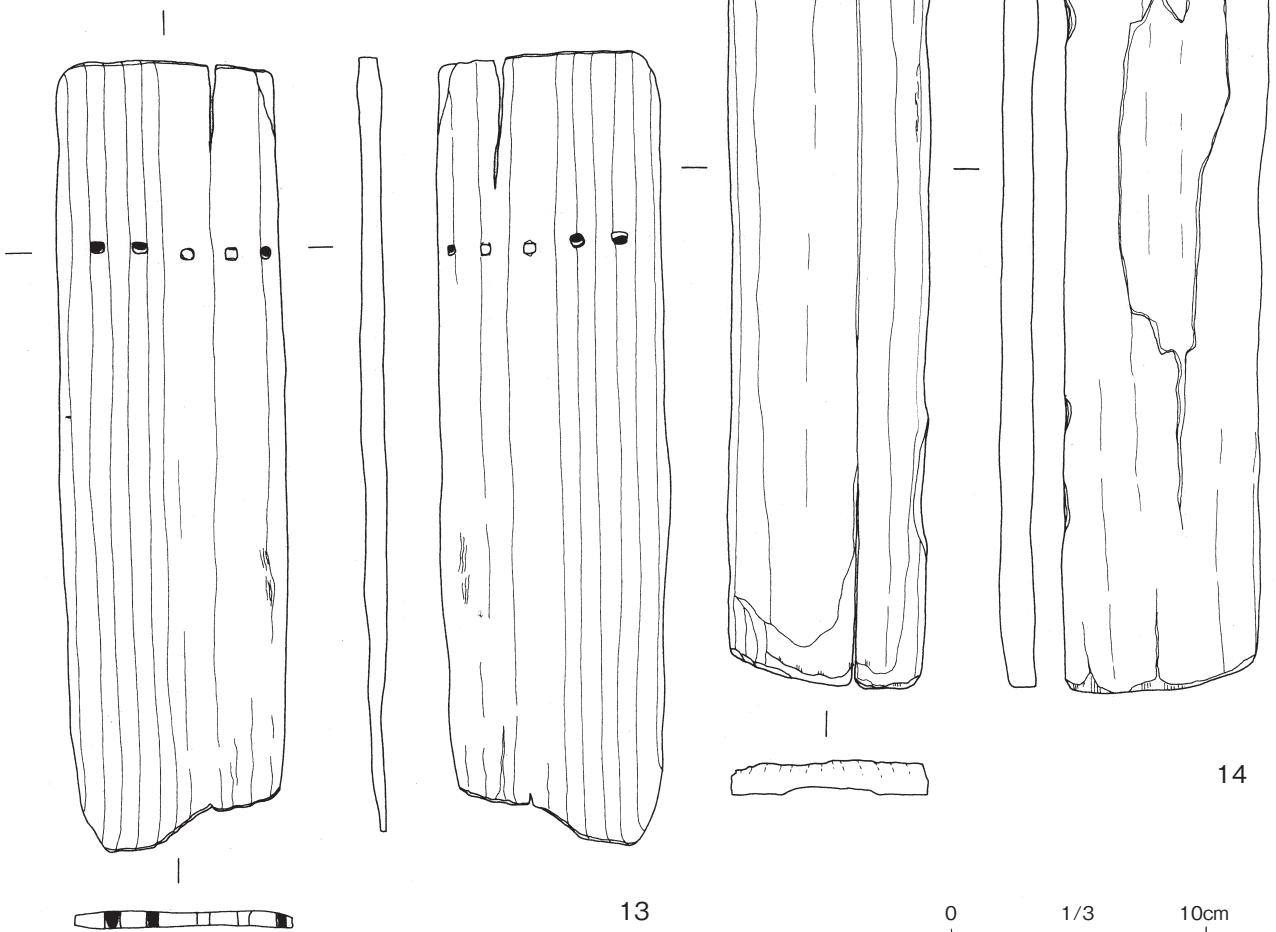
第31図 木製品 2



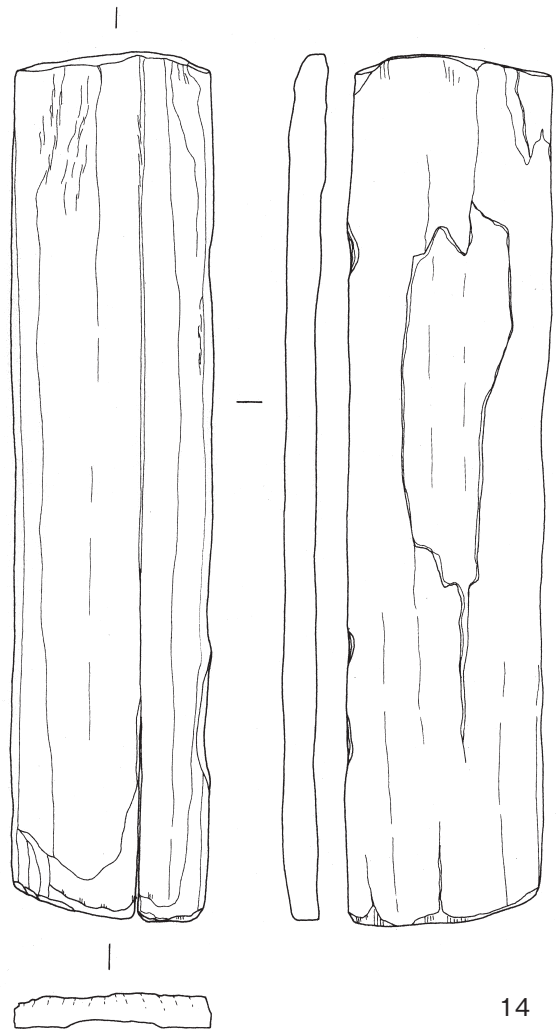
第32図 木製品 3



12



13



14

0 1/3 10cm

第33図 木製品4

() は残存値、*は不確定な推定復元地

法量の単位は cm

図No.	遺物名	出土地点	法量	特徴	備考	遺物 ID
1-1	桶一側板	第42次4号井戸	長さ11.2/幅5.0/厚さ1.2	板目取り	側板4枚の中の1枚	661-0704-0042-0005
1-2	同上	同上	長さ13.5/幅6.3/厚さ1.5	板目取り	側板4枚の中の1枚	同上
1-3	同上	同上	長さ11.9/幅5.0/厚さ1.5	板目取り	側板4枚の中の1枚。一部欠損。	同上
1-4	同上	同上	長さ12.6/幅6.4/厚さ1.0	板目取り	側板4枚の中の1枚	同上
2	桶一側板	第48次9号井戸	長さ≒14.6/幅≒6.8/厚さ≒1.4	板目取り	縮みが見られる。一度乾燥か。	661-0704-0048-0006
3	桶一側板	第48次12号井戸	長さ14.2/幅4.6/厚さ1.2	板目取り		661-0704-0048-0010
4	位牌一台座	第48次14号井戸	幅11.0/奥行き5.0/高さ2.9	樹種はヒノキ		661-0704-0048-0014
5	蘇民将来符	第48次14号井戸	幅0.9/奥行き1.0/高さ1.9	ヤナギ科又はトチノキ。完形で四角柱。墨書残る		661-0704-0048-0013
6	蘇民将来符	第42次4号井戸	幅0.8/奥行き0.8/高さ3.0	完形で四角柱。墨書残る		661-0704-0042-0003
7	柄状製品	第48次9号井戸	長さ(18.0)/径≒5.5	面取りを施す	先端欠損	661-0704-0048-0003
8	材/丸棒材	第48次13号井戸	長さ25.8/径1.6	穿孔有り。全面に面取り		661-0704-0048-0012
9	材/加工材	第48次14号井戸	長さ32.6/径≒2.1	撞木状又は有頭		661-0704-0048-0016
10	材/加工棒	第42次4号井戸	長さ30.2/径≒1.8	両端に穿孔有り。貫通せず。縦に溝		661-0704-0042-0001
11	材/加工材	第42次4号井戸	長さ(5.4)/幅≒1.6/厚さ≒0.4	穿孔有り	実測時には含水率高く崩壊。	661-0704-0042-0002
12	板材	第48次9号井戸	長さ17.2/幅≒5.6/厚さ≒1.0	片側端部を丸く括る板目取り	縮みが見られる。一度乾燥か。	661-0704-0048-0007
13	板材	第48次9号井戸	長さ(31.4)/厚さ≒8.6/幅≒0.7	列孔あり。木釘も一部残る。板目取り	片側端部欠損。縮みが見られる。一度乾燥か。	661-0704-0048-0005
14	板材	第48次9号井戸	長さ≒34.6/幅≒7.8/厚さ≒1.2	板目取り	縮みが見られる。一度乾燥か	661-0704-0048-0004
-	割材	第42次4号井戸	長さ(57.0)/幅2.8/厚さ1.0		含水率高く崩壊寸前	661-0704-0042-0004
-	材/丸棒材	第42次4号井戸	長さ(57.0)/径6.1	特に目立った加工痕無し	含水率高く劣化進行中	661-0704-0042-0006
-	竹	第42次7号井戸	長さ(20.6)/径2.5			661-0704-0042-0007
-	柄か	第48次9号井戸	長さ≒69.0/径≒5.0	片側端部付を加工		661-0704-0048-0008
-	丸棒材	第48次2号井戸	長さ(10.4)/径0.95		含水率高く劣化進行中	661-0704-0048-0001
-	丸棒材	第48次14号井戸	長さ(14.6)/径1.7	枝が残る		661-0704-0048-0015
-	竹	第48次9号井戸	長さ(4.8)/幅1.6		破片化が進む。残りの良い1点のみ計測。	661-0704-0048-0017
-	種子	第48次2号井戸	計測せず	桃		661-0704-0048-0002
-	種子	第48次11号井戸	計測せず	不明		661-0704-0048-0009

第9表 木製品一覧表

(2) 自然科学分析—木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. 試料

試料は42次出土の木製品1点(1)と48次出土の木製品2点(2・3)である。試料の詳細は樹種同定結果とともに第10表に表記した。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切断を作成し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察、同定する。

3. 結果

樹種同定の結果を第10表に示す。42・48次の木製品は、針葉樹(スギ)2点(1・3)広葉樹類(ヤナギ科又はトチノキ)(2)に分類される。主な解剖学的特徴を以下に記す。

スギ

(*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹枝細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅はやや広い。樹脂細胞が晩材部に認められる。放射組織柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に1~2個。放射組織は単列、1~15細胞高。

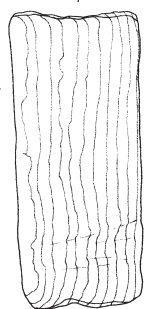
ヒノキ科

(*Chamaecyparis obtusa*(Sisb et Zucc.)Endlicher)

ヒノキ科ヒノキ属

資料は年輪界で割れている。軸方向は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか~やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型~トウヒ型で、1分野に1から3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

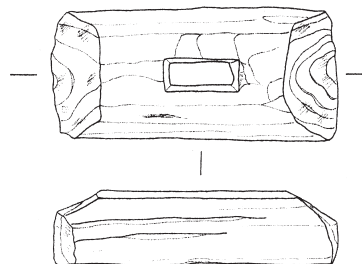
蘇民将来符 ヤナギ科又はトチノキである、それ以上のデータなし。



No.1

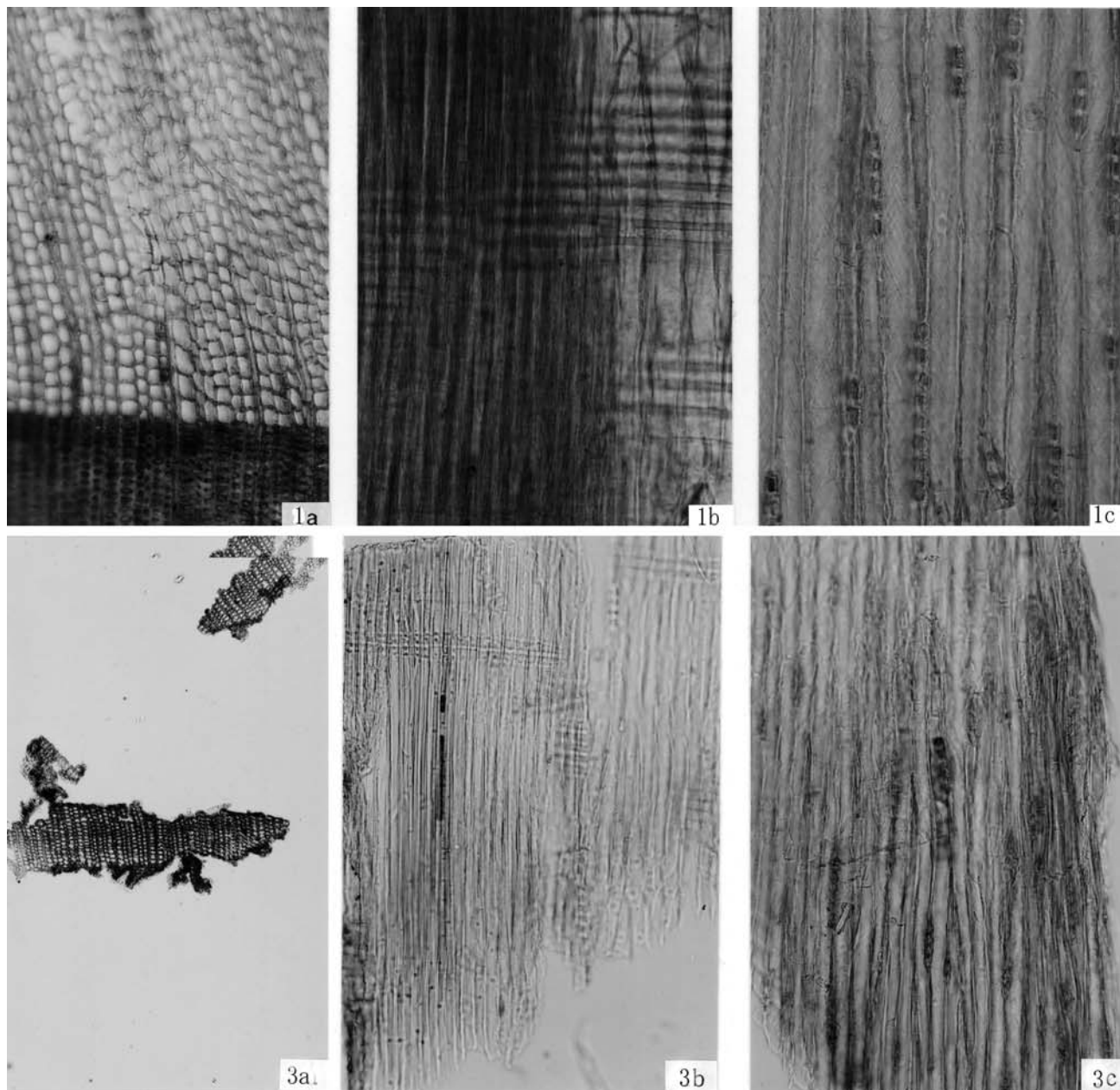


No.2



No.3

第34図 木製品5



1: スギ

3: ヒノキ (試料2)

a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200 μm: a
200 μm: b

試料 No	遺物名	樹種	遺物 ID
1	桶-側板	スギ	661-0704-0042-0005
2	蘇民将来符	ヤナギ科又はトチノキ *	661-0704-0048-0013
3	位牌-台座	ヒノキ	661-0704-0048-0014

*は保存処理会社から提供されたデータである

第10表 木製品樹種同定結果

第3節 金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。

(1) 鉄製品

○生活に関するもの

灯りの火打金（1・2）は山形に分類され、1は両端部は逆台形状、2は丸い。

住の釘（3・4）は断面角形で、頭部は、3は折り曲げられており、4は不明瞭。鋸（5）は断面楕円形で両端が屈曲している。握り鋏（6）は発錆が顕著であるが刃部と思われる。

○いくさに関するもの

小札（7）は欠損しているが幅広で、緘穴が1ヶ所遺る。

小柄（8～12）は5点を数える。8は、48次32号土壌から出土しており、刃部先端を欠損するが柄を備え、ほぼ完形である。柄には文様等はない。刃部は鉄、柄部は銅製である。9～12は刀身部で破片である。10は切っ先である。

13は、2点が錆着しており、斜位の1点は刀子刀身部が屈曲したもの、水平の1点はV字状の断面を有する製品で、刀子状及び柄状製品としておく。

鉄鋏（14・15）は雁股で、14は挟りの浅い蝙蝠形の薄いもので、平坦な板状である。左先端を欠損する。15は先端の断面は方形で、右先端と茎を欠損する。

○不明

U字状製品（16）は断面が円形である。

(2) 銅製品

○生活に関するもの

嗜好・遊びでは、煙管（17）の吸口があり、両端が欠損している。羅字が一部遺存する。管製作接合面のずれにより、大小の管をそれぞれ製作してから接合していることがわかる。

○いくさに関するもの

覆輪（18・19）は、厚さ約3mmの板状製品の縁を覆ったであろう金具で、鍍金が施されている。18

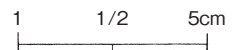
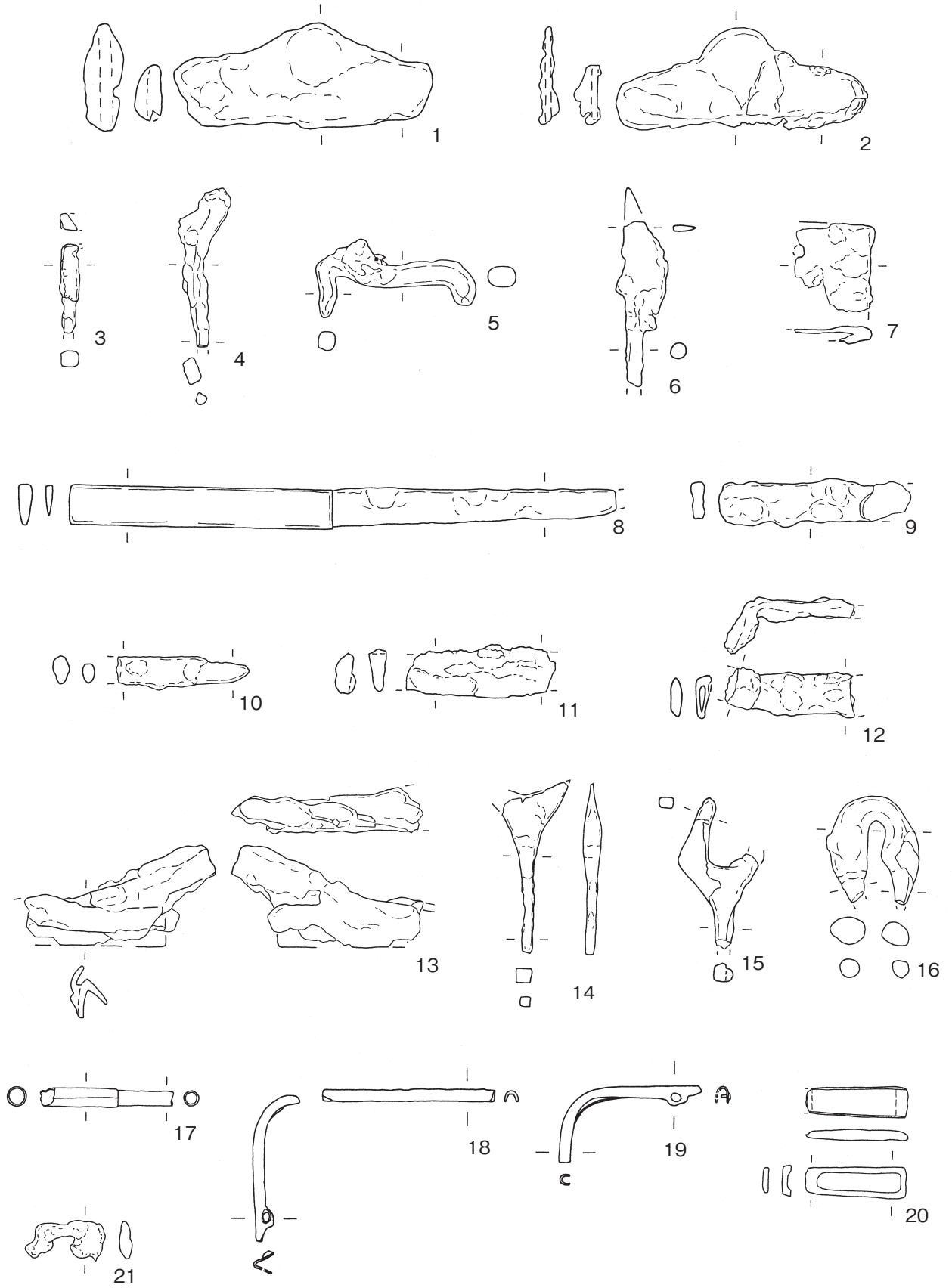
の2点は接合は確認できない。18・19のいずれもほぼ直角に曲げられており、取付用の鋲が1ヶ所遺る。遺存状況から対向して、1対2ヶ所あったものと思われる。鋲の頭部は円形で、身は径2mmで先端は丸い。甲冑の覆輪であるなら、平坦なので背の部分となるか。14の鉄鋏と共に42次15号土壌から出土している。20は短冊形で扁平である。裏面は縁は高く内面は窪む。装飾はないが目貫の可能性がある。

○ほか

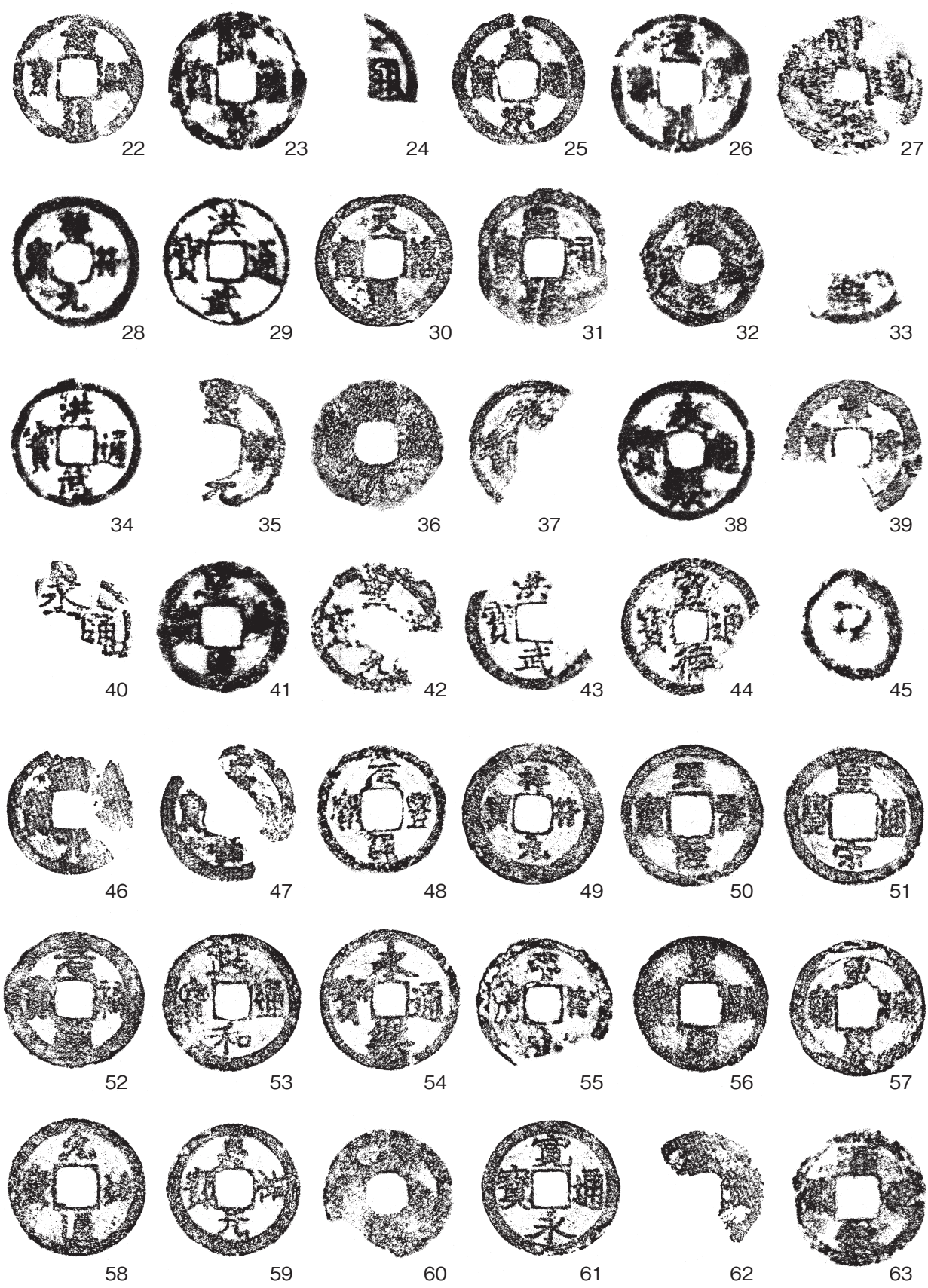
銅が高温で溶解したもので塊状品（21）とする。

(3) 銭貨

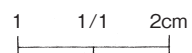
総数52枚確認されている。近世の寛永通宝1点で、ほかはほぼ渡来銭で、不明4点、雁首銭1点を含む。出土状況は、48次35号土壌の墓壙に伴い6点、36号土壌で6枚出土している。

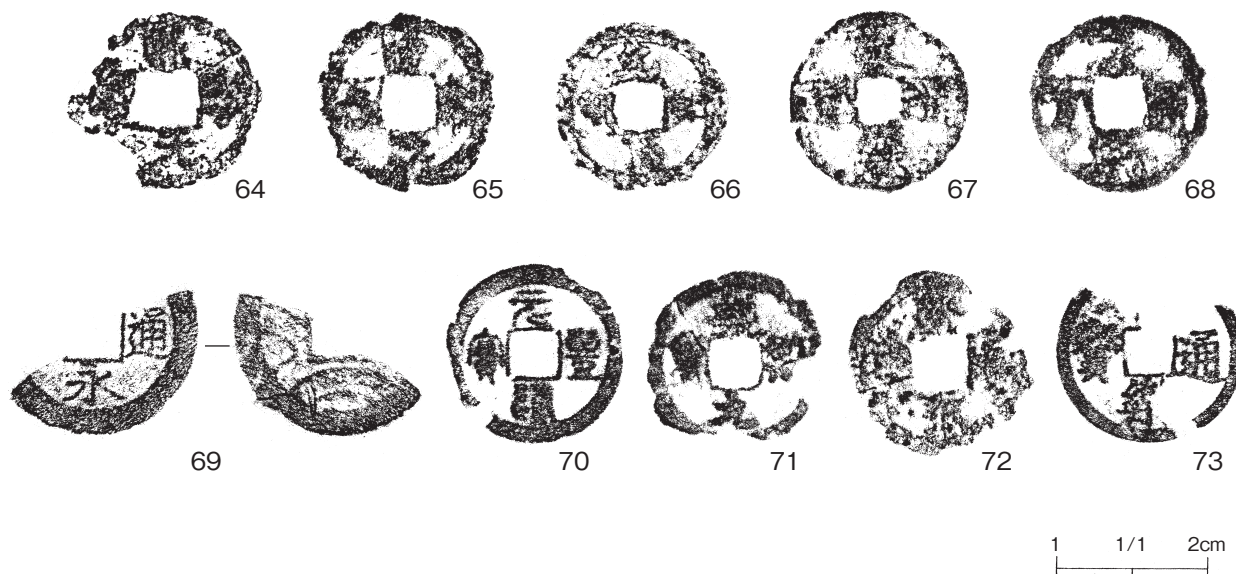


第35図 金属製品1 (鉄・銅)



第36図 金属製品2 (錢貨1)





第37図 金属製品3 (錢貨2)



48次 井戸覆土洗淨

() は残存値*は不確定な推定復元値

法量の単位は cm

図No	器種	材質	調査名	出土地点(遺構名/)	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	備考
1	火打金	鉄	第42次	3井 No1	8.9	3.5	1.0	0042-0003	
2	火打金	鉄	第48次	3井 No2	8.7	3.4	0.2	0048-0005	
3	釘(角)	鉄	第48次	P No56	(3.2)	0.6	-	0048-0011	
4	釘(角)	鉄	第48次	一括	5.6	0.8	-	0048-0014	
5	鏃	鉄	第48次	P No118	5.6	1.0	-	0048-0012	
6	握り鉄	鉄	第42次	3井 No8	(5.7)	1.5	-	0042-0004	
7	小札	鉄	第42次	一括	3.1	2.8	0.3	0042-0010	
8	小柄	鉄	第48次	32壙 No2	(19.0)	1.4	0.5	町金13・ 0048-0009	
9	小柄(刀身)カ	鉄	第42次	1溝 No33	(6.5)	1.4	0.5	0042-0001	
10	小柄(刀身)カ	鉄	第42次	7井	(4.6)	1.2	0.4	0042-0006	
11	小柄(刀身)カ	鉄	第42次	一括	5.4	1.5	0.6	0042-0011	
12	小柄(刀身)	鉄	第42次	P	(4.6)	1.5	0.5	0042-0008	
13	刀子状及び柄状製品	鉄	第42次	4井 No8	(6.7)	2.7	-	0042-0005	
14	鉄鏃(雁股)	鉄	第42次	15壙/No189	(5.9)	2.4	-	0042-0007	
15	鉄鏃(雁股)	鉄	第42次	一括	(5.1)	2.7	-	0042-0009	
16	U字状製品	鉄	第48次	13井	3.8	3.2	0.7	0048-0006	
17	煙管(吸口)	銅	第48次	一括	(4.6)	0.7		0048-0005	
18	覆輪	銅	第42次	15壙/No214	5.2 6.2	1.6 0.4	-	町金166・ 0042-0002	
19	覆輪	銅	第42次	15壙/No215	2.6	4.9	-	町金147・ 0042-0003	
20	目貫カ	銅	第48次	一括	3.5	1.2	0.3	0048-0002	
21	塊状品	銅	第42次	11壙	2.7	1.3		0042-0001	

第11表 金属製品一覧表 1

No	調査名	出土地点	銭種(銭貨名は番号順)
22	第42次	1溝 No26	元祐通宝(篆書)
23	第42次	1井 No3	開元通宝
24~26	第42次	1井	開元通宝、皇宋通宝(真書)、元豊通宝(篆書)
27	第42次	2井	不明
28	第42次	3井 No5	祥符元宝
29	第42次	3井	洪武通宝
30	第42次	4井	天禧通宝
31・32	第42次	6井	皇宋通宝(真書)、不明
33	第42次	No6	永樂通宝
34	第42次	No12	洪武通宝
35	第42次	No19	熙寧元宝(真書)
36	第42次	No47	開元通宝
37	第42次	No49	永樂通宝
38	第42次	P No160	永樂通宝
39	第42次	No253	祥符通宝
40	第42次	P No258	永樂通宝
41	第42次	P No259	元豊通宝(行書)
42~44	第42次	一括	聖宋元宝、洪武通宝、宣徳通宝
45	第48次	2溝 No6	雁首銭
46	第48次	9井 No8	熙寧元宝(真書)
47	第48次	11井	嘉祐通宝(真書)
48	第48次	14井	元豊通宝(篆書)
49~54	第48次	35壙 No3	祥符元宝、天聖元宝(篆書)、皇宋通宝、元祐通宝(篆書)、政和通宝、永樂通宝
55~60	第48次	36壙	祥符元宝、皇宋通宝(篆書)、至和通宝(篆書)、嘉祐通宝(真書)、元祐通宝(行書)、不明
61	第48次	44壙 1P	寛永通宝
62	第48次	P No57	寛永通宝
63	第48次	P No98	皇宋通宝(篆書)
64	第48次	No42	熙寧元宝(真書)
65	第48次	No43	不明
66・67	第48次	No71	元祐通宝(行書)、永樂通宝
68・69	第48次	一括(旧 2壙No2)	永樂通宝、寛永通宝(四文銭)
70	第48次	一括(旧 2壙No3)	元豊通宝(篆書)
71	第48次	一括(旧 2壙No4)	祥符元宝
72・73	第48次	一括(旧 2壙 P)	皇宋通宝、永樂通宝

第12表 金属製品一覧表 2

第4節 石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑を石造物として扱う。

(1) 石製品

石臼は1～15で、茶臼と粉挽臼がある。茶臼は8・15で、他は粉挽臼である。

1の下臼は全形が窺える。2・11・12は摩耗により平滑で目が確認できない。3・4・6は目は摩耗により1mm程度と浅い。6は芯棒受けの孔を有する。7の磨面は平滑である。9は上面と両側面に摩耗痕が顕著に残る。10には供給口の穴とそれに伴う溝（ものくぼり）があり、目は浅い。13は臼であるが側面・破損面に複数の円形の凹みが穿たれる。磨面は平滑である。

1・2・14にはスス付着、3はスス付着と赤化部分が認められる。8の受け皿上面に皮膜状の黒色物が付着し、縮もあり漆のようである。10の上面欠損断面にタール状の黒色物が付着している。

16はやや不整形だが、扁平な黒色の石で碁石と思われる。17は硯で、陸の部分である。18は扁平な礫で挟りが2か所認められる。有孔の石製品か。

19は緑泥片岩製の薄い石製円盤で細かく周縁を整形している。

20は48次9号井戸で出土した墨書石で、図化した文様は石材の色にも影響され、文字や下半部については不正確な部分も考えられる。いずれ赤外線カメラ等により再調査したい。現状では屋根の上に2本の相輪のようなものが確認でき、全体としては塔を描いたものか。素材は礫で、左側面に敲打痕が残る。

砥石は21～38で、21～29のものは、直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。30は石材不明であるが大型の砥面を持ち、置き砥石か。31～38は緑泥片岩で、板碑の2次利用と思われる。31・32・34・37・38は平坦面に磨痕、33は側縁に磨痕、35・36は平坦面に磨痕、側縁に挟り痕が見られる。

磨石は39～57で、礫の原形が残るものが多く、使

用により形成された面が不規則に存在する。40はやや大型で五輪塔からの転用か。円筒形の凹みを有する。石材はデイサイトが多数を占める。名称が縄文時代のものを連想させるが、砥石と区別するために別に扱う。

58は敲石で全面に敲打痕が残る。縄文時代の所産の可能性はある。

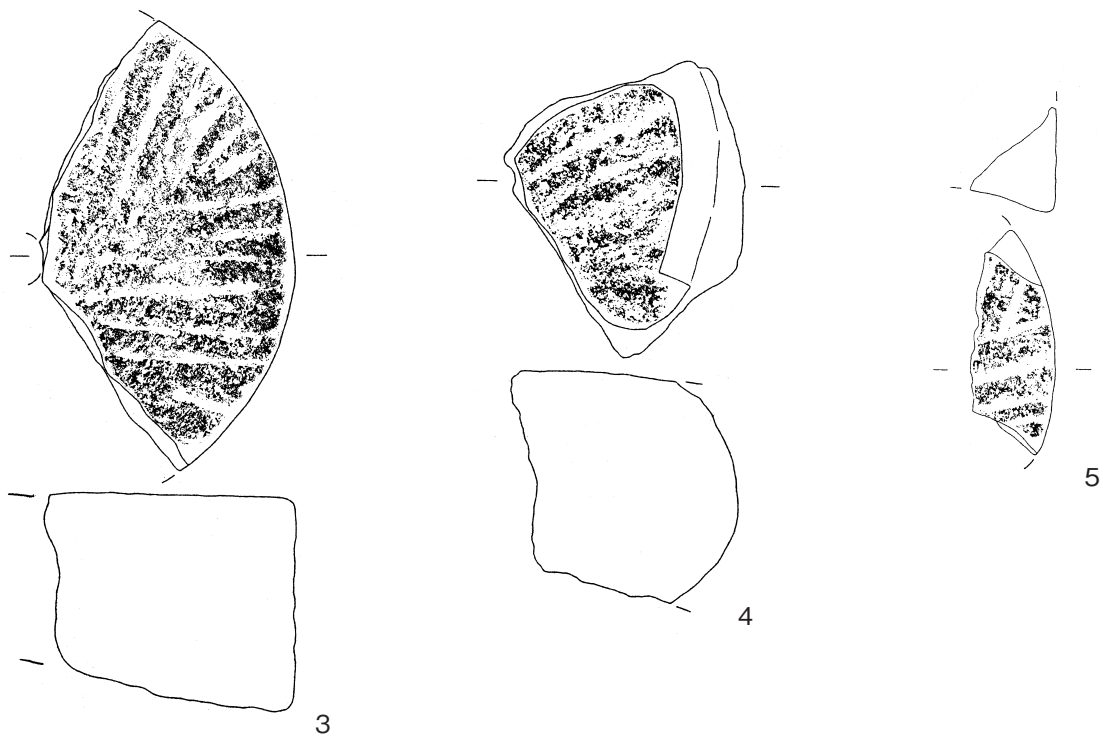
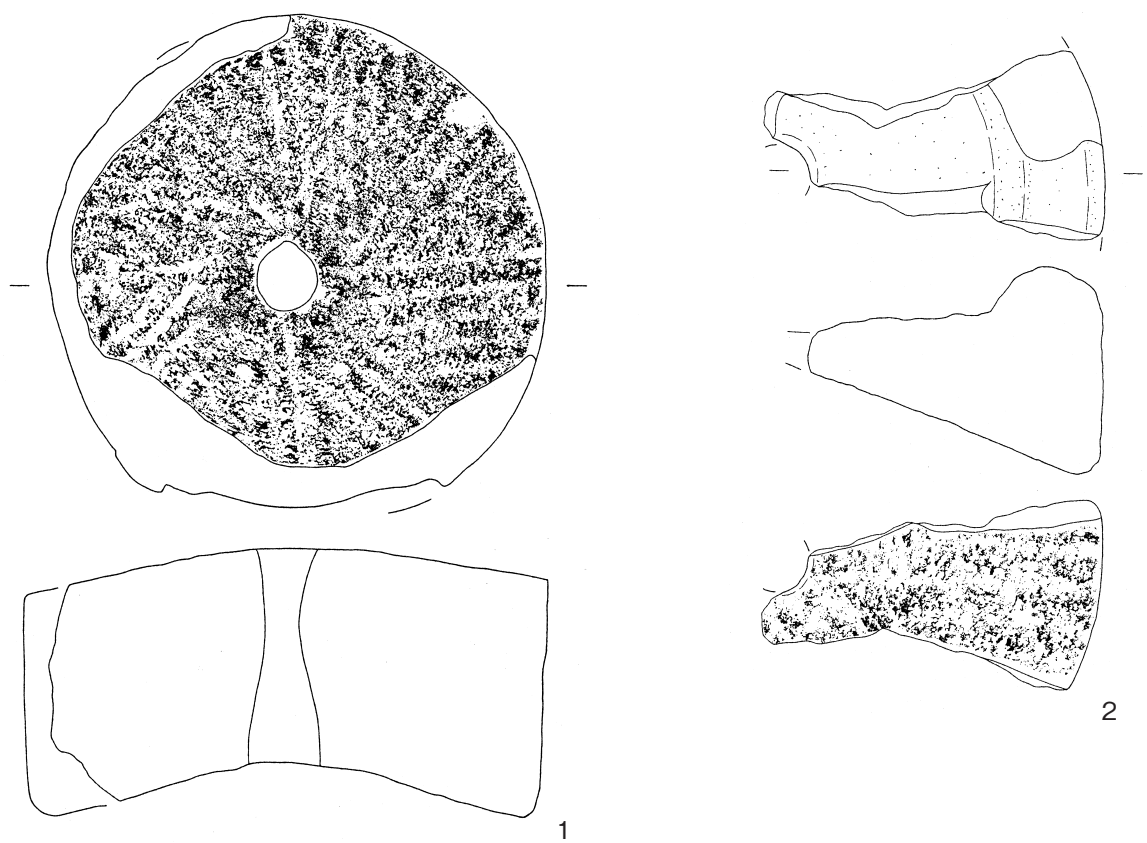
59・60は石英で擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から想定しておくべきものである。

(2) 石造物

【板碑】板碑は20点を数えるが、すべて破片である。
○銘文など 年号のわかるものは、71の応安元年（1368）十月一日、77の弘安（1278～88）、78の貞和四年（1348）五月十一日である。キリークは68・74・75・77に、バクは64に、パイ・サは72に刻まれる。78には光明遍照の偈が刻まれる。

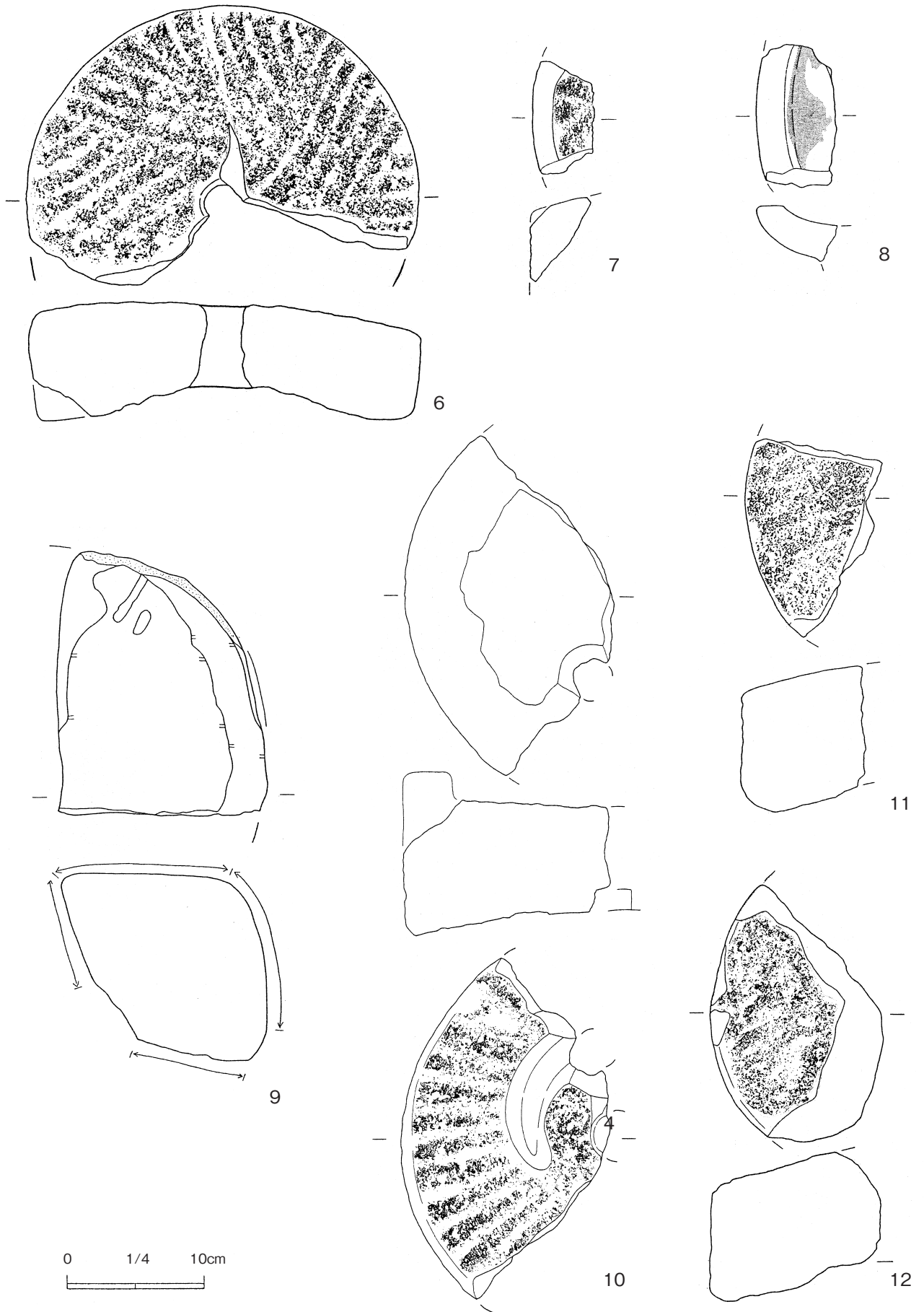
○使用痕 63・67・69・71・72・75・76には、2次使用としては表面及び側面に摩耗痕・線条痕が認められるものがあり、砥石として使用されたものであろう。

○付着物 廃棄以降であろうか、64・74には、一部黒化が見られる。69・73・80には、被熱による黒化が見られる。なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。

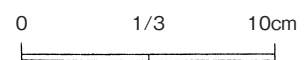
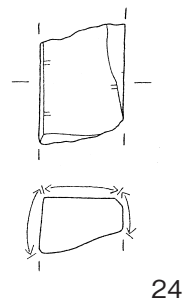
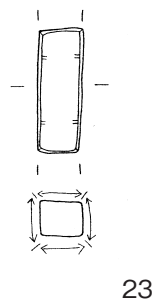
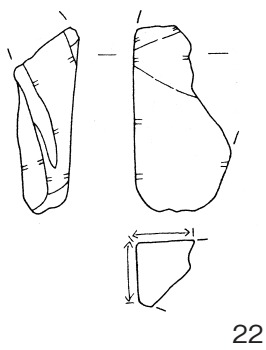
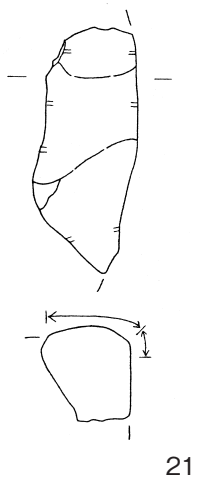
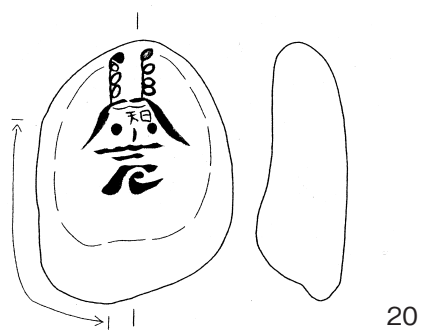
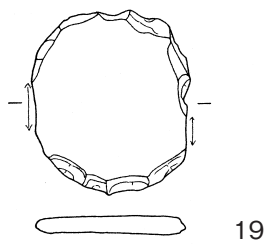
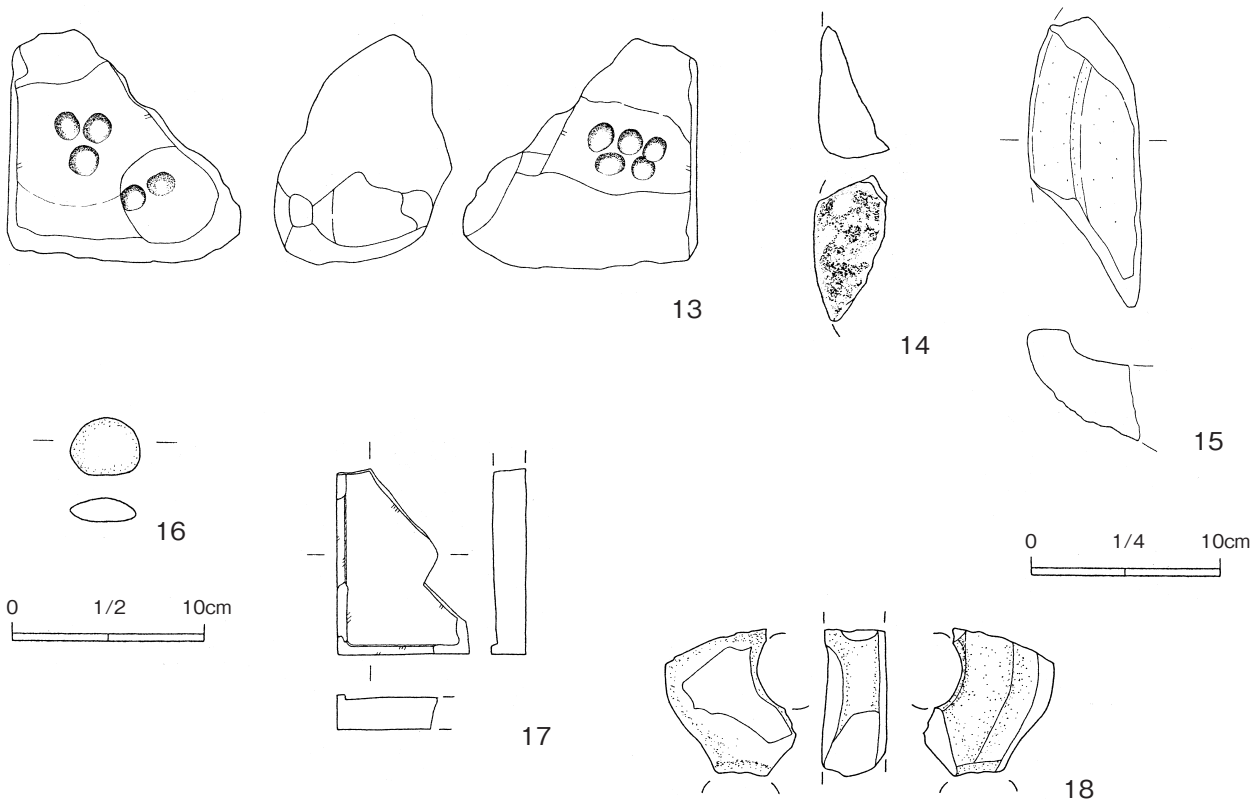


0 1/4 10cm

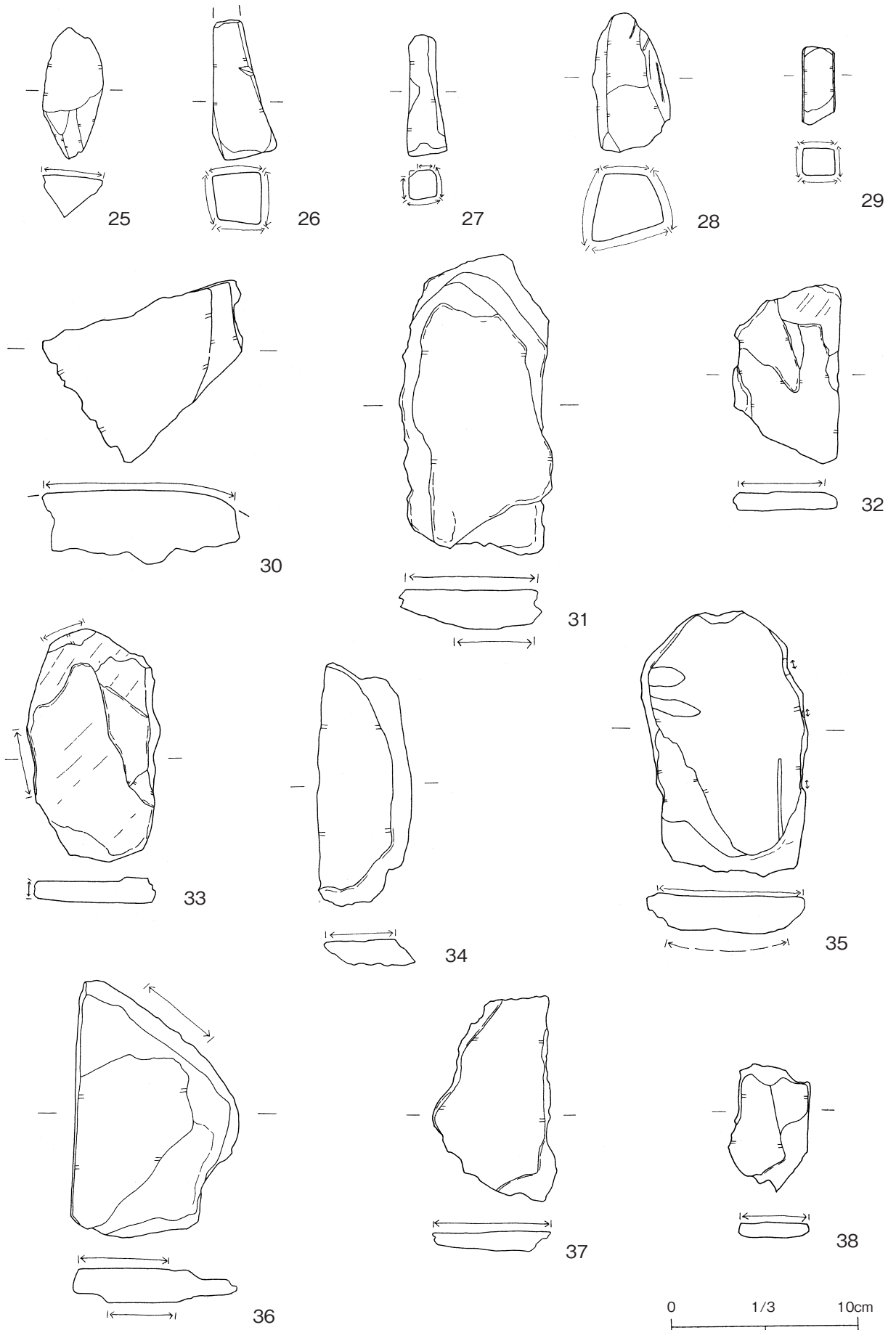
第38図 石製品類1 (石臼1)



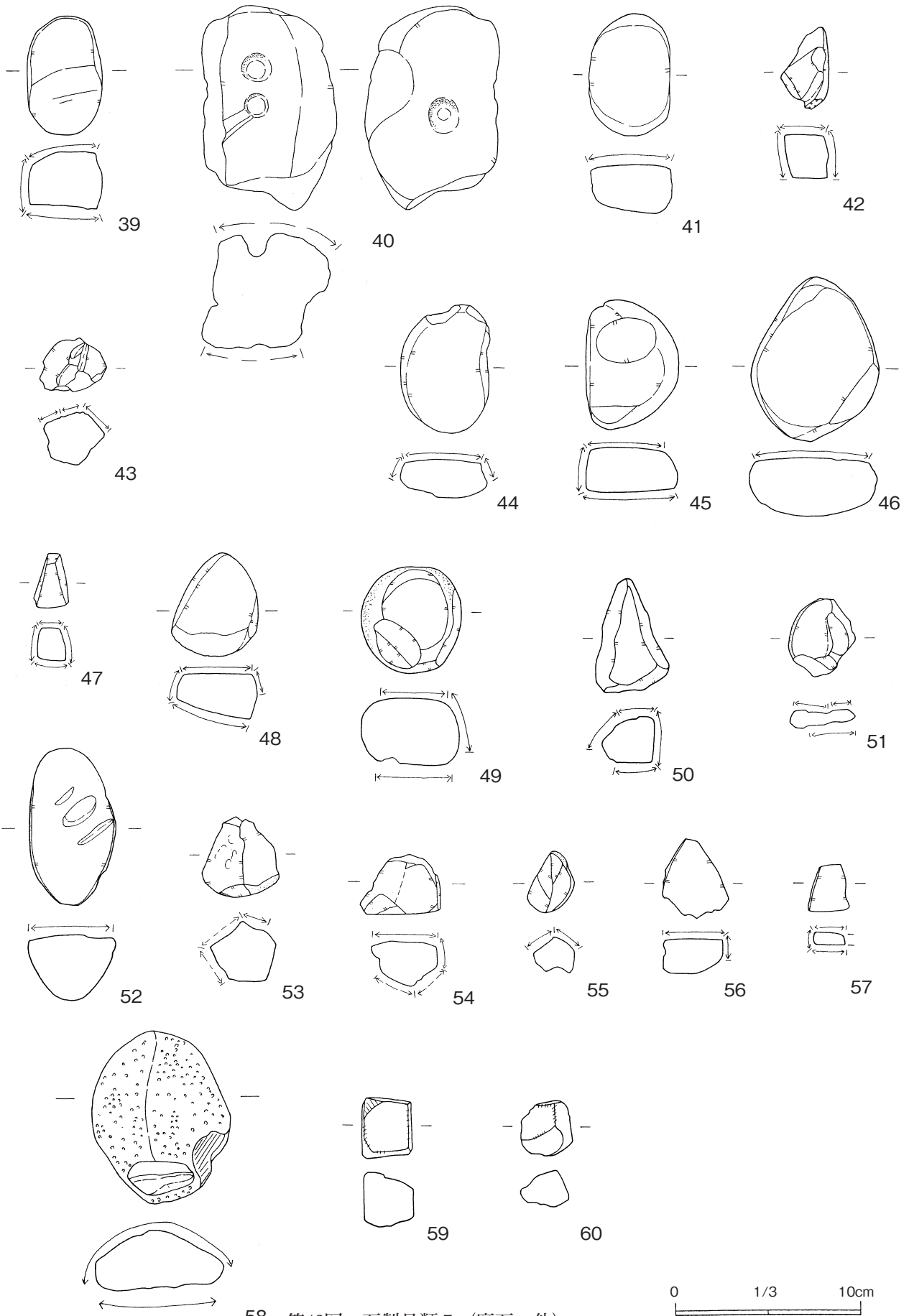
第39図 石製品類2 (石臼2)



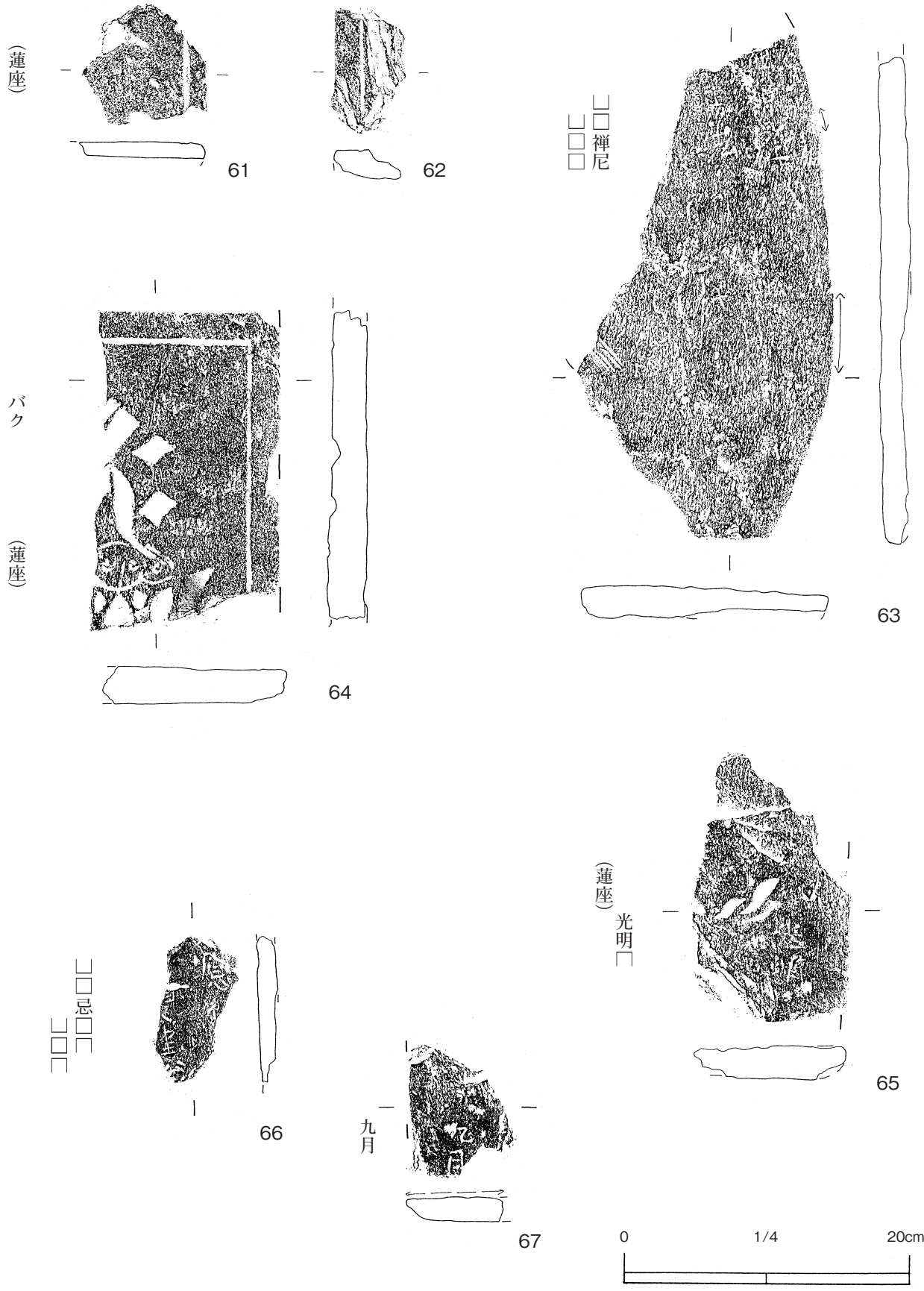
第40図 石製品類3 (石臼3・砥石1・他)



第41図 石製品類4 (砥石2)

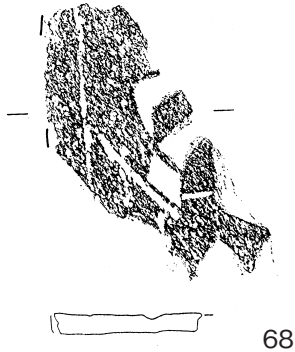


58 第42図 石製品類5 (磨石・他)



第43図 石製品類6 (板碑1)

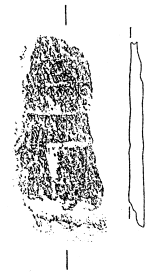
キリク(蓮座)



68



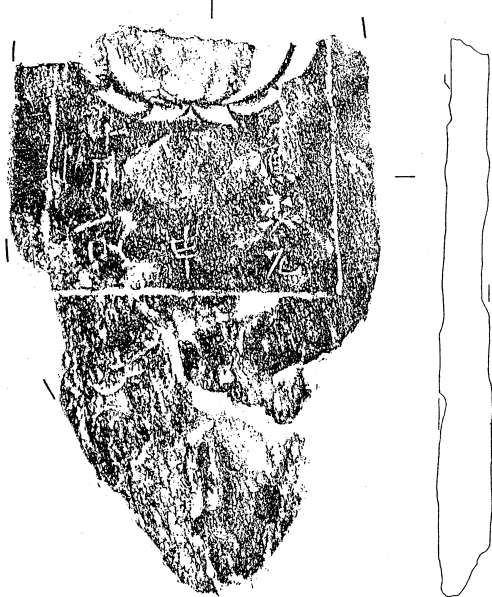
69



70

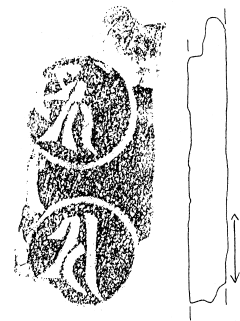
(蓮座)

應安元
戊申
十月一日
(1368)



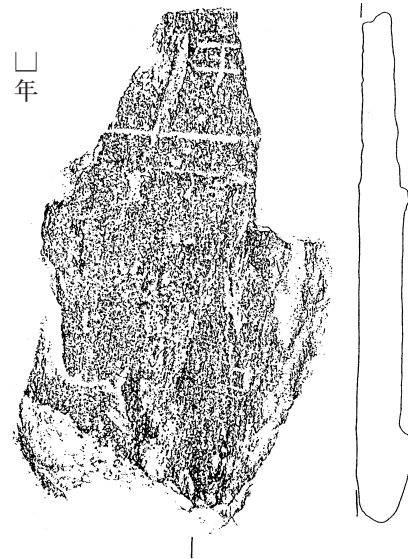
71

バイ(月輪)サ(月輪)

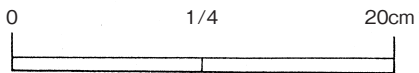


72

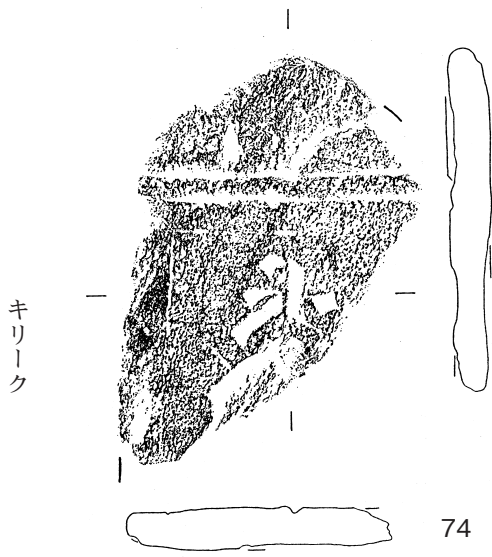
□年



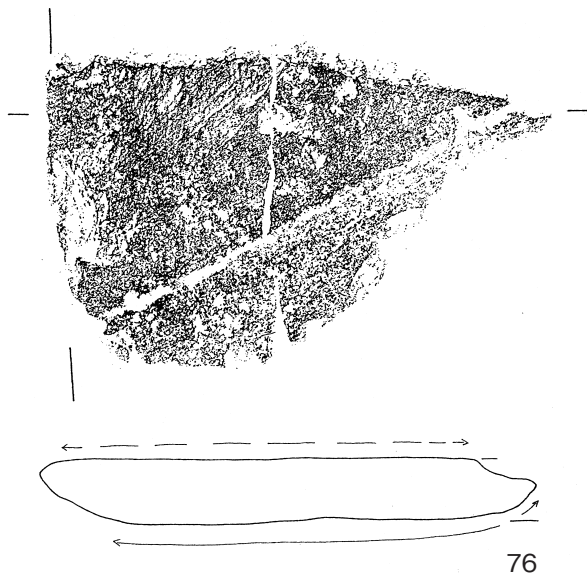
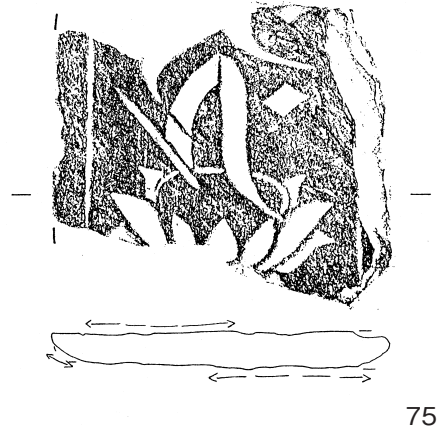
73



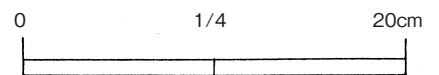
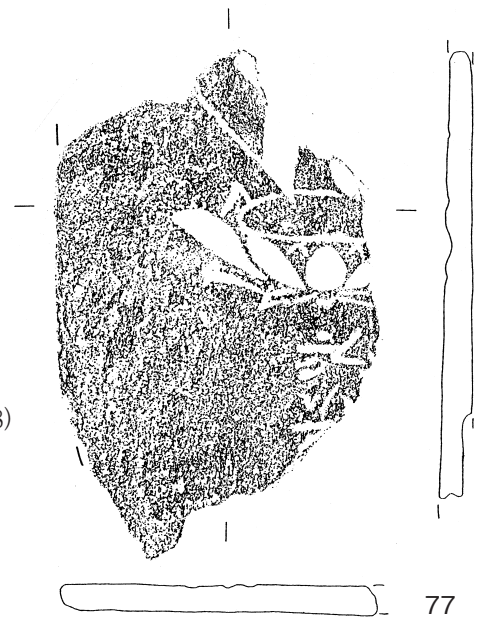
第44図 石製品類7 (板碑2)



キリーク(蓮座)

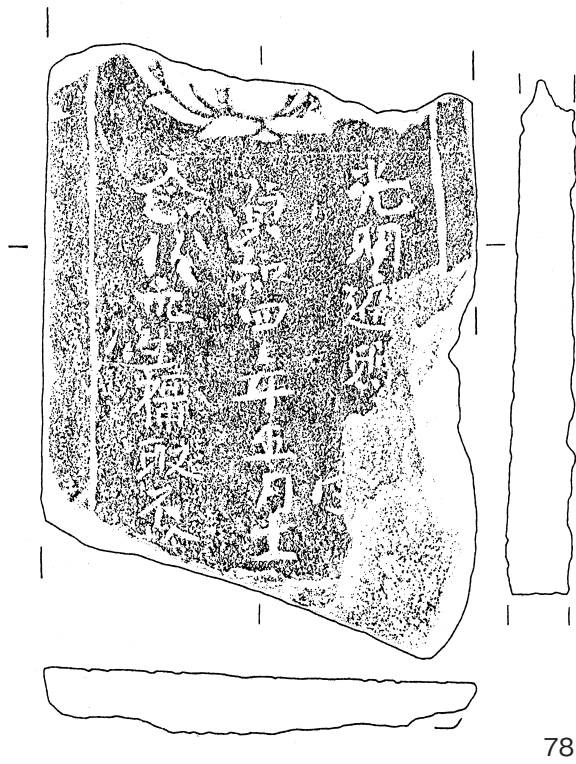


キリーク_カ(蓮座)弘安
(1277~88)



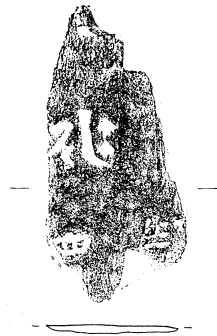
第45図 石製品類8 (板碑3)

蓮座
光明遍照王^四世^四圓
貞和四年五月十一日
念仏衆生撰取不^四輪
(1348)



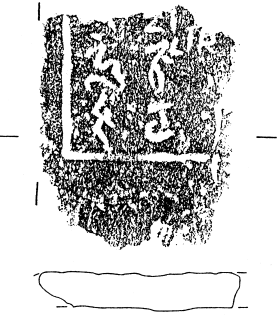
78

サク
四生



79

光明真言



80

第46図 石製品類9 (板碑4)



48次 かわらけ (土-163) 出土

出土した遺物

() は残存値

法量の単位は cm

図No	遺物名	材質	調査名	出土地点(遺構名/)	長さ	幅	厚さ	遺物 ID	備考
1	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第42次	1溝上層/No102		(26.0)	14.0		下部スス付着
2	粉挽臼(上臼)	花崗岩カ	第42次	1溝上層/No99、11井No3		(17.8)	11.0	石1	〃
3	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第42次	1溝上層/No100		(13.3)	11.3	石3	上下面黒化 スス付着 一部赤化
4	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第42次	1溝上層/No101		(12.6)	12.0	石4	
5	粉挽臼(上臼)	普通輝石安山岩	第42次	31壙 No48		(4.4)	(5.5)	石2	
6	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第48次	1溝上層No1・9		(28.2)	(8.5)	石13	2分割
7	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第48次	4溝 C層No96		(4.5)	(6.2)	石16	
8	茶臼(下臼)	角閃石安山岩	第48次	4溝		(5.8)	(4.1)	石18	上面黒色付着物
9	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第48次	8井No13		(15.4)	13.5	0048-0001	
10	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第48次	13井No3		(15.1)	(10.0)	石11	上部割口黒色付着物
11	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第48次	13井No5		(9.9)	(10.7)	石14	
12	粉挽臼(下臼)	角閃石安山岩	第48次	13井No14		(12.5)	(10.9)	石15	
13	粉挽臼(上臼)	安山岩	第48次	13井No15		(12.3)	(9.2)	石17	
14	粉挽臼(上臼)	角閃石安山岩	第48次	14井		(3.8)	(6.8)	石12	下面スス付着
15	茶臼(下臼)	安山岩	第48次	17井No1		(6.0)	(5.7)	石19	
16	碁石	不明	第48次	一括	1.5	1.9	0.6	0048-0002	
17	碇	不明	第42次	P No75	7.4	5.2	1.4	石6	
18	有孔石製品カ	砂岩	第42次	5壙No3(P)	(5.9)	(5.2)	(2.6)	0042-0002	
19	石製円盤	緑泥片岩	第48次	13井	7.3	7.9	0.8	0048-0003	
20	墨書石	不明	第48次	9井	10.5	(7.8)	3.6	石10	
21	砥石	泥岩	第42次	1溝No44	(9.8)	(4.2)	(3.8)	0042-0001	
22	砥石	泥岩	第42次	一括	(7.3)	(3.8)	(2.6)	0042-0006	
23	砥石	泥岩	第42次	一括	(5.0)	1.9	1.4	0042-0007	
24	砥石	泥岩	第48次	1溝上層	(4.8)	3.4	(2.4)	石1	
25	砥石	泥岩	第48次	16井	7.2	3.3	2.3	石2	
26	砥石	泥岩	第48次	15壙No1	7.7	3.5	2.9	石3	
27	砥石	泥岩	第48次	20壙No2	6.7	2.1	1.6	石4	
28	砥石	泥岩	第48次	P No18	7.6	4.3	3.2	0048-0005	
29	砥石	泥岩	第48次	P No82	4.3	1.8	1.5	0048-0006	
30	砥石	不明	第42次	10井	10.1	(10.9)	(4.1)	0042-0002	角閃石を含む
31	砥石	緑泥片岩	第42次	11井No2	16.5	8.4	2.2	0042-0003	
32	砥石	片岩	第42次	P No153	9.9	5.9	1.0	0042-0004	
33	砥石	緑泥片岩	第42次	一括	12.9	7.3	1.4	0042-0005	
34	砥石	緑泥片岩	第48次	4b+4c 溝 No56	(13.4)	(5.2)	(1.5)	0048-0001	
35	砥石	緑泥片岩	第48次	5井No2	14.6	9.2	2.2	0048-0002	
36	砥石	緑泥片岩	第48次	13井No6	14.2	9.2	1.9	0048-0003	
37	砥石	緑泥片岩	第48次	13井No7	11.3	6.8	1.1	0048-0004	
38	砥石	緑泥片岩	第48次	一括	7.1	4.5	0.9	0048-0007	
39	磨石	デイサイト	第42次	2井1層No2	6.7	4.1	(3.2)	石5	
40	磨石	デイサイト	第42次	10井	11.4	7.4	6.4	石7	
41	磨石	デイサイト	第48次	1溝上層	6.8	4.5	2.7	石5	
42	磨石	デイサイト	第48次	1溝上層	4.5	2.6	2.4	0048-0009	
43	磨石	デイサイト	第48次	2溝No8	3.0	3.7	2.9	0048-0008	
44	磨石	デイサイト	第48次	4b+4c 溝 No26	7.1	5.0	2.1	石6	
45	磨石	デイサイト	第48次	8井	7.2	5.1	2.5	石7	
46	磨石	デイサイト	第48次	12井No6	9.1	7.1	3.2	石8	
47	磨石	デイサイト	第48次	12井	3.0	2.0	1.8	0048-0010	
48	磨石	デイサイト	第48次	13井	5.7	4.8	2.5	石9	
49	磨石	デイサイト	第48次	17井	5.9	5.6	3.7	0048-0011	
50	磨石	角閃石安山岩	第48次	P No17	6.3	4.0	2.6	0048-0012	
51	磨石	デイサイト	第48次	P No60	4.3	3.7	1.0	0048-0013	
52	磨石	デイサイト	第48次	一括	8.7	4.7	3.6	0048-0014	
53	磨石	デイサイト	第48次	一括	4.4	4.3	3.3	0048-0015	
54	磨石	デイサイト	第48次	一括	3.4	4.5	2.5	0048-0016	
55	磨石	デイサイト	第48次	一括	3.4	2.6	2.0	0048-0017	
56	磨石	デイサイト	第48次	一括	4.4	3.7	1.9	0048-0018	
57	磨石	デイサイト	第48次	一括	2.6	(2.3)	0.7	0048-0019	
58	敲石	砂岩?	第48次	P No92	9.6	7.7	3.3	0048-0020	
59	火打石	石英	第42次	P No167	3.4	2.7	3.1	0042-0008	
60	火打石	石英	第42次	P	3.0	2.8	2.0	0042-0009	

第13表 石製品一覧表 1

() は残存値

法量の単位は cm

図No.	遺物名	調査名	出土地点	縦×横×厚	遺物 ID	備考
61	板碑	第42次	1溝No27	(9) × (9) × (1)	0042-0005	
62	板碑	第42次	3井No18	(9) × (5) × (2)	0042-0006	
63	板碑	第42次	6井 No1	(36) × (18) × 2	0042-0001	側面潰れ 摩擦
64	板碑	第42次	8井 No10	(24) × (14) × 3	0042-0002	裏面平滑 一部黒化
65	板碑	第42次	No23	(20) × (11) × 2	0042-0003	裏面平滑
66	板碑	第42次	一括	(11) × (7) × 1	0042-0004	
67	板碑	第48次	4a 溝 No10	(10) × (8) × 2	0048-0001	表面摩耗
68	板碑	第48次	4a 溝 No67	(16) × (12) × 1	0048-0004	
69	板碑	第48次	4b+4c 溝 No29	(22) × (11) × 2	0048-0002	摩耗顕著 被熱黒化
70	板碑	第48次	4b+4c 溝 No61	(10) × (5) × 1	0048-0003	
71	板碑	第48次	5井 No1	(32) × 20 × 3	0048-0005	線条痕 摩耗痕
72	板碑	第48次	11井 No8	(16) × (8) × 2	0048-0006	裏面 砥石として使用
73	板碑	第48次	11井 No21	(28) × (15) × 2	0048-0007	表 被熱 黒化
74	板碑	第48次	12井 No3	(23) × (17) × 2	0048-0008	裏面 黒化
75	板碑	第48次	12井 No4	(18) × (18) × 2	0048-0009	側面摩耗
76	板碑	第48次	13井 No10・11	(21) × (27) × 3	0048-0010	表裏摩耗
77	板碑	第48次	14井	(27) × (17) × 2	0048-0011	
78	板碑	第48次	14井	(33) × (23) × 4	石20	
79	板碑	第48次	14井	(16) × (8) × (1)	0048-0013	
80	板碑	第48次	17井	(13) × (11) × 2	0048-0012	表面平滑 表裏被熱 裏面黒化

第14表 石製品一覧表 2



48次 20~24壙完掘

第V章 まとめ

第1節 騎西城武家屋敷跡第42次調査

武家屋敷跡の西で北側に位置する。『武州騎西之絵図』（17世紀初頭の制作か。以下絵図）では武家屋敷を東西に貫く主要路の北で御蔵屋舗の東にあり、無記名の屋敷地周辺に相当する（第47図）。

1号溝確認面で、粉挽臼のまとまった出土があった。井戸は総数13基を数える（1基は土壇か）。比較的多く、長い間生活が営まれた空間であったと思われる。15号土壇では、鉄鏝・覆輪・かわらけが出土しており特徴的だが、銭貨は出土せず墓壇以外の用途が考えられる。

第2節 騎西城武家屋敷跡第48次調査

武家屋敷跡の西で北側に位置する。『絵図』では武家屋敷を東西に貫く主要路の北にあり、「吉野伝右衛門」「大久保左兵衛」屋敷地の周辺に相当する（第47図）。

1・4・5号溝は深く掘り込まれた溝である。1号溝は北端で屈曲し、北にある障子堀を意識しているものと思われる。また、KB10区の1号溝（幅313cm）と平行するもので、規模は小さいが1号溝も意識した区画溝であろうか。井戸は18基を数える（3基は土壇か）。南側に多く、屋敷地の占地状況を暗示する。調査区のほぼ中央に、墓壇である35号土壇、良好な遺存状態の小柄を出土する32号土壇がある。

墨書石（石-20）の出土は騎西城跡唯一で、描かれたものは不明瞭であるが、現在のところ塔様のものとした。類例を探し検討したい。

第3節 蘇民将来符

第42・48次の調査では、蘇民将来符が1点ずつ井戸の覆土洗浄により出土している。42次のもは、「蘇民将来之子孫也」、48次のもは「蘇民将来子孫人也」と墨書されている。他に騎11次出土の1点（未報告）は「蘇民将来子孫人也」とある。その差については今後の課題としたい。

また、蘇民将来符はこれまで5点出土しているが（他に騎11次2点・KB4区1点）、ほとんどが覆土洗浄による井戸出土である。溝は覆土を洗浄していないという調査方法に起因する可能性もあるが、井戸のみの出土に意味を求める必要があろう。



第47図 各地区の武家屋敷内の推定位置

第VI章 遺物概観

これまで、騎西城跡及び武家屋敷跡（以下『騎西城跡』）の報告を行ってきたが、今回出土遺物のなかで、特に漆器・かわらけを取り上げ「概観」という形で、まとめを述べたい。

漆器は、『騎西城跡』出土木製品の中で圧倒的な量を誇るものであり、既報告のものに加え、今後報

告予定の中から実測図作成済みのものを取り扱うこととする。

かわらけについては、遺構などの時期決定や、流通・支配関係の想定材料となるものである。かわらけは、既報告の資料を扱う。

第1節 漆器

騎西城跡および武家屋敷跡（以下『騎西城跡』）からは多量の木製品が出土しており、なかでも多くの漆器が確認できる。その数は破片も含めて230点ほどである。今回はそのうち、未報告分も含めて実測済み122点、第48図掲載の21調査区出土のものについてふれる。実測図は第49～62図、法量その他の一覧は第15～18表である。

ここでは、漆器のなかでも椀類に注目し、まず、形態と、塗り（内外面、高台裏）と施文の色・位置・意匠などにより分類を行った。

次に、樹種について検討した。樹種等の分析を実

施した資料は少なく、残念ながら不明のものがほとんどである。

また、漆器がまとまって出土している遺構があり、そのうち KB16区・KB19区の堀における出土状況を確認し検討した。残念ながら KB19区では未実測で掲載できなかったものが多いが、これらの資料には多くの情報が含まれているものと思われ、今後検討し成果が期待できるものである。

今回扱った漆器の年代は、共伴遺物からおおよそ15世紀末から16世紀代を中心とするものと思われる。

（1）分類

1) 形態分類（第63・64図）

まず形態の特徴により4分類した。大型で身の深い椀をⅠ類、小型で浅い椀をⅡ類とした。以下便宜上Ⅰ類を大型椀、Ⅱ類を浅型椀と呼ぶことにする。身の腰が張り、胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものをⅢ類、浅い皿状のものをⅣ類とした。さらに以下の通り細分した。

Ⅰ類

- Ⅰ a 類：大型であり、高台裏の抉りが浅いもの
- Ⅰ b 類：大型であり、高台裏の抉りが深いもの
- Ⅰ c 類：やや小型で、器厚が薄く、身が深いもの
- Ⅰ d 類：やや小型で、口径がやや小さく身が深いもの
- Ⅰ e 類：a・b 類に比べ小型であるもの
- Ⅰ f 類：低い高台で身が深いもの
- Ⅰ f' 類：f 類と同様であるが、器厚がきわめて薄いもの
- Ⅰ g 類：低い高台であまり身が深くないもの

Ⅱ類

- Ⅱ a 類：低い高台で高台裏の挟りがわずかで、胴部から口縁部にかけて内湾し、やや身が深いもの
- Ⅱ b 類：低い高台で高台裏の挟りが明確で、胴部から口縁部にかけて開く身が浅いもの
- Ⅱ b' 類：Ⅱ b 類と同様であるが、口縁が直上するもの
- Ⅱ c 類：低い高台で高台裏の挟りはわずかで、胴部から口縁部にかけて内湾するもの
- Ⅱ c' 類：Ⅱ c 類と同様であるが、高台裏の挟りが明確であるもの
- Ⅱ d 類：低い高台で高台裏の挟りが明確で、胴部から口縁部にかけてやや開きながら内湾する。a・b・c 類より身が浅いもの
- Ⅱ e 類：低い高台で高台裏の挟りが明確で、胴部から口縁部にかけて屈曲し、やや立上がるもの
- Ⅱ f 類：全体に薄作りで、低い高台がわずかにある。胴部から口縁部にかけて丸く内湾するもの

Ⅲ類

- Ⅲ類：細分化せず、腰が張り胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる碗をまとめた。3のように小型のものもあれば、36のように比較的大きなものもある

Ⅳ類

- Ⅳ a 類：胴部が口縁部に向け直線的に広がるもの (52・13)
- Ⅳ b 類：腰を張りながら直線的に立ち上がるもの
- Ⅳ c 類：非常に器厚が薄く丸みを帯びたもの。形状は異なるが、器厚や口縁部への立ち上がりかたなどが、Ⅱ類の93に様相が似ている (100)

○確認

I 類 (第63図)

I a 類の1は大型で高台裏の挟りが浅いが、胴部から口縁部にかけて広がる形状で他のものとは異なる。この碗については、KB1区17号土壇出土で共伴遺物から17世紀前半と考えられる。83・88は胴部から口縁部にかけて内湾する。いずれもKB19区出土のものである。他に29・44・72などがある。

I b 類では、73・77・75はいずれも胴部から口縁部にかけて丸くカーブを描いている。3点ともKB19区出土であるが、他にもこの区からは多く出土している。調査区は異なるが64・112・119なども該当する。

I c 類の122は、一般に皆朱と呼ばれる全面赤色の碗である。高台が薄く外に開き、腰が少し張っている。HG8次13号溝出土で、この形状の皆朱碗は1点のみである。

I d 類の80は、高台が低く厚い。胴部から口縁部にかけてやや内湾する。

I e 類は、78・81のようにb類より小型のものである。高台裏の挟りは深く、高台下部はやや外に広がっている。116・118もe類である。

I f 類の105・46は、高台が低いのに対し身が深いもので、胴部から口縁部にかけて狭くなる。111も該当する。f'類の79については大きさ等からf類に分類したが胴部の器厚が非常に薄く、他と比べ硬質感のある漆のため分けた方がよいと思われる。ただし、KB19区6号堀から大型碗などとともに出土している(第66図)ことから、大型碗との時期差は考えにくい。

I g 類は、5のみである。KB7区1号溝出土で共伴遺物から15世紀後半～17世紀前半の間に収まるものである。胴部が丸みを帯びて低く、小さい径の

高台である。

Ⅱ類 (第64図)

Ⅱ a 類の96はやや身が深い。Ⅰ類とⅡ b 類との中間形態であるため、どちらに入れるか苦慮したが、Ⅰ類より底径が大きいことからⅡ類とした。他に45が異なる調査区で出土している。

Ⅱ b 類の26・39は、小さめの低い高台から口縁にかけて大きく直線的に開く少し深めの椀である。他に68・108などがある。

Ⅱ c 類の30は、胴部から口縁部にかけて、ゆるやかに丸く内湾し、少し身が深めである。類例が少ない。

Ⅱ d 類の67・16・51は、ごく低い高台で、高台裏を明確に抉っている身が浅めの椀である。Ⅱ a・b 類より浅い。胴部から口縁部にかけて内湾する。多数の調査区でみることができる。

Ⅱ e 類の114は、低い高台から、少し腰を張って口縁部へと立ち上がる。この114以外には今回該当するものがなかった。

Ⅱ f 類の93は、器厚が非常に薄く、口縁部にかけて半球状に内湾する皆朱椀である。低い高台は、わずかに外反する。大型椀のⅠ b 類94やⅡ b 類92などと共伴するが、これに類似するものは確認できていない。

○法量及び形態

口径と器高との関係については、第67図のグラフに示した。

グラフ1では、Ⅰ類の大型椀とⅡ類の浅型椀の器形により分布状況が明確に異なる。

Ⅰ類は口径が大きく14cm前後で、器高は8～10cmに分布が集中している。

一方、Ⅱ類は口径が12cm前後で器高が4cm程度のものと、口径が13～14cm前後で器高が5～6cm程度のものが存在する。前者はⅡ d 類などが、後者はⅡ a・b・c 類が該当する。この傾向はKB19区でも確認できる(グラフ2)。また、Ⅱ類についてKB16区とKB19区の比較では同様の分布である(グラフ3)。

Ⅲ類については胴部から口縁部にかけての、直線的な形態は、新しい様相を示し、江戸初期に多く見ることができる椀類の形態であろう。

2) 塗り分けによる分類

ここでは、椀の器面全体がどのように塗られているかに注目し、内面・外面・高台裏の色の塗り分けの組み合わせにより6分類した。すべて黒色のものを**A類**、内面が赤色、外面・高台裏が黒色のものを**B類**、すべて赤色のものを**C類**、内・外面が赤色、高台裏が黒色のものを**D類**、内面・高台裏が黒色、外面が赤色のものを**E類**とした。

さらに、必要に応じて、それぞれの施文の有無、色などにより細分した。

色については、成分などの化学分析を実施しておらずベンガラと丹などの区別がつかないため、ここでは器面全体の彩色については、赤色は赤色塗彩、黒色は黒色塗彩とした。施文の彩色については、赤色は赤色施文、黒色は黒色施文とした。

- A類-1：内外面・高台裏が黒色塗彩で、赤色で施文
- 2：内外面・高台裏が黒色塗彩で、無文
- 3：内外面・高台裏は黒色塗彩で、施文の有無は不明

- B類-1：内面赤色塗彩、外面・高台裏黒色塗彩で、赤色で施文
 -2：内面赤色塗彩、外面・高台裏黒色塗彩で、無文
 -3：内面赤色塗彩、外面・高台裏黒色塗彩で、施文の有無は不明

C類：内外面・高台裏が赤色塗彩で、黒色で施文

D類-1：内外面赤色塗彩、高台裏は黒色塗彩で、赤色で施文

- 2：内外面赤色塗彩、高台裏は黒色塗彩で、無文

E類：内面黒色塗彩、外面赤色塗彩、高台裏黒色塗彩で、黒色で施文

○確認

塗り分け：以上の分類により集計したものが第68図の円グラフである。グラフ4では全て黒色塗彩のもの（A類）と内面のみ赤色塗彩で、外面・高台裏は黒色塗彩のもの（B類）がほとんどの割合を占めていることがわかる。また、グラフ5・6では、A・B類とも赤色の施文をする1類が多く占めていることがわかる。

また、図や一覧表を見ると、A類と、B類が多く見られる中で皆朱の椀類（C類）もごく少量ながら存在している（9・29・122）。室町時代制作の『酒飯論絵巻』に皆朱の漆椀と思われるものが多く描かれていることから、古い形を引き継いでいる可能性が考えられる。

施文の彩色：ほとんどが赤色を使用しており、器面全体の彩色は内外面・高台裏は黒色塗彩、または内面のみ赤色塗彩のものが多い。その中で黒色の施文は4例のみである。赤色の施文が主流であったのか、黒色の施文とは年代が異なるのかは、『騎西城跡』の漆器出土遺構の年代がはっきりしないことから、現在確認することは難しい。ただし、KB19区出土のB1類の椀と共にE類（78）の椀が同じ堀、層から出土していることは赤色施文と黒色施文が同時期のものと考えられるべきであろう。また、赤色塗彩に黒色の施文している113は、形態からも江戸時代の可能性が高い。

施文の意匠：赤色で、鶴や亀・松・亀甲文・菊水・波に千鳥・扇面など吉祥文様が多い。他に九曜文・巴文・帆掛け船などがある。また鳥文・草花文などもあるが、意匠名を特定できないものも多い。その中で、各1点ではあるが、椿や楓・朝顔・沢潟などの身近な意匠を明確に描いている。

高台裏には四つ割菱（以下四つ菱）を描くものが多数を占めるが、「一」・「井上」のように文字が描かれているものもある。また高台裏には漆による施文ばかりでなく線刻も数点存在している。漆と線刻の共存は何を意味しているのか。

『騎西城跡』では鶴丸と呼んでいる「丸に鶴」の文様は、深谷城跡^(*)や忍城跡、栗橋小草原遺跡^(*)でも出土している。「丸に鶴」を描いた漆椀は、小田原城跡や葛西城跡でも出土している。小田原城と葛西城のものは繊細な描き方であることから『騎西城跡』とは異なるものと指摘されている^(*)。文様の描き方が異なるとはいえ、「丸に鶴」の意匠を共通して用いていることは、北条氏の影響下に入ったことと関係があることを想定させる。一方、静岡県焼津市の小川城跡^(*)の漆椀にも「丸に鶴」が描かれている。他に福井県一乗谷朝倉館や愛知県清洲城下町などでも出土している。「丸に鶴」の起源はどの地域に求めるべきであろうか。

他に、半円の中に幾何学文様の一部のようなものが描かれているものも多く存在する。43・87などから、一部のものは亀甲文の省略と思われる。同様に88では、外面に鶴が、内面にも鳥が描かれ、内面の鳥が鶴であると想定できるため、やはり省略されたものと思われる。

この他、意匠の名称等、不明点が多い。

(2) 樹種について

次に樹種であるが、『騎西城跡』での科学分析は前述したようにほとんどおこなわれていない。数少ない樹種分析の結果では、ハンノキ・クリ・ブナ・トチノキなどの広葉樹が多い中で、69のスギは珍しい。トネリコなども使用されている。このような傾

向は行田市の忍城跡^(*)でも見られ、クリ、トネリコが主流である。これらの樹種の違いから漆碗の製作地、流通路などをたどっていくことができればと思っている。

(3) 出土状況から考えて

『騎西城跡』のなかで、出土状況が確実に確認でき、漆器が多く出土しているのがKB16区とKB19区である。いずれも報告書未刊行であるが、ここでふれておく。

KB16区7号堀では漆器が9点出土している(第65図)。52は皿、59も皿状のものであり、他は漆碗である。レベル計測値から土層に落とすと3・4層に集中しており、I類の大型碗とII類の浅型碗が同じ層から出土することから両者に時間差はないと思われる。

KB19区C区6号堀(第66図)のものは良好な資料であるが、他に未図化のものも多く出土している。

この中で出土位置が確認できた漆碗が19点で、5～9層にわたる。特に7層では多くの漆碗が集中して出土し、KB16区と同様、大型碗と浅型碗が共存している。

以上のことから、I類の大型碗とII類の浅型碗については時代差ではなく同時に存在し、用途が異なるものと考えられる。

(4) まとめにかえて

『騎西城跡』では、多くの漆器が出土している。その中で漆碗の出土量は県内では多い方であると思われる。今回は、図化できたものについて分類を試みた。

漆碗の形態については、I類の大型碗、II類の浅型碗が多くを占めている。大型碗は飯碗に相当すると思われ、後に一の碗と呼ばれるものになり、浅型碗は二の碗、三の碗に変化した可能性がある。さらに蓋が、1点のみの出土という少なさから江戸時代に確立する三重碗、四重碗への過渡期であったものであろう。

塗りについては、赤色で施文した内外面黒色塗彩が主流であった。無文様の皆朱からどのような過程をたどったのか。『酒飯論絵巻』には、黒色塗彩に文様のあるものが見られるため中世において少しずつ増加し、戦国期に入り関東では爆発的に増加した可能性が考えられる。

また、鶴丸の意匠の伝播についても興味がある。今後、その変化など他遺跡と比較し追跡できればと思っている。

漆碗の年代については、出土遺構の年代が現在確定していないため、ふれることはできなかったが、今後の整理の結果をふまえて編年を行いたい。

『騎西城跡』出土の漆器については、不明なことが多く、多くの方々にこれらの資料を目にとめていただいて、是非ご教示をお願いいただきたい。

- * 1 埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘報告書 第77集 『深谷城跡(第8～11次)』 2006
- * 2 『栗橋町史 第3巻 資料編一 原始・古代・中世』 2008
- * 3 佐々木健策 「小田原城のかわらけと漆碗」『葛西城と古河公方足利義氏』葛飾区郷土と天文の博物館編 雄山閣 2010
- * 4 焼津市考古資料調査報告書 『小川城』 2003 焼津市
- * 5 行田市文化財調査報告書 第57集 『忍城(8次)発掘調査報告書—自然化学分析編—』 2014

参考文献

- 『小田原城下 欄干橋町遺跡第IV地点』 小田原市文化財報告書第67集 1998
- 平成15年度小田原市緊急発掘報告書11 『小田原城下 本町遺跡第III地点』 小田原市文化財報告書 第146

集 小田原市教育委員会 2008

『小田原城三の丸 杉浦平太夫邸跡第Ⅳ地点 大久保弥六郎邸跡第Ⅲ地点』 小田原市 玉川研究所 2008

葛飾区遺跡調査会報告書第47集 『葛西城X X』 葛飾区遺跡調査会 2001

『松本城三の丸跡 土居尻第1次 -緊急発掘報告書- ~遺物編2(木器編)~』 松本市教育委員会 2003

四柳嘉章 『漆Ⅰ』 ものと人間の文化史131-1 法政大学出版局 2006

四柳嘉章 『漆Ⅱ』 ものと人間の文化史131-1 法政大学出版局 2006

四柳嘉章 『漆の文化史』 岩波書店 2009

中井さやか 「漆椀-近世出土資料を中心として-」『江戸の食文化』 江戸遺跡研究会第1回大会 発表要旨

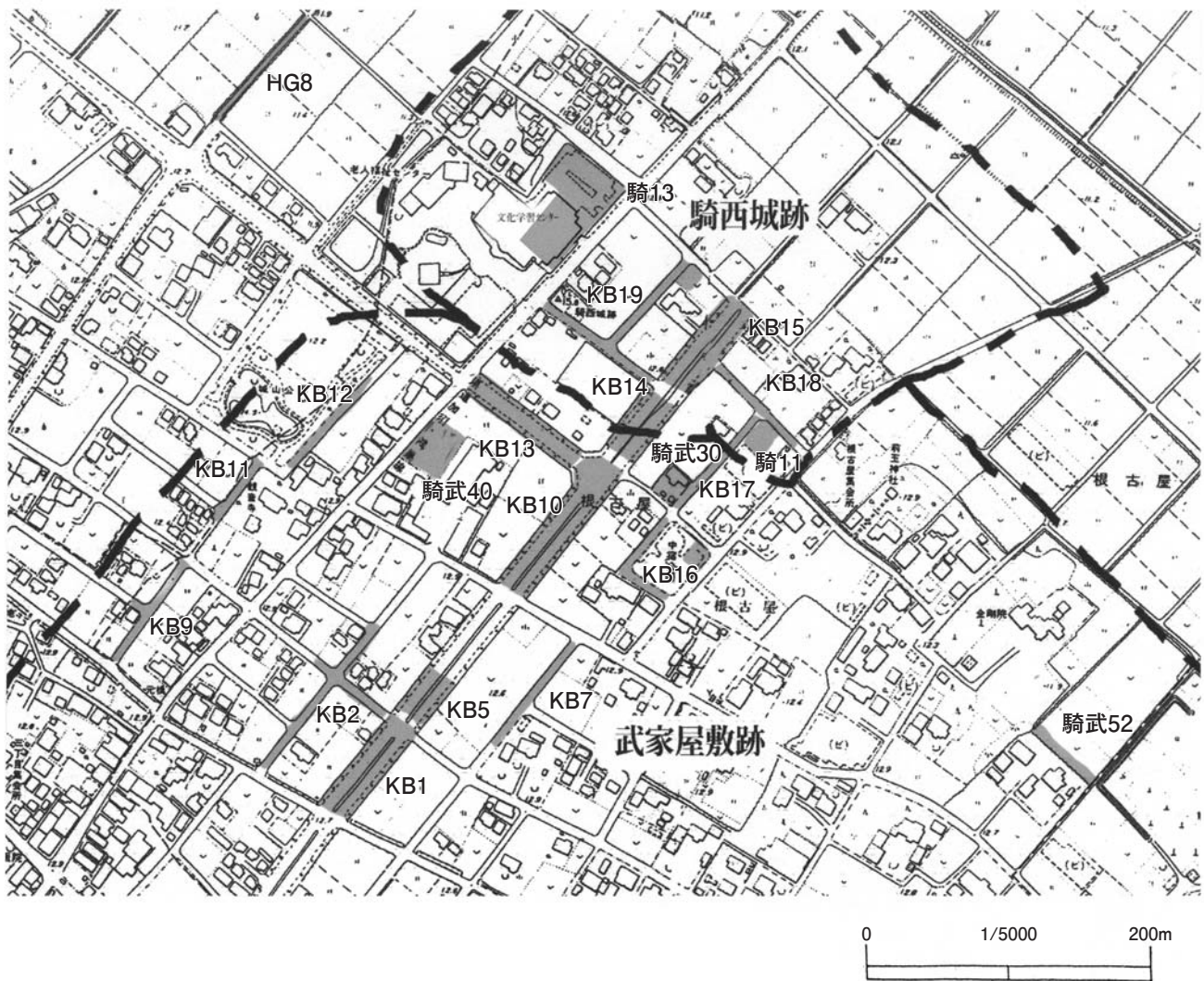
中井さやか 「近世の漆椀について-その器種と組み合わせを考える-」『江戸時代の食文化』 江戸遺跡研究会編 吉川弘文館 1992

平成30年秋期特別展 『酒飯論絵巻 ようこそ中世の宴に世界へ』 茶道資料館 2018

『御影堂平成大修復事業記念 西本願寺展』 2003

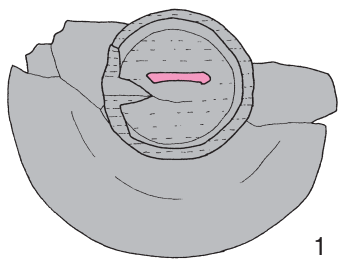
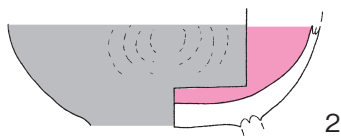
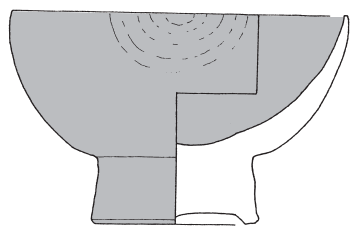
淡交別冊 『漆の美-茶の湯とくらしのかたち』 淡交社 1992

『図説江戸考古学研究辞典』 江戸遺跡研究会 柏書房 2001

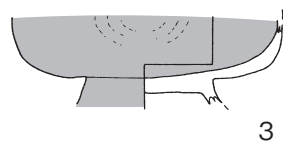


第48図 概観 漆器出土の調査区

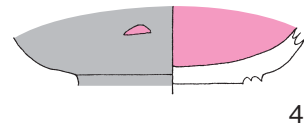
KB1区



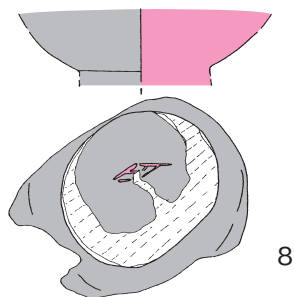
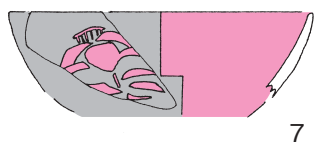
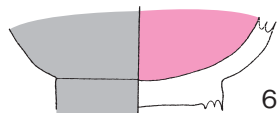
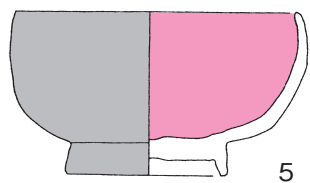
KB2区



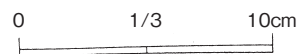
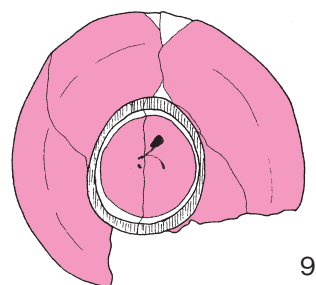
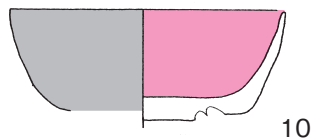
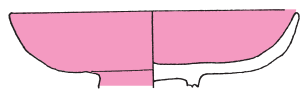
KB5区



KB7区

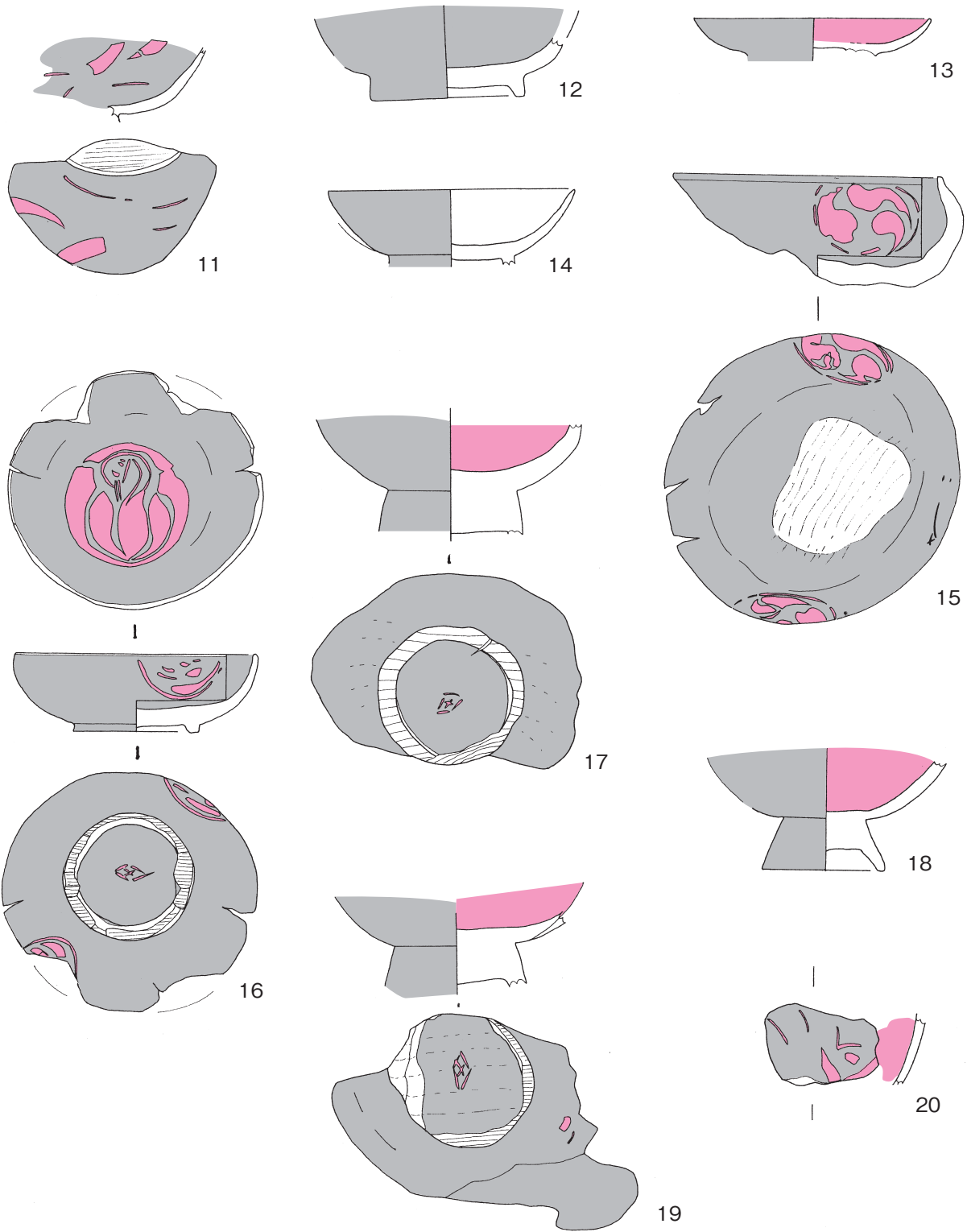


KB9区



第49図 漆器 1

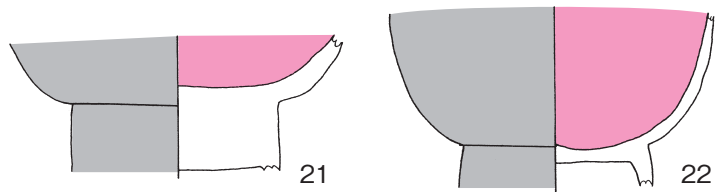
KB10区



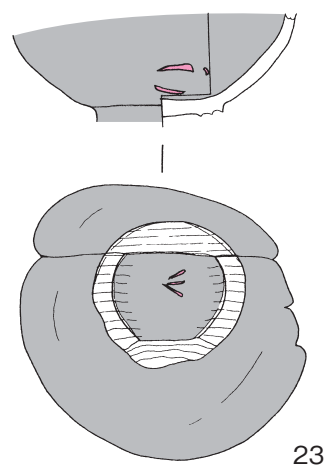
0 1/3 10cm

第50图 漆器 2

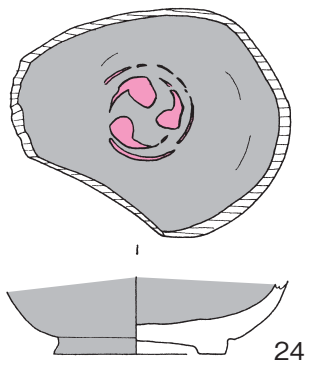
KB11区



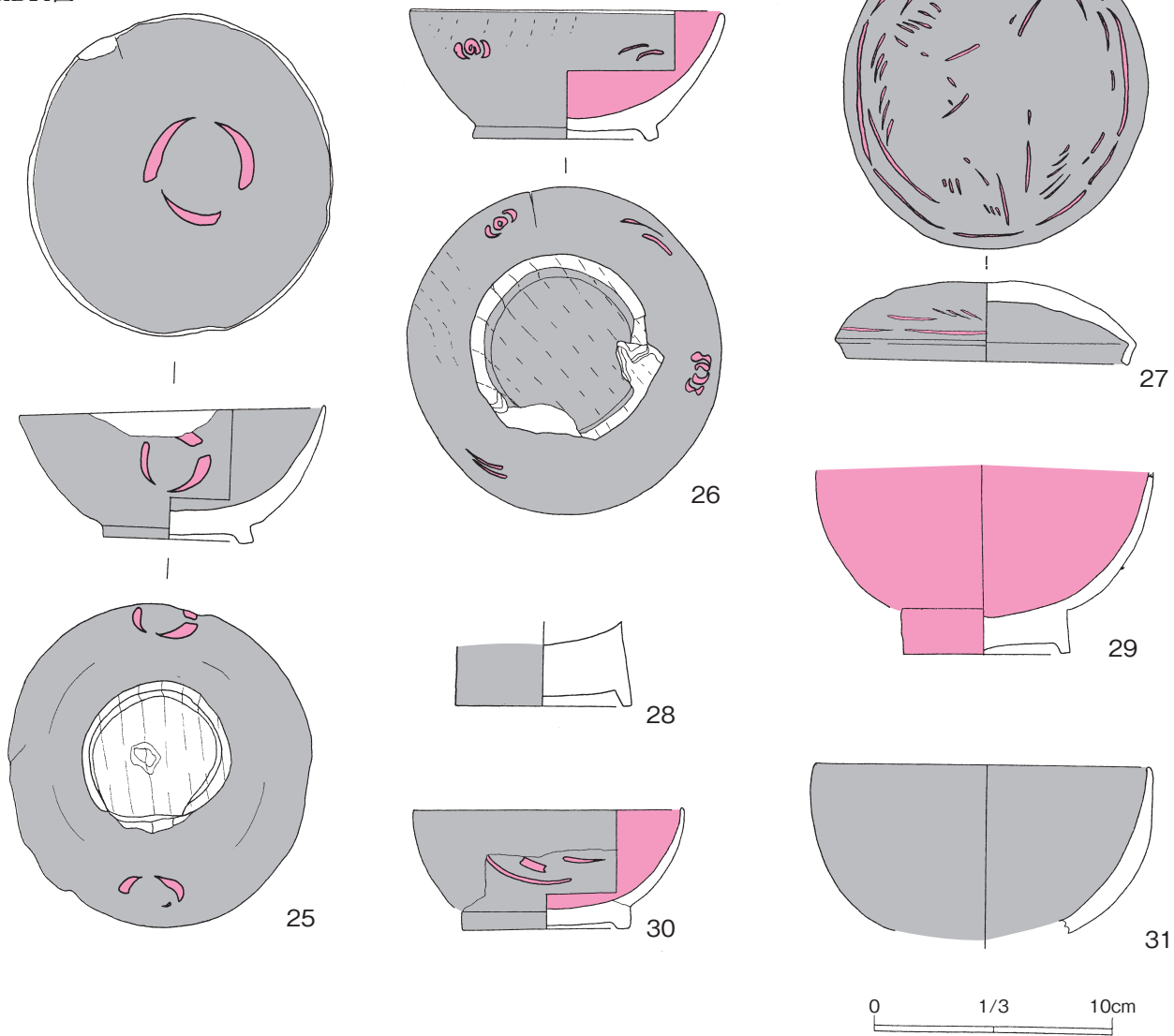
KB12区



KB13区

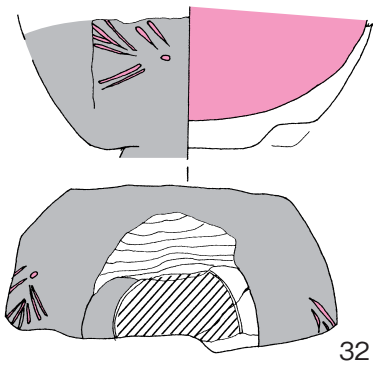


KB14区

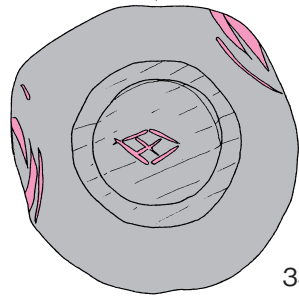
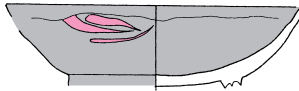
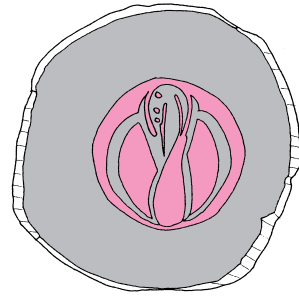


第51図 漆器 3

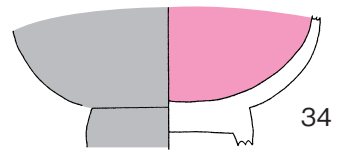
KB15区



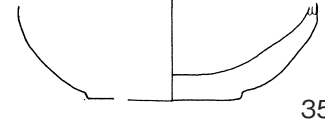
32



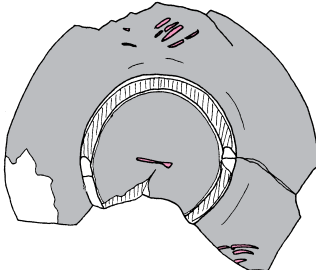
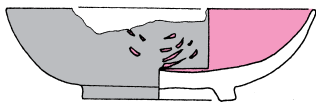
33



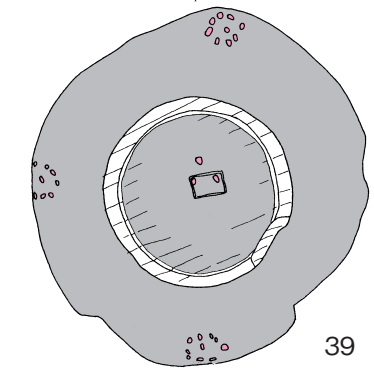
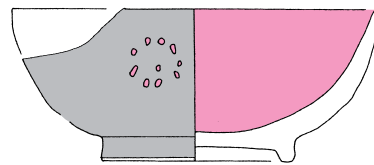
34



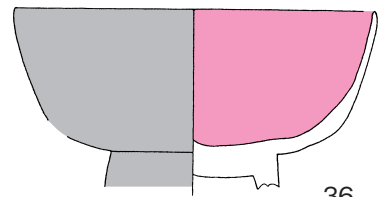
35



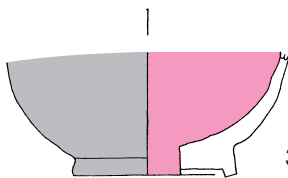
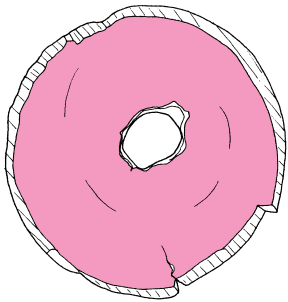
37



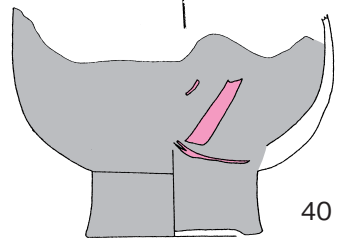
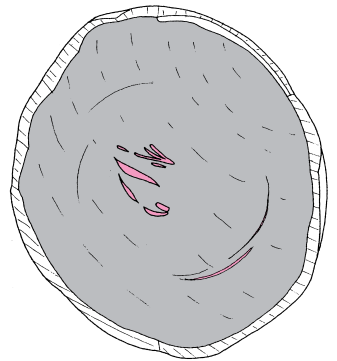
39



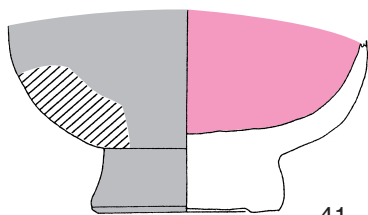
36



38



40



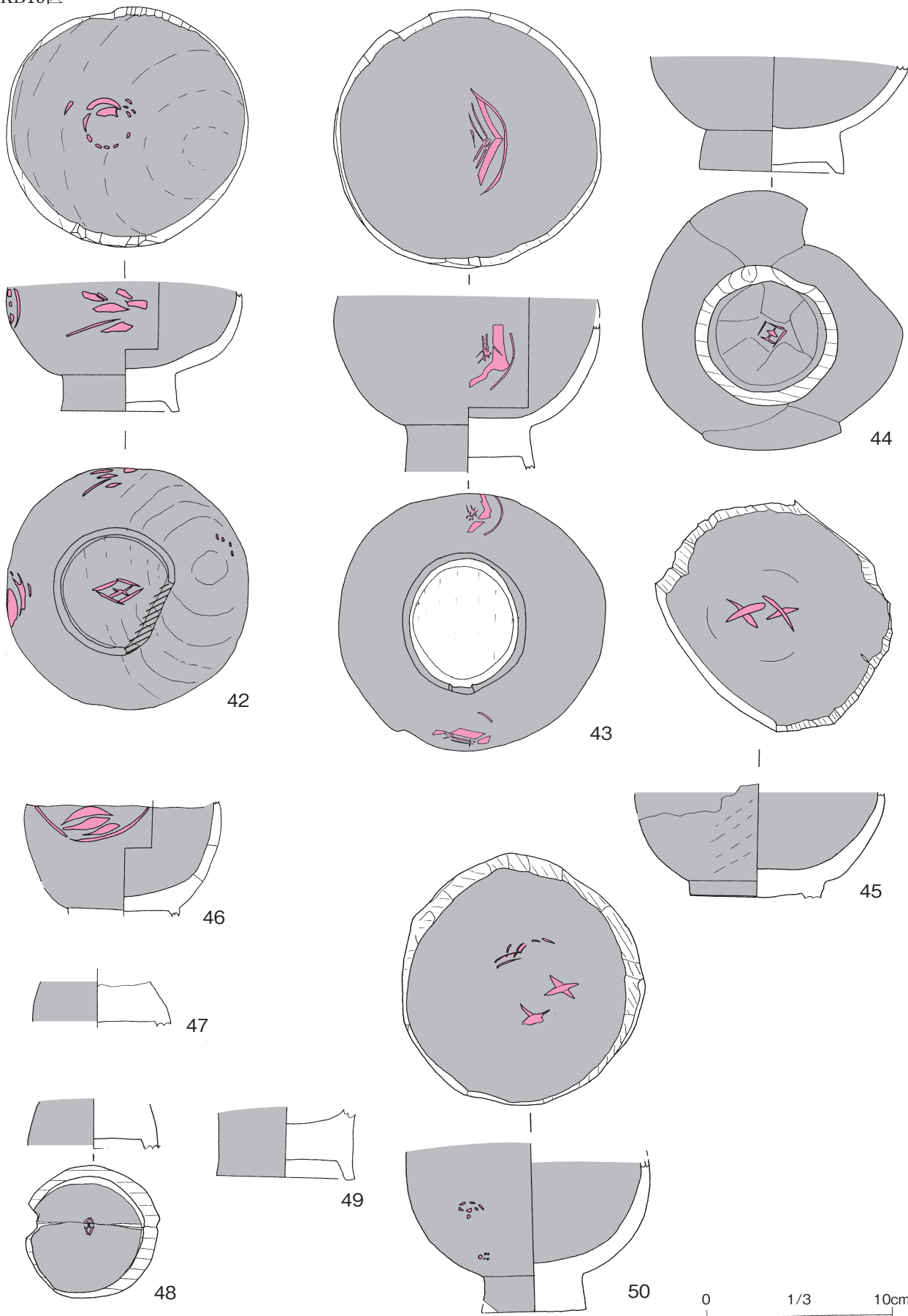
41

炭化

0 1/3 10cm

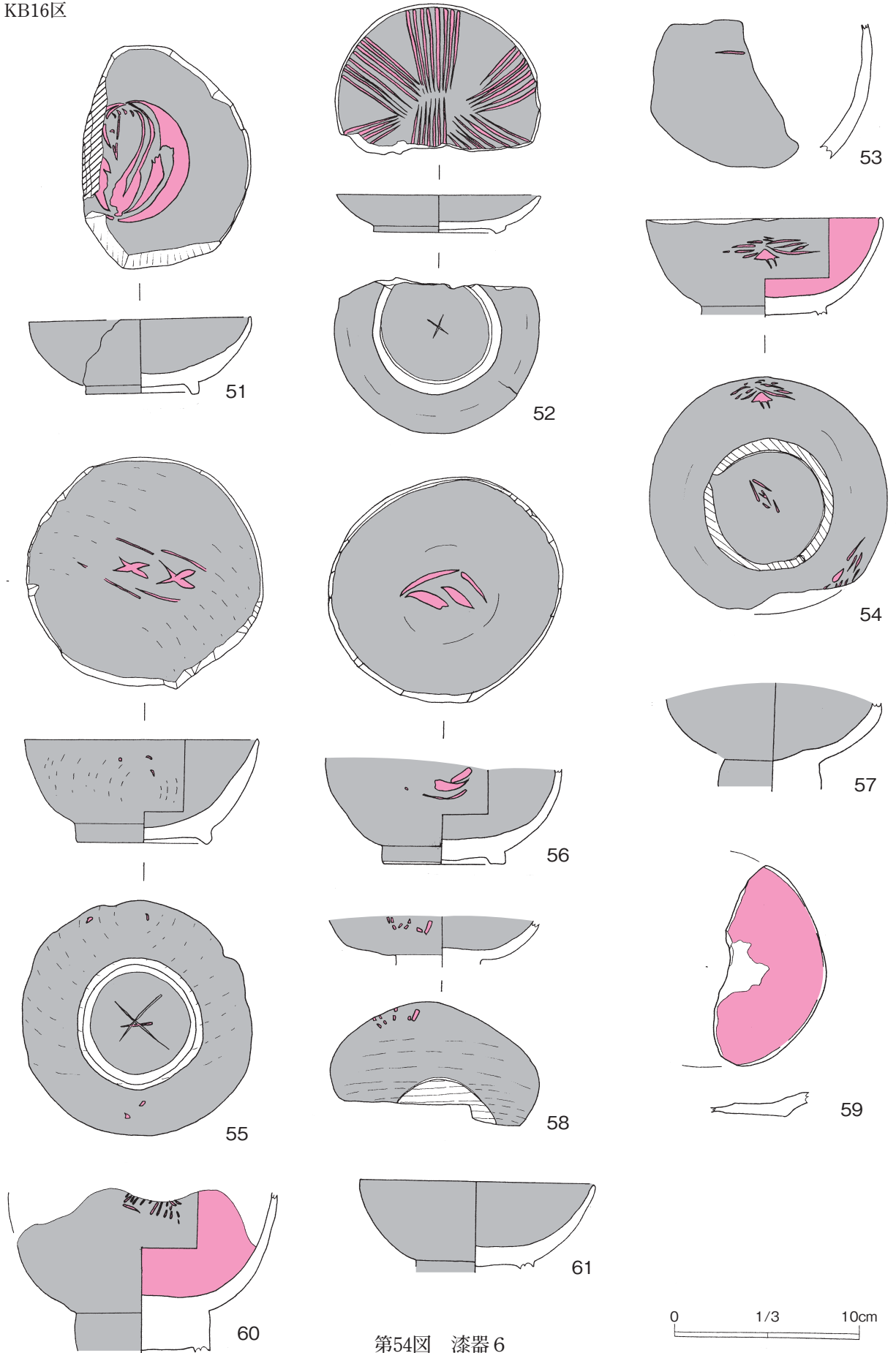
第52図 漆器 4

KB15区

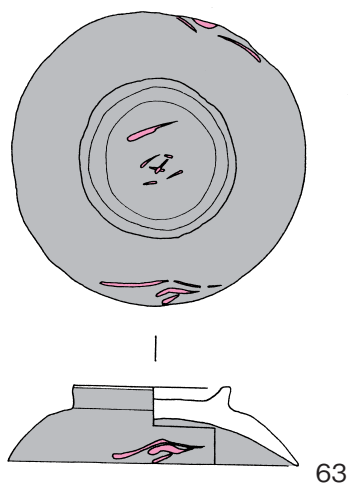
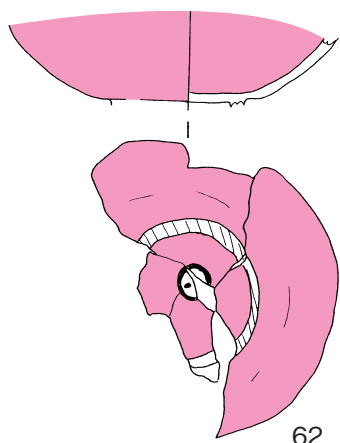


第53図 漆器 5

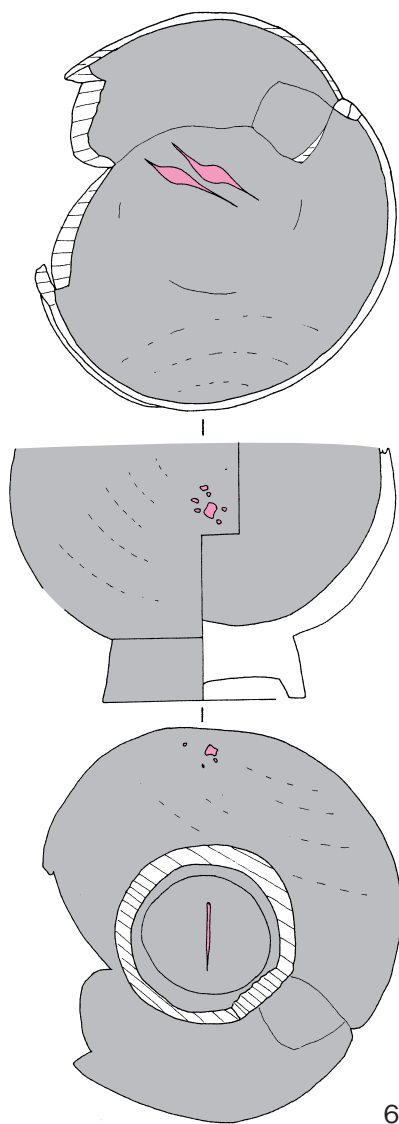
KB16区



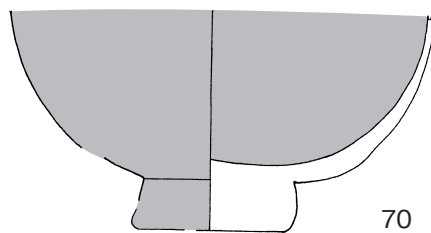
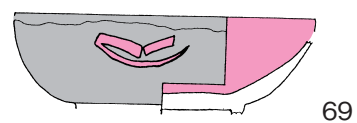
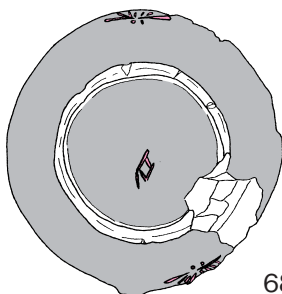
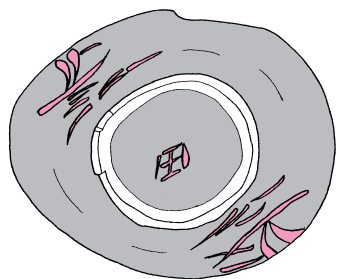
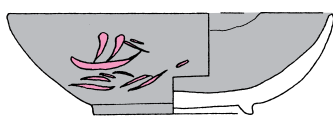
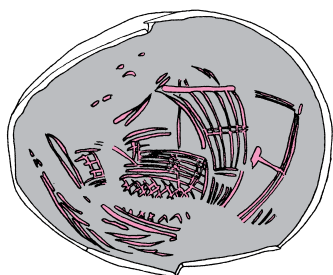
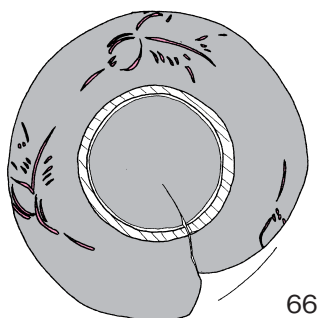
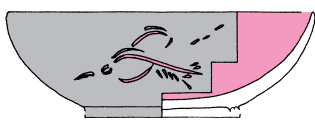
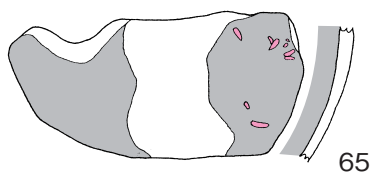
KB17区



KB18区



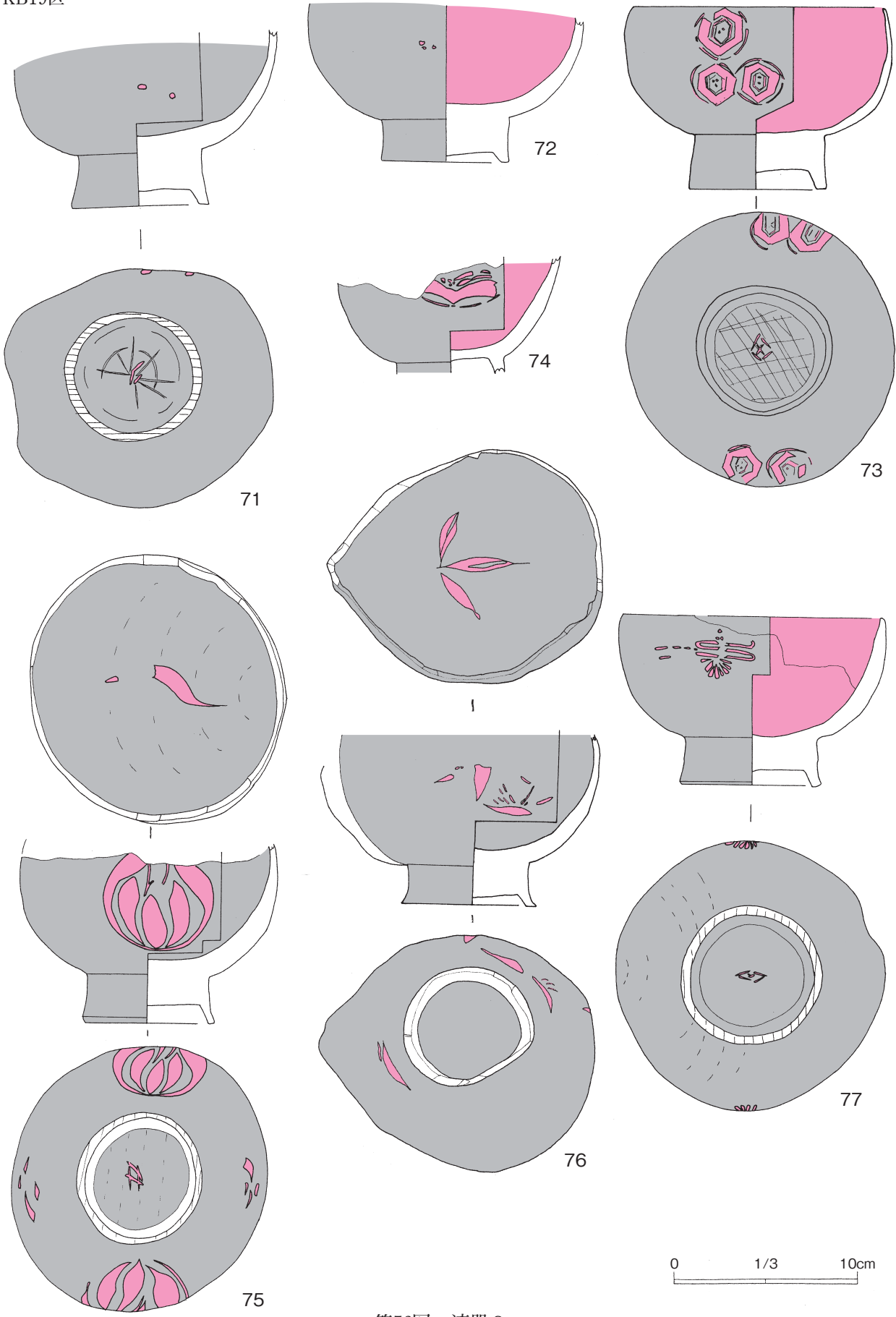
KB19区



0 1/3 10cm

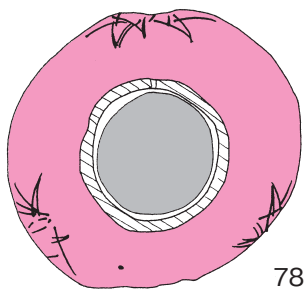
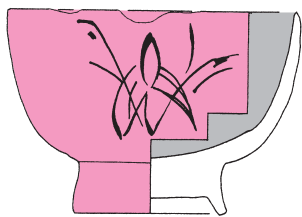
第55図 漆器 7

KB19区

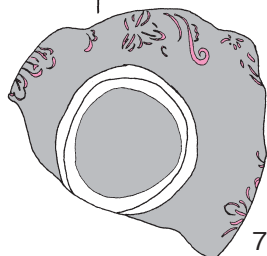
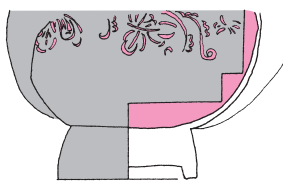


第56图 漆器 8

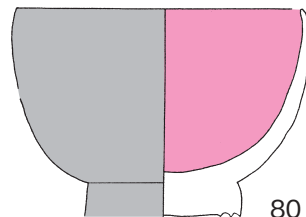
KB19区



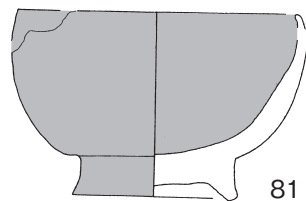
78



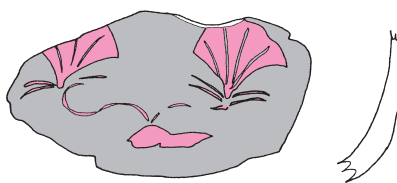
79



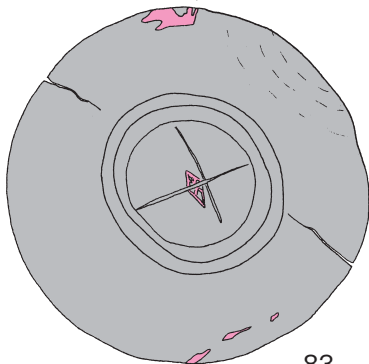
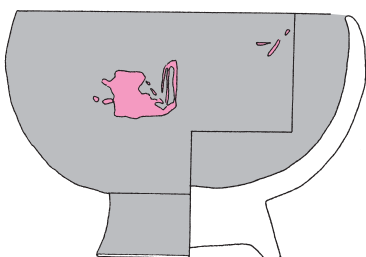
80



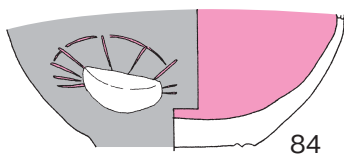
81



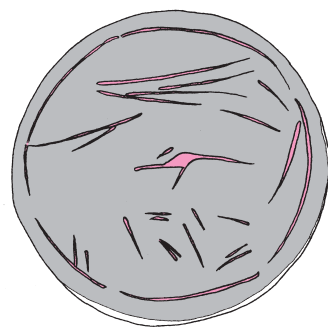
82



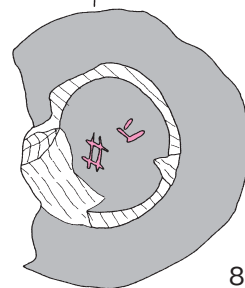
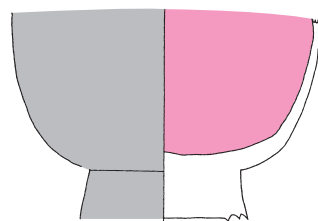
83



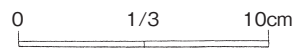
84



85

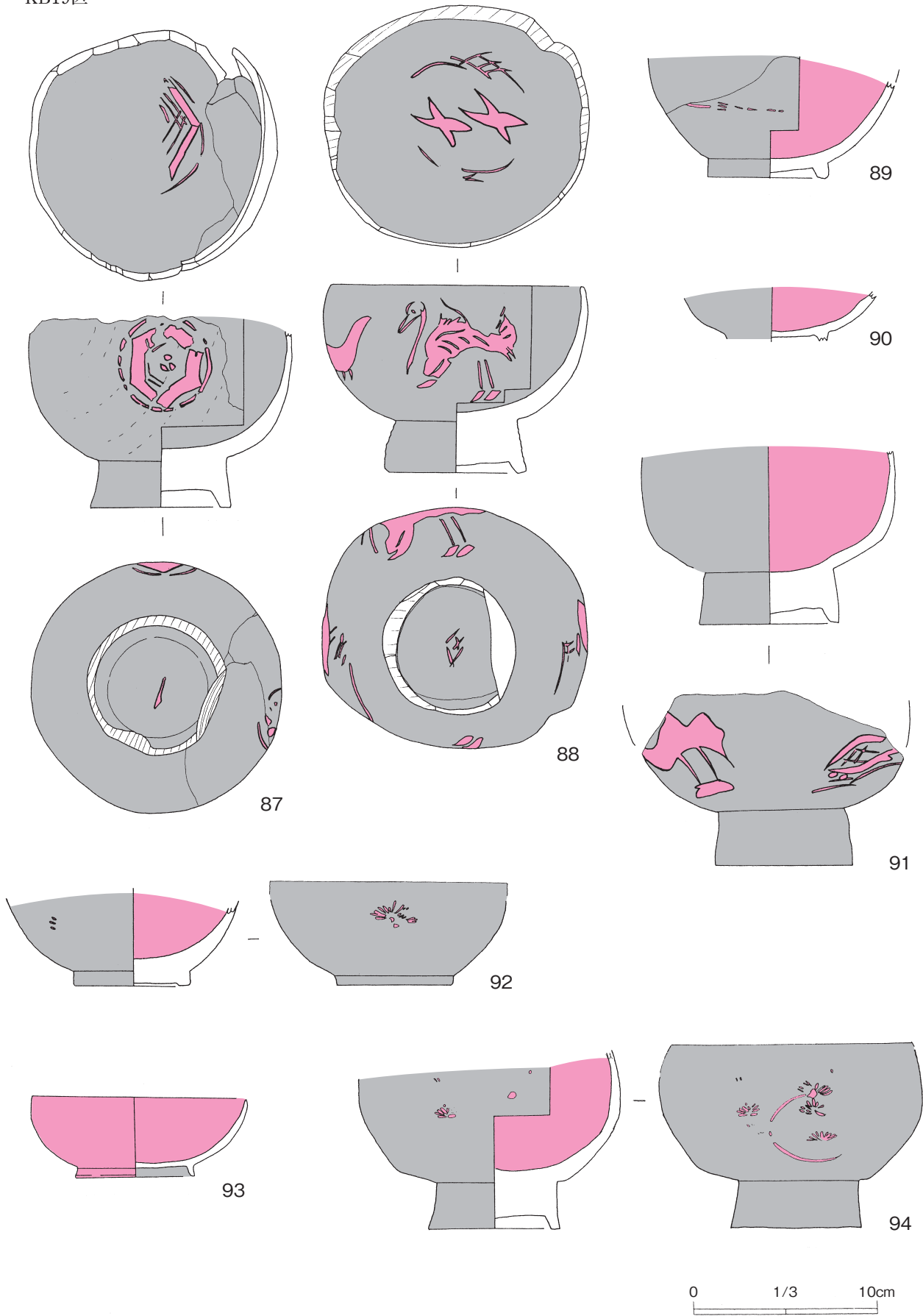


86



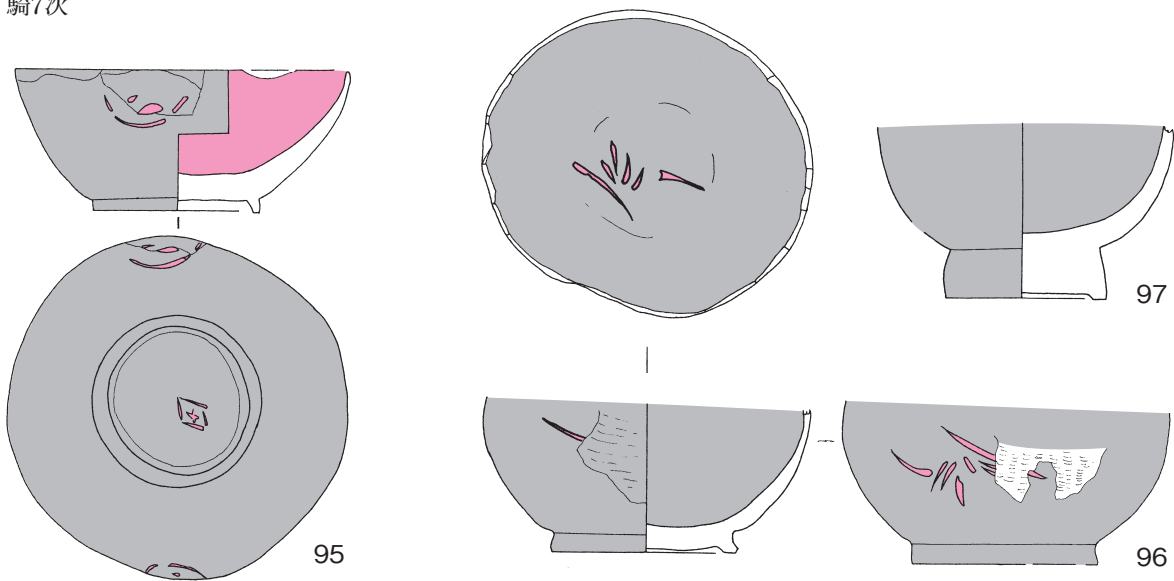
第57図 漆器9

KB19区

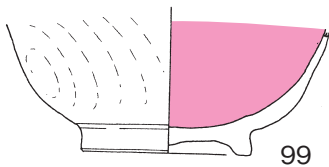
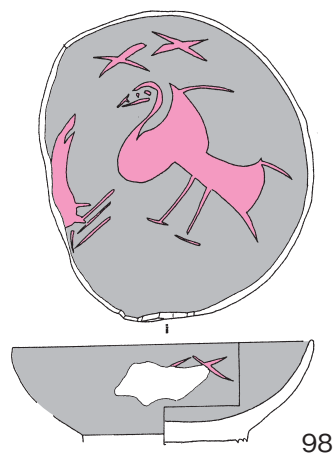


第58图 漆器10

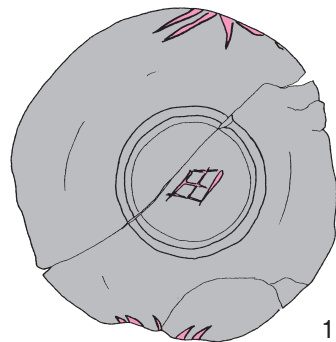
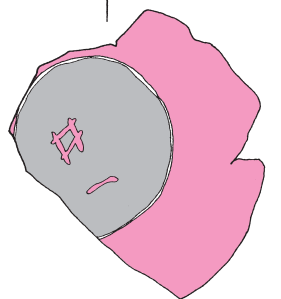
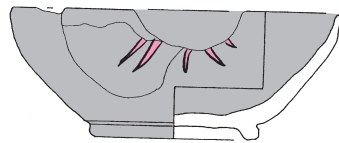
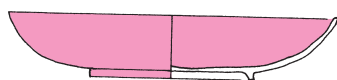
騎7次



騎11次



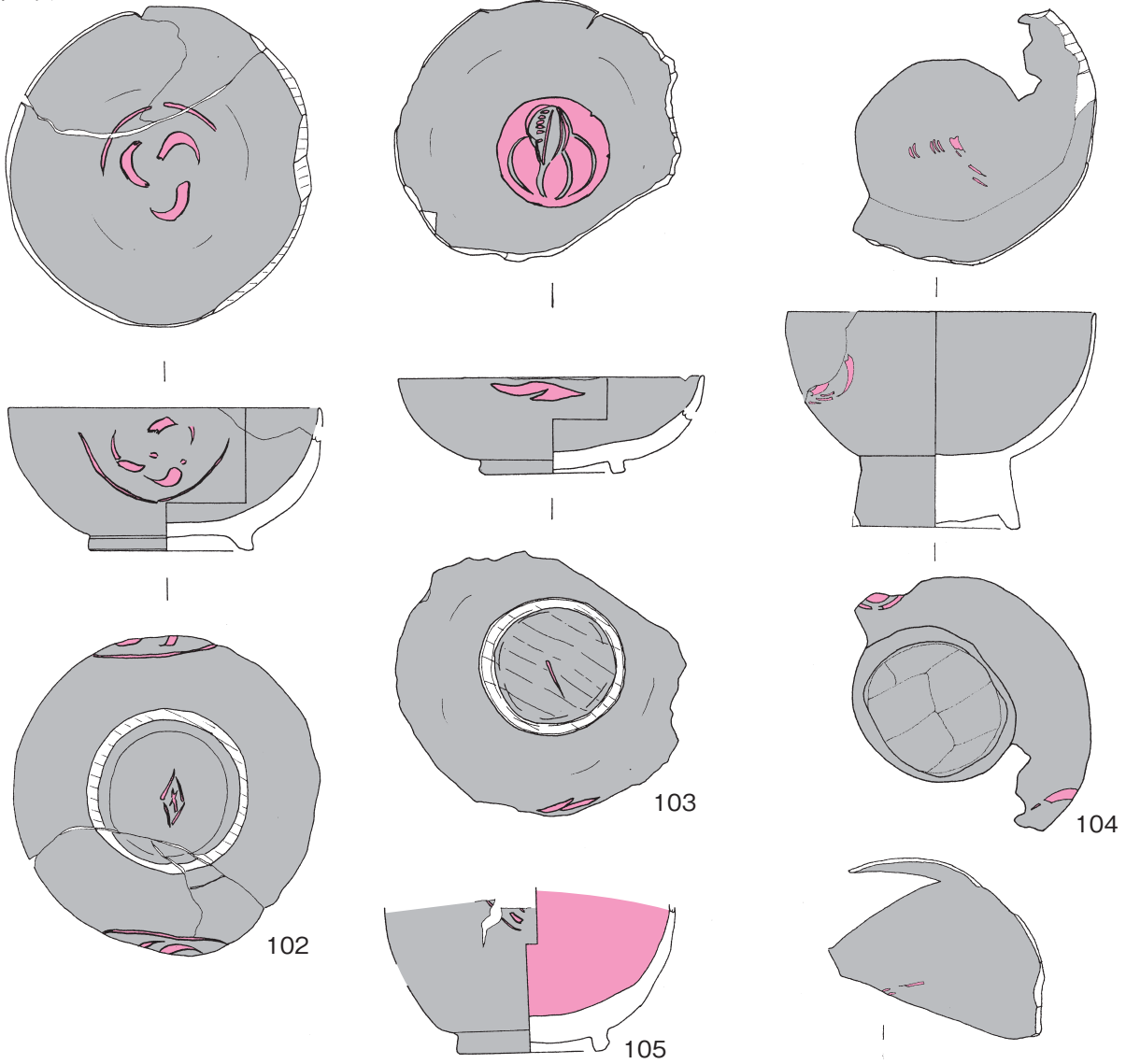
騎13次



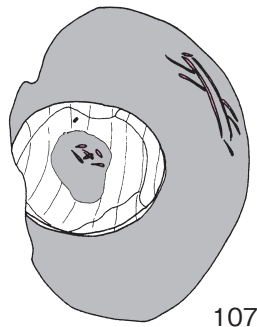
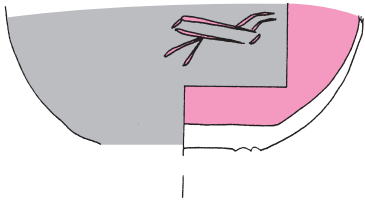
0 1/3 10cm

第59図 漆器11

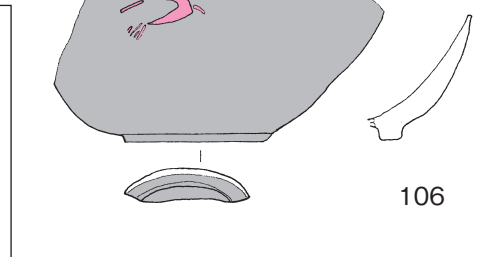
騎13次



騎武30次



107

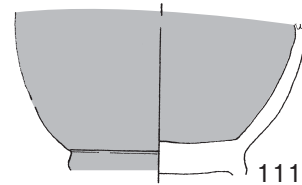
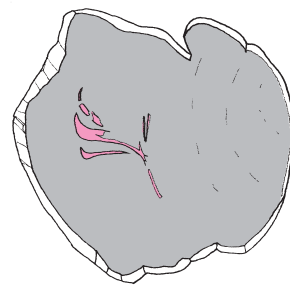
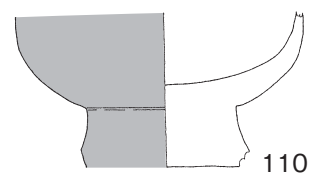
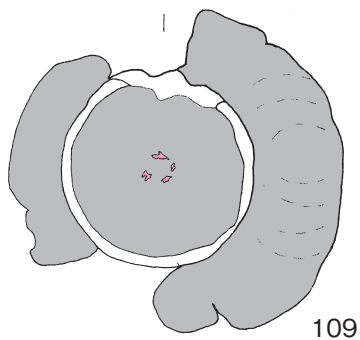
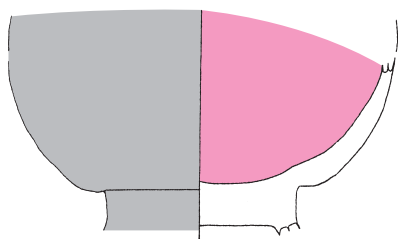
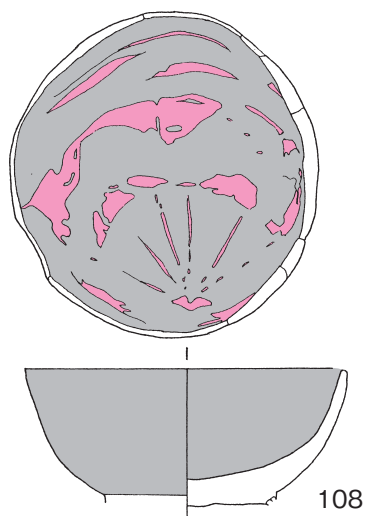


106

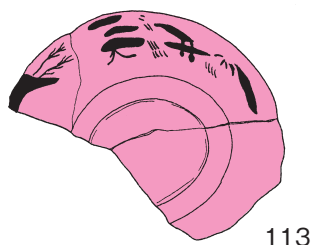
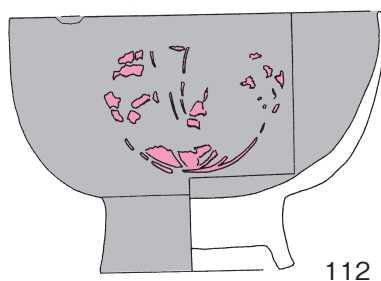
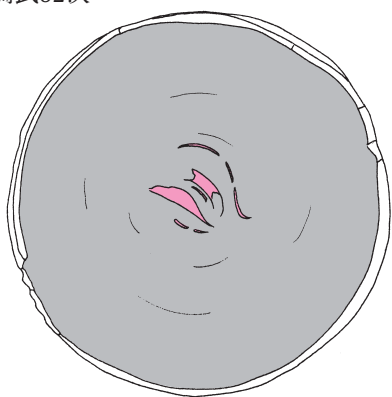
0 1/3 10cm

第60図 漆器12

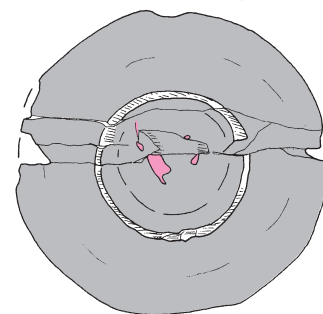
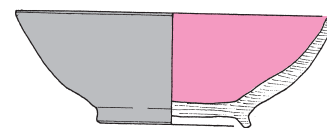
騎武40次



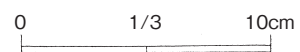
騎武52次



騎武55次

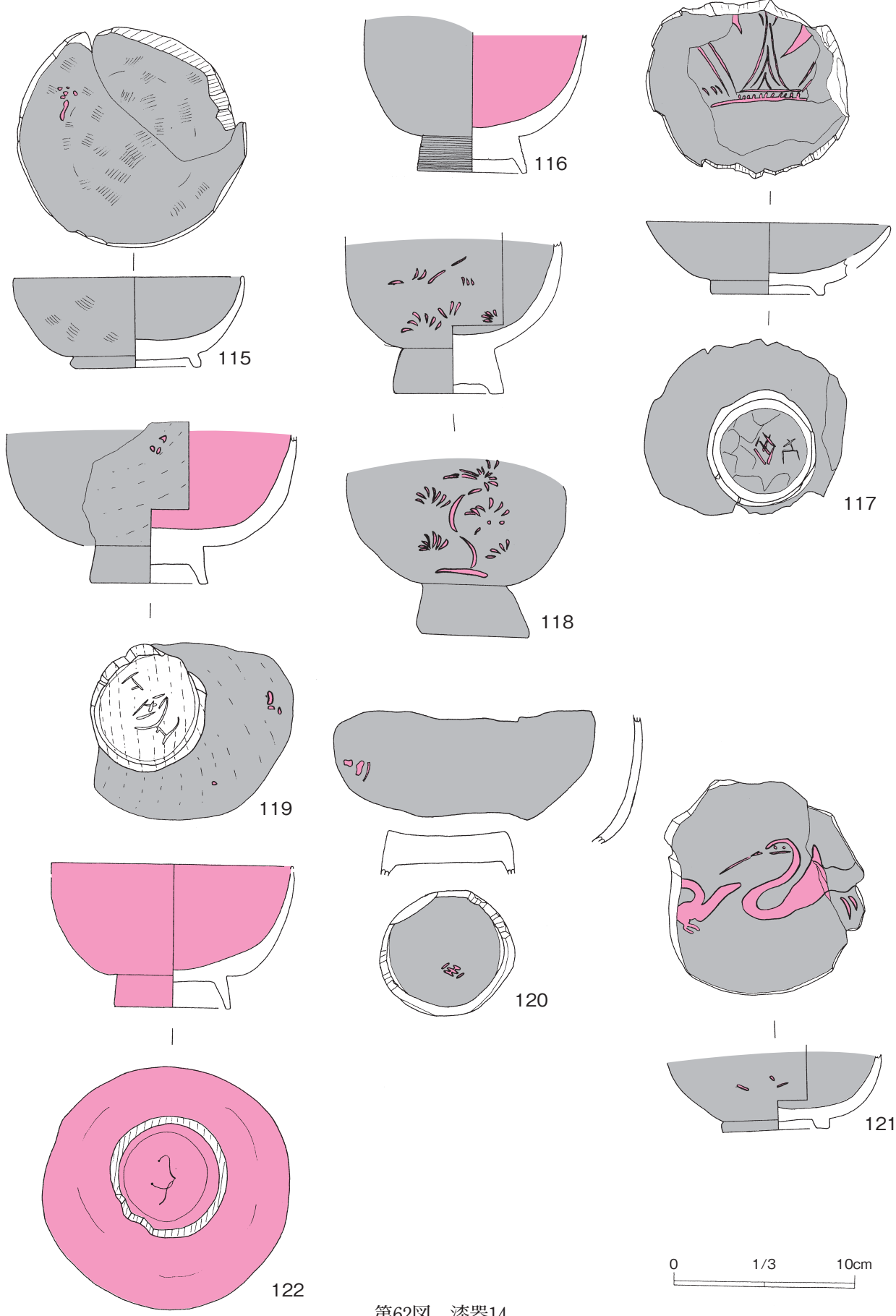


114



第61図 漆器13

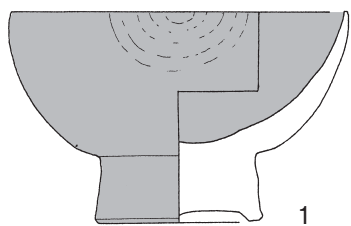
HG8次



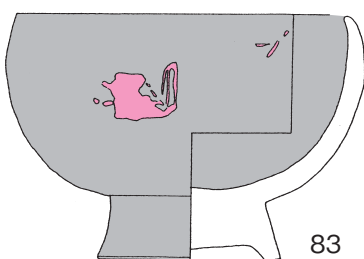
第62図 漆器14

I類

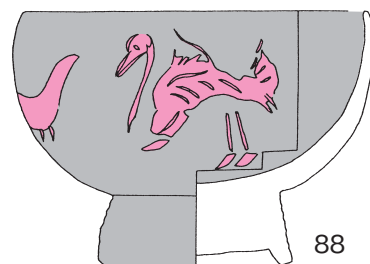
I a



1

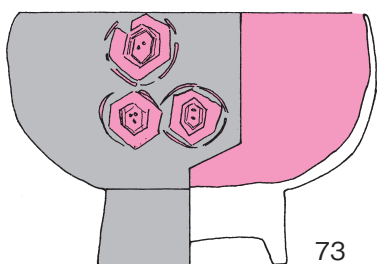


83

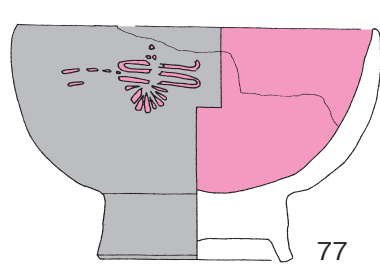


88

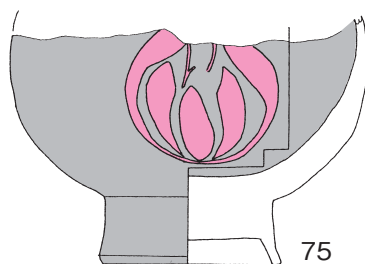
I b



73

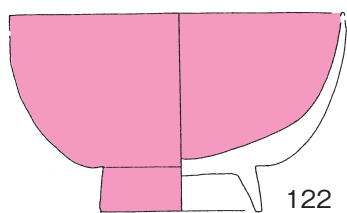


77



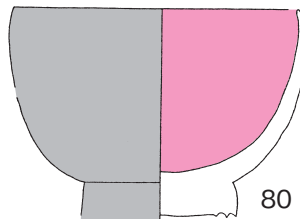
75

I c



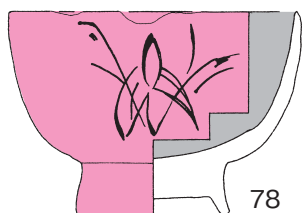
122

I d

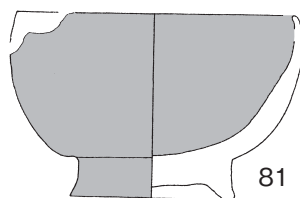


80

I e

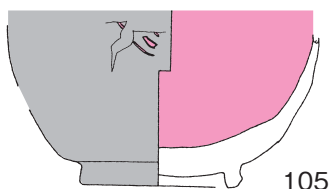


78



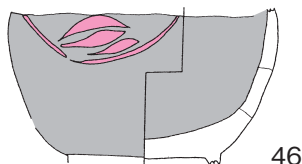
81

I f

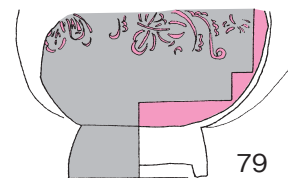


105

I f'

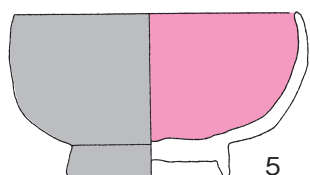


46

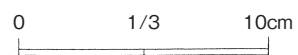


79

I g

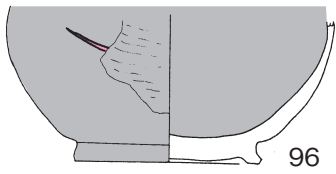


5

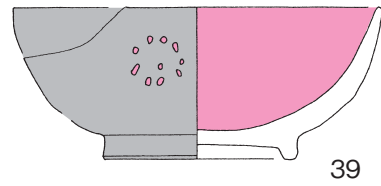
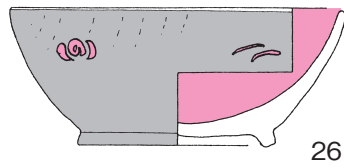


第63図 漆器分類1

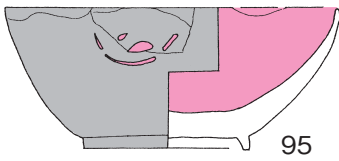
Ⅱ類
Ⅱa



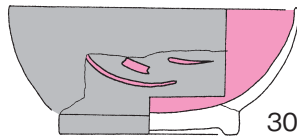
Ⅱb



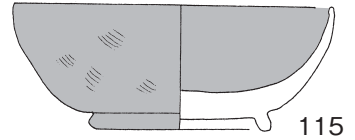
Ⅱb'



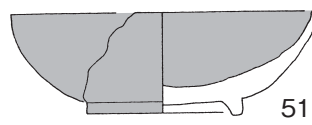
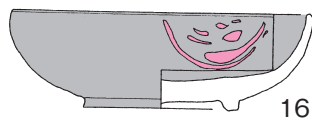
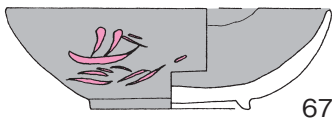
Ⅱc



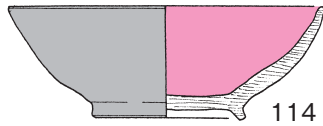
Ⅱc'



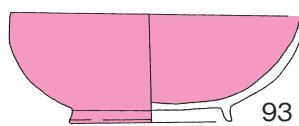
Ⅱd



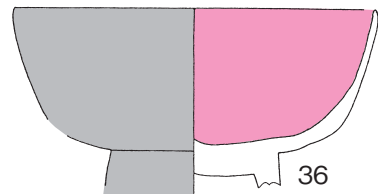
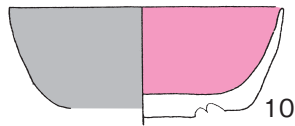
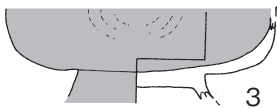
Ⅱe



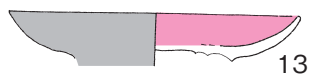
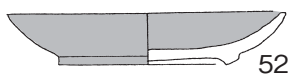
Ⅱf



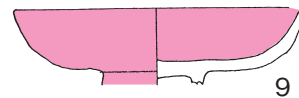
Ⅲ類



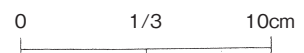
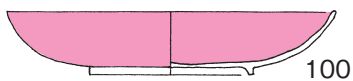
Ⅳ類
Ⅳa



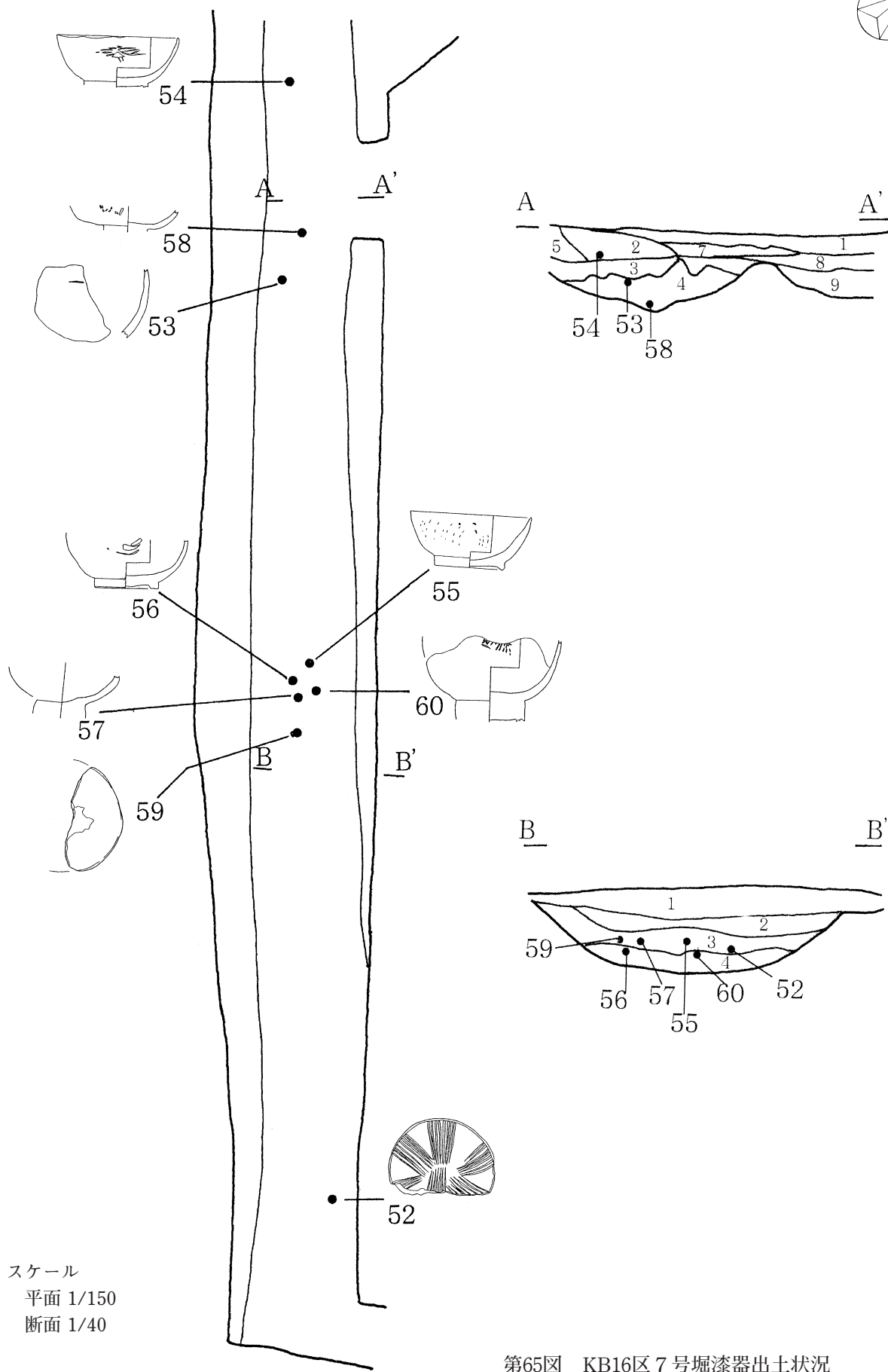
Ⅳb



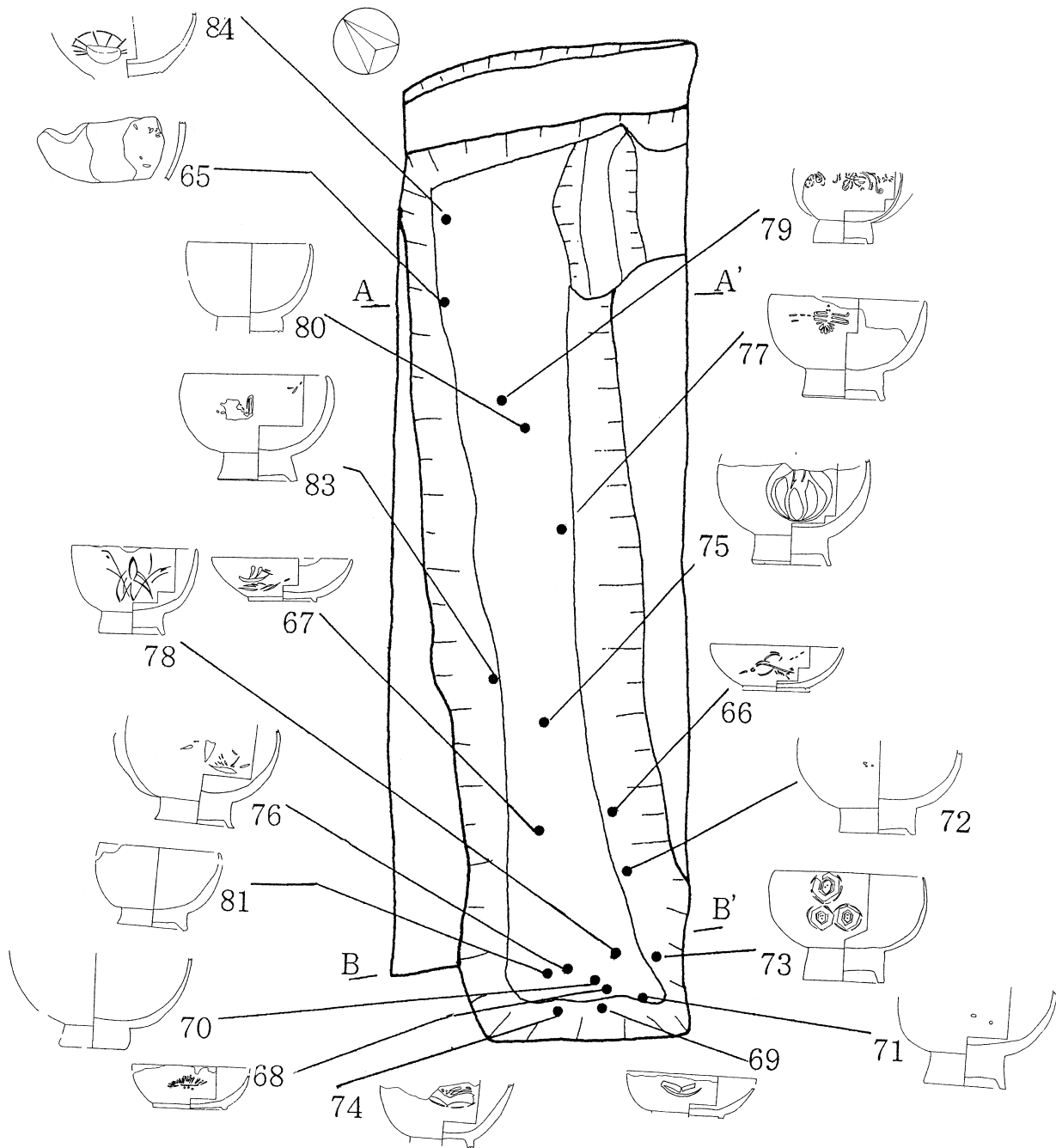
Ⅳc



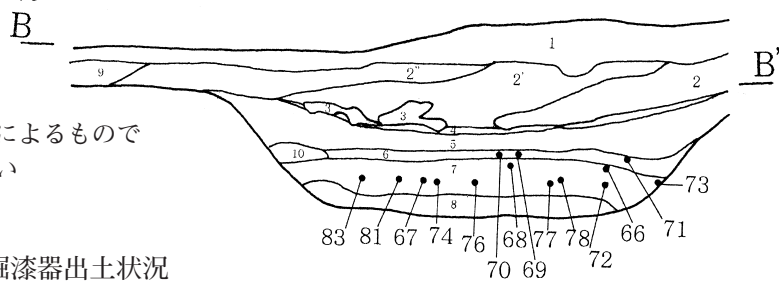
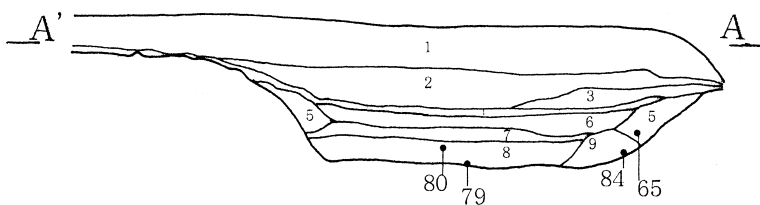
第64図 漆器分類2



第65図 KB16区 7号堀漆器出土状況

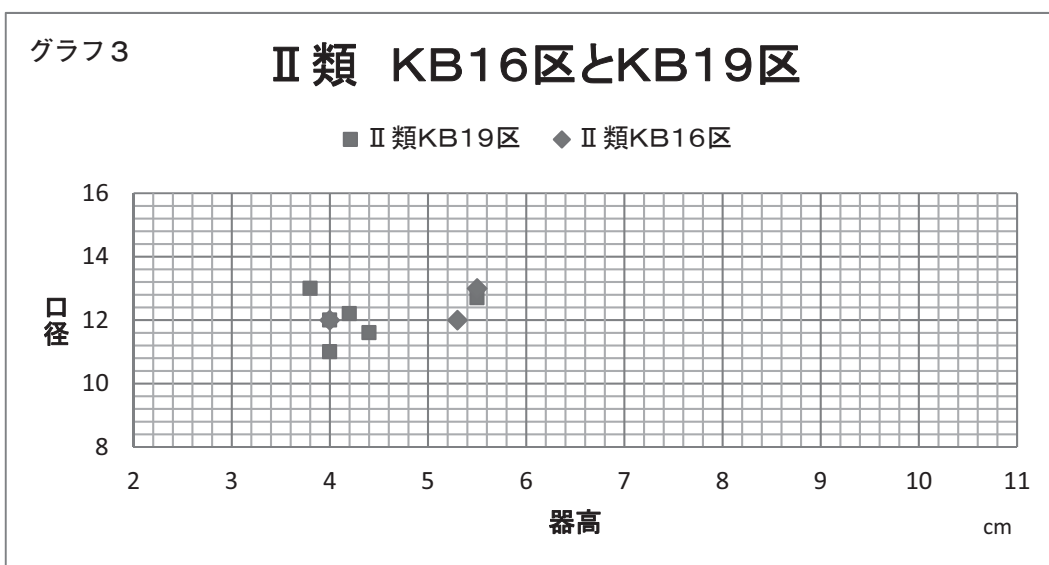
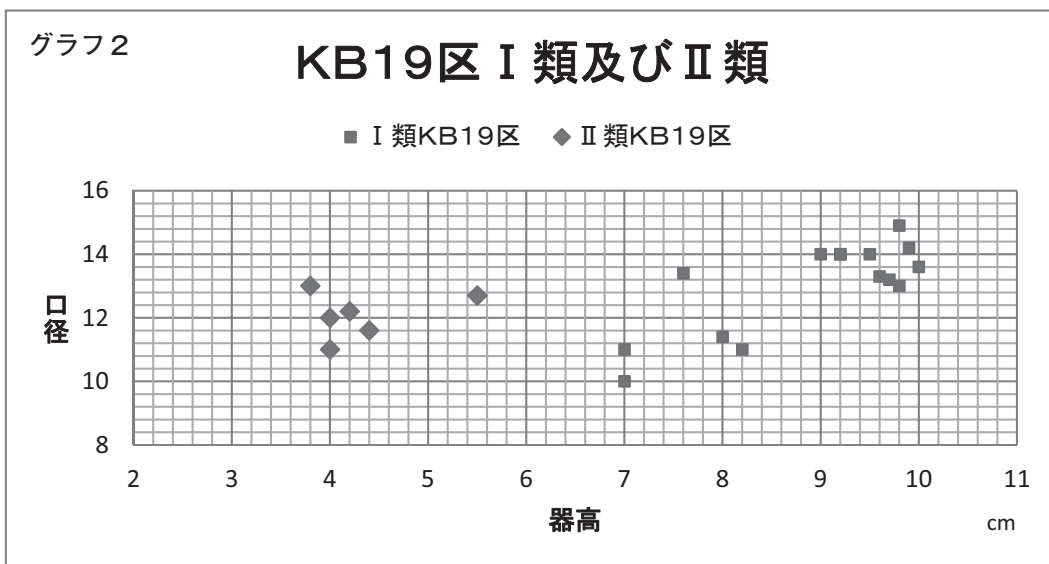
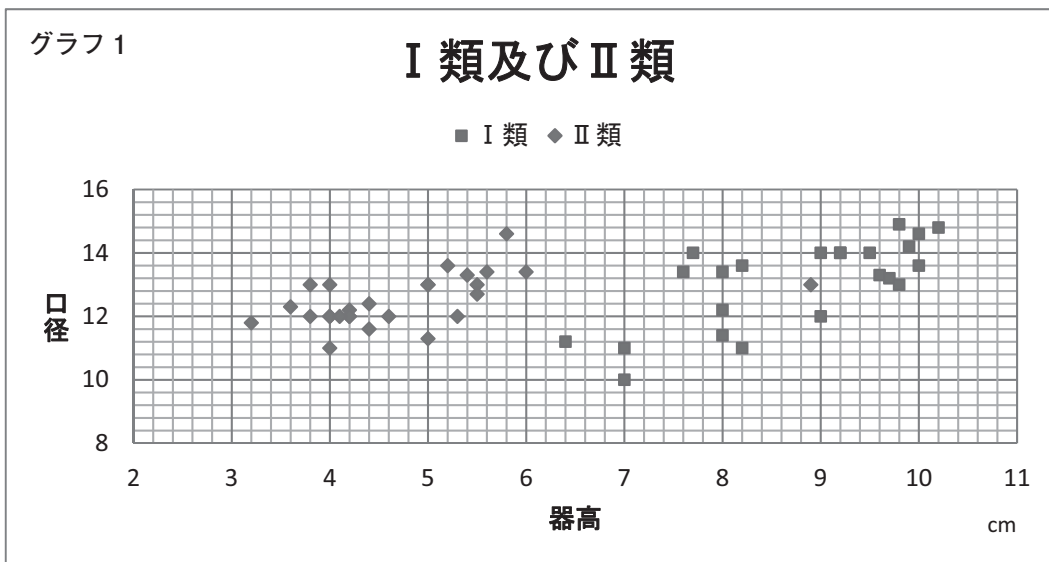


スケール
 平面 1/150
 断面 1/80



ドットはレベル計測によるもので
 表と層位は一致しない

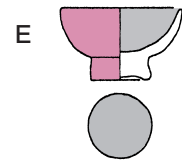
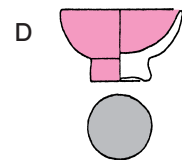
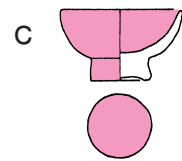
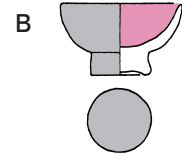
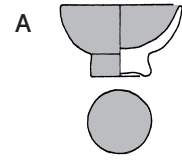
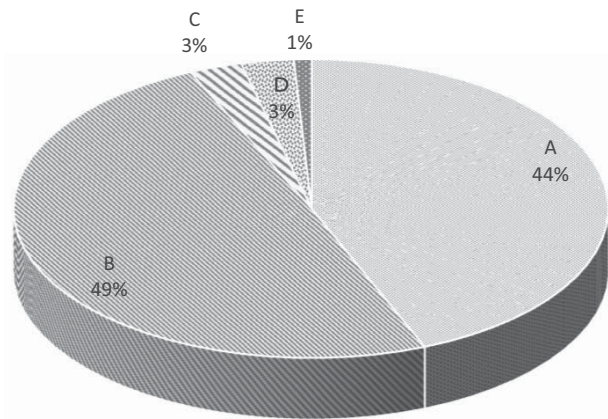
第66図 KB19C 区 6号堀漆器出土状況



第67図 漆器法量の比較

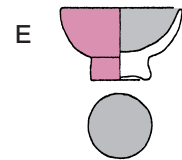
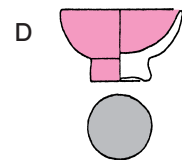
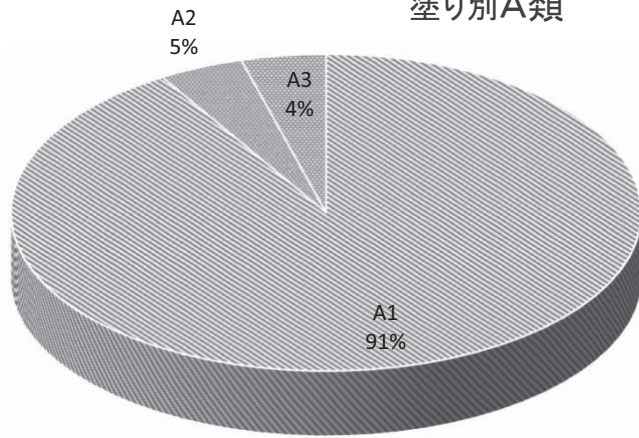
グラフ4

塗り別全体



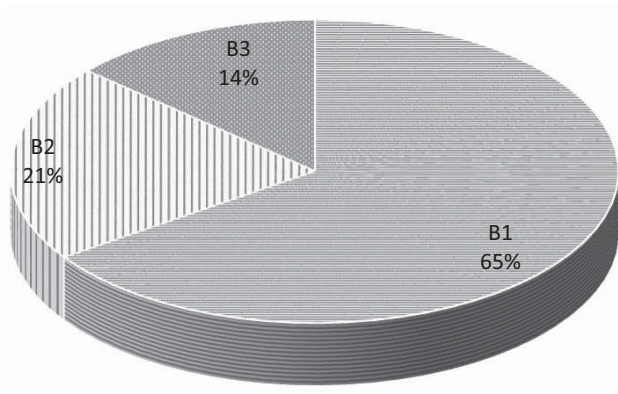
グラフ5

塗り別A類



グラフ6

塗り別B類



第68図 漆器塗り分け分類比較

遺物概観

[] は残存値、法量の単位は cm

図No	遺跡名	遺構名	形態分類	塗り分け分類	塗り			施文			口径	器高	高台径	高台高	樹種	備考	遺物ID
					内面	外面	高台裏	胴部	見込	高台裏							
001	KB01	17塙:B-17G	I a	A1	黒	黒	黒	無	無	赤で一	13.6	8.2	6.0	2.8			661-0705-0001-0009
002	KB01	B-5G:No48	不明	B3	赤	黒	黒	無	不明	不明	不明	[4.0]	≒7	不明	トネリコ		661-0705-0001-0012
003	KB02	6号井戸	Ⅲ	A2	黒	黒	黒	無	無	無	不明	[3.5]	≒5.8	不明			661-0705-0002-0001
004	KB05	3溝:C-1G:No65	不明	B1	赤	黒	黒	赤	無	無	不明	[2.5]	≒7.8	不明			661-0705-0005-0006
005	KB07	1溝:C-2G:No17	I g	B2	赤	黒	黒	無	無	無	11.2	6.4	6.4	1.2			661-0705-0007-0034
006	KB07	1溝:C-2G:No64	不明	B3	赤	黒	黒	不明	不明	無	不明	[3.5]	≒6.5	不明	ハンノキ属ハンノキ亜属		661-0705-0007-0020
007	KB07	1溝:B-1G:No45	不明	B1	赤	黒	黒	赤で椿	不明	不明	≒12.0	[3.4]	不明	不明		破片	661-0705-0007-0009
008	KB07	1溝	不明	B1	赤	黒	黒	不明	不明	赤で四つ菱	不明	[3.6]	不明	不明			661-0705-0007-0012
009	KB09	2井戸:No354	IVb	C	赤	赤	赤	無	無	黒	11.3	2.0	5.3	1.0	意匠不明	薄手。全体に歪む	661-0705-0009-0001
010	KB09	16塙:No576	Ⅲ	B2	赤	黒	黒	無	無	無	11.0	[4.3]	≒5.5	不明		腰が張る	661-0705-0009-0004
011	KB10	1溝か:B-1G:No733	不明	B1	赤	黒	不明	赤	無	不明	不明	[3.5]	不明	不明	意匠不明	欠損部が大きく全体像は不明	661-0705-0010-0025
012	KB10	1溝:C-下層:C-3G:No250	不明	A3	黒	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[4.2]	7.6	1.2		漆剥落、内面の暗黒褐色部分は洗下地か	661-0705-0010-0009
013	KB10	15溝:D-5G:No286	IVa	B3	赤	黒	不明	無	無	不明	11.5	2.2	6.2	0.3		皿か	661-0705-0010-0078
014	KB10	4溝:A-0G:No70	不明	不明	不明	黒	黒か	不明	不明	不明	12.0	4.2	5.2	0.3		漆はぼろ剥落。全体に茶褐色、洗下地か	661-0705-0010-0036
015	KB10	4溝:No179	不明	A1	黒	黒	黒	赤で三巴	無	不明	≒14.3	[5.3]	不明	不明		巴は3単位か、大きく歪む	661-0705-0010-0039
016	KB10	4溝:A-1G:No281	II d	A1	黒	黒	黒	赤	赤で鶴丸	赤で四つ菱	12.0	3.8	6.1	2.0		胴部意匠は不明	661-0705-0010-0041
017	KB10	12溝:E-5G No317	不明	B1	赤	黒	黒	不明	無	赤で四つ菱	不明	[5.5]	7.0	2.4			661-0705-0010-0063
018	KB10	14井戸:No759:	不明	B3	赤	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[3.5]	≒6.5	≒2.0		破片から大型碗か	661-0705-0010-0100
019	KB10	12井戸:C-2G:No575	不明	B1	赤	黒	黒	赤	無	赤で四つ菱	不明	[5.5]	6.0	2.6			661-0705-0010-0098
020	KB10	14井戸	不明	B1	赤	黒	不明	赤	不明	不明	不明	不明	不明	不明		小破片のため詳細不明。	661-0705-0010-0101
021	KB11	6溝:No4	不明	B3	赤か	黒	黒か	不明	不明	不明	不明	[5.0]	≒8.2	≒2.4		漆はほとんど剥落。	661-0705-0011-0001
022	KB11	6溝:No6	不明	B3	赤	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[6.5]	≒7.0	不明			661-0705-0011-0003
023	KB12	4溝:No167	不明	A1	黒	黒	黒	赤	不明	赤	不明	[4.0]	不明	不明		意匠は不明	661-0705-0012-0001
024	KB13	1堀:No535	不明	A1	黒	黒	黒	不明	赤で三巴	無	不明	[2.8]	≒6.0	≒3.0		巴の頭が鋭い	661-0705-0013-0002
025	KB14	4堀	II b	A1	黒	黒	黒	赤	赤	不明	13.6	5.2	6.4	3.0		巴か	661-0705-0014-0014
026	KB14	4堀	II b	B1	赤	黒	黒	赤	無	無	13.3	5.4	7.9	4.0			661-0705-0014-0013
027	KB14	4堀	—	—	黒	黒	無	赤	無	無	12.0	3.4	無	無		合子蓋か	661-0705-0014-0012
028	KB14	6堀:D-6G:No57	不明	不明	赤	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[4.0]	7.6	4.0		高台のみ	661-0705-0014-0006
029	KB14	8堀:E-5G:No2	I a	C	赤	赤	赤	不明	不明	不明	14.0	7.7	8.0	9.0			661-0705-0014-0019
030	KB14	44堀	II c	B1	赤	黒	黒	赤	不明	無	11.3	5.0	7.0	4.0			661-0705-0014-0035
031	KB14	外堀	不明	A3	黒	黒	黒	不明	不明	不明	14.6	[6.9]	不明	不明		破片	661-0705-0014-0048

第15表 漆器一覧表 1

[] は残存値、法量の単位は cm

図No	遺跡名	遺構名	形態分類	塗り分け分類	塗 り			施 文			口径	器高	高台径	高台高	樹種	備考	遺物ID
					内面	外面	高台裏	胴部	見込	高台裏							
032	KB15	7堀:下:No1	不明	B1	赤	黒	黒	赤	無	不明	≒14.0	[5.0]	≒7.0	不明		身のみ	661-0705-0015-0006
033	KB15	8堀:下層:No30	II d	A1	黒	黒	黒	赤	赤で鶴丸	赤で四つ菱	11.8	3.2	6.8	0.4	クリ		661-0705-0015-0013
034	KB15	8堀:下:No10	不明	B3	赤	黒	黒	不明	無	無	不明	[5.0]	6.4	1.2以上			661-0705-0015-0011
035	KB15	10堀:No67	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	[3.6]	不明	不明			661-0705-0015-0047
036	KB15	10堀:下:No53	III	B2	赤	黒	黒	無	無	無	15.4	[7.0]	6.8	1.4以上		腰が張る	661-0705-0015-0041
037	KB15	10堀:No76	II d	B1	赤	黒	黒	赤	無	赤で一	12.3	3.6	6.0	0.6			661-0705-0015-0050
038	KB15	10堀:下層:No22	不明	B3	赤	黒	黒	無	無	無	不明	[4.8]	6.2	≒1.2		底部に穴があり意図的	661-0705-0015-0025
039	KB15	10堀:下層:No13	II b	B1	赤	黒	黒	赤	無	赤で点	14.6	5.8	7.6	1.0		線刻あり	661-0705-0015-0022
040	KB15	11堀:下層:No7	I a	A1	黒	黒	黒	赤	赤	無	12.0	9.0	7.2	2.3			661-0705-0015-0064
041	KB15	22堀:下層:No23	I a	B3	赤	黒	黒	不明	無	不明	不明	[7.7]	7.5	2.4			661-0705-0015-0075
042	KB15	16堀:下:No1	I a	A1	黒	黒	黒	赤	赤	赤で四つ菱	不明	[7.0]	6.5	2.0			661-0705-0015-0065
043	KB15	24堀:No8	I b	A1	黒	黒	黒	赤で丸に亀甲	赤	無	≒14.6	[9.5]	≒7.1	≒2.8	クリ	胴部2単位	661-0705-0015-0082
044	KB15	24堀:下:No29	I a	A1	黒	黒	黒	不明	無	赤で四つ菱	不明	[6.0]	7.8	2.2			661-0705-0015-0088
045	KB15	24堀:下:No30	II a	A1	黒	黒	黒	無	赤	不明	不明	[6.2]	≒7.0	≒0.8	樹種は広葉樹(切片不可能な為詳細不明)		661-0705-0015-0089
046	KB15	25堀:下:No140	I f	A1	黒	黒	黒	赤	無	不明	不明	[6.3]	≒6.0	不明			661-0705-0015-0101
047	KB15	26堀:No51	不明	不明	赤	黒	不明	不明	不明	不明	不明	[2.3]	≒7.4	不明		高台のみ	661-0705-0015-0110
048	KB15	26堀:No26	不明	不明	不明	黒	黒	不明	不明	赤で四つ菱	不明	[2.7]	7.0	2.7		高台のみ	661-0705-0015-0107
049	KB15	26堀:No24	不明	不明	不明	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[3.5]	7.4	3.5		高台のみ	661-0705-0015-0105
050	KB15	26堀	I a	A1	黒	黒	黒	赤	赤で鳥	不明	14.2	9.0	6.0	2.0	ブナ属		661-0705-0015-0112
051	KB16	2b堀:No4	II d	A1	黒	黒	黒	無	赤で鶴丸	不明	12.0	4.0	6.2	0.4			661-0705-0016-0034
052	KB16	7堀:No1107	IV a	A1	黒	黒	黒	無	赤で楕円状文	無	11.0	2.0	7.0	2.0		皿か	661-0705-0016-0043
053	KB16	7堀:No726	不明	A1	黒	黒	不明	赤	不明	不明	不明	不明	不明	不明		破片の大きさ、厚さ等から大型碗か	661-0705-0016-0011
054	KB16	7堀:No674	II b	B1	赤	黒	黒	赤で波に千鳥	無	赤で四つ菱	12.0	[5.3]	6.8	不明			661-0705-0016-0008
055	KB16	7堀:No1081	II b	A1	黒	黒	黒	赤	赤で鳥	赤で一	13.0	5.5	7.2	1.0		×の線刻	661-0705-0016-0020
056	KB16	7堀:No1085	II b	A1	黒	黒	黒	赤	赤で植物文か	無	不明	[5.0]	6.5	1.2		胴部2単位か	661-0705-0016-0023
057	KB16	7堀:No1084	不明	A3	黒	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[4.8]	≒5.4	1.8以上			661-0705-0016-0022
058	KB16	7堀:No1071	不明	A1	黒	黒	不明	赤	不明	不明	不明	[2.3]	≒5.0	不明		破片	661-0705-0016-0013
059	KB16	7堀:No1086	—	不明	赤	黒	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明		皿か、詳細不明	661-0705-0016-0024
060	KB16	7堀:No1083	不明	B1	赤	黒	黒	赤	無	無	不明	[8.5]	7.2	2.4			661-0705-0016-0021
061	KB16	12堀	II b	A3	黒	黒	不明	無	無	不明	13.0	[4.5]	6.4	不明			661-0705-0016-0033

第16表 漆器一覽表 2

[] は残存値、法量の単位は cm

図No	遺跡名	遺構名	形態分類	塗り分け分類	塗り			施文			口径	器高	高台径	高台高	樹種	備考	遺物ID
					内面	外面	高台裏	胴部	見込	高台裏							
062	KB17	9井戸	不明	C	赤	赤	赤	不明	無	黒	不明	[2.7]	≒6.0	不明		661-0705-0017-0004	
063	KB17	10井戸最下層	—	A1	黒	黒	黒	赤	無	赤で一と四つ菱	12.8	3.0	6.4	1.0	蓋、胴部2単位	661-0705-0017-0006	
064	KB18	3堀:下:No23	I b	A1	黒	黒	黒	赤	赤	赤で一	14.6	10.0	8.0	2.4		661-0705-0018-0004	
065	KB19	C区6堀:5層:No561	不明	A1カ	黒	黒	不明	赤	不明	不明	不明	[4.5]	不明	不明	大型破片	661-0705-0019-0040	
066	KB19	KB19:6堀:7層:No697	II d	B1	赤	黒	黒	赤で鳥	無	無	12.2	4.2	6.2	0.4	胴部2単位	661-0705-0019-0061	
067	KB19	C区6堀:7層:No689	II d	A1	黒	黒	黒	赤で船	赤で船	赤で四つ菱	13.0	3.8	6.5	0.4		661-0705-0019-0059	
068	KB19	C区6堀:7層:No774	II b	B1	赤	黒	黒	赤で松葉	無	赤で四つ菱か	11.0	4.0	7.0	0.4	ハンノキ	661-0705-0019-0070	
069	KB19	C区6堀:7層:No778	II d	B1	赤	黒	黒	赤	無	不明	12.0	4.0	6.8	0.4	スギ	661-0705-0019-0074	
070	KB19	C区6堀:7層:No775	不明	A3	黒	黒	不明	不明	不明	不明	不明	[9.2]	6.0	1.5		661-0705-0019-0071	
071	KB19	C区6堀:7層:No769	I b	A1	黒	黒	黒	赤	無	赤で四つ菱、線刻	14.2	9.9	7.6	2.8	高台裏に線刻	661-0705-0019-0068	
072	KB19	C区6堀:7層:No722	I a	B1	赤	黒	黒	赤	無	不明	14.0	9.0	7.0	2.2	大きく歪む	661-0705-0019-0064	
073	KB19	C区6堀:7層:No762	I b	B1	赤	黒	黒	赤で花甲	無	赤で四つ菱	14.9	9.8	7.4	3.0	胴部2単位	661-0705-0019-0066	
074	KB19	C区6堀二:7層	不明	B1	赤	黒	黒	赤で亀甲か	無	不明	不明	[6.4]	≒6.0	0.6以上	胴部2単位	661-0705-0019-0088	
075	KB19	C区6堀:8層:No676	I b	A1	黒	黒	黒	赤で鶴丸他	赤	赤で四つ菱	13.3	9.6	7.4	2.8		661-0705-0019-0056	
076	KB19	6堀:8層:No788	I a	A1	黒	黒	黒	赤で南天	赤で南天	無	14.0	9.5	7.0	2.5		661-0705-0019-0079	
077	KB19	C区6堀:No609	I b	B1	赤	黒	黒	赤で菊水	無	赤で四つ菱	14.0	9.2	8.0	2.6		661-0705-0019-0043	
078	KB19	C区6堀:8層:No777	I e	E	黒	赤	黒	黒で沢瀉	無	無	11.4	8.0	6.0	2.2	胴部3単位	661-0705-0019-0073	
079	KB19	C区6堀:8層:No594	I f'	B1	赤	黒	黒	赤で草花文	無	無	10.0	7.0	2.0	5.6	大きく歪む	661-0705-0019-0042	
080	KB19	C区6堀:8層:No587	I d	B2	赤	黒	黒	無	無	無	11.0	8.2	6.0	1.7		661-0705-0019-0041	
081	KB19	C区6堀:8層:No798	I e	A3	黒	黒	黒	無	不明	無	11.0	7.0	6.6	1.6		661-0705-0019-0084	
082	KB19	C区6堀:8層	不明	B1カ	赤	黒	不明	赤で朝顔か	不明	不明	不明	[5.8]	不明	不明	トチノキ	破片	661-0705-0019-0094
083	KB19	C区6堀:9層:No633	I a	A1	黒	黒	黒	赤	無	赤で四つ菱、線刻	13.2	9.7	7.3	2.6	クリ	胴部2単位か	661-0705-0019-0048
084	KB19	C区6堀:9層:No536	不明	B1	赤	黒	黒	赤で扇	無	不明	不明	[5.5]	≒6.2	不明		661-0705-0019-0033	
085	KB19	C区:9堀:下層	—	—	黒	黒	無	赤	無	無	13.8	2.5	無	無	合子の蓋か	661-0705-0019-0100	
086	KB19	C区:9堀:下層	I d	B1	赤	黒	黒	無	無	赤で井上か	不明	[7.0]	≒6.6	2.4以上		661-0705-0019-0101	
087	KB19	C区:15堀:上層	I b	A1	黒	黒	黒	赤で丸に花亀甲	赤で亀甲の一部か	赤で一	13.4	7.6	2.4	2.3	クリ	胴部2単位	661-0705-0019-0112
088	KB19	C区:15堀:下層	I a	A1	黒	黒	黒	赤で双鶴	赤で鳥	赤で四つ菱	13.6	10.0	7.8	2.8		661-0705-0019-0117	
089	KB19	C区:16堀:中層	II a	B1	赤	黒	黒	赤で線状文	無	不明	不明	[6.2]	6.6	1.0		661-0705-0019-0130	
090	KB19	D区:1堀:5層:No313	不明	B3	赤	黒	黒	不明	不明	不明	不明	[3.0]	≒5.3	不明	ブナ属	661-0705-0019-0010	
091	KB19	D区:1堀:7層:No475	I b	B1	赤	黒	黒	赤で鶴亀	無	赤で四つ菱	14.0	9.2	7.0	3.0	クリ	大きく欠損	661-0705-0019-0023
092	KB19	D区:1堀:7層:No391	II b	B1	赤	黒	黒	赤で松葉	無	無	12.7	5.5	0.2	6.2		661-0705-0019-0008	

第17表 漆器一覧表3

[] は残存値、量法の単位は cm

図No	遺跡名	遺構名	形態分類	塗り分け分類	塗り			施文			口径	器高	高台径	高台高	樹種	備考	遺物ID
					内面	外面	高台裏	胴部	見込	高台裏							
093	KB19	D区:1堀: 7層:No426	II f	D2	赤	赤	黒	無	無	無	11.6	4.4	6.4	0.7		薄い	661-0705-0019-0019
094	KB19	D区:1堀: 7層:No198	I b	B1	赤	黒	黒	赤で松	無	赤	13.0	9.8	2.5	7.0			661-0705-0019-0007
095	騎07	1堀:A層: No38	II b'	B1	赤	黒	黒	赤	無	赤で四つ菱	13.4	5.6	6.8	0.4			661-0104-0007-0007
096	騎07	1堀:B層: No20	II a	A1	黒	黒	黒	赤	赤で草文か	無	不明	[6.2]	7.0	0.8	広葉樹		661-0104-0007-0005
097	騎07	3堀:2層: No20	不明	A3カ	黒カ	黒カ	黒カ	不明	不明	不明	不明	[7.0]	6.4	2.1		漆剥落	661-0104-0007-0025
098	騎11	4堀:No74	II c	A1	黒	黒	黒	赤	赤で双鶴	赤で四つ菱	12.0	4.2	7.6	0.6		漆剥落	661-0104-0011-0015
099	騎11	4堀:No77	不明	不明	赤	黒カ	黒	不明	不明	不明	≒13.0	[5.4]	6.5	1.0			661-0104-0011-0017
100	騎13	A区:7T:No4	IV c	D1	赤	赤	黒	無	無	赤で井一	13.2	2.5	6.0	0.4		皿カ	661-0104-0013-0049
101	騎13	A区:1堀: No358	II b'	A1	黒	黒	黒	赤で楓	赤で楓	赤で四つ菱	13.0	5.0	6.6	0.6		胴部2単位	661-0104-0013-0026
102	騎13	A区:1堀: No238	II b	A1	黒	黒	黒	赤で三巴	赤で三巴	赤で四つ菱	13.4	6.0	7.0	0.6			661-0104-0013-0012
103	騎13	A区:1堀: No242	II d	A1	黒	黒	黒	赤	赤で鶴丸	赤で一	13.0	4.0	4.0	0.4			661-0104-0013-0013
104	騎13	A区:1堀: No311	I a	A1	黒	黒	黒	赤	赤	無	13.0	8.9	3.0	0.6			661-0104-0013-0024
105	騎13	A区:1堀: No307	I f	B1	赤	黒	黒	赤	赤	不明	不明	[6.5]	6.5	0.8			661-0104-0013-0023
106	騎13	A区:1堀: No293	不明	A1	黒	黒	黒	赤	赤	不明	≒11.8	5.0	不明	不明		破片	661-0104-0013-0022
107	騎武30	障子堀: 最下層	不明	B1	赤	黒	黒	赤で熨しか	無	赤で四つ菱	≒14.0	≒5.5	≒6.0	不明			661-0704-0030-0006
108	騎武40	3堀:No68	II b	A1	黒	黒	黒	無	赤で扇面	無	12.8	[5.4]	7.0	不明			661-0704-0040-0004
109	騎武40	A区:3堀: No86	I b	B1	赤	黒	黒	不明	無	赤	不明	[7.4]	8.0	1.4以上			661-0704-0040-0007
110	騎武40	A区:3堀: No108	不明	不明	不明	黒	不明	不明	不明	不明	不明	[6.0]	7.0	≒2.0			661-0704-0040-0011
111	騎武40	A区:4堀: No173	I f	A1	黒	黒	黒	不明	赤で草文か	不明	不明	[12.0]	14.8	≒2.0			661-0704-0040-0023
112	騎武52	E区:1堀: 2層:No454	I b	A1	黒	黒	黒	赤で鶴丸カ	赤	不明	14.8	10.2	7.0	3.0			661-0704-0052-0012
113	騎武52	E区:1溝: 下層	III	C	赤	赤	赤	黒	黒で松、竹	無	≒11.0	[4.0]	≒6.4	不明		漆膜硬質な感じ	661-0704-0052-0008
114	騎武55	1井戸	II e	B1	赤	黒	黒	無	無	赤	12.4	4.4	6.4	0.6			661-0704-0055-0001
115	HG08	1溝:No66	II c'	A1	黒	黒	黒	無	赤	無	13.0	5.0	7.0	0.6			661-1004-0008-0010
116	HG08	1溝:No13	I e	B2	赤	黒	黒	無	無	無	≒12.2	8.0	6.1	2.0			661-1004-0008-0002
117	HG08	6溝:No28	II d	A1	黒	黒	黒	無	赤で船	赤で四つ菱、線刻	12.0	4.1	6.0	0.8			661-1004-0008-0024
118	HG08	6溝:No30	I e	A1	黒	黒	黒	赤で松	無	赤で四つ菱	不明	[9.5]	6.7	2.4		2単位	661-1004-0008-0025
119	HG08	8A溝:No13	I b	B1	赤	黒	黒カ	赤	無	塗彩無し、線刻	不明	[9.0]	6.7	2.0		高台裏に線刻	661-1004-0008-0035
120	HG08	8c溝No1	不明	A1	黒	黒	黒	赤	無	赤で四つ菱	不明	不明	不明	[2.3]		胴部と高台部分裂	661-1004-0008-0049
121	HG08	8d溝:No1	不明	A1	黒	黒	黒	赤	赤で双鶴	不明	12.0	4.6	5.8	0.6			661-1004-0008-0051
122	HG08	13溝:No7	I c	C	赤	赤	赤	無	無	黒	13.4	8.0	6.4	1.8			661-1004-0008-0054

第18表 漆器一覽表 4

第2節 かわらけ

(1) これまでの報告－5期変遷－

『騎西城跡』出土のかわらけについては、加須市埋蔵文化財調査報告書第2集『騎西城武家屋敷跡KB大英寺・1・2区調査－中近世編－』（2011加須市教育委員会）において、島村範久氏が、下記のとおり同報告掲載の資料に加え『騎西町史』考古資料編1（2001騎西町教育委員会）及び騎西町遺跡調査会報告書第2集『騎西城武家屋敷跡妙光寺第1・2次発掘調査報告書』（1997騎西町遺跡調査会）、の資料をあわせて、かわらけをI～V期の5期に分けて変遷を追っている。

現在までの調査で騎西城跡で最も古い遺構は騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝である。この溝からは瀬戸美濃大窯1の播鉢が1個体確認されているが、大窯1の特徴的な皿である端反皿は1点も確認されていない。こうした問題点もあるが、この遺構から出土したかわらけ（第69図－『騎西町史』考古資料編1 [以降資料編と記す]）p430の騎西城武家屋敷跡第10区1・4溝No40～71）をとりあえずは、騎西城I期のかわらけとする。年代的には15C中～16C前半としておく。

次に、資料編1 p457の騎西城跡第15区10堀・25堀下層出土かわらけNo64・65・67・70、72～77、79・81～84がある。このうち64・72・82はI期のかわらけである。この10堀・25堀の上層では志野や唐津などの陶器が出土しているが、下層からは出土せず瀬戸美濃大窯3の削りこみ高台の鉄釉皿（資料編1 p452No29・30）と共伴している。また、騎西城跡第19区7堀の中位層から約20個体のかわらけがまとまった形で出土しており（第70図－資料編1 p474・475No29～47、写真222）、共伴遺物は口縁部を欠く大窯期の播鉢のみであるが、中位層以下からは志野や唐津は確認されていない。そのため、このかわらけ群をII期とし年代は16C中～末とする。

III期は騎西城跡第19区の炭化物層出土かわらけ（第71図－資料編1 p490No47～66）がある。この炭化物層は前述の第19区7堀の上層に厚さ約1mで確認され、ここからは瀬戸美濃の連房1や2の志野丸皿、連房1の総織部皿、肥前系

陶器の唐津鉄絵皿などが共伴している。また、騎西城武家屋敷跡4区の1堀出土かわらけ（第71図－資料編 p556No28～30、33～36、38～42）がある。この土壌からは瀬戸美濃連房2の志野丸皿・鉄絵皿、17C前半の志戸呂香炉が共伴している。そのため年代は17世紀前半とする。

なお、IV・V期は騎西城廃城後であるが、今回報告のKB大英寺区1溝出土かわらけ（第72図7～25）がIV期で17C後半、V期は騎西城武家屋敷跡妙光寺1・2調査で肥前磁器の染付碗（くらかわんか碗）と共伴する18C代のかわらけである。

上記の記述について、それぞれの町史資料編や報告書の説明に従い、以下に整理をする。（第69～72図）

※挿図キャプションはかわらけAとする。

I期は、まずKB10区1・4号溝出土の32点を取り上げ、口径12cm前後、碗形と皿形の別がある。碗形は外面体部上方に稜を持つもの（40～46）、体部が内湾気味に立ち上がるもの（47～55）、直線的なもの（56～62）、底部が厚いもの（63～66）、皿形は体部が内湾気味に立ち上がるもの（67～71）がある。また、KB15区10・25号堀他出土の3点で口径11cm前後、碗型（64・72）、皿形（82）がある。

II期は、KB15区10・22・25号堀他出土の12点で口径11cm前後、碗形と皿形の別がある。碗形は体部が直線的なもの（65～69）、内湾気味に立ち上がるもの（70～73）、皿形は体部が直線的なもの（74～79）、内湾気味に立ち上がるもの（80～83）、体部外面がややくびれるもの（84）に分けられる。また、KB19区7号堀2層出土の19点で、口径11.5cm前後の皿形で、器高が高いもの（29～38）、低いもの（39～47）がありさらに低いものを器高2.5cm前後（39～43）と2cm前後（44～47）に分けている。

III期は、KB19区炭化物層（C区5C層・5C I層・5C II層）出土の20点で全て皿形である。口径11cm前後で体部が直線的に立ち上がるもの（51・59）、口径10cm前後で体部下方が丸みを帯びて立ち上がるもの（64）がある。また、KB4区1号土壇出土の12点は皿形で、器高が2.5cm前後、口径10cm前後である。

IV期は、KB大英寺区1号溝出土の19点で、口径

9 cm 前後、器高2.0cm 前後の小型のものでロクロ左回転のもの（7～9、12～14、16・17・19・20・23・25）と右回転のもの（18・21・22・24）がある。

V期は騎武妙光寺2次調査出土のものである。215～236は、口径8.5cm 前後、胎土が粗く作りが雑で、体部が丸みを帯びて立ち上がるもの（215～220）、直線的なもの（221～234）、見込み中央が突出しているもの（235）、立ち上がり直線的で口縁部が直立するもの（236）に分ける。237～239は口径10cm 前後、器肉が薄く作りが丁寧、胎土が粗い。

（2）本報告における確認

前述のかわらけ5期変遷は騎西城跡出土資料の実態に即しているものと思われる。今回は、詳細な観察や分類を行うため、調査報告書による既報告分のみ（町史掲載分を除く）取り上げ、その内容を改めて確認する。

また、年代を推定できる多数のかわらけ出土例は、土壙や井戸での出土はほぼ無く、溝や堀などの開放的な遺構からの出土である。その為、流れ込みによる混入資料をできるだけ除くため、遺存率およそ1/2以上のものを対象とする。

溝や堀の出土遺物を扱う結果として、古いものが

混入するという錯誤が生じる可能性を孕むが、今回はかわらけ一括資料をそのまま提示する。

今後、他遺構による共伴や型式学的な検討により精度を高めていきたい。

また、今回、これまでの報告の誤り（出土遺構・共伴遺物の年代）なども適宜修正する。

1) 分類

今回、詳細に見るために、便宜的な分類を行う。

共通した分類として成形によりロクロ成形-A群、手づくね成形-B群とする。以下、器形によりI類-皿形、II類-碗形とする。底部から口縁かけての形態により、a-内湾、b-直線、c-外反と細分する。

さらに、a b c類以下、上記とは異なり共通した分類ではないが、それぞれの特徴により1、2、3と再細分する。（第73～78図）

※挿図キャプションはかわらけBとする。

今回扱う資料はすべてロクロ成形（A群）である。

※以下、（a/b）は総数b点中a点を、No○は分類図（第73～78図）の通しNoを、（報No○）は報告書掲載Noを表す。

○KB10区 1号溝全体（1溝Aとする）

I類 a（内湾）a 1 全体に肉厚で、底部内面同心円のロクロナデ。（3/20）

b（直線）b 2 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。（2/20）

b 3 外傾強。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。内面体底部境に指頭ナデ。（2/20）

b 4 内面体底部境に強い指頭ナデ。粉っぽい。底径大。（1/20）

b 4' b 4に似るが底径小。（1/20）

II類 a（内湾）a 1 底部が厚く、口縁部に向かって薄くなる。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。（8/20）

a 1' a 1に比べて重い。（1/20）

b（直線）b 1 全体に薄い。内面体底部境に指頭ナデ。（1/20）

○KB10区 1号溝かわらけ集中（1溝Bとする）

I類 a（内湾）a 1 内面体底部境に指頭ナデ。（2/30）

a 2点とも違うため一括する。（2/30）

II類 a（内湾）a 1 底部は厚く口縁部に向かって薄くなる。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。（26/30）

○騎3次 1号堀

- I 類 a (内湾) a 1 浅い。(1/11)
- b (直線) b 1 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。(1/11)
- b 2 口縁直下が窪み、体部外面に弱い段を有する。体部がやや立つ。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ、内面体底部境に指頭ナデ。(1/11)
- b 3 口縁直下が窪み、体部外面に弱い段を有する。やや立つ。内面体底部境に指頭ナデ。(2/11)
- b 4 底部内面渦巻ナデ。粉っぽい。(1/11)
- II 類 a (内湾) a 1 底部は厚く口縁部に向かって薄くなる。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。KB10区1溝のものより浅い。(1/11)
- a 2 底部は厚く口縁部に向かって薄くなる。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ。KB10区1溝のものより大きい。(1/11)
- a 3 底部は厚い。胎土に多量の金雲母を含む。(1/11)
- b (直線) b 1 底部外面へラ整形。(2/11)

○KB10区 47号井戸

- I 類 b (直線) b 1 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。内面体底部境指頭ナデ。(12/14)
- b 2 段無し。内面体底部境指頭ナデ。(1/14)
- b 3 段無し。底部内面指頭ナデ、底部外面板ナデ、内面体底部境指頭ナデ。KB19区7号堀のものに似る。(1/14)

○KB4区 48号土壙

- I 類 b (直線) b 1 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。(2/3)
- b 2 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。内面体底部境指頭ナデ。(1/3)

○KB4区 41号土壙

- I 類 b (直線) b 1 口縁直下が窪み、体部外面に段を有する。底部内面指頭ナデと同心円クロナデの別有り。内面体底部境指頭ナデ。(6/6)

○KB4区 1号土壙

- I 類 a (内湾) a 1 体部が外傾し、整形は丁寧である。橙色。(4/23)
- a 2 整形はやや雑である。浅黄橙色。(5/23)
- a 3 底部はケズリ整形か。胎土はざらざら。橙色。(3/23)
- a 4 底部はケズリ整形。丁寧。(3/23)
- b (直線) b 1 小型で浅い。底部が厚いものがある。(3/23)
- b 2 中型で、器厚は全体に均等。(2/23)
- c (外反) c 1 外反が強く、口縁下で強く反る。(2/23)
- c 2 外反は弱い。(1/23)

○KB大区 1号溝

- I 類 a (内湾) a 1 口縁が立ち気味である。(1/16)
- a 2 緩やかに内湾する。橙色。(3/16)

- a 3 浅い。段を有する。(2/16)
- a 4 浅い。底部内面同心円刷毛目ナデ。(3/16)
- a 全て違うため一括する。(5/16)
- b (直線) b 1 底部内面同心円ナデ。(1/16)
- b 2 内面体底部境窪み。(1/16)

○KB5区 14号土壙

- I 類 a (内湾) a 1 底部中央窪む。(2/11)
- a 2 体部外傾強く、浅い。(2/11)
- a 3 口唇部は丸みを帯び、底部内面同心円口クロナデ。(3/11)
- b (直線) b 1 体部が外傾する。(1/11)
- b 2 内面体底部境窪む。底部内面に稜を有する。(3/11)

○騎武妙光寺2次 15号土壙

- I 類 a (内湾) a 1 底部内面整形が雑。法量は多様。(3/20)
- a 2 底部中央凸。体部が立つ。(8/20)
- a 全て違うため一括する。(8/20)
- b (直線) b 1 体部外傾、大型。胎土緻密。(1/20)

2) 出土状況及び帰属年代

前項で分類したものは、以下のとおりの出土状況であり、共伴遺物によりかわらけの廃棄年代を推定する。かわらけの使用期間を短いものと想定すると、製作・使用・廃棄は近い時期として良いと思われる。

分類別に並べると、第79・80図かわらけ変遷図(I・II類)のとおりとなる。

○KB10区 1号溝

出土: 全体・集中区ともに、I・II類別の平面・レベルの分布傾向は確認できない。古瀬戸後期の平碗片・縁釉小皿片が多いが流れ込みと思われる。平面分布では、出土遺物中最新段階の大窯3は遺構外、レベル分布では、肥前陶器は計算上確認面より上位である(以下レベルは計算による)。

大窯1の瀬戸美濃播鉢片3点(残存1/2以下)が溝内覆土中位レベル出土で、伴出とする。

(※No.5は4号溝出土であるが、4号溝は1号溝と同一であるため含める。)

年代: 15世紀末～16世紀前半と思われる。

○騎3次 1号堀

出土: かわらけは、遺構全体に分布しているが、I・II類、a・b類別の傾向は確認できない。陶磁器は完形の縁釉小皿(大窯1)、染付皿(B1類-15c後～16c後)が出土する。丸皿(大窯3)が出土。※かわらけの出土レベルが、確認面より高いものがある。特にNo.51・56が高いが特徴的な形態であるため検討材料として掲載する。

年代: 15世紀末～16世紀前半と思われる。

確認面上位レベルの出土遺物は16世紀中～後半にかかるか。

○KB10区 47号井戸

出土: かわらけは14点、No.は振ってあるが分布図・レベル無し。瀬戸美濃播鉢片(残存1/2以下)

1点は大窯2後半から3前半か。

年代: 16世紀中葉と思われる。

○KB4区 48号土壙

出土: かわらけ3点は、覆土中位のレベル。確認面やや上位レベル出土の瀬戸美濃丸皿片(残存1/2以下)1点は大窯3である。

年代：16世紀後半としておく。

○KB4区 41号土壙

出土：42号土壙と重複するが41号土壙が新しい。かわらけ6点、陶磁器3点、いずれも土壙全体に分布し、覆土中・上位のレベルである。志戸呂徳利片（残存1/2以下。16c中～17cか）、瀬戸美濃大窯1の豆皿（残存1/2以上）、登窯2小期の天目茶碗片（残存1/2以下）があるが、天目茶碗片は報告では登窯2としているが大窯3の可能性もある。

No.79は78（KB4区48号土壙）に器形・整形とも似る。

年代：16世紀後半としておく。

○KB4区 1号土壙

出土：底面に複数掘り込みがあり、重複遺構である。陶磁器・かわらけの平面・レベルの分布状況に型式差・年代差の傾向は無い。かわらけは23点、陶磁器は26点。1/2以上のもの、出土遺物中最新段階のものは3点で瀬戸美濃天目茶碗（残存3/4以上）、鉄絵皿（残存1/2以上）はともに登窯1から2小期である。

年代：17世紀前半と思われる。

○KB大区 1号溝

出土：溝中央確認面でほぼ水平に出土。かわらけ16点、陶磁器5点—肥前陶器三島手（17c後）・磁器網目文（17c中～後）がある。

年代：17世紀中～後半と思われる。

○KB5区 14号土壙

出土：かわらけ14点で、陶磁器片12点は全て残存1/2以下。確認面上位レベルでも遺物が出土し、そのうちかわらけはNo.131～133である。報告では出土遺物中最新段階は肥前陶器丸碗3点（18c前半）とするが、17c末～18c後半の可能性あり。他の陶磁器は17c中～後半で、肥前磁器網目文（報No.412）は、妙光寺2次15号土壙のもの（報No.88）より古いか。

年代：17世紀末～18世紀と思われる。

○騎武妙光寺2次 15号土壙

出土：かわらけの平面分布を見ると、まんべんなく分布する。かわらけ20点。No.140・143・144は2号井戸出土の可能性あり。かわらけは覆土中～下位レベル出土。陶磁器は（報No.75・79・80）は土壙外、（報No.89～91—17c末～18c前）が出土遺物中最新段階である。

年代：17世紀末～18世紀前半と思われる。

3) 法量の比較及び胎土・整形の傾向

各地点のかわらけの法量について、I類とII類に分けて、口径及び器高の法量及び範囲・平均値を確認する。

また、胎土含有物の特徴や整形について見る。

法量：かわらけ法量分布図（第81・82図）を見ると、I類については、KB10区1号溝A・Bは密な分布である。騎3次1号堀は、No.51（a1類）と56（b4類）が密な分布からはずれる。KB10区47号井戸はNo.74・75（b2類）が密な分布からはずれる。KB4区48号土壙は密な分布である。KB4区1号土壙は疎な分布である。No.85～87（a1類の一部）と89・92・93（a2類の一部）、No.100～102（b1類）の小口径・低器高のグループとその他の大口径・高器高のグループに分けられる。

KB4区41号土壙・KB大1号溝・KB5区14号土壙は密な分布である。騎武妙2次15号土壙はNo.154（b1類）が大口径のものである。

II類はKB10区1号溝A・Bは密な分布である。騎3次1号堀は器高に幅がある。

法量範囲・平均表（第19表）を見ると、I類の口径および器高の数値は、大口径・高器高から小口径・低器高に移行しているが、体部外面に段を有する大口径のKB10区47号井戸・KB4区48号土壙・41号土壙のものは別系列と思われ、スムーズに移行しない。

口径のみについては、平均口径はKB10区1号溝・騎3次1号堀のものは10cm後半、KB4区1号土壙とKB5区14号土壙のものは9cm後半、KB大区1号溝・騎武妙2次15号土壙のものは8cm後半となるが、KB5区14号土壙のものが小口径化にス

ムーズに移行しない。

器高のみについては平均器高は2.8cm から1.8cm へとスムーズに小型化する。

Ⅱ類について平均値を見ると、KB10区1号溝—口径11cm・器高3.4cm、騎3次1号堀—口径12cm・器高2.8cm と騎3次のものやや大きく低い。

全体的な比較を分布図（口絵16 かわらけ全体Ⅰ・Ⅱ類法量分布図）で確認すると、大口径・高器高から小口径・低器高に移行するが、現在のところ前述の通り時系列に整然と移行することが確認できない。

胎土：かわらけ一覧表（第20～22表）参照。角閃石の含有の有無を生産地の特定や流通、時期差を想定したが、明確な傾向を見いだすことはできなかった。ただし、KB10区1号溝、特に1号溝Bに多量に含むものが多数あった。砂粒は、KB10区47号井戸のものには大量に含まれる。赤褐色粒子も特徴的で大量に含まれる個体はあったが、傾向は認められない。金雲母については、騎3次1号堀で1点出土したのみである。（KB10区かわらけ集中地点1で体底部境に強いナデをもつものが多量の金雲母を含む。いずれ扱いたい）。

整形：分類及びかわらけ一覧表、かわらけ変遷図（第79図）参照。KB10区1号溝A（Ⅰ類b2・b3、Ⅱ類a1）及びB（Ⅱ類a1）、騎3次1号堀（Ⅰ類b1・b2、Ⅱ類a1・a2）のものは、糸切り後、底部外面に板状工具によるナデを施している。また底部内面には親指あるいは3本の指の指頭により、ナデ整形を施している。

内面の体部と底部の境を指頭により回転ナデを施しているものが多くあり、強いナデ—No.6・10・52・54・78・79—、弱いナデ—4・53・62・75—の別があるが関連性は不明。

また、底面内部の整形で同心円状の指頭ナデが認められる。KB10区1号溝Aのもの（Ⅰ類a1）とKB大区1号溝のもの（Ⅰ類b1）があるが、いずれも特徴的で別物である。

ほかに妙光寺2次15号土壙のものは底部内面に凸や稜、内面体部底部境に稜及び窪みがある。

4) その他（第79・80図参照）

分類した中で、特徴的な器形で、体部外面に段を有するb類がある。いずれも内面体底部境にナデを施す。騎3次1号堀のNo.52・53・54、KB4区48号土壙のNo.76では体部が立つ。KB10区1号溝AのNo.4、KB10区47号井戸のNo.62では口径が大きく傾きが強い。KB4区48号土壙のNo.78、41号土壙のNo.79は62に比べやや立つ。

壙型（Ⅱ類）については、騎3次1号堀のもの（No.58・59）はKB10区に比べ大型である。ただしNo.59は器高が低い。

器厚が薄くて体部が直線的に立ち上がるものがある。KB10区1号溝のNo.10・11で法量・整形は異なるが、他のかわらけとは区別を要する。

5) 変遷

以上の傾向を年代を勘案しまとめると、以下の通りである。

法量については、15世紀末から18世紀にかけて、Ⅰ類は口径・器高ともに小さく低くなっていく。

胎土については、15世紀末から16世紀前半に金雲母を多量に含むものがある。16世紀後半には砂粒を含む1群がある。

整形については、Ⅰ・Ⅱ類ともに、15世紀末から16世紀前半のものに底部内面指頭ナデ・底部外面板ナデが施される。15世紀末から16世紀後半に内面体底部境指頭ナデを施す1群がある。

器形については、15世紀末から16世紀にかけて体部外面に段を有するものがある。法量については変化が認められない。そのなかに、体部が立ちやや深い1群がある。

6) 今後の課題

①年代については細片の陶磁器の伴出をもって決定したものが多。今後変更する可能性がある。

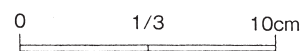
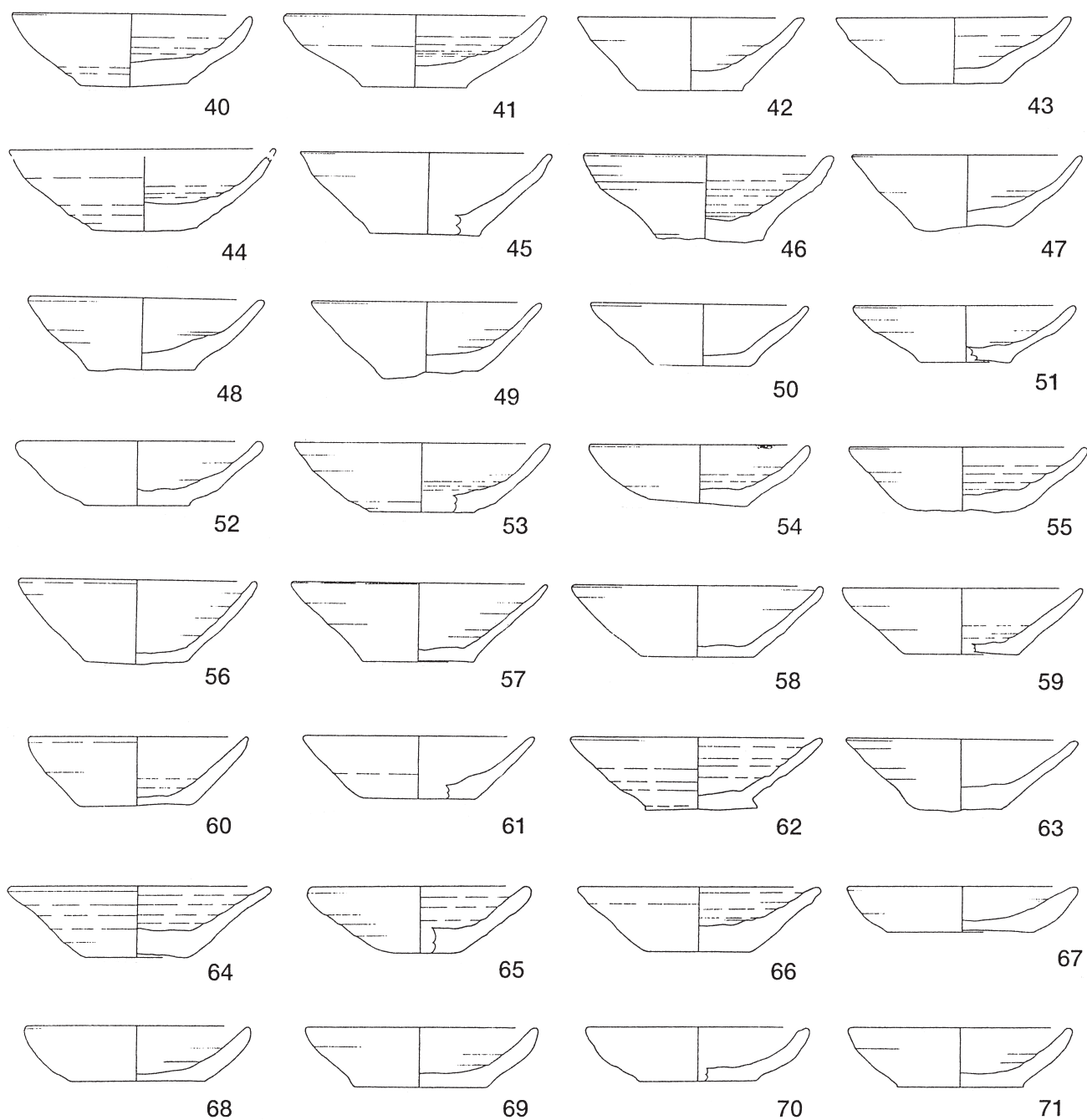
②陶磁器を伴出する少数のかわらけを、変遷の再検討資料とする。

③陶磁器を伴出しないが、形式的に特徴のあるかわらけを検討し、今回の作業に加えたい。

④今後、報告予定のかわらけを追加する。特にKB14・15・19区、騎13次。

I 期

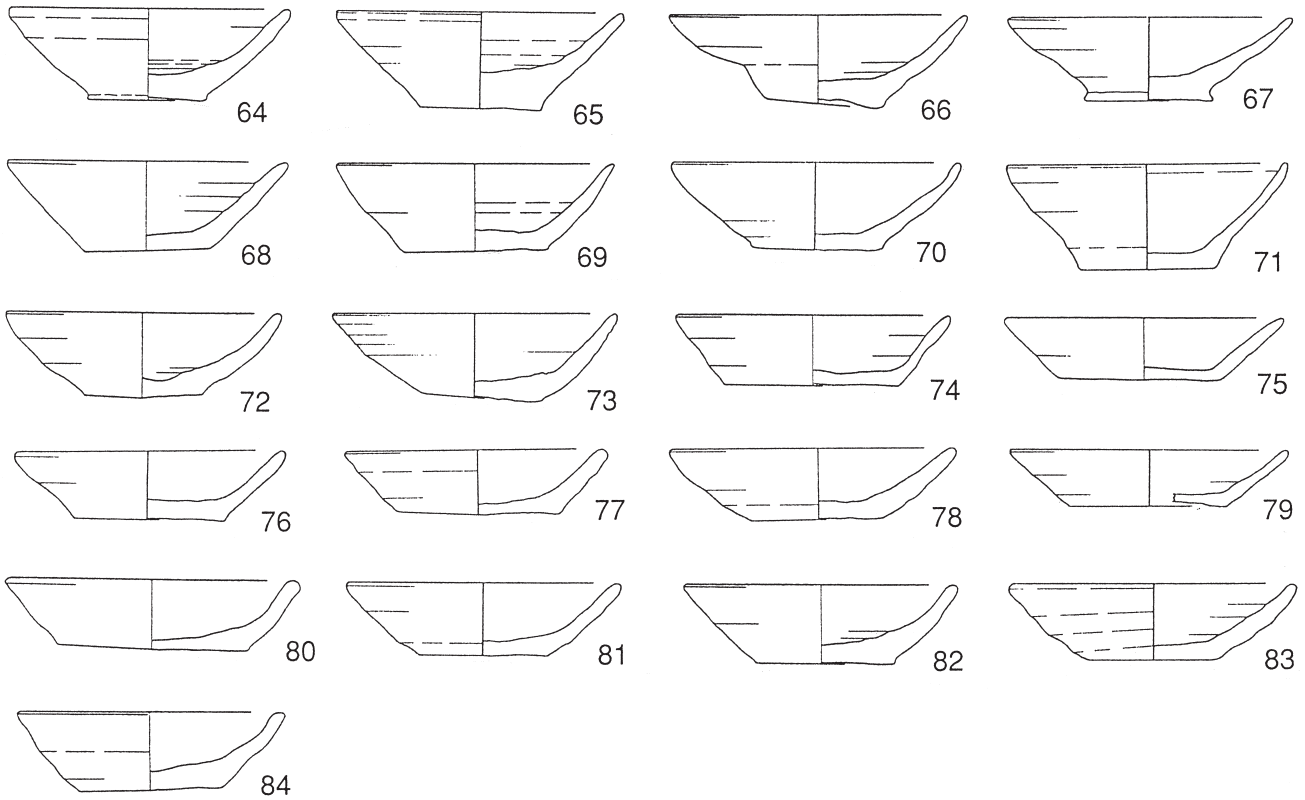
KB10区 1・4溝(騎西町史P430)



第69図 かわらけ A1 (I期)

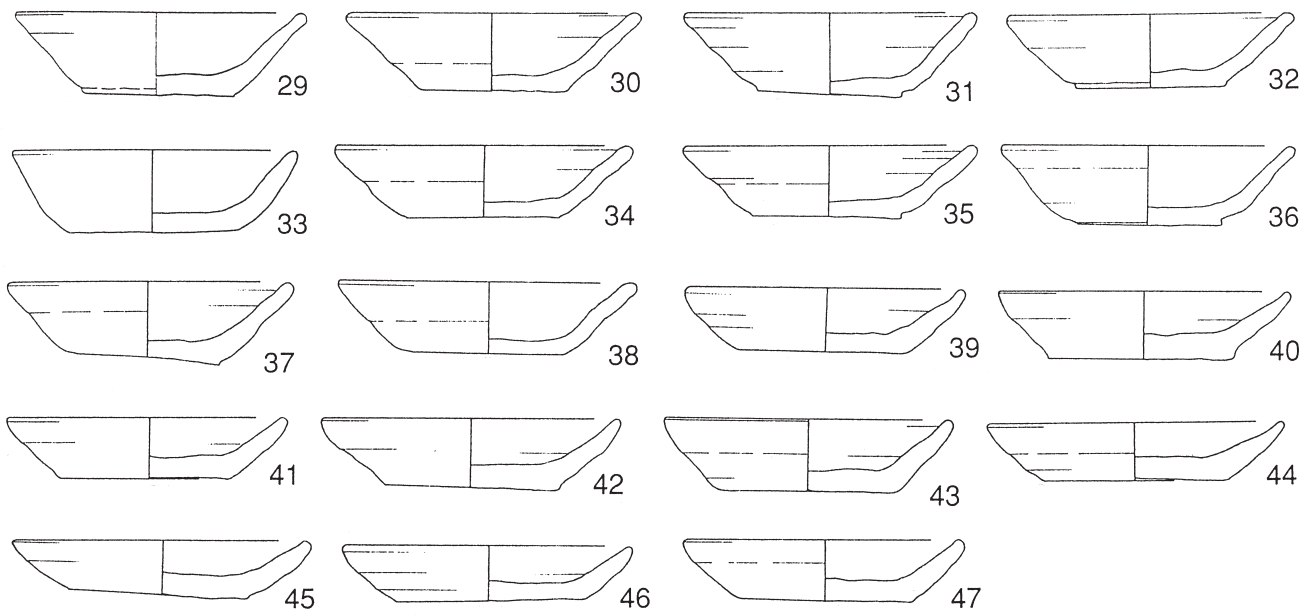
I・II期

KB15区 10・25堀他 (騎西町史P457)



II期

KB19区 7堀 (騎西町史P474・475)

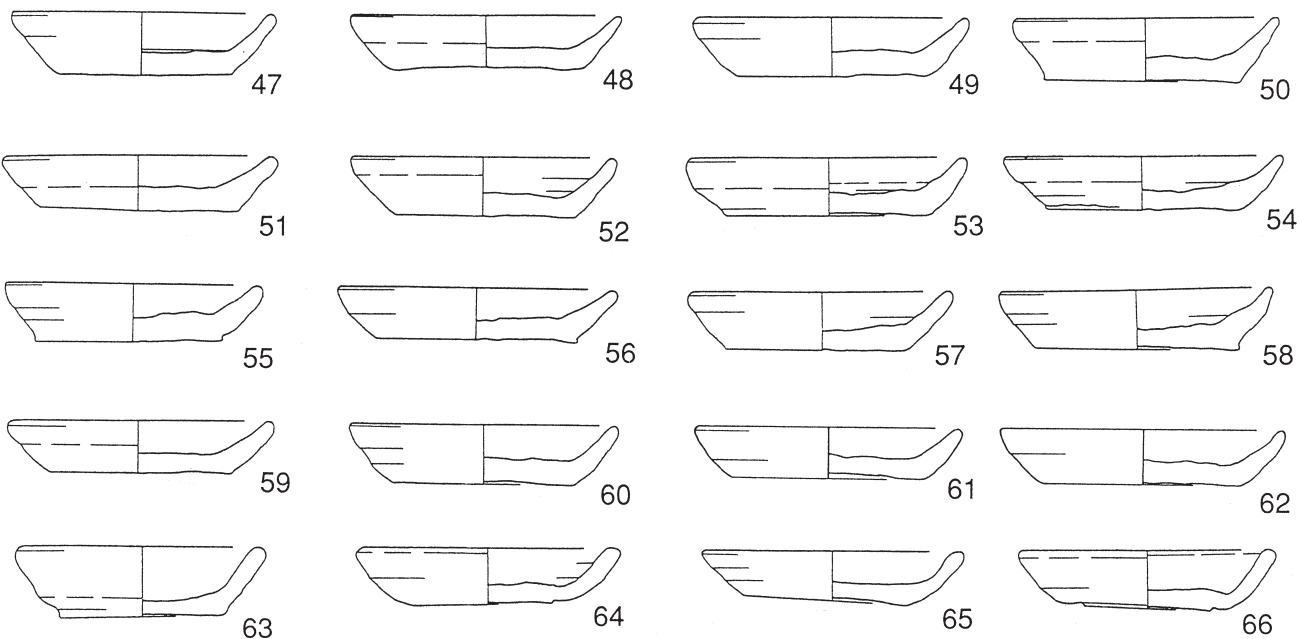


0 1/3 10cm

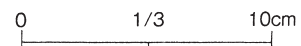
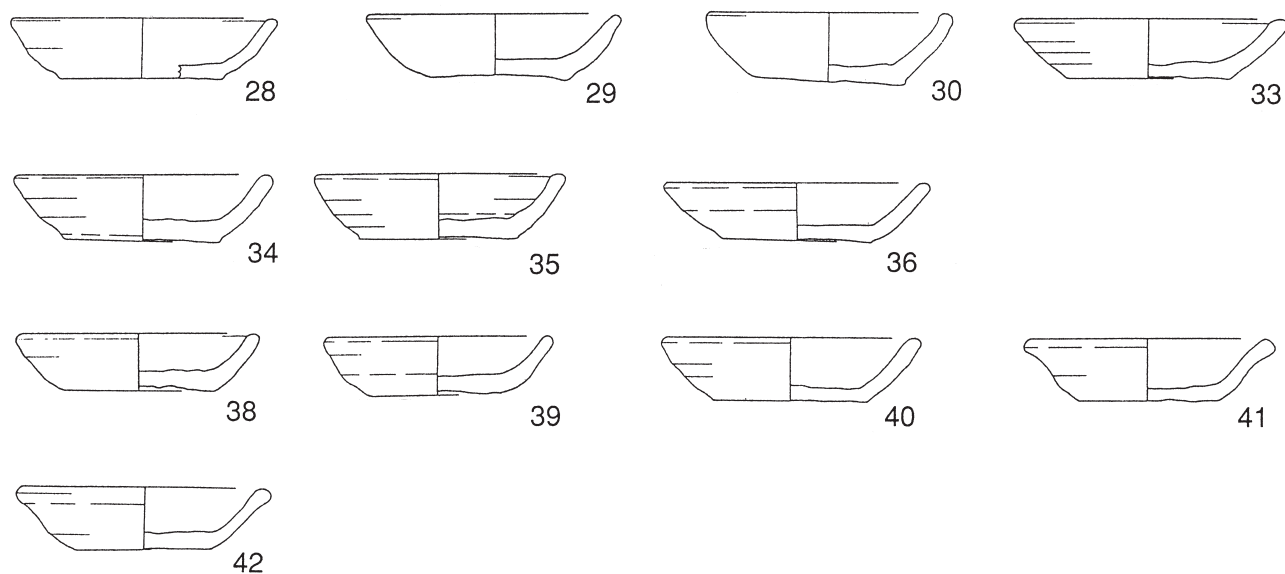
第70図 かわらけ A2 (I・II期)

Ⅲ期

KB19区 炭化物層(騎西町史P490)



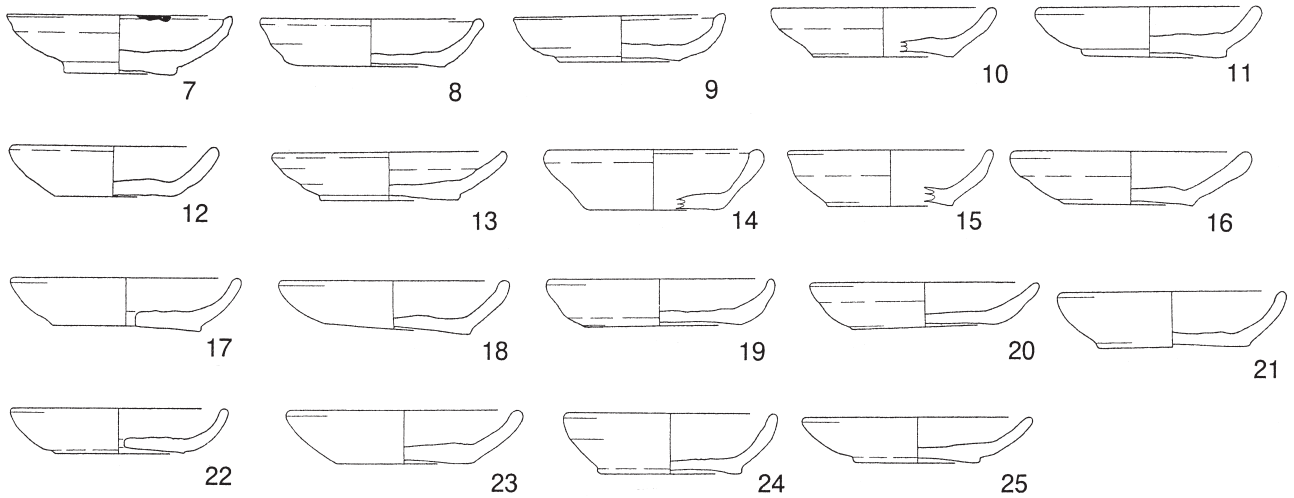
KB4区 1墳(騎西町史P556)



第71図 かわらけ A3 (Ⅲ期)

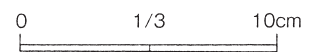
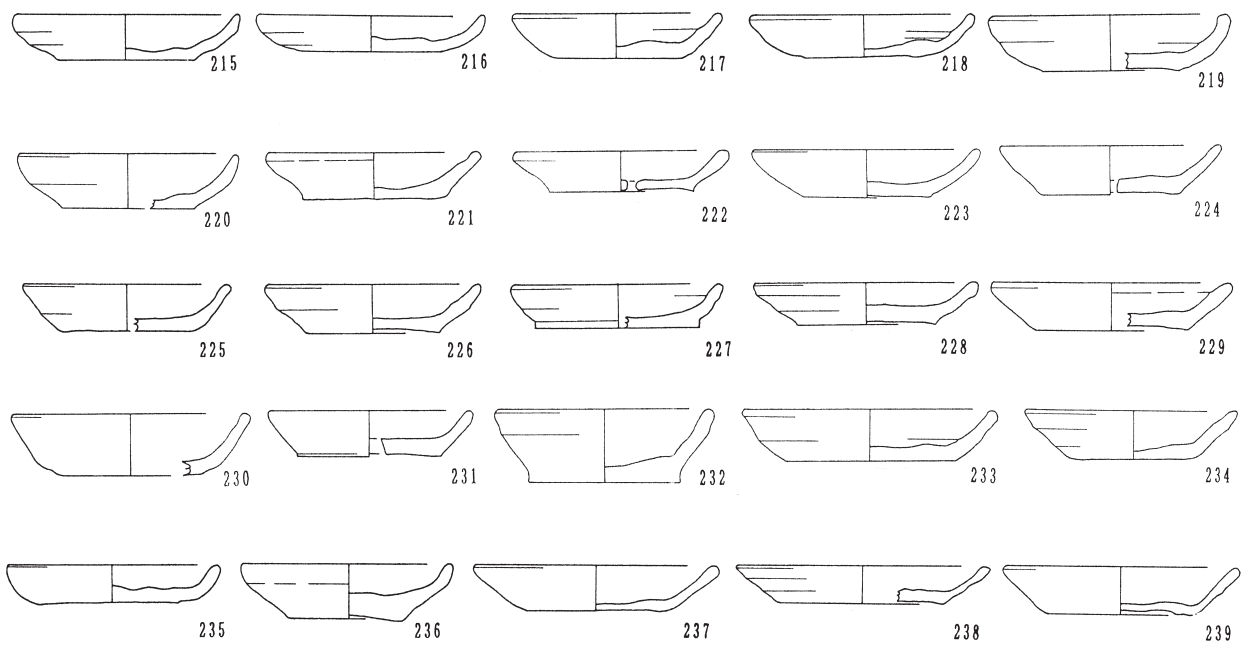
IV期

KB大区 1溝(加須市報2集P56)



V期

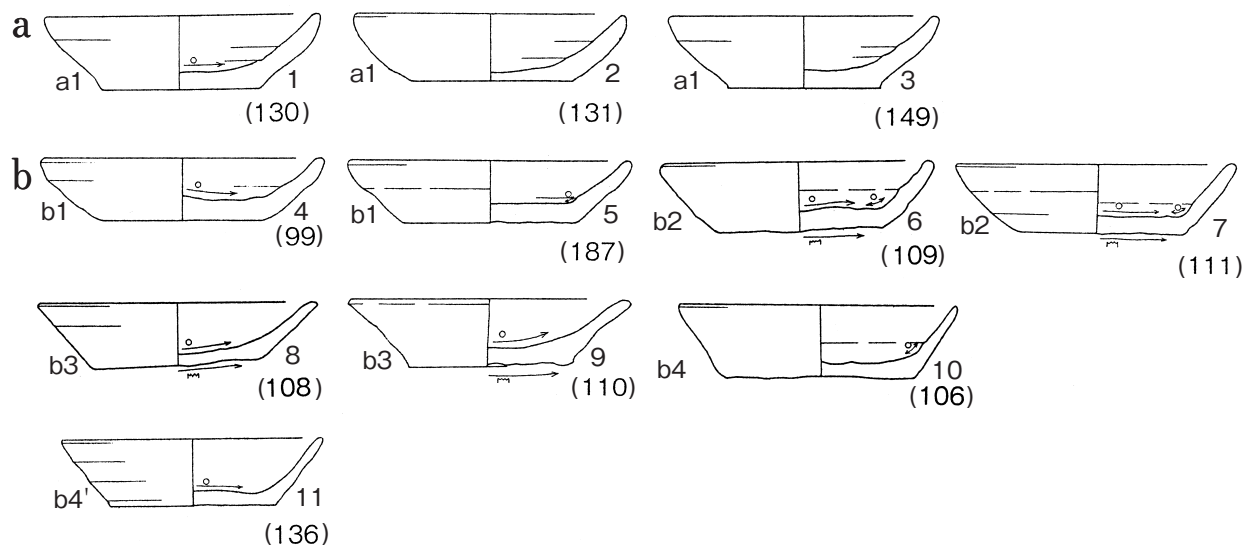
騎武妙2次(騎西町遺報2集P43)



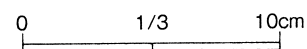
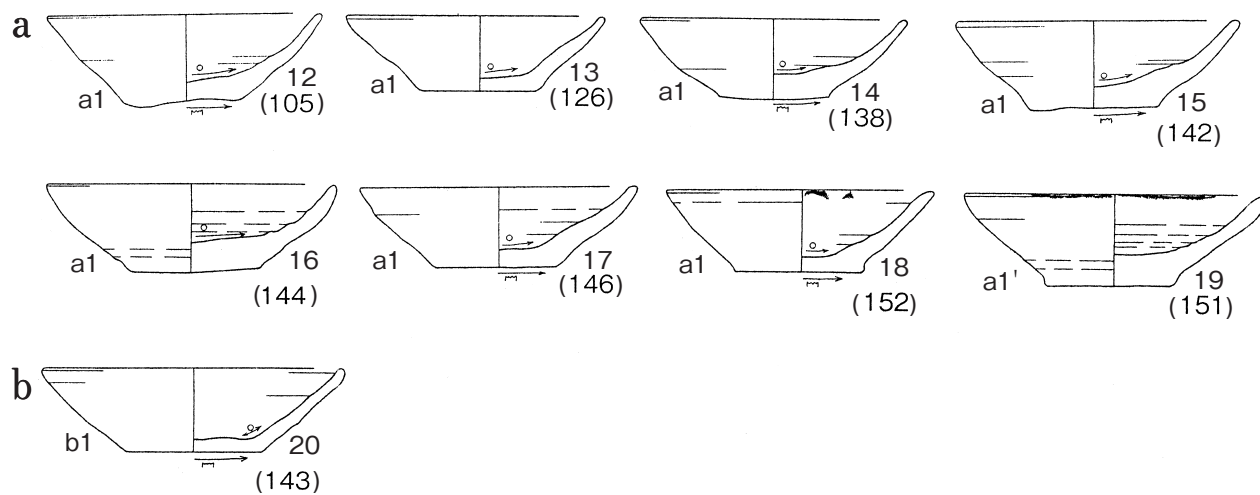
第72図 かわらけ A4 (IV・V期)

KB10区 1溝全体(A)

I類



II類

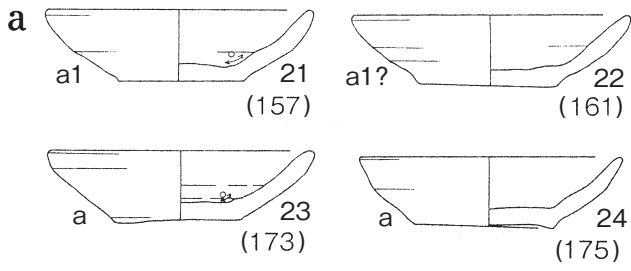


※()内遺物Noは報告書掲載No。以下同様

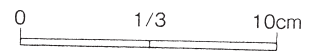
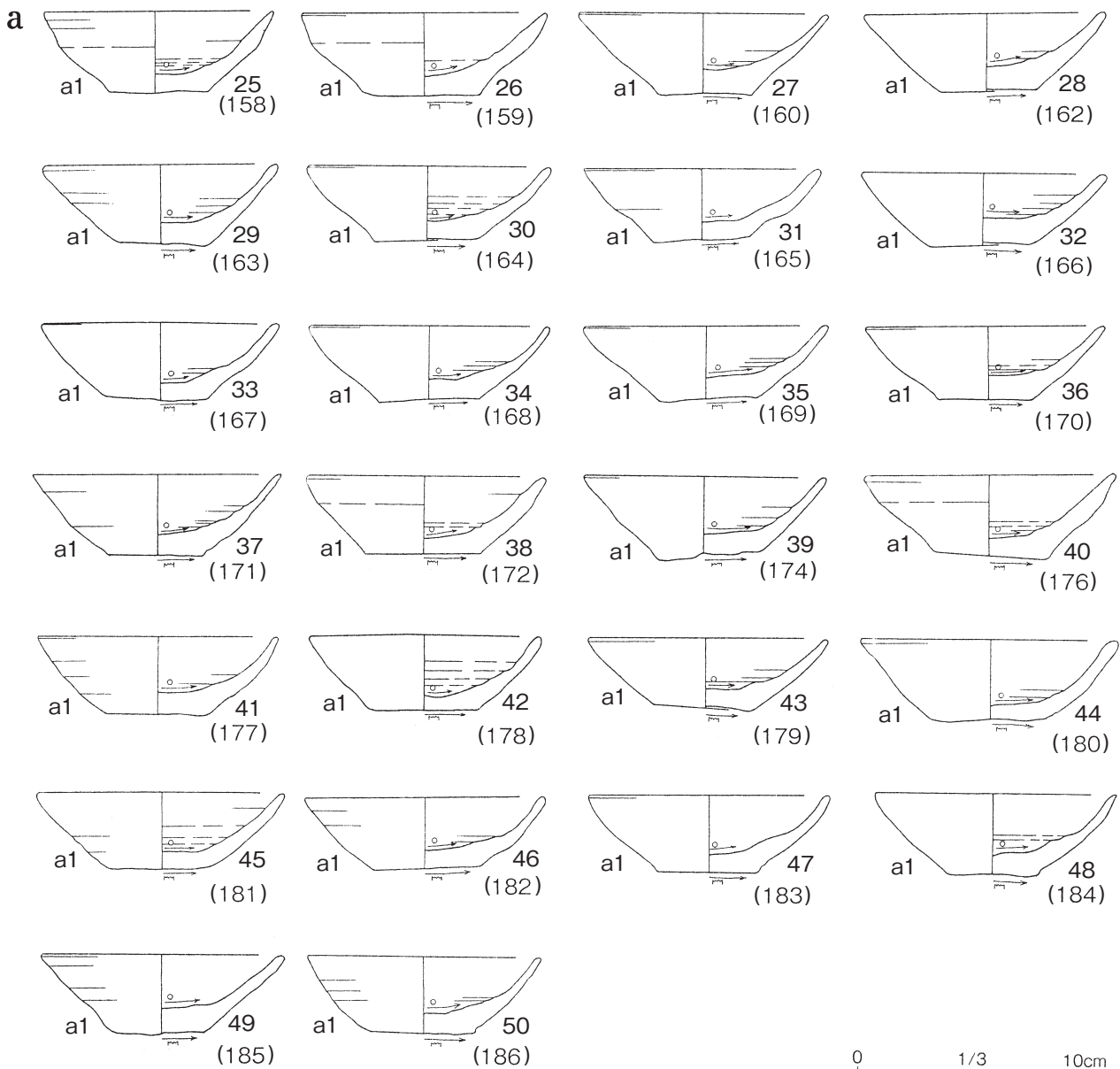
第73図 かわらけ B 1 (KB10区 1 溝 A)

KB10区 1溝 かわらけ集中(B)

I類



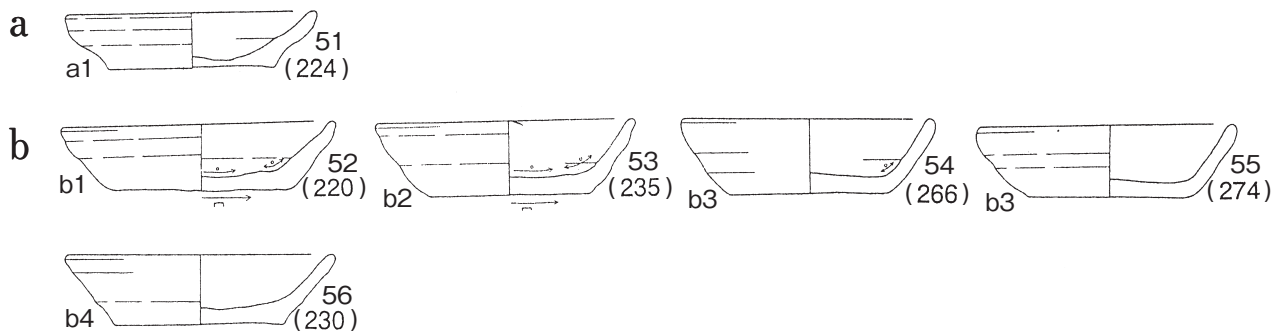
II類



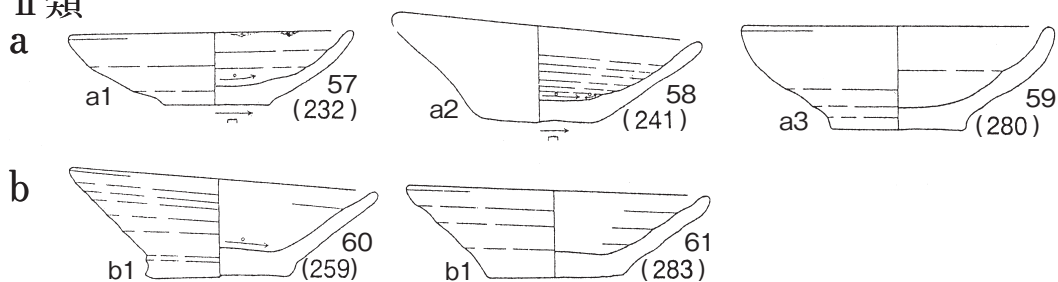
第74図 かわらけ B2 (KB10区 1溝 B)

騎3次 1堀

I類

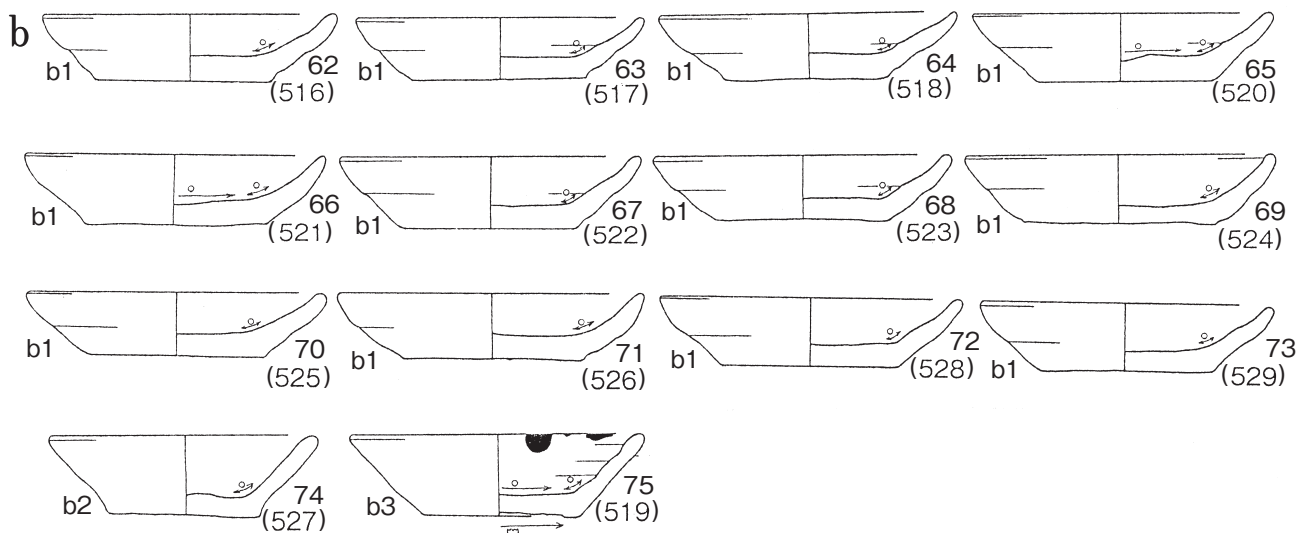


II類



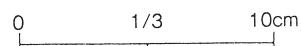
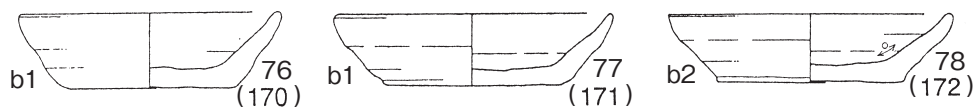
KB10区 47井

I類



KB4区 48堀

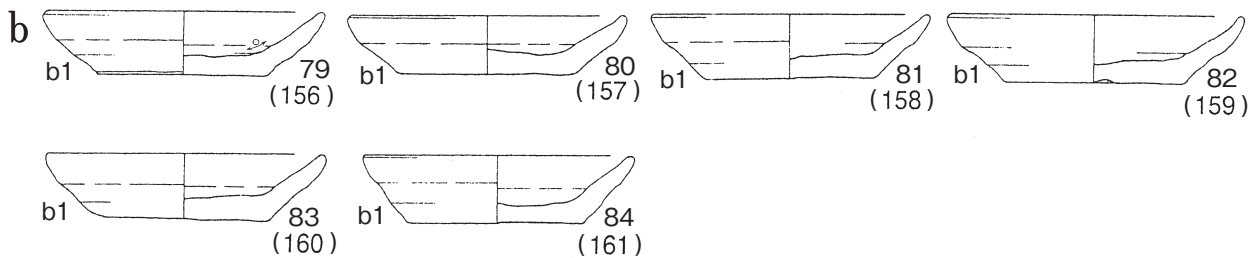
I類



第75図 かわらけ B3 (騎3次・KB10区47井・KB4区48堀)

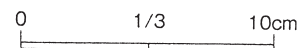
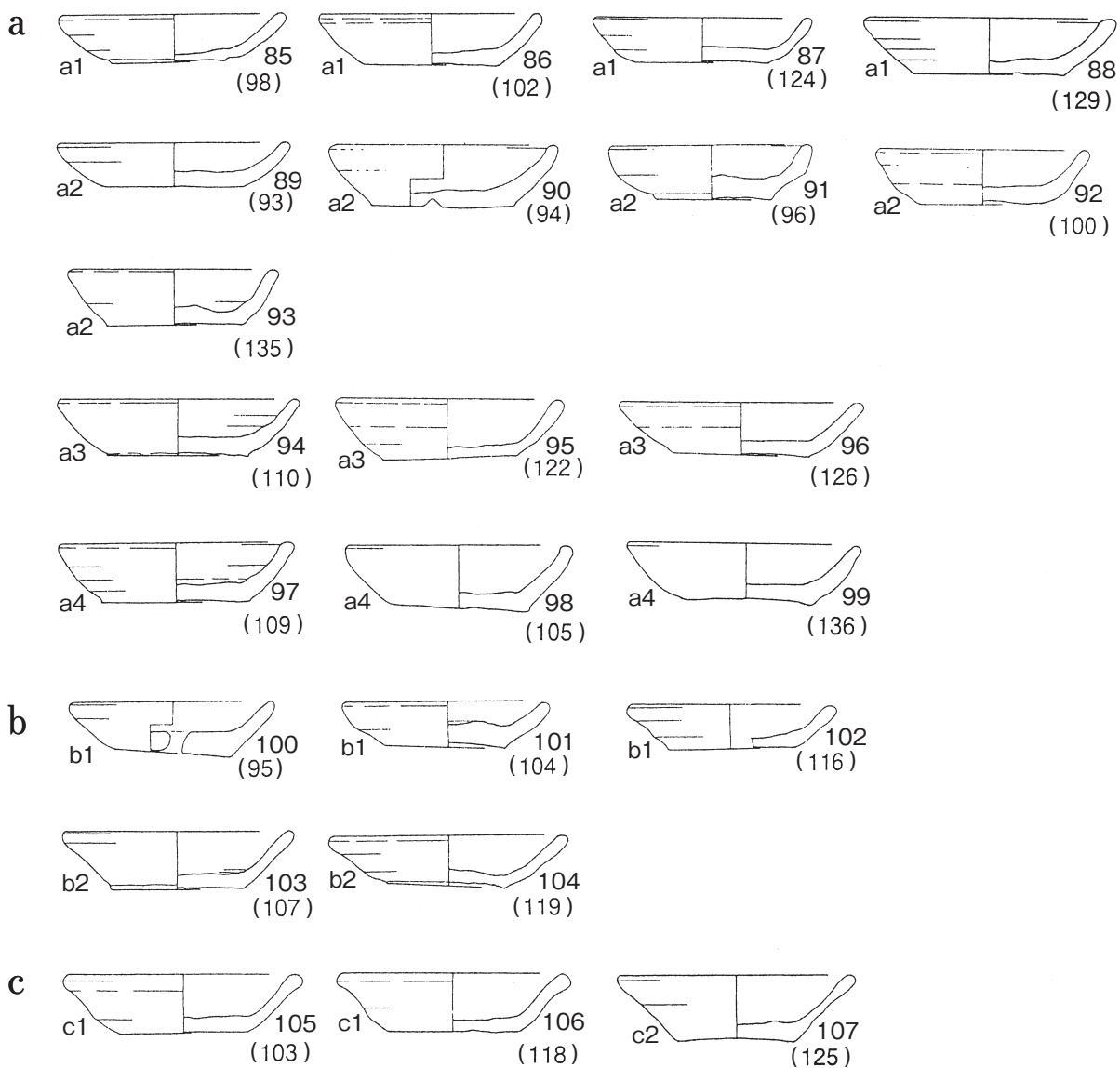
KB4区 41墳

I類



KB4区 1墳

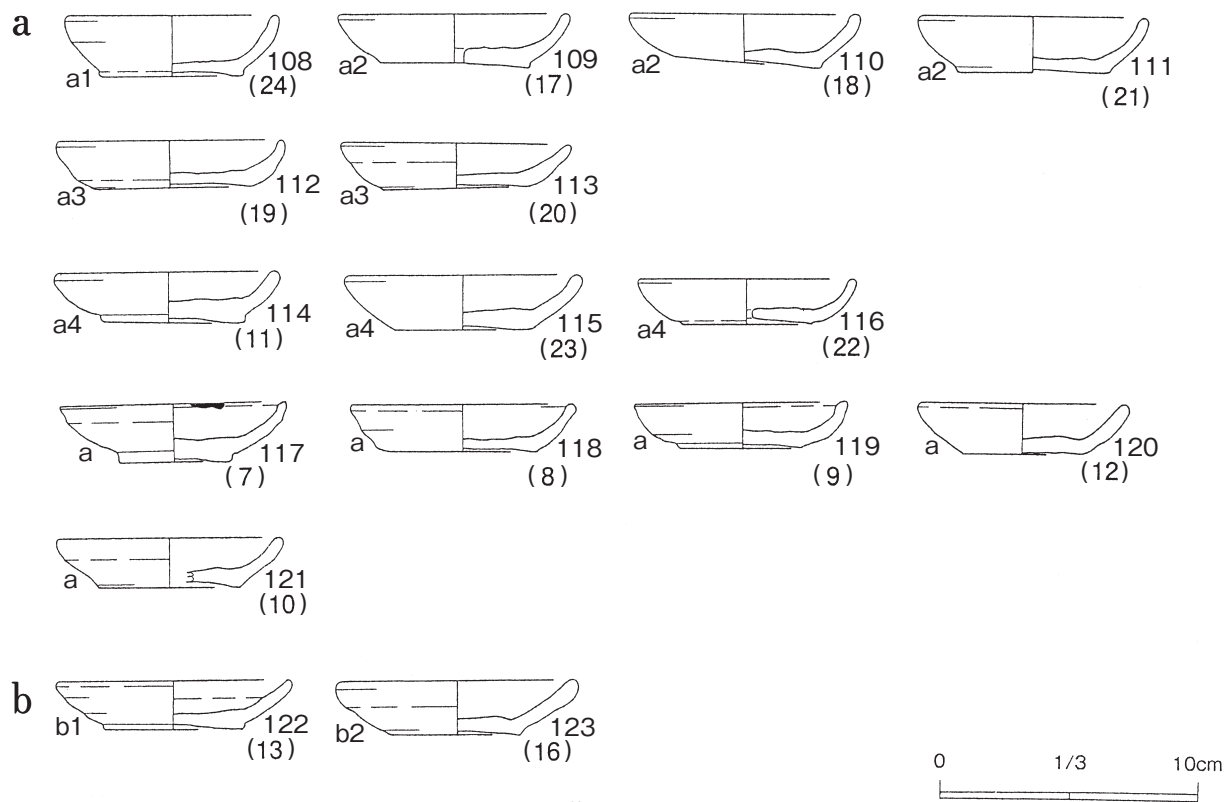
I類



第76図 かわらけ B 4 (KB 4 区41墳・KB 4 区 1 墳)

KB大区 1溝

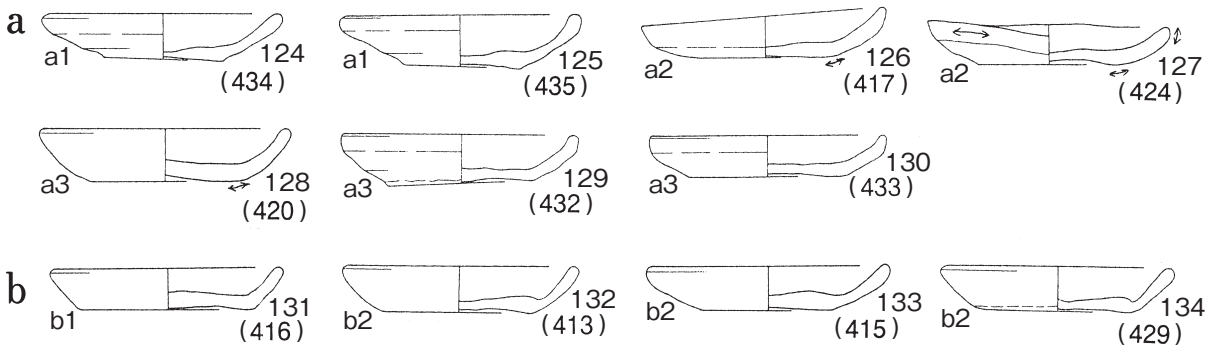
I類



第77図 かわらけ B5 (KB 大区 1 溝)

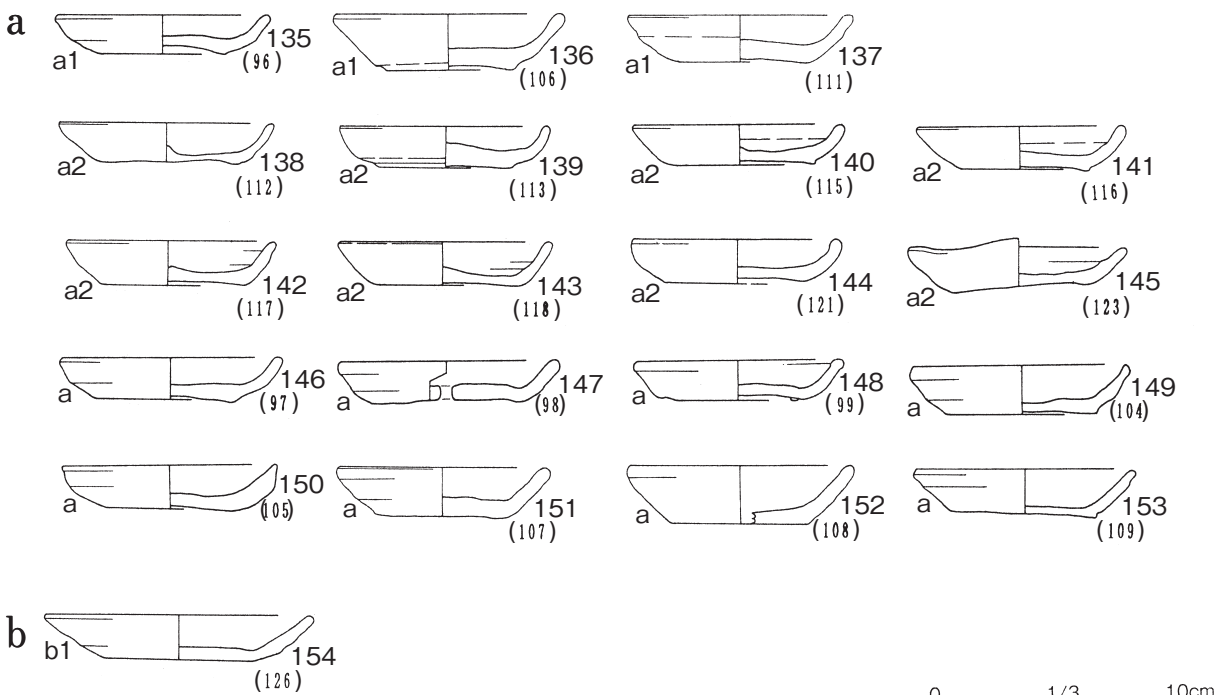
KB5区 14壙

I類



騎武妙2次 15壙

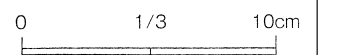
I類



第78図 かわらけ B6 (KB5区14壙・騎武妙2次15壙)

※()内遺物Noは報告書掲載No

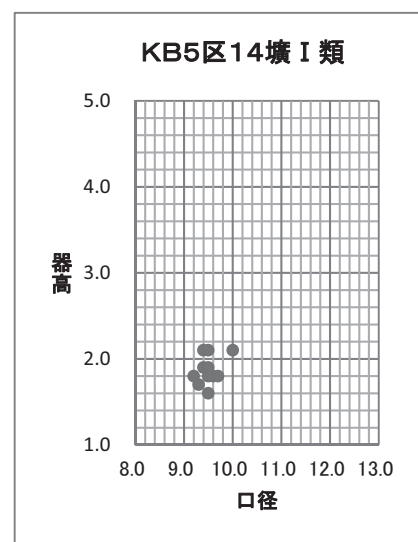
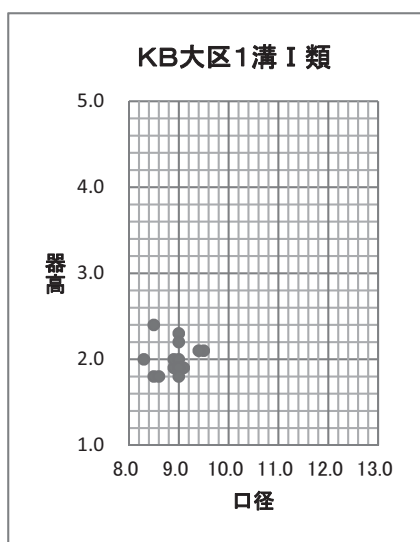
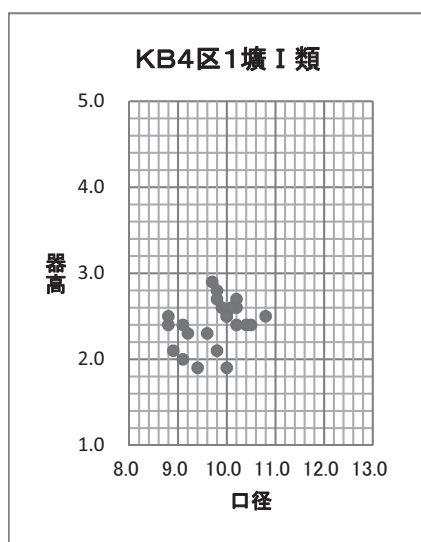
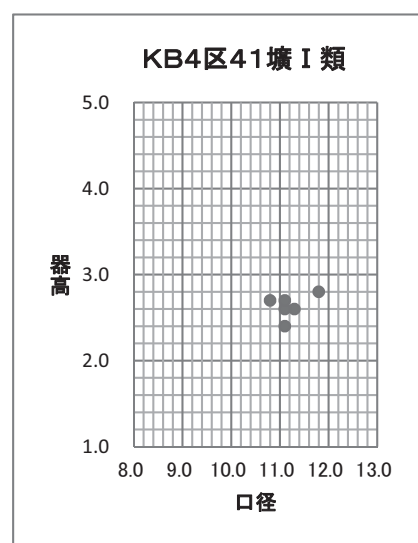
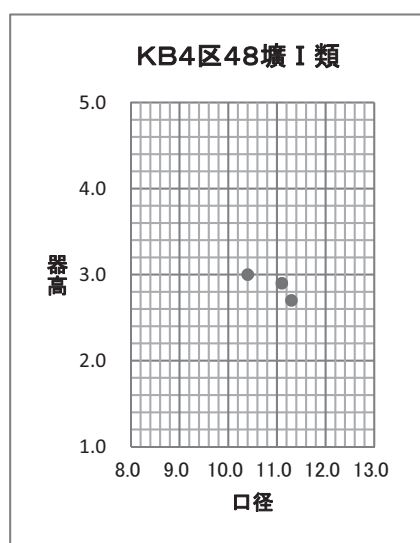
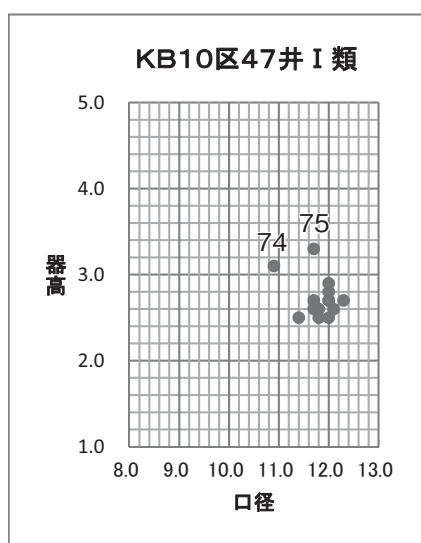
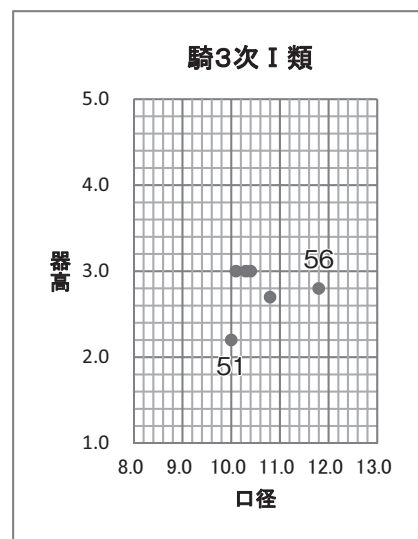
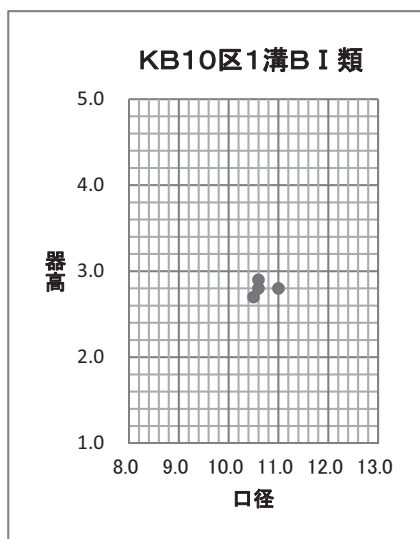
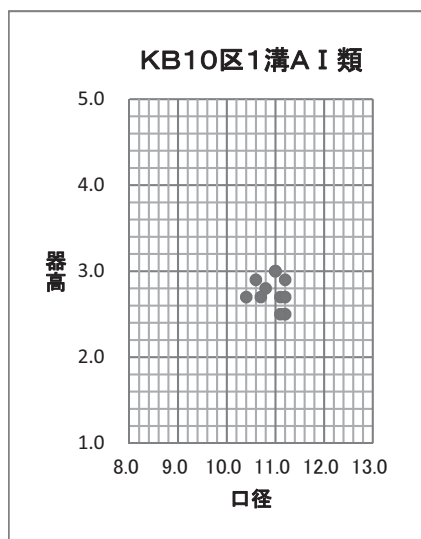
				a(内湾)			b(直線)				c(外反)
16c	1480	大窯1	前半	KB10 1溝A a1 (130)	KB10 1溝B a1 (157)	KB10 1溝B a1? (161)	KB10 1溝A b1 (99)	KB10 1溝A b2 (109)	KB10 1溝A b3 (108)		
	1500		後半	騎3 1堀 a1 (224)	※KB10 1溝 A=1溝全体 B=1溝かわらけ集中区		KB10 1溝A b4 (106)	KB10 1溝A b4' (136)			
	1530	大窯2	前半				騎3 1堀 b1 (220)	騎3 1堀 b2 (235)	騎3 1堀 b3 (266)	騎3 1堀 b4 (230)	
	1550		後半								
	1560	大窯3	前半				KB10 47井 b1 (516)	KB10 47井 b2 (527)	KB10 47井 b3 (519)		
	1580		後半				KB4 48壙 b1 (170)	KB4 48壙 b2 (172)	KB4 41壙 b1 (156)		
1590	大窯前										
17c	1600	大窯4	後半	KB4 1壙 a1 (102)	KB4 1壙 a2 (100)	KB4 1壙 a3 (110)	KB4 1壙 a4 (136)	KB4 1壙 b1 (95)	KB4 1壙 b2 (107)	KB4 1壙 c1 (103)	
	1610		登1							KB4 1壙 c2 (125)	
	1650	登3	登4	登5	KB大 1溝 a1 (108) (24)	KB大 1溝 a2 (109) (17)	KB大 1溝 a3 (112) (19)	KB大 1溝 a4 (114) (11)	KB大 1溝 b1 (122) (13)	KB大 1溝 b2 (123) (16)	
18c	1700	登6		KB5 14壙 a1 (124) (434)	KB5 14壙 a2 (126) (417)	KB5 14壙 a3 (128) (420)	KB5 14壙 b1 (131) (416)	KB5 14壙 b2 (132) (413)			
				騎武妙2 15壙 a1 (135) (96)	騎武妙2 15壙 a2 (138) (112)	騎武妙2 15壙 b1 (154) (126)					



第79図 かわらけ変遷図 (I類)

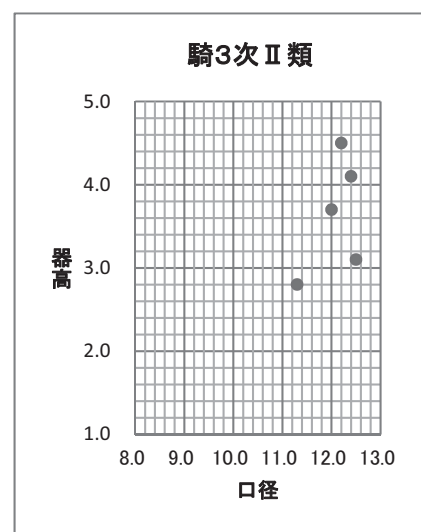
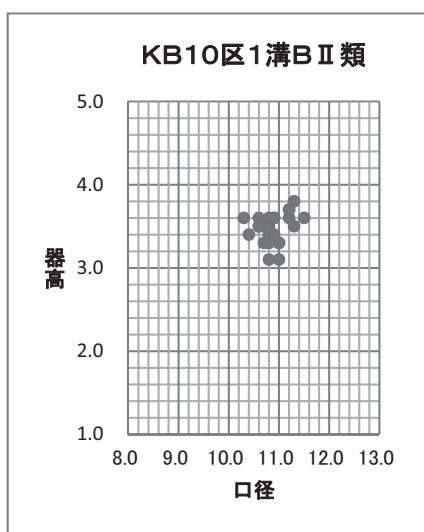
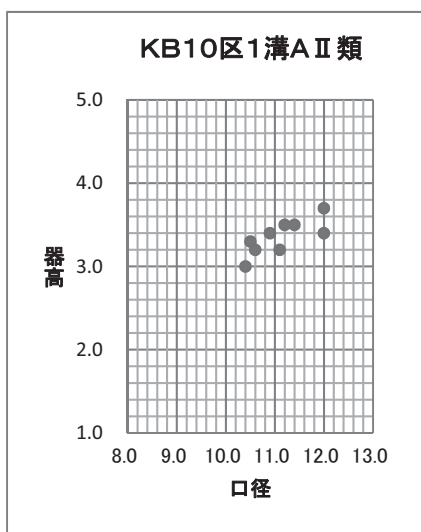
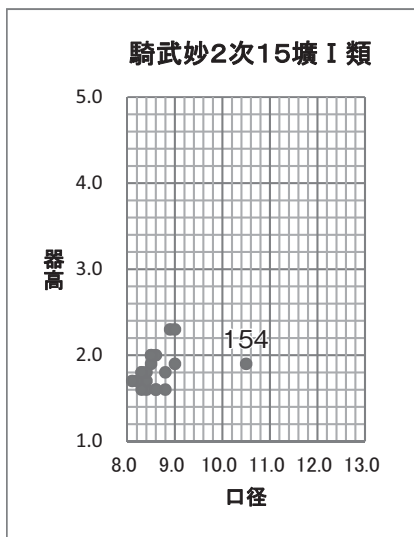
			a		b	
16c	1480	大窯 1	前半	KB10 1溝A a1 12 (105) 騎3 1堀	KB10 1溝B a1 25 (158) 騎3 1堀	KB10 1溝A b1 20 (143) 騎3 1堀
	1500		後半	a1 57 (232) 騎3 1堀	a2 58 (241)	b1 60 (259) 騎3 1堀
	1530	大窯 2	前半	a3 59 (280)		b1 61 (283)
	1550		後半			
	1560	大窯 3	前半			
	1580		後半			
	1590	大窯	前			
17c	1600	大窯 4	後			
	1610	登 1	末			
	1650	登 3				
登 4						
	登 5					
18c	1700	登 6				

第80図 かわらけ変遷図 (Ⅱ類)



(単位はcm)

第81図 かわらけ法量分布図1 (I類)



(単位はcm)

第82図 かわらけ法量分布図2 (I・II類)

法量の単位は cm

I 類 (皿形)	口径範囲	器高範囲	平均口径	平均器高
KB10区1号溝 A	10.4~11.2	2.5~3.0	10.9	2.8
KB10区1号溝 B	10.5~11.0	2.7~2.9	10.7	2.8
騎3次1号堀	10.0~11.2	2.5~3.0	10.6	2.7
KB10区47号井戸	10.9~12.1	2.5~3.3	11.8	2.7
KB4区48号土壙	10.4~11.3	2.7~3.0	10.9	2.9
KB4区41号土壙	10.8~11.8	2.4~2.8	11.2	2.6
KB4区1号土壙	8.8~10.8	1.9~2.9	9.8	2.4
KB大区1号溝	8.3~9.5	1.8~2.4	8.9	2.0
KB5区14号土壙	9.2~10.0	1.6~2.1	9.5	1.9
騎武妙光寺2次15号土壙	8.1~10.5	1.6~2.3	8.6	1.8

法量の単位は cm

II 類 (碗形)	口径範囲	器高範囲	平均口径	平均器高
KB10区1号溝 A	10.4~12.0	3.0~3.7	11.1	3.4
KB10区1号溝 B	10.3~11.5	3.1~3.8	10.9	3.5
騎3次1号堀	11.3~12.5	2.8~4.5	12.0	2.8

第19表 かわらけ法量範囲・平均表

法量の単位は cm

◎多量 ○有 △少量 ▲微量 -なし 板-板ナデ 指-指ナデ

通しNo.	分類	出土地点	報告書掲載No.	口径	器高	底径	残存	色調	焼成	胎土(含有物)										整形				備考
										赤褐色粒子	赤褐色斑	黒色粒子	角閃石	砂粒	黒色輝石	白色輝石	金雲母	白色粒子	糸切	底外	底内	境		
001	I a1	KB10/1溝A	130	11.0	3.0	6.2	完	灰白	やや良	緻密	-	◎	○	○	-	-	-	▲	-	不明瞭	(ケズリ)	同心円	-	
002	I a1	KB10/1溝A	131	10.7	2.7	6.4	完	灰白	やや良	緻密	-	○	○	○	-	▲	-	▲	-	○	ケズリ	同心円	-	
003	I a1	KB10/1溝A	149	10.6	2.9	6.0	略	浅黄橙	良		-	◎	○	▲	-	○	-	-	-	○	ケズリ	同心円	-	
004	I b1	KB10/1溝A	099	11.2	2.5	6.7	1/2	浅黄橙	良		-	○	○	○	○	△	▲	-	-	○	板	指	指	
005	I b1	KB10/1溝A	187	11.2	2.7	6.8	1/2~	浅黄橙	やや不良		○	○	○	○	○	-	-	-	-	○	-	-	指	4溝
006	I b2	KB10/1溝A	109	10.8	2.8	6.5	略	浅黄橙	良		-	○	○	○	△	-	-	▲	○	板	指	指	指	指1本
007	I b2	KB10/1溝A	111	11.1	2.7	6.6	完	浅黄橙	良		-	○	◎	○	△	△	-	-	○	板	指	指	指	指3本
008	I b3	KB10/1溝A	108	11.1	2.5	6.6	完	浅黄橙	良		◎	-	○	○	△	-	-	-	○	板	指	-		
009	I b3	KB10/1溝A	110	11.2	2.9	6.5	3/4~	橙	良		◎	-	△	○	△	-	-	-	○	板	指	-		
010	I b4	KB10/1溝A	106	11.0	3.0	7.4	1/2~	浅黄橙	やや不良	粉っぽい	-	△	△	△	○	▲	-	-	-	不明瞭	-	-	指	
011	I b4'	KB10/1溝A	136	10.4	2.7	6.4	3/4~	浅黄橙	やや不良	緻密・粉っぽい	-	○	○	▲	○	▲	-	-	-	不明瞭	-	指	-	
012	II a1	KB10/1溝A	105	10.9	3.4	4.5	1/2~	浅黄橙	良		○	○	○	◎	△	△	△	-	-	○	板	指	-	
013	II a1	KB10/1溝A	126	10.4	3.0	4.5	略	灰白	良		-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	指	-		
014	II a1	KB10/1溝A	138	10.6	3.2	4.4	1/2~	灰白	良		○	○	○	○	-	○	-	-	-	○	板	指	-	指3本
015	II a1	KB10/1溝A	142	11.2	3.5	5.0	完	浅黄橙	良		○	△	○	○	○	-	-	-	-	○	板	指	-	指3本
016	II a1	KB10/1溝A	144	11.4	3.5	5.2	略	灰白	良		○	-	○	△	-	-	-	-	-	不明瞭	-	指	-	指3本・ロクロ痕
017	II a1	KB10/1溝A	146	11.1	3.2	4.8	略	灰白	良		△	△	○	△	-	○	-	-	-	不明瞭	板・擦	指	-	指3本
018	II a1	KB10/1溝A	152	10.5	3.3	4.9	完	灰白	良		-	△	◎	◎	○	△	△	-	-	○	板	指	-	指3本
019	II a1'	KB10/1溝A	151	12.0	3.7	5.0	3/4~	灰白	良		◎	○	◎	◎	○	-	-	-	-	不明瞭	-	指	-	重い
020	II b1	KB10/1溝A	143	12.0	3.4	5.3	完	橙	良		○	-	○	-	○	○	-	▲	-	不明瞭	板	-	指	
021	I a1	KB10/1溝B	157	10.6	2.9	5.0	完	灰白	良		△	△	△	△	△	-	-	-	-	○	-	-	指	
022	I a1?	KB10/1溝B	161	11.0	2.8	5.5	略	浅黄橙-灰白	良	緻密	○	△	○	△	△	-	-	▲	-	不明瞭	ナデ	-	-	
023	I a	KB10/1溝B	173	10.6	2.8	5.1	完	灰白	良		△	△	○	○	▲	-	-	-	-	不明瞭	-	-	指	
024	I a	KB10/1溝B	175	10.5	2.7	5.5	略	灰白	やや不良	緻密	-	○	▲	▲	○	-	-	-	-	○	-	-	-	
025	II a1	KB10/1溝B	158	10.3	3.6	4.4	完	浅黄橙	良		▲	-	○	○	-	-	-	-	-	不明瞭	-	指	-	
026	II a1	KB10/1溝B	159	11.3	3.8	5.0	完	灰白	良	緻密	△	△	○	○	-	▲	▲	-	-	○	板	指	-	指3本・爪痕
027	II a1	KB10/1溝B	160	11.2	3.6	4.2	3/4~	浅黄橙	良		○	△	○	◎	-	▲	-	-	-	不明瞭	板	指	-	
028	II a1	KB10/1溝B	162	10.8	3.5	4.4	完	浅黄橙	良		◎	△	◎	◎	△	△	-	-	-	○	板	指	-	
029	II a1	KB10/1溝B	163	10.6	3.6	4.0	完	浅黄橙	良		○	○	◎	◎	-	-	△	△	-	○	板	指	-	
030	II a1	KB10/1溝B	164	11.0	3.3	4.6	完	浅黄橙	良		○	○	◎	◎	-	-	▲	-	-	○	板	指	-	
031	II a1	KB10/1溝B	165	10.7	3.3	4.4	完	灰白	良		◎	△	◎	◎	△	△	-	-	-	○	板	指	-	
032	II a1	KB10/1溝B	166	11.0	3.1	4.5	3/4~	浅黄橙	良		○	△	○	○	△	△	-	-	-	○	板	指	-	
033	II a1	KB10/1溝B	167	10.6	3.5	4.5	完	橙	良		○	○	○	○	-	△	▲	-	-	○	板	指	-	
034	II a1	KB10/1溝B	168	10.8	3.3	4.5	略	橙	良		△	△	○	○	△	△	-	-	-	○	板	指	-	
035	II a1	KB10/1溝B	169	11.0	3.3	4.5	略	橙	良		◎	○	○	○	○	▲	-	-	-	○	板	指	-	
036	II a1	KB10/1溝B	170	10.8	3.3	4.3	完	浅黄橙	良		△	○	△	◎	○	△	-	-	-	○	板	指	-	親指1本
037	II a1	KB10/1溝B	171	11.2	3.7	4.3	略	浅黄橙	良		○	○	○	○	-	△	△	-	-	○	板	指	-	
038	II a1	KB10/1溝B	172	10.7	3.5	5.2	完	灰白	良		△	-	○	○	-	△	-	-	-	○	板	指	-	指3本・爪痕
039	II a1	KB10/1溝B	174	10.8	3.4	4.5	完	灰白	良		○	○	△	○	-	△	-	-	-	○	板	指	-	
040	II a1	KB10/1溝B	176	11.2	3.7	5.1	完	灰白	良		▲	-	○	○	-	▲	-	-	-	○	板	指	-	
041	II a1	KB10/1溝B	177	10.8	3.5	4.5	完	浅黄橙	良		○	▲	○	○	○	-	-	-	-	○	-	指	-	
042	II a1	KB10/1溝B	178	10.4	3.4	5.0	完	浅黄橙	良		○	○	○	○	-	▲	-	-	-	○	板	指	-	指2本
043	II a1	KB10/1溝B	179	10.8	3.1	4.3	完	浅黄橙	良		○	△	○	○	△	△	-	-	-	○	板	指	-	指3本
044	II a1	KB10/1溝B	180	11.5	3.6	5.0	完	灰白	良		-	▲	○	◎	△	○	▲	-	-	不明瞭	板	指	-	指3本
045	II a1	KB10/1溝B	181	11.3	3.5	4.2	完	灰白	良		▲	-	○	○	-	▲	-	-	-	○	板	指	-	
046	II a1	KB10/1溝B	182	10.9	3.4	4.6	略	橙	良		○	○	○	○	△	▲	-	-	-	○	板	指	-	指3本
047	II a1	KB10/1溝B	183	10.8	3.6	4.5	完	浅黄橙	良		○	○	△	○	△	△	-	-	-	○	板	指	-	
048	II a1	KB10/1溝B	184	10.9	3.6	4.1	略	浅黄橙	良		○	○	○	○	△	○	-	-	-	○	板	指	-	指3本
049	II a1	KB10/1溝B	185	10.9	3.6	4.0	略	灰白	良		◎	○	△	◎	△	○	-	-	-	○	板	指	-	
050	II a1	KB10/1溝B	186	10.6	3.5	4.7	完	浅黄橙	良		△	△	○	○	△	▲	-	-	-	○	板	指	-	指3本

第20表 かわらけ一覧表1

法量の単位は cm

◎多量 ○有 △少量 ▲微量 -なし 板-板ナデ 指-指ナデ

通し No	分類	出土地点	報告書 掲載 No	口径	器高	底径	残存	色調	焼成	胎土(含有物)										整形				備考
										赤褐色 色粒子	赤褐色 斑	黒色 粒子	角閃石	砂粒	黒色 輝石	白色 輝石	金雲母	白色 粒子	糸切	底外	底内	境		
051	I a1	騎3/1堀	224	10.0	2.2	6.7	完	灰白	やや不良	-	◎	○	△	○	-	-	-	-	不明瞭	-	-	-	底薄い プラン痕	
052	I b1	騎3/1堀	220	10.8	2.7	7.0	完	浅黄橙	やや不良	-	○	○	○	○	△	-	-	△	不明瞭	板	指	指		
053	I b2	騎3/1堀	235	10.4	3.0	6.4	略	浅黄橙	良	-	▲	○	△	○	-	-	-	○	板	指	指			
054	I b3	騎3/1堀	266	10.1	3.0	6.2	完	浅黄橙	良	-	△	○	▲	○	△	△	-	△	○	-	-	指		
055	I b3	騎3/1堀	274	10.3	3.0	6.4	略	浅黄橙	やや不良	-	○	○	△	○	-	▲	-	▲	不明瞭	-	-	指		
056	I b4	騎3/1堀	230	11.8	2.8	6.8	3/4~	浅黄橙	やや不良	粉っぽい	-	○	○	△	○	-	-	▲	不明瞭	-	渦巻	-		
057	II a1	騎3/1堀	232	11.3	2.8	4.4	3/4~	灰白	良	-	-	○	○	△	△	-	-	○	板	指	-			
058	II a2	騎3/1堀	241	12.5	3.1	4.6	略	灰白	良	-	△	○	◎	○	▲	-	-	○	板	指	指			
059	II a3	騎3/1堀	280	12.4	4.1	5.4	略	橙	良	-	○	-	-	○	-	-	◎	△	不明瞭	-	-	-		
060	II b1	騎3/1堀	259	12.2	4.5	5.5	略	橙	良	-	◎	▲	▲	○	-	-	▲	-	不明瞭	-	指	-		
061	II b1	騎3/1堀	283	12.0	3.7	5.4	完	橙	良	-	○	-	▲	○	▲	-	▲	-	○	ヘラナデ	-	-		
062	I b1	KB10/47井	516	11.7	2.6	6.9	完	橙	良	▲	○	○	△	○	▲	-	-	○	-	-	平	指		
063	I b1	KB10/47井	517	11.4	2.5	6.8	完	浅黄橙	良	▲	○	○	△	◎	▲	-	-	○	-	-	平	指		
064	I b1	KB10/47井	518	11.8	2.6	6.4	略	橙	良	▲	○	○	△	◎	▲	-	-	○	-	-	渦巻平	指		
065	I b1	KB10/47井	520	12.0	2.7	6.9	略	浅黄橙	良	-	○	○	△	◎	▲	-	-	▲	○	板	指	指	指1本	
066	I b1	KB10/47井	521	12.0	2.8	7.2	完	浅黄橙	良	▲	○	○	△	◎	▲	-	▲	-	○	板?	指	指		
067	I b1	KB10/47井	522	12.0	2.9	7.0	完	橙	良	▲	○	○	△	◎	▲	▲	▲	-	○	-	平	指		
068	I b1	KB10/47井	523	11.8	2.5	6.8	完	浅黄橙	良	▲	○	○	△	◎	▲	▲	-	-	○	-	-	指		
069	I b1	KB10/47井	524	12.3	2.7	7.7	略	浅黄橙	やや良	△	○	○	△	◎	▲	-	-	▲	○	T字刻書	平	指		
070	I b1	KB10/47井	525	12.0	2.5	6.8	略	橙	良	-	○	○	△	○	▲	-	-	▲	○	-	平	指		
071	I b1	KB10/47井	526	12.1	2.6	7.0	完	浅黄橙	良	△	○	○	○	◎	▲	-	-	▲	○	-	平	指		
072	I b1	KB10/47井	528	12.0	2.7	7.0	略	橙	良	△	△	○	△	◎	△	▲	-	▲	○	ヘラナデ	-	指		
073	I b1	KB10/47井	529	11.7	2.7	6.8	3/4~	浅黄橙	良	△	○	○	△	○	-	▲	-	▲	○	-	平	指		
074	I b2	KB10/47井	527	10.9	3.1	6.1	1/2~	浅黄橙	良	ガラガラ	○	-	○	-	◎	▲	-	-	○	-	指	指		
075	I b3	KB10/47井	519	11.7	3.3	6.4	完	橙	良	○	○	○	△	◎	▲	-	-	○	板	指	指	指3本		
076	I b1	KB4/48壇	170	10.4	3.0	7.0	1/2~	浅黄橙	やや良	-	○	○	△	○	▲	-	-	○	ナデ	指?	指	口唇つまみ深い		
077	I b1	KB4/48壇	171	11.1	2.9	6.9	完	浅黄橙	やや良	-	○	○	△	○	▲	-	-	○	ナデ?	同心円	指			
078	I b2	KB4/48壇	172	11.3	2.7	7.4	3/4~	橙	良	▲	○	○	△	○	-	-	-	○	-	同心円	指			
079	I b1	KB4/41壇	156	11.3	2.6	6.9	3/4~	浅黄橙	良	-	○	○	△	○	○	-	-	○	-	同心円	指			
080	I b1	KB4/41壇	157	11.1	2.4	7.1	~1/2	浅黄橙	良	▲	-	○	△	◎	○	-	-	○	-	-	指			
081	I b1	KB4/41壇	158	11.1	2.6	6.6	略	橙	やや良	-	◎	○	△	◎	▲	▲	-	▲	○	ナデ?	-	指		
082	I b1	KB4/41壇	159	11.8	2.8	7.0	1/2~	浅黄橙	良	-	○	○	△	○	▲	-	-	○	-	-	指	キズ		
083	I b1	KB4/41壇	160	11.1	2.7	6.7	3/4~	灰白~橙	良	△	△	○	△	◎	○	-	-	△	○	-	指	指		
084	I b1	KB4/41壇	161	10.8	2.7	6.9	3/4~	浅黄橙	良	-	△	○	△	○	▲	-	-	○	-	同心円	指			
085	I a1	KB4/1壇	098	9.8	2.1	4.9	1/2~	橙	良	△	-	○	△	○	▲	▲	-	-	○	-	平	-		
086	I a1	KB4/1壇	102	9.6	2.3	5.8	1/2~	橙	良	△	-	○	○	○	▲	▲	-	-	○	-	渦巻	-		
087	I a1	KB4/1壇	124	9.4	1.9	5.8	1/2~	赤褐	良	△	△	○	○	○	▲	-	-	○	-	渦巻	-			
088	I a1	KB4/1壇	129	10.8	2.5	6.4	1/2~	橙	良	▲	○	△	△	-	▲	-	-	-	不明瞭	-	ナデ	-		
089	I a2	KB4/1壇	093	10.0	1.9	6.0	1/2~	灰白	良	-	△	○	△	△	▲	-	-	○	-	-	-	-		
090	I a2	KB4/1壇	094	9.8	2.8	6.1	1/2~	灰白	良	▲	▲	○	◎	△	△	-	-	-	静止	整形	渦巻	-		
091	I a2	KB4/1壇	096	8.8	2.5	5.0	1/2~	灰白	良	○	-	○	△	-	▲	-	-	-	○	-	凸	-		
092	I a2	KB4/1壇	100	9.2	2.3	5.2	3/4~	浅黄橙	良	△	-	○	○	△	▲	-	-	○	-	-	-	-		
093	I a2	KB4/1壇	135	9.1	2.4	5.9	完	灰白	良	▲	▲	○	○	-	○	-	-	○	-	凸	-			
094	I a3	KB4/1壇	110	10.4	2.4	6.1	1/2~	橙	良	△	△	○	△	◎	▲	-	-	-	静止?	-	渦巻	-		
095	I a3	KB4/1壇	122	9.8	2.7	5.7	略	橙	良	△	△	○	◎	○	-	△	-	-	不明瞭	-	-	-		
096	I a3	KB4/1壇	126	10.5	2.4	5.8	3/4~	橙	良	△	-	△	△	○	○	-	-	-	不明瞭	-	渦巻	-		
097	I a4	KB4/1壇	109	10.1	2.6	6.4	1/2~	灰白	良	▲	-	○	○	-	△	▲	-	-	不明瞭	-	渦巻	-		
098	I a4	KB4/1壇	105	9.7	2.9	6.0	3/4~	灰白	良	-	△	○	◎	▲	▲	-	-	-	不明瞭	-	渦巻	-		
099	I a4	KB4/1壇	136	10.0	2.5	5.3	完	橙	良	▲	▲	○	○	○	○	-	-	▲	不明瞭	-	ナデ	-		
100	I b1	KB4/1壇	095	8.8	2.4	5.0	1/2~	灰白	良	○	-	○	○	-	▲	-	-	▲	○	-	-	-		
101	I b1	KB4/1壇	104	8.9	2.1	5.2	3/4~	浅黄橙	良	△	△	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凹	-		

第21表 かわらけ一覧表2

法量の単位は cm

◎多量 ○有 △少量 ▲微量 -なし 板-板ナデ 指-指ナデ

通しNo.	分類	出土地点	報告書掲載No.	口径	器高	底径	残存	色調	焼成	胎土(含有物)										整形				備考
										赤褐色粒子	赤褐色斑	黒色粒子	角閃石	砂粒	黒色輝石	白色輝石	金雲母	白色粒子	糸切	底外	底内	境		
102	I b1	KB4/1壙	116	9.1	2.0	5.4	1/2~	灰白	良		△	-	○	○	-	-	▲	-	-	○	-	-	-	
103	I b2	KB4/1壙	107	9.9	2.6	5.7	完	灰白	良		△	-	○	△	○	△	▲	-	-	○	-	-	-	スス付着
104	I b2	KB4/1壙	119	10.2	2.4	5.0	完	浅黄橙	良		▲	△	◎	○	○	▲	▲	-	-	荒	-	-	-	
105	I c1	KB4/1壙	103	10.2	2.6	5.4	略	橙	良		△	△	○	△	○	▲	▲	-	-	○	-	渦巻	-	
106	I c1	KB4/1壙	118	10.0	2.5	5.6	1/2~	橙	良		△	-	○	△	○	△	-	-	-	○	-	-	-	
107	I c2	KB4/1壙	125	10.2	2.7	5.0	1/2~	橙	良		▲	-	○	△	○	▲	-	-	-	○	-	-	指	
108	I a1	KB大/1溝	024	8.5	2.4	5.6	1/2~	橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	同心円	-	
109	I a2	KB大/1溝	017	9.0	2.0	5.8	完	橙	良		◎	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	渦巻	-	
110	I a2	KB大/1溝	018	9.0	1.9	5.8	完	橙	良		○	-	○	△	○	-	-	-	-	不明瞭	-	同心円	-	
111	I a2	KB大/1溝	021	9.0	2.2	5.8	3/4~	橙	良		◎	-	○	○	○	▲	-	-	▲	○	-	同心円	-	
112	I a3	KB大/1溝	019	9.0	1.9	6.2	完	浅黄橙	良		▲	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	指	-	
113	I a3	KB大/1溝	020	9.0	1.8	5.8	完	浅黄橙	良		▲	▲	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	-	-	
114	I a4	KB大/1溝	011	8.9	2.0	5.7	完	浅黄橙	良		△	-	▲	△	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	スス付着
115	I a4	KB大/1溝	023	9.4	2.1	5.5	3/4~	浅黄橙	良		○	-	○	△	○	▲	-	-	-	○	-	同心円	-	スス付着
116	I a4	KB大/1溝	022	8.6	1.8	5.0	完	橙	良		△	-	○	△	○	▲	△	-	-	○	-	指	-	
117	I a	KB大/1溝	007	9.0	2.3	4.5	完	浅黄橙	良		▲	-	○	△	△	▲	-	-	-	○	-	平	-	
118	I a	KB大/1溝	008	8.9	1.9	6.0	完	浅黄橙	良		○	-	○	△	○	▲	-	-	▲	○	-	-	-	
119	I a	KB大/1溝	009	8.5	1.8	4.9	3/4~	浅黄橙	良		-	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	-	-	
120	I a	KB大/1溝	012	8.3	2.0	4.8	3/4~	浅黄橙	良		△	-	○	△	○	-	-	-	-	○	-	-	-	
121	I a	KB大/1溝	010	9.0	1.9	5.6	1/2~	浅黄橙	良		△	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
122	I b1	KB大/1溝	013	9.1	1.9	5.4	1/2~	橙	良		△	-	○	△	○	▲	-	-	-	○	-	同心円	-	
123	I b2	KB大/1溝	016	9.5	2.1	5.0	完	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
124	I a1	KB5/14壙	434	9.5	1.9	4.6	完	橙	良		△	-	△	△	○	△	-	-	-	○	-	凹	-	
125	I a1	KB5/14壙	435	9.5	2.1	4.6	3/4~	橙	良		△	-	△	◎	△	▲	-	-	-	○	-	凹	-	
126	I a2	KB5/14壙	417	9.7	1.8	5.5	3/4~	浅黄橙	良		○	-	△	△	○	▲	-	-	-	○	-	-	-	
127	I a2	KB5/14壙	424	9.5	1.8	5.8	3/4~	橙	良		○	-	△	○	△	△	-	-	-	○	-	同心円	-	
128	I a3	KB5/14壙	420	10.0	2.1	6.2	3/4~	浅黄橙	良		△	-	○	○	○	▲	-	-	△	○	-	-	-	
129	I a3	KB5/14壙	432	9.4	2.1	5.9	完	黒褐	良		○	-	○	○	△	○	-	-	-	○	-	同心円	-	底部出っ張りそのまま
130	I a3	KB5/14壙	433	9.5	1.6	6.3	1/2~	橙	良		○	-	△	△	◎	▲	-	-	-	○	-	-	-	
131	I b1	KB5/14壙	416	9.3	1.7	7.0	3/4~	浅黄橙	良		△	-	○	○	◎	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
132	I b2	KB5/14壙	413	9.4	1.9	5.8	1/2~	灰白	良		▲	-	△	△	△	○	▲	-	-	○	-	同心円	-	スス付着
133	I b2	KB5/14壙	415	9.6	1.8	5.2	3/4~	赤褐	良		△	-	○	○	-	△	-	-	-	○	-	-	-	
134	I b2	KB5/14壙	429	9.2	1.8	6.3	3/4~	灰白	良		△	△	△	○	○	○	-	-	-	○	-	-	-	
135	I a1	妙2/15壙	096	8.4	1.6	5.0	3/4~	浅黄橙	良		◎	-	○	△	○	▲	-	-	△	○	-	窪ナデ様	凹	
136	I a1	妙2/15壙	106	8.9	2.3	5.2	3/4~	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	-	凹	
137	I a1	妙2/15壙	111	9.0	1.9	5.2	1/2~	にぶい褐	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	-	-	
138	I a2	妙2/15壙	112	8.6	1.6	5.4	3/4~	浅黄橙	良		△	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	凸	-	
139	I a2	妙2/15壙	113	8.4	1.7	5.4	3/4~	浅黄橙	良		○	△	○	○	○	△	-	-	-	○	-	凸	-	
140	I a2	妙2/15壙	115	8.3	1.6	5.5	3/4~	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
141	I a2	妙2/15壙	116	8.2	1.7	5.1	3/4~	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
142	I a2	妙2/15壙	117	8.4	1.8	5.7	略	浅黄橙	良		△	-	△	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
143	I a2	妙2/15壙	118	8.3	1.8	5.6	略	浅黄橙	良		○	-	△	○	-	▲	▲	-	-	○	-	凸	-	
144	I a2	妙2/15壙	121	8.3	1.8	5.4	完	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	凸	-	
145	I a2	妙2/15壙	123	8.5	2.0	5.4	略	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	△	-	-	-	○	-	凸	-	押
146	I a	妙2/15壙	097	8.8	1.6	5.5	完	橙	良		○	-	○	△	○	-	-	-	-	○	-	稜	-	灯心油痕・体部1ヶ所押
147	I a	妙2/15壙	098	8.6	1.6	6.0	完	浅黄橙	良		△	-	△	△	-	-	-	-	-	○	-	稜	強凹	
148	I a	妙2/15壙	099	8.1	1.7	5.2	3/4~	橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	稜	強凹	ゆがみ
149	I a	妙2/15壙	104	8.6	2.0	6.0	完	浅黄橙	良		△	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	同心円	凹	
150	I a	妙2/15壙	105	8.5	1.9	5.2	3/4~	橙	良		△	-	○	△	○	-	-	-	-	○	-	-	-	ゆがみ
151	I a	妙2/15壙	107	8.5	2.0	5.4	完	橙	良		◎	-	○	○	○	▲	-	-	-	○	-	稜	爪凹	
152	I a	妙2/15壙	108	9.0	2.3	5.5	1/2~	浅黄橙	良		○	-	○	○	○	▲	-	-	-	静止	-	-	-	
153	I a	妙2/15壙	109	8.8	1.8	5.8	略	橙	良		△	-	△	○	○	-	△	-	-	○	-	同心円	-	
154	I b1	妙2/15壙	126	10.5	1.9	5.8	1/2~	浅黄橙	良		△	-	△	-	○	△	-	-	-	○	-	凸	-	調整丁寧

第22表 かわらけ一覧表3

参考文献

- 安芸毬子・大成可乃・大貫浩子・坂野貞子・成瀬晃司・堀内秀樹 1999 東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 別冊
- 秋本太郎 2008 「戦国期北関東のかわらけ—戦国大名支配との関連—」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 大成可乃 2011 「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7『東京大学構内遺跡調査研究年報』7
- 浅野晴樹 1988 「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第4号
1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心に—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
- 大橋康二 1984 「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館
- 小野正敏 1982 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 貿易陶磁研究会
2000 「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡 総合調査報告書 資料編』菊川町教育委員会
- 笹間良彦 1981 『図録 日本の甲冑武具事典』柏書房
- 塩野博編 2001 『騎西町史』考古資料編1 騎西町教育委員会
- 塩野博編 1999 『騎西町史』考古資料編2 騎西町教育委員会
- 塩野博編 2005 『騎西町史』通史編 騎西町教育委員会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』九州陶磁学会
2001 『国内出土の肥前陶磁』東日本の流通をさぐる 九州陶磁学会
- 島村範久ほか 1997 『騎西武家屋敷跡城 妙光寺第1・2次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第2集
- 島村範久 2005 「騎西（私市）城跡」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
2005 「騎西（私市）城跡」『戦国の城』
2009 『騎西城武家屋敷跡 第40次発掘調査報告書』騎西町遺跡調査会報告書第6集
- 嶋村英之 2011 『騎西城武家屋敷跡 第17・28・35・36・39・41・43次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第1集 加須市教育委員会
2012 『騎西城武家屋敷跡第13・18・25・32・33・34・38・49次調査 騎西城跡第9・10次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第3集 加須市教育委員会
2018 『騎西城武家屋敷跡 KB10区調査—中近世編— 遺物2 遺構』加須市埋蔵文化財調査報告書 第11集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・嶋村薫
2008 『萩原遺跡第2・3・6・7次発掘調査』騎西町遺跡調査会報告書第3集 騎西町遺跡調査会
2013 『騎西城武家屋敷跡第4～6・10～12・46・47・53～56次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第5集 加須市教育委員会
2013 『騎西城武家屋敷跡 KB4・5区 第15・26次調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書 第6集 加須市教育委員会
2014 『騎西城武家屋敷跡第2・3・8・9・50・51次調査 騎西城跡第3・12・14・15次調査 多賀谷氏館跡第1～3次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第7集 加須市教育委員会
2015 『萩原遺跡第1・4・5次 中郷遺跡第1次 五番遺跡第3・4次 種垂城跡第1～5次

- 道智氏館跡第1次調査』加須市埋蔵文化財調査報告書第8集 加須市教育委員会
- 2016 『騎西城武家屋敷跡 KB7・8・11・12区 第16・23次調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書第9集 加須市教育委員会
- 2017 『騎西城武家屋敷跡 KB10区調査—中近世編— 遺物1』加須市埋蔵文化財調査報告書第10集 加須市教育委員会
- 嶋村英之・島村範久・嶋村薫
- 2011 『騎西城武家屋敷跡 KB大英寺・1・2区調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書第2集 加須市教育委員会
- 2012 『騎西城武家屋敷跡 KB3・6・9区 第19・20・21・29次調査—中近世編—』加須市埋蔵文化財調査報告書第4集 加須市教育委員会
- 田中 信 1996 「川越市内出土の中世土師器について—特に河越館跡および周辺出土を中心に—」『川越市埋蔵文化財調査報告書(XI)』川越市教育委員会
- 2005 「山内上杉氏の土器(かわらけ)とは」『戦国の城』高志書院
- 2005 「出土遺物からみた山内上杉(越後上杉氏)の城・陣所」『シンポジウム 埼玉の戦国時代 検証 比企の城』資料集 史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会
- 2010 「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣
- 塚田良道 1989 「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol1 行田市郷土博物館
- 中野晴久 1994 「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集
- 2005 「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集
- 成瀬晃司 1997 「江戸遺跡出土資料による磁器碗・皿の変遷—文様、銘款を中心に—」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1 『東京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 服部実喜 2008 「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界3 戦国大名北条氏』
- 藤澤良祐 1987 「本業焼の研究(1)」『研究紀要VI』瀬戸市歴史民俗資料館
- 1988 「本業焼の研究(2)」『研究紀要VII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 1989 「本業焼の研究(3)」『研究紀要VIII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 2002 「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯
- 2008 『中世瀬戸窯の編年』
- 堀内秀樹 1997 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1 『東京大学構内遺跡調査研究年報』1
- 横田賢次郎・森田 勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』4

圖 版



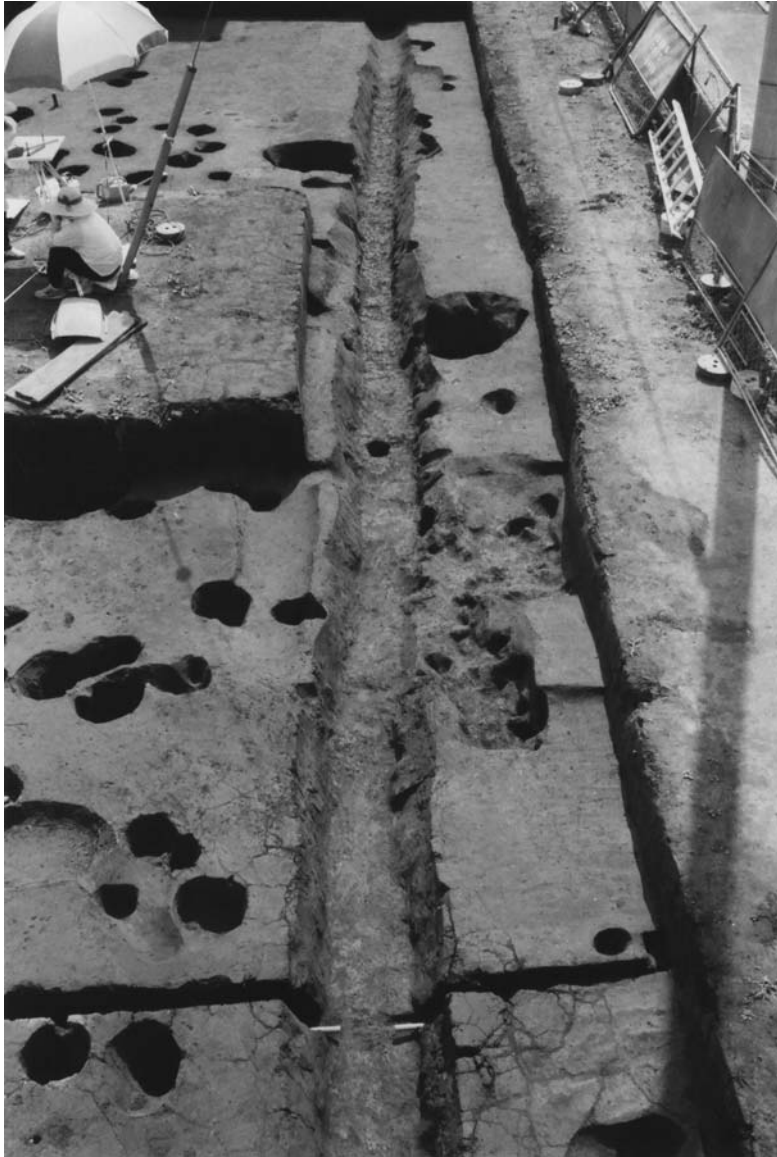
調査前風景



完掘 北側（西から）



完掘 南側（西から）



同 ほうろく (土-3) 出土

1号溝 完掘 (北から)



同 遺物出土



1号井戸 完掘



2号井戸 完掘



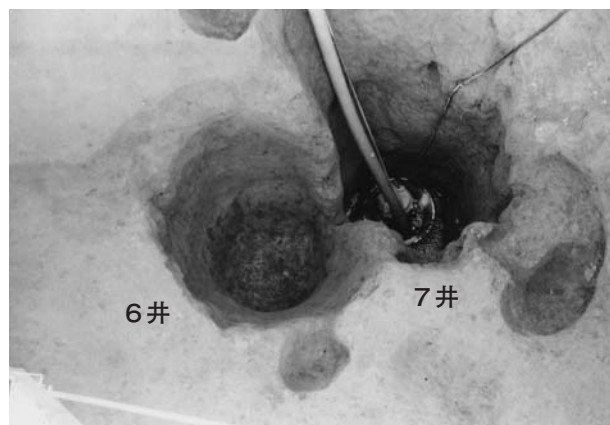
3号井戸 完掘



4号井戸 完掘



5号井戸 完掘



6井 7井

6・7号井戸 完掘



7号井戸 完掘



8号井戸 完掘



9号井戸 完掘



10号井戸 完掘



11号井戸 完掘



12号井戸 完掘



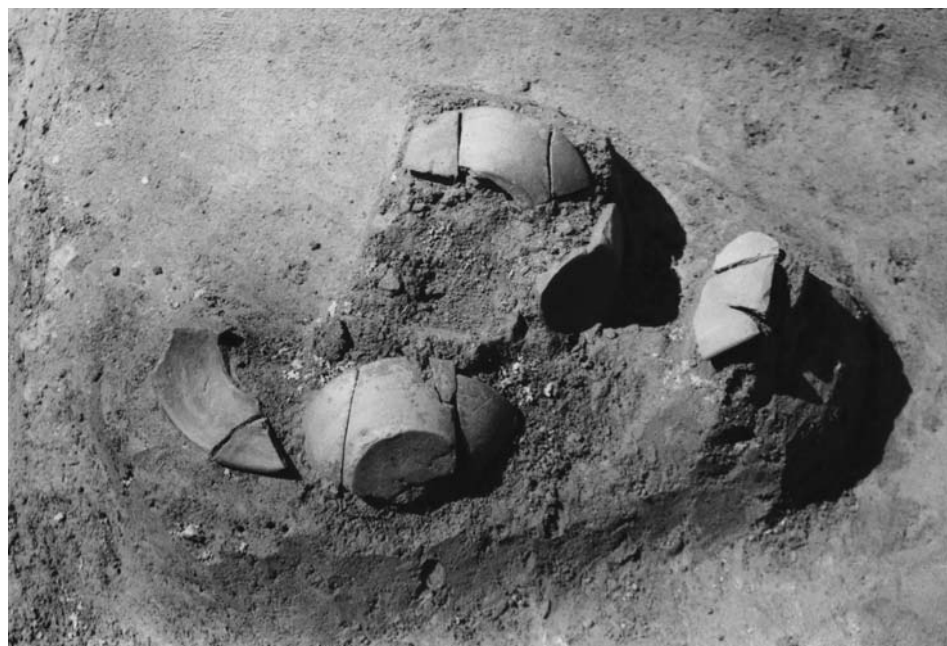
13号井戸 完掘



15号土壌 覆輪 (金-19)



1号土壌 完掘



15号土壙 かわらけ (土-39~41)



21号土壙 完掘



覆輪 (金-18)



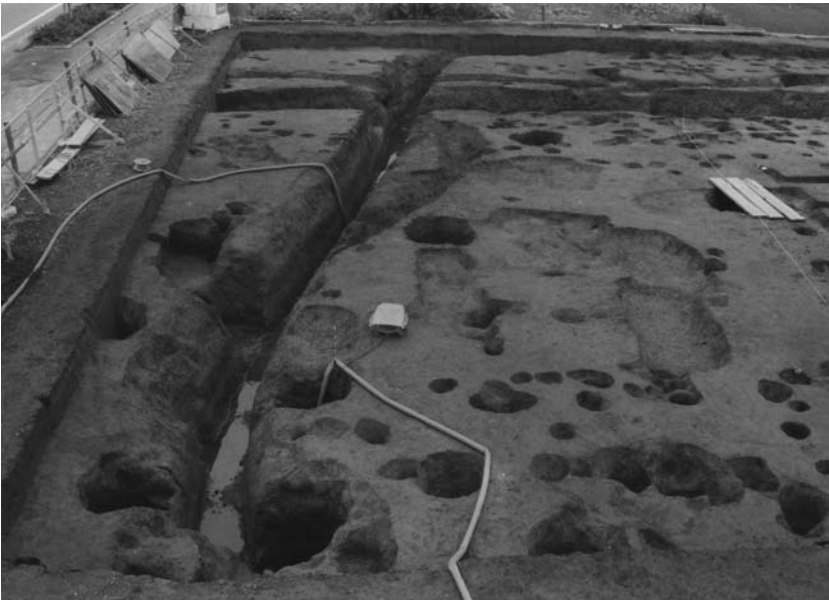
銭貨 (金-38) かわらけ (土-65)



硯 (石-17)



調査前風景



完掘 西側（南から）



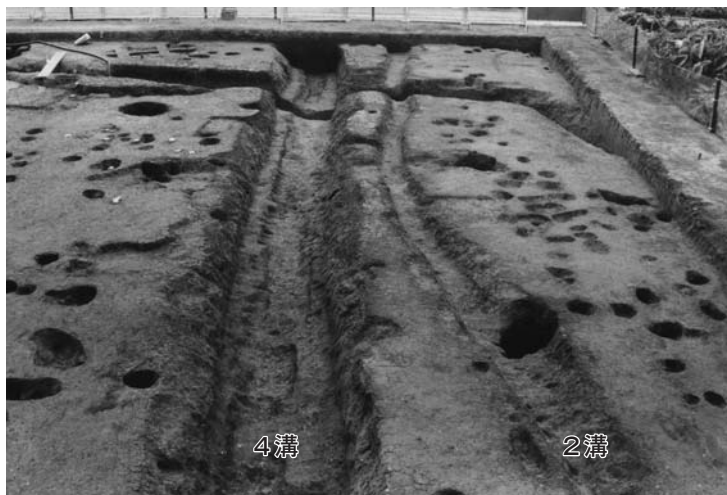
完掘 東側（西から）



1号溝 完掘 (南から)



3号溝 完掘 (北から)



2・4号溝 完掘 (東から)



1号溝 下層出土 かわらけ (土-80)



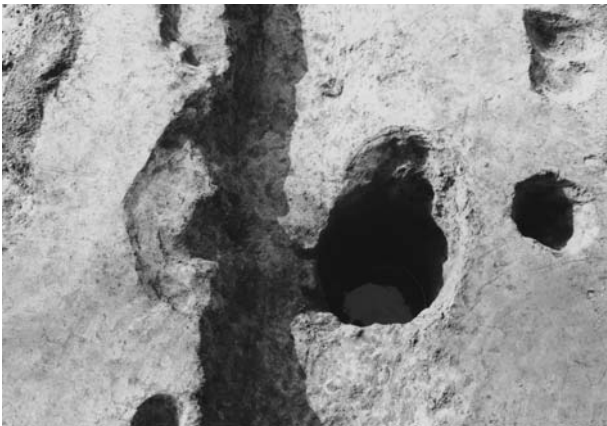
4号溝 在り挿鉢 (土-103)



1号井戸 完掘



2号井戸 完掘



3号井戸 完掘



同 かわらけ (土-108)



4号井戸 完掘



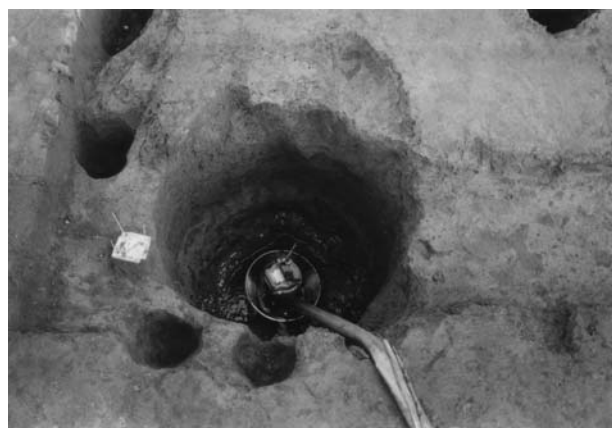
5号井戸 完掘



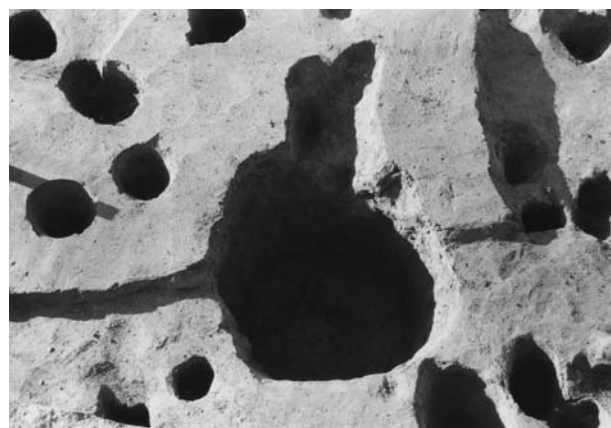
5号井戸 板碑 (石-71)



6号井戸 完掘



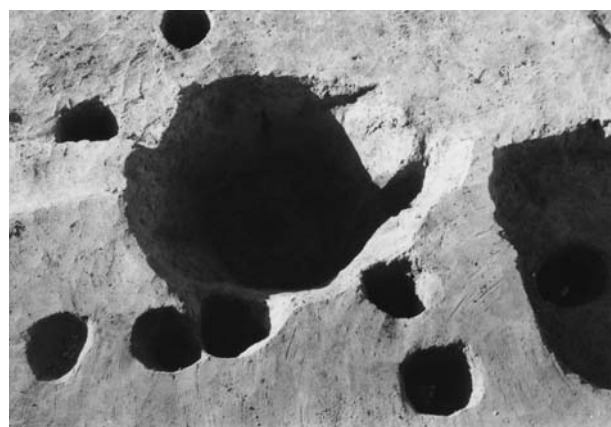
7号井戸 完掘



8号井戸 完掘



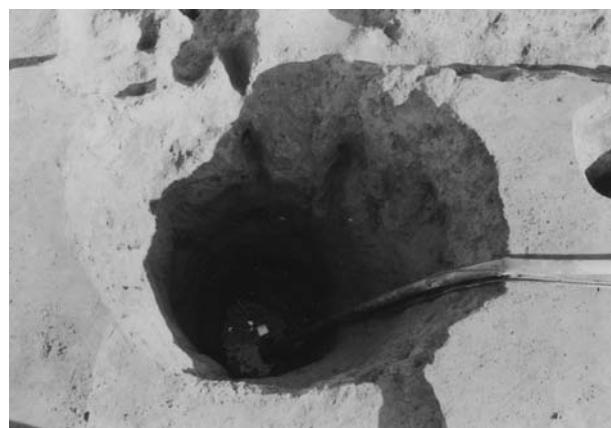
9号井戸 完掘



10号井戸 完掘



11号井戸 完掘



12号井戸 完掘



13号井戸 完掘



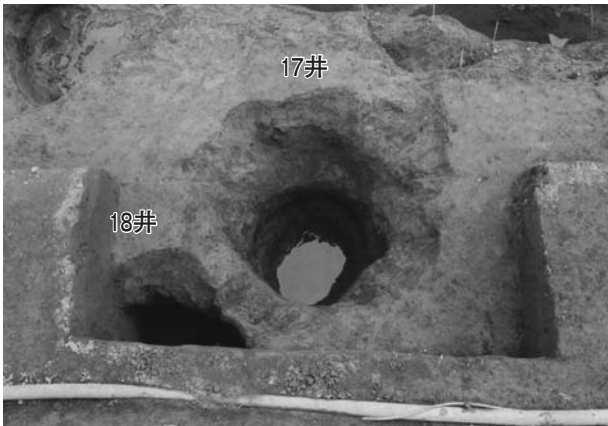
14号井戸 完掘



15号井戸 完掘



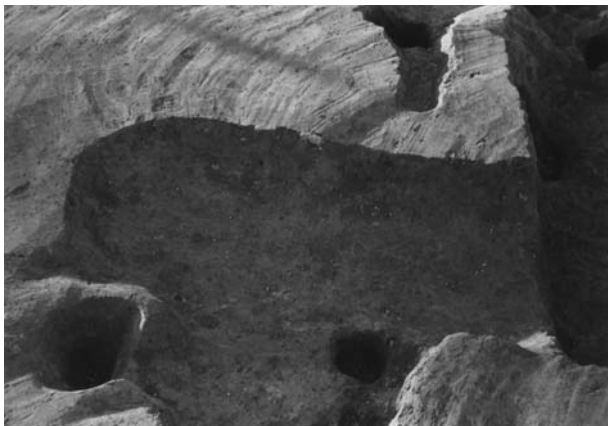
16号井戸 完掘



17・18号井戸 完掘



15号土壇 完掘



32号土壇 完掘



32号土壇 小柄 (金-8)



35号土壇 完掘

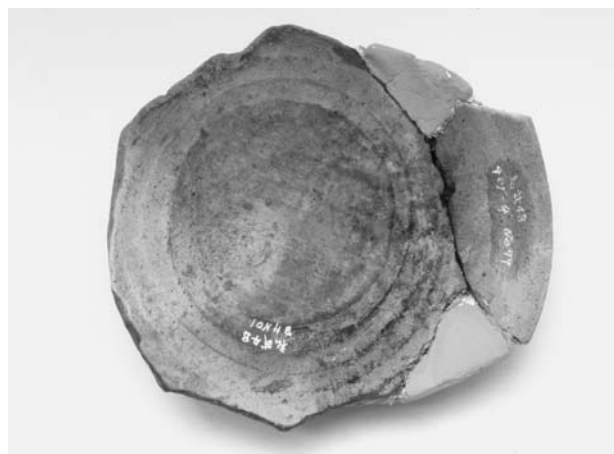


35号土壇 錢貨 (金-49~54)

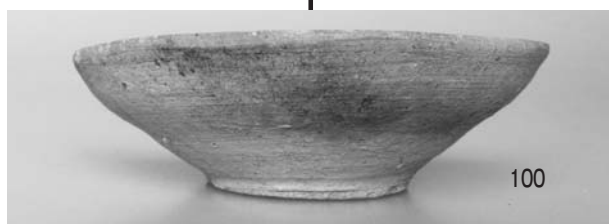


42次 かわらけ





84



100



102



108



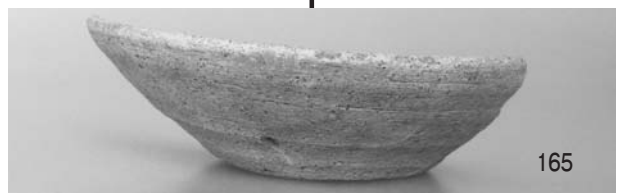
128



163



164



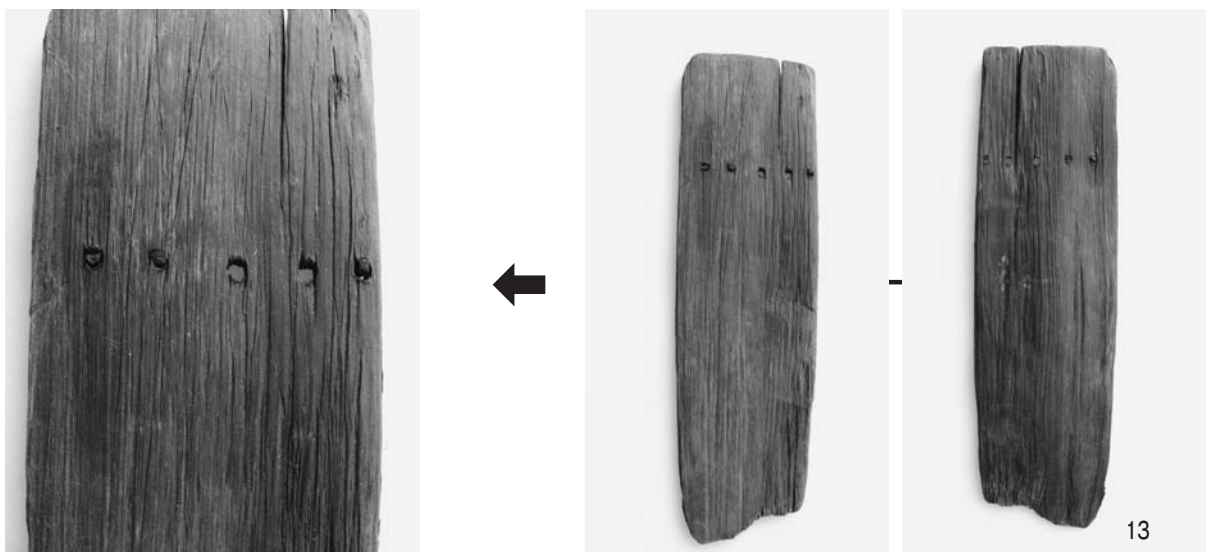
165



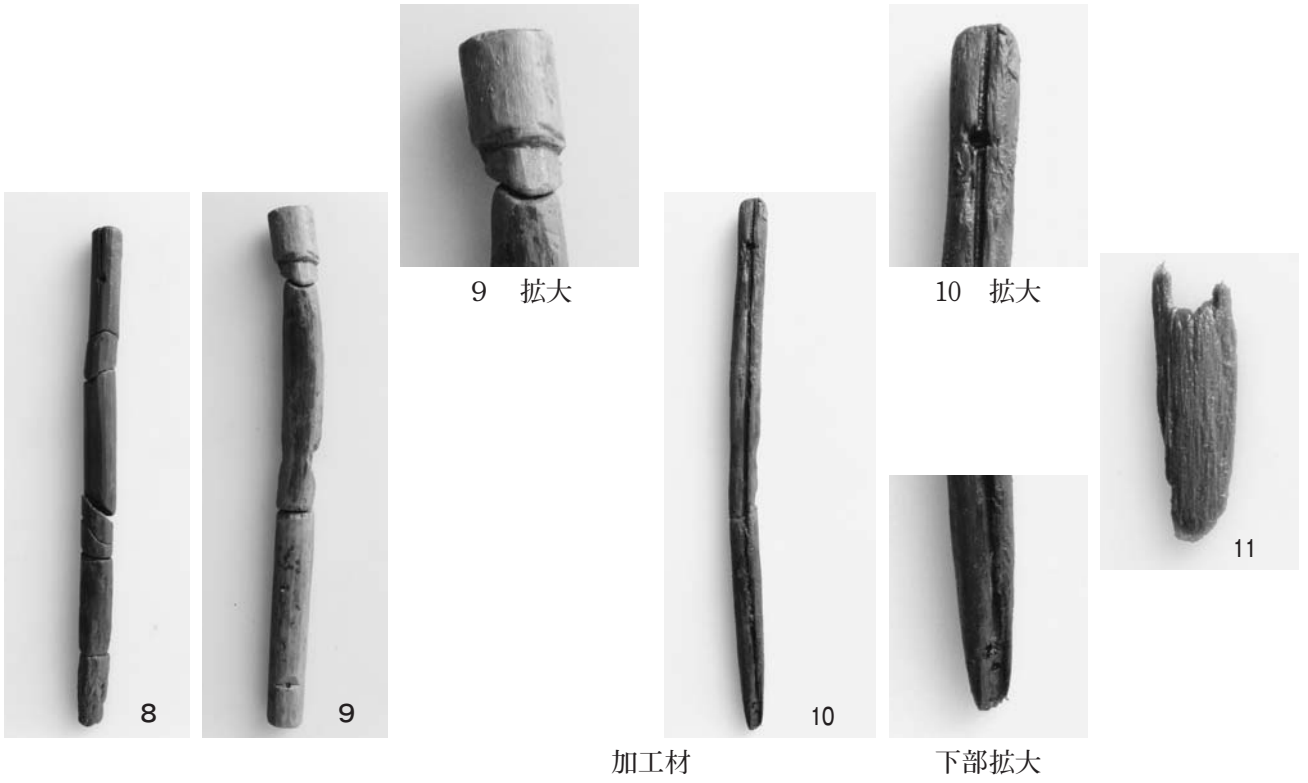
48次 ほうろく



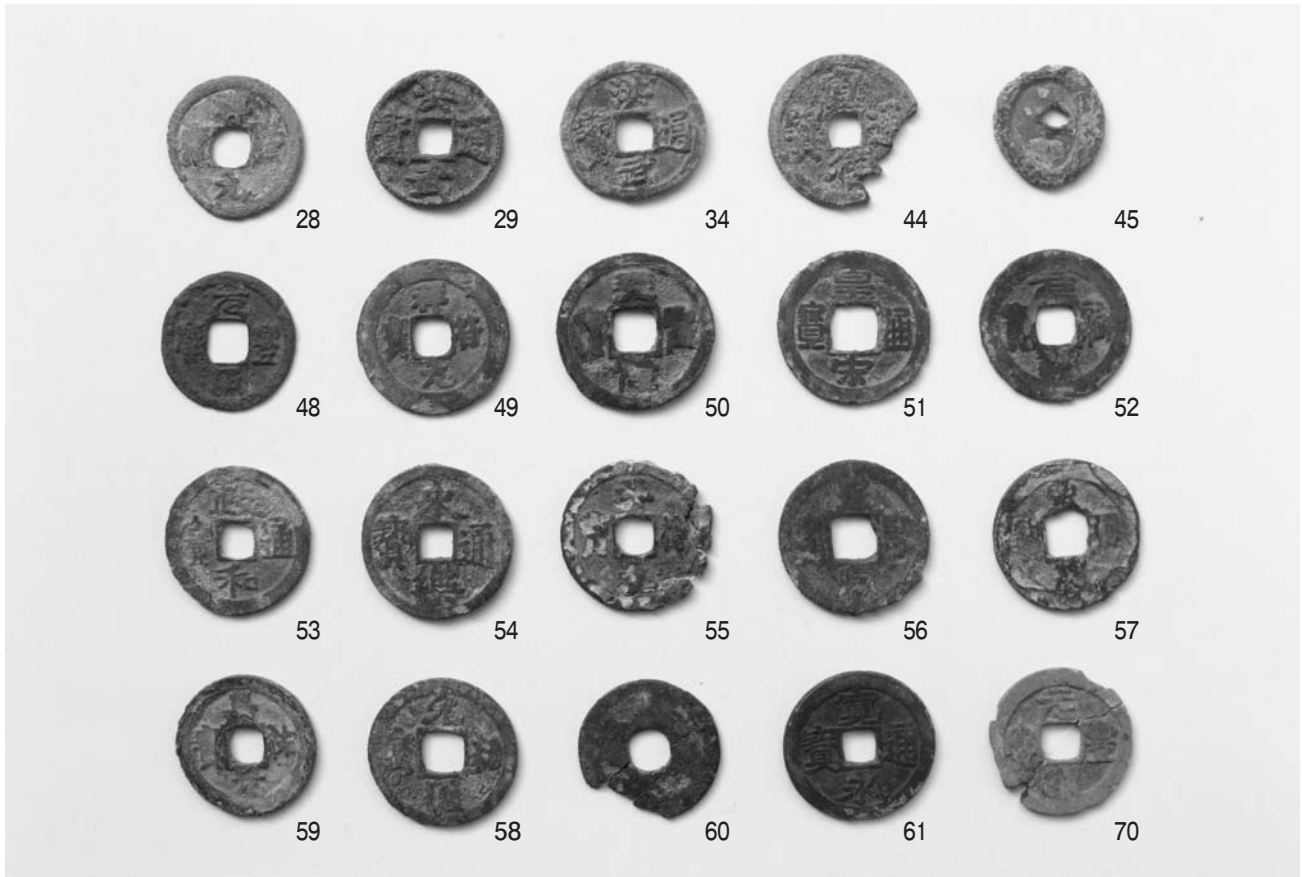
桶一側板



13 拡大



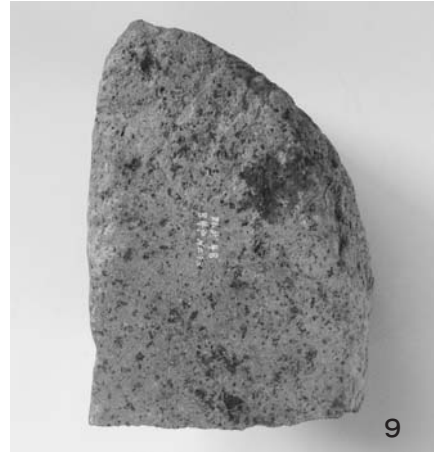
鉄製品



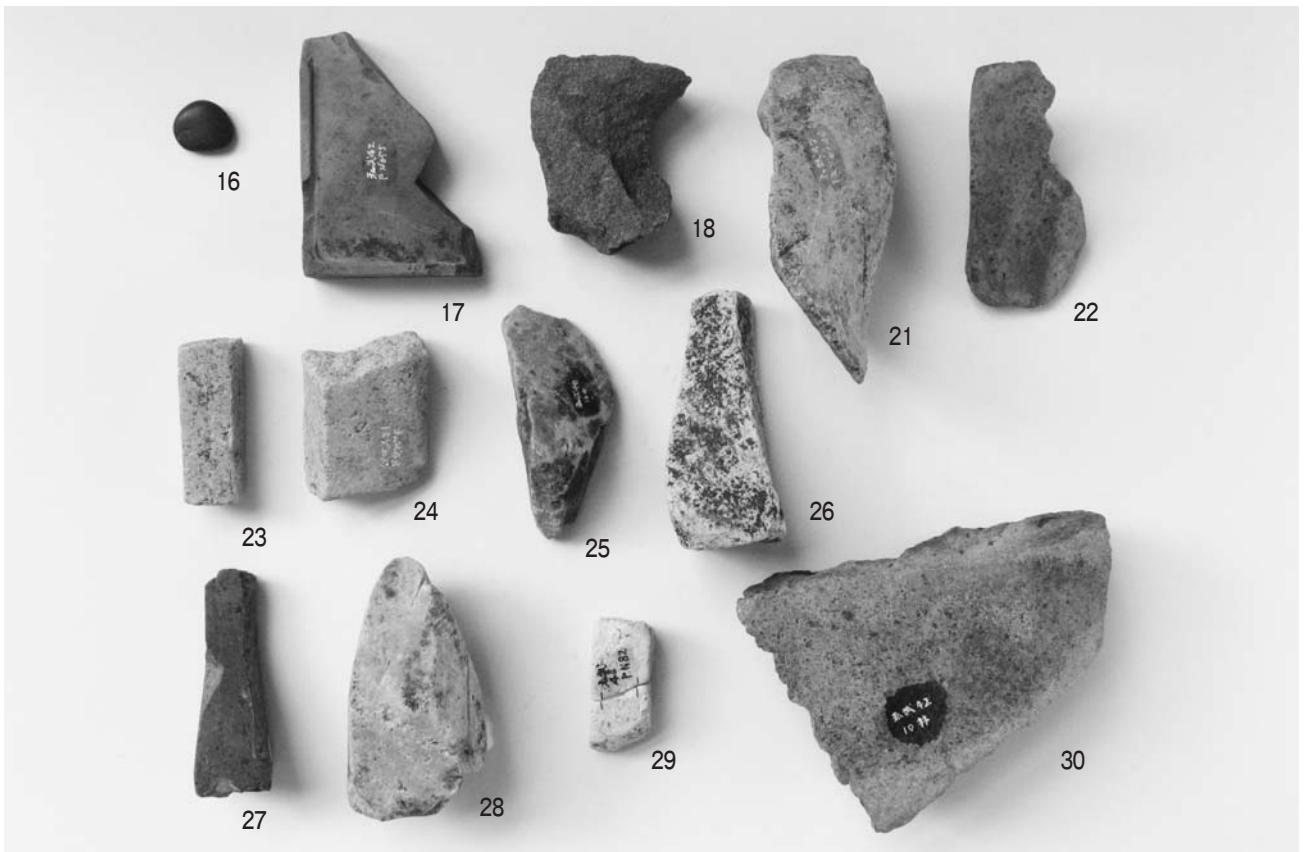
銭貨



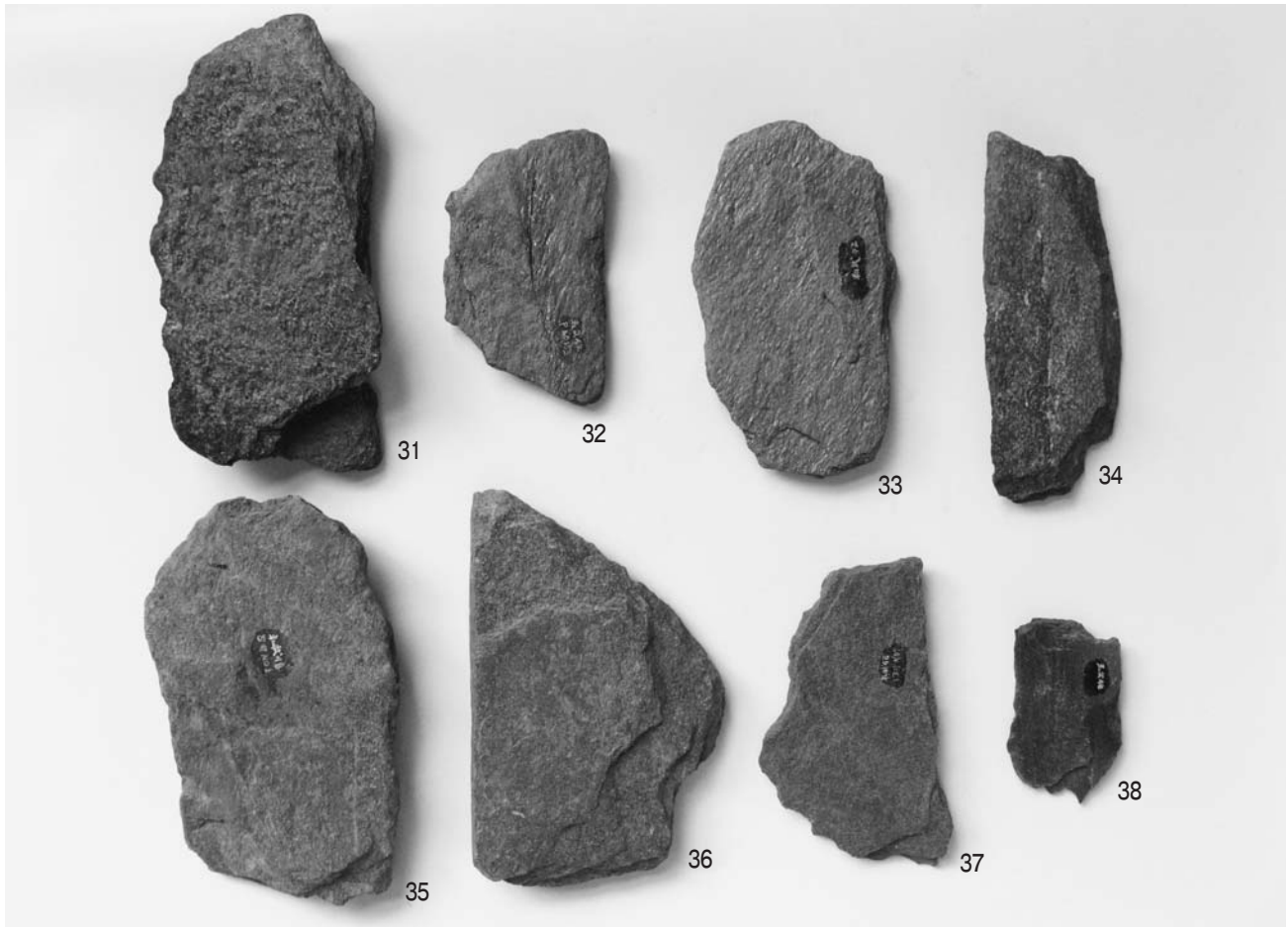
石臼



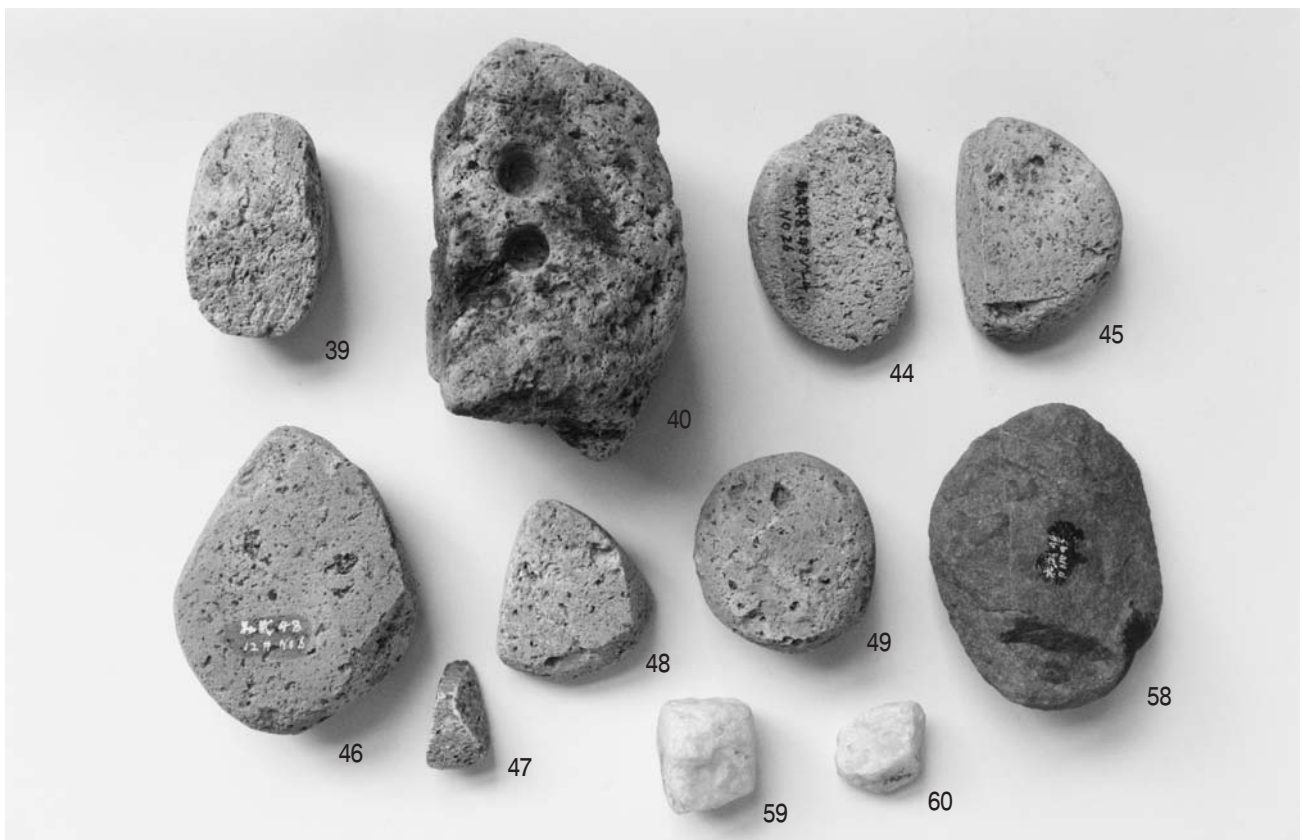
石臼



碁石・硯・砥石



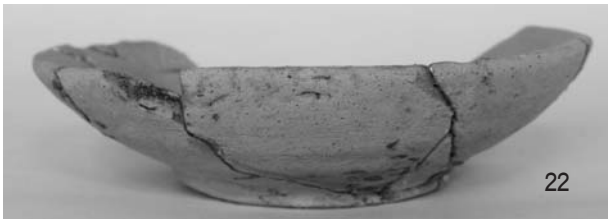
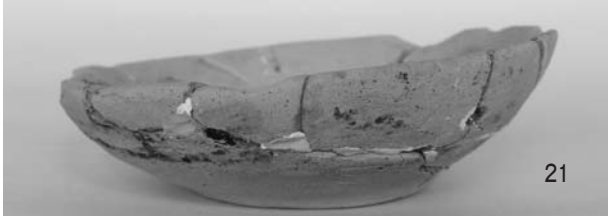
砥石

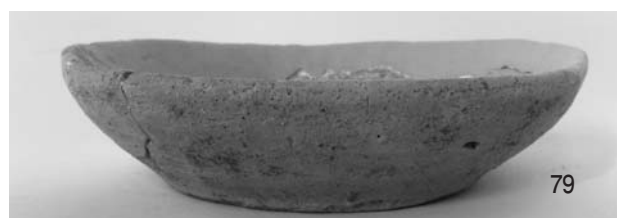
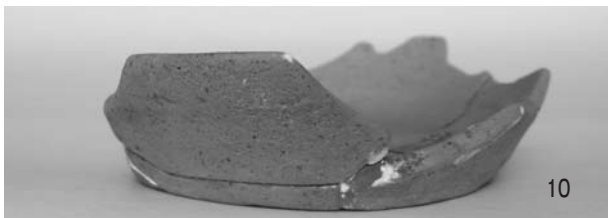
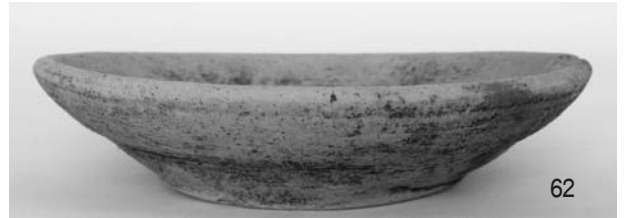
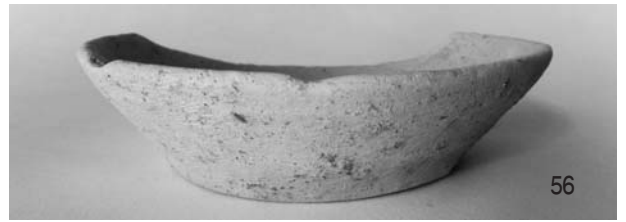


磨石・敲石・火打石

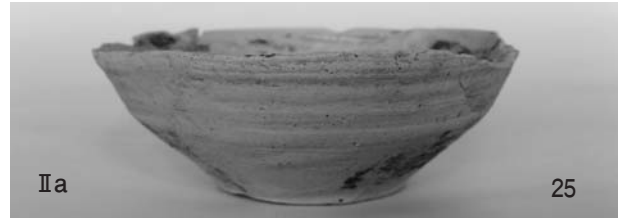


板碑





I b類



I b · I c · II a · II b 類

報 告 書 抄 録

フ リ ガ ナ	キサイジョウブケンシキアト		キサイジョウウト						
書 名	騎西城武家屋敷跡 第42・48次調査—中近世編— 『騎西城跡』 遺物概観（漆器・かわらけ）								
副 書 名									
巻 次									
シ リ ー ズ 名	加須市埋蔵文化財調査報告書								
シ リ ー ズ 番 号	第12集								
編 著 者 名	嶋村英之・嶋村薫								
編 集 機 関	加須市教育委員会								
所 在 地	〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1								
発 行 年 月 日	西暦2019年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
<small>きさいじょう</small> 私市城 <small>ぶけやしきあと</small> 武家屋敷跡	<small>かぞし</small> 埼玉県加須市 <small>ねこや</small> 根古屋 42次／仮換地 52街区24・25 画地 48次／仮換地 52街区21	11421	070	36°6'11"	139°35'7"	19940520～0907	231	土地区画 整理	
				36°6'10"	139°35'5"	19950510～1109	462		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物			
私市城 武家屋敷跡	城館跡	42次中近世	溝1／井戸13／土壇33			陶磁器・かわらけ・蘇民将来符・鉄鍬・覆輪			
		48次中近世	溝8／井戸18／土壇43			陶磁器・かわらけ・蘇民将来符・位牌台座・小柄・墨書石			
要 約	<p>第42次調査区は障子堀の内側の曲輪で、戦時重要な区域と想定できる地点であり、継続的な土地利用を行った地点であると思われる。第48次調査区では、障子堀や隣接10区の区画溝を意識した溝が検出され、屋敷地の区画溝であることが想定される。また、蘇民将来符が両地点合わせて2点出土しており、本調査地点が城郭に近く、その信仰階層や形態の解明の手掛かりとした。</p> <p>また、「遺物概観」として漆器・かわらけについて既報告のものを中心として、分類・確認を行った。</p>								

加須市埋蔵文化財調査報告書 第12集

騎西城武家屋敷跡 第42・48次調査

—中近世編—

『**騎西城跡**』 遺物概観（漆器・かわらけ）

平成31年 3月31日発行

発行 加須市教育委員会

〒347-8501 埼玉県加須市三俣二丁目1番地1

印刷 関東図書株式会社